

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	Reading and Writing A					
担当教員	山内 啓子					
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	英語の教師として授業が柔軟に行えるように英語の運用能力を身につける。					
授業の概要	<p>英語を指導するためには指導者自らの英語力、運用力を高める必要があるが、特に言語技能と共にコミュニケーションを図る資質・能力を育成することが求められる現在ではことさら指導者が留意して実践的・能動的に学ばなくてはならない。実践的に学ぶとは単なる知識の集積を行うのではなく、能動的に学んだものを発信・運用することができるこことを意味する。</p> <p>この授業では語学技能の「読む」を向上させるために英語講読を行うが、誤読に終始することなく大意の掴み方、要点の取り出し方、またパラフレーズを行うことなど技法を凝らしながら講読を行ことで分析力を高め、多面的に「読む」学びを行う。そして講読したものを表現するために「書く」練習も同時にを行い、発信・表現できる能力を養う。また「書く」にはアカデミックなものだけでなく指示的なもの、メッセージなどの伝達内容が明確であるものなども英語教育において必要であることから、多面的な書く能力を養う。</p>					
到達目標	英語で授業を行うための英語運用能力を向上させることを第一目標とする。特にさまざまな英語を読んで理解し、それを発信するために書くことができるようになる。【知識・理解】 【汎用的技能】					
授業計画	第1回：オリエンテーション、英語の運用能力とは 第2回：ニュース・トピック英語を読む（ICTを利用して） 第3回：ニュース記事を読む（モデルリーディング） 第4回：身近な出来事（ニュース文）を書く 第5回：身近な出来事（ニュース文）をクラス内でフィードバック 第6回：パラグラフのフォーマット（モデルリーディング） 第7回：意見文（モデルリーディング） 第8回：意見文のパラグラフを書く 第9回：プロセスの説明文（モデルリーディング） 第10回：プロセスの説明文パラグラフを書く 第11回：比較文（モデルリーディング） 第12回：比較文のパラグラフを書く 第13回：日本（文化）の表現（モデルリーディング） 第14回：日本（文化）の表現パラグラフを書く 第15回：授業のまとめと試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習し、指定された課題について下調べを行うこと。（平均学習時間：1時間） 授業後学習：授業内で指定された課題について指示されたように作成したり、manabaでの小テストを行うこと（平均学習時間：2時間）					
授業方法	各回のテーマに沿って解説・講義を行う。また板書を多用して学生の文章・文書を全員で検証するディスカッションも行います。また提出課題にはループリックを添えてフィードバックします。					
評価基準と評価方法	授業への積極参加（知識、意欲の観点で評価）10%、期末課題20%、試験20%、提出課題50%を累積評価する。					
履修上の注意	毎回の板書によるフィードバックをはじめとして、提出課題も多いので積み重ねが大切となり、出席は重視します。					
教科書	静哲人著「Writing Facilitator」（松柏社）及び配布資料					
参考書	文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 外国語編（平成30年）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	Reading and Writing B					
担当教員	山内 啓子				科目ナンバー	T5223B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	英語の教師として授業が柔軟に行えるように英語の運用能力を身につける。					
授業の概要	<p>Reading and Writing Aに引き続き「読み書き」の能力向上を目指して学びを進める。Aでは全体把握、大意把握のように全体から理解し分析する能力を育成したが、Bでは細部に注意した細やかな表現の理解に焦点を当てた講読を行う。そうすることで表現のニュアンスや行間の機微を読むことができ、思考力・判断力の深化を促す。また部分的には精緻な訳読も行き正確な英文理解・文法理解を進め、さらにイディオム、フレーズ表現に考察を加える。</p> <p>また「書く」ことでは、講読で学び考察した表現の機微を活用したもの、つまり社会言語能力の高い英語を書く練習を通して円滑なコミュニケーションが図れる文書を作成することができるよう自らの英語能力の拡充を図る。その自らの学びの過程を通して体得したものが指導者となった際の自らの能力になる。</p>					
到達目標	英語で授業を行うための英語運用能力を向上させることを第一目標とする。特にさまざまな英語を精読理解することで語彙や表現力を向上させ、講読で培ったものを書くことで発信する。【知識・理解】【汎用的技能】					
授業計画	第1回：オリエンテーション、英語の運用能力とは 第2回：ニュース記事の精読（語彙・表現に焦点） 第3回：短編エッセイの精読（情報理解） 第4回：短編エッセイの精読（語彙・表現に焦点） 第5回：歌詞・詩の精読（情報理解） 第6回：歌詞・詩の精読（表現の特徴を捉える） 第7回：歌詞・詩の創作 第8回：論説文の精読（情報理解） 第9回：論説文の精読（語彙・表現に焦点） 第10回：論説パラグラフの作成 第11回：論説パラグラフのピアチェックとフィードバック 第12回：児童文学（絵本を含む）の比較精読 第13回：児童文学（絵本を含む）の比較精読（表現に焦点） 第14回：ストーリー作成 第15回：授業のまとめと試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所、あるいは配布資料を予習し、指定された課題について下調べを行うこと。（平均学習時間：1時間） 授業後学習：授業内で指定された課題について指示されたように作成したり、manabaでの小テストを行うこと（平均学習時間：2時間）					
授業方法	各回のテーマに沿って解説・講義を行う。また板書を多用して学生の文章・文書を全員で検証するディスカッションも行います。また提出課題にはループリックを添えてフィードバックします。					
評価基準と評価方法	授業への積極参加（知識、意欲の観点で評価）10%、期末課題20%、試験20%、提出課題50%を累積評価する。					
履修上の注意	配布資料があったり、毎回の板書によるフィードバックをはじめとして、提出課題も多いので積み重ねが大切となり、出席は重視します。					
教科書	中谷安男 Academic Writing Strategies (金星堂) ISBN978-4-7647-4109-6 C1082					
参考書	文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編 (平成29年3月) 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 外国語編 (平成30年)					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	Speaking and Listening A					
担当教員	F. Shiobara				科目ナンバー	T5224A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	Developing English language listening and speaking skills. (英語の聞き取りの力と会話の能力を伸ばす)					
授業の概要	<p>(英文) This course will incorporate two English skills; speaking and listening through a variety of activities. Students will have extensive opportunities to practice spoken English through the use of a communicative English textbook, with an emphasis on pair work dialogues and group work activities. The course will also incorporate active learning with interviews and surveys. Students will learn how to give short presentations as self-introductions as well as poster presentations to introduce a place of interest. Students will have the opportunity to listen to English songs to develop their knowledge of authentic modern English usage. The aim of these activities is to make the English the students are learning relevant and meaningful for the modern world.</p> <p>(和訳) この科目は、さまざまなアクティビティを通してスピーキングとリスニングという二つの英語技能を向上させることを目的とする。会話力の向上に焦点をおいた教材を使用することにより、学生は多様な形でスピーキング力を鍛えることができる。ここでは、ペアワークによる対話、グループワークでの面接や簡単なプレゼンテーション、ポスターを使った発表などといったアクティブ・ラーニングの形式を取り入れる。また、各種の英語の歌を聴いて、最新の英語の用法についての知識を広げる。さまざまなアクティビティの目的は、学生の学ぶ英語が現代の日常生活に役立つものとなることである。</p>					
到達目標	<p>(1) Students will learn English speaking and listening skills through a variety of project based activities. (さまざまなプロジェクト型の活動を通じて、英語の会話力および聞き取りの力を身に付ける。) 【汎用的技能】</p> <p>(2) Students will learn skills of communicative English language teaching. (コミュニケーション重視の英語教育のスキルを身に付ける。) 【知識・理解】</p>					
授業計画	<p>第1回 : Unit 1 Lesson A & B Listening and speaking about Food Around the World (リスニングとスピーキングの演習 : 世界の食べ物)</p> <p>第2回 : Unit 1 Video and plan a restaurant. (ビデオ視聴 : レストランの予約をする)</p> <p>第3回 : Restaurant poster presentation (ポスタープレゼンテーション : レストラン)</p> <p>第4回 : Unit 2 Lesson A & B Listening and speaking about Festivals (リスニングとスピーキングの演習 : 祭り)</p> <p>第5回 : Unit 2 Video and promoting an event (ビデオ視聴 : イベントを企画する)</p> <p>第6回 : The Big Picture 1 Presenting your event. (Big Pictureを使った学習1 : イベント企画)</p> <p>第7回 : Unit 3 Lesson A & B Listening and speaking about Cities (リスニングとスピーキングの演習 : さまざまな都市)</p> <p>第8回 : Unit 3 Video Make a walking tour of your hometown. (ビデオ視聴 : 地元の街を歩く)</p> <p>第9回 : Make a PowerPoint presentation showing your walking tour. (パワーポイントを使った発表 : 街歩き)</p> <p>第10回 : Unit 4 Lesson A & B Listening and speaking about Jobs (リスニングとスピーキングの演習 : 仕事)</p> <p>第11回 : Unit 4 Video Make a job advert and interview questions (ビデオ視聴 : 就職活動)</p> <p>第12回 : Roleplay job interviews. The Big Picture 2 (ロールプレイ : Big Pictureを使った学習2)</p> <p>第13回 : Unit 5 Lesson A & B Listening and speaking about Music (リスニングとスピーキングの演習 : 音楽)</p> <p>第14回 : Unit 5 Video Listening Tanzanian Music (ビデオ視聴 : タンザニアの音楽)</p> <p>第15回 : Listening to music from around the world Evaluations (世界の音楽、活動のふりかえりと評価)</p>					
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>1. Students must review textbook for quizzes. 2. Students must prepare presentation. 3. Students must listen to YouTube music videos. Students should study at least 1 hour per week outside class time.</p>					
授業方法	<p>Seminar This class will involve groupwork and discussion.</p>					
評価基準と評価方法	50% Presentations (プレゼンテーション), 50% Project Files and quizzes (プロジェクトの記録と小テスト)					
履修上の注意	Students must attend a minimum of 2/3 of classes. Two late equals one absence.					

教科書	Inspire 2 Pamela Hartman, Nancy Douglas and Andrew Boon Cengage Learning ISBN 9781133963684
参考書	文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年） 文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 外国語編（平成30年）

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	Speaking and Listening B					
担当教員	F. Shiobara				科目ナンバー	T5224B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	Developing English language listening and speaking skills. (英語の聞き取りの力と会話の能力を伸ばす)					
授業の概要	<p>(英文) This course will incorporate two English skills: speaking and listening through a variety of activities. Students will use pair work and group work skills to have discussions and debates. Students will also engage in roleplay activities to further practice practical English such as giving directions and ordering in a restaurant. Students will also have the opportunity to listen to authentic audio and video recordings from the Internet as well as listening to the teacher's spoken English. In addition, students will continue practicing presentation skills learnt in the first semester as well as conducting project-based learning in small groups based on the themes in the textbook. It is hoped that by the end of this semester students will also be able to communicate with people from around the world in a variety of situations.</p> <p>(和訳) この科目は、さまざまなアクティビティを通してスピーキングとリスニングという二つの英語技能を向上させることを目的とする。ペアワークやグループワークの形式により、英語で議論をする練習をするほか、ロールプレイングによって、道案内をする、レストランで注文をするなどといった実用的な英語力を身につける。また、教員の話す英語を聞くことに加えて、インターネット上のさまざまな英語素材に触れることにより、リスニング力の向上を目指す。教材のテーマに合わせたプロジェクトに少人数グループで取り組むことにより、これまでに身につけたプレゼンテーション力をさらに発展させる。履修終了時には、学生全員が世界中の人々とあらゆる状況で会話をすることができる能力を身につけていることが目標である。</p>					
到達目標	<p>(1) Students will learn English speaking and listening skills through a variety of project based activities. (さまざまなプロジェクト型の活動を通じて、英語の会話力および聞き取りの力を身に付ける。) 【汎用的技能】</p> <p>(2) Students will learn skills of communicative English language teaching. (コミュニケーション重視の英語教育のスキルを身に付ける。) 【知識・理解】</p>					
授業計画	<p>第1回 : Unit 6 Lesson A & B Listening and speaking about journeys (リスニングとスピーキングの演習 : 旅行)</p> <p>第2回 : Unit 6 Video Listening, Plan an expedition (ビデオ視聴 : 探検を計画する)</p> <p>第3回 : Present your expedition plan The Big Picture 3 (Big Pictureを使った学習 3 : 探検の計画)</p> <p>第4回 : Unit 7 Lesson A & B Listening and speaking about family (リスニングとスピーキングの演習 : 家族)</p> <p>第5回 : Unit 7 Video Listening, Family Debate practice (ビデオ視聴 : 家族の話しあい)</p> <p>第6回 : Family Debate (家族の話しあい)</p> <p>第7回 : Unit 8 Lesson A & B Listening and Speaking about Nature (リスニングとスピーキングの演習 : 自然)</p> <p>第8回 : Unit 8 Video Listening, Make a video encouraging children to go outdoors. (ビデオ視聴 : 外で遊ぶ子供を育てるビデオの作成)</p> <p>第9回 : Video presentation The Big Picture 4 (Big Pictureを使った学習 4 : ビデオ制作)</p> <p>第10回 : Unit 9 Lesson A & B Speaking and listening about happiness (リスニングとスピーキングの演習 : 幸福)</p> <p>第11回 : Unit 9 Video Listening Prepare presentation 'How to be Happy' (ビデオ視聴 : 「幸福な暮らし方」のプレゼン準備)</p> <p>第12回 : Give presentation (プレゼンテーション)</p> <p>第13回 : Unit 10 Lesson A & B Speaking and listening about conservation (リスニングとスピーキングの演習 : 自然保護)</p> <p>第14回 : Unit 10 Video Listening, Research an endangered species (ビデオ視聴 : 絶滅危惧種の研究)</p> <p>第15回 : Poster Presentation on an endangered animal Evaluation. (ポスタープレゼンテーション : 絶滅危惧種、活動のふりかえりと評価)</p>					
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>1. Students must prepare group projects. 2. Students must prepare presentation. Students should study at least 1 hour per week outside class time.</p>					
授業方法	<p>Seminar This class will involve groupwork and discussions.</p>					
評価基準と評価方法	50% Presentations (プレゼンテーション) 50% Assignments (課題)					

履修上の注意	Students must attend a minimum of 2/3 of classes. Two late equals one absence.
教科書	Inspire 2 Pamela Hartman, Nancy Douglas and Andrew Boon Cengage Learning ISBN 9781133963684
参考書	文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年） 文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 外国語編（平成30年）

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	異文化理解					
担当教員	山内 啓子				科目ナンバー	T51220
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	英語とその背景にある異文化の多様性を学び客観的な理解を深める。					
授業の概要	社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、他者に配慮を行うこと、異なるものを理解する重要性に焦点を当てる。異文化的な語義理解から始め、より広義の文化・異文化を理解する手段として日本を基軸に比較を行なながら現状と課題について学ぶ。中でも特に学科の特性として文化の多様性の学びを中心に、知識の集積を通して、世界のさまざまな価値観に触れ、異なるものをともすれば主観的に捉えてしまうことを認識し、その上で客観的に異文化を理解する必要性を学ぶ。授業では英文の教科書を用いた講義でまず英語の表現や語彙を増やし、異文化の知識を得る以外に、文献調査や資料涉猟の方法やルールも共に学び、それらの資料に基づき考察を加える。最終的には文化の多様性を学んだ中から、客観理解の重要性を理解するようになる。					
到達目標	世界の文化の多様性を学び、それを通して次の3つのこと理解している。1)異文化コミュニケーションの重要性と2)現状、そしてその3)課題を理解している。【知識・理解】【汎用的技能】					
授業計画	授業回により、交換留学生等の授業参加を得て、異文化理解を体験的に学ぶ機会を設ける。 第1回：オリエンテーション：異文化とは何か、異文化を学ぶとは何か。 第2回：食の異文化（What makes Kobe beef so special?） 第3回：学校文化の比較（What are those backpacks Japanese school children wear?）、文献調査、資料涉猟の方法 第4回：異文化の味覚体験（What are those seven things in shichimi?） 第5回：シンボルの異文化（Why those Japan's postal symbol look like that?）、多様な文化背景を持った人々との交流 第6回：異文化の食体験1（Why is there plastic grass in my bento?） 第7回：日常生活の中の異文化1（Why is there a 5 o'clock bell?）、多様な文化背景を持った人々との交流 第8回：日常生活の中の異文化2（Why do train drivers in Japan make those strange gestures?） 第9回：異文化の食体験2（How is nori made?）、文化の多様性を体験する 第10回：日常生活の中の異文化3（Why do Japanese people wear masks?） 第11回：食の文化交流1（What do the dates on food package mean?）、文化の多様性を体験する 第12回：「常識」の中の異文化（Why do Japanese ask about blood type?） 第13回：日常生活の中の異文化4（Do Japanese mosquito coils work?）、多様な文化背景を持った人々との交流 第14回：食の文化交流2（Why does miso soup move by itself?）、文化の多様性を体験する 第15回：授業全体の振り返りと定期試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習すること—vocabulary checkとpre-reading checkから始めて本文を精読し、付隨する設問も解いておくこと。（学習時間2時間） 授業後学習：授業で指示された課題の資料調査を行い、その内容をmanabaコースコンテンツに投稿する。また、topic expansionは次回の授業でテストになるのでその準備を行うこと（学習時間2時間）					
授業方法	毎回テーマの導入時に共同学習でディスカッションや検討を行い、その後教科書のテーマについての解説、講義を行う。その後再度テーマ別のディスカッション、発表を行う。					
評価基準と評価方法	積極的なクラス参加（意欲と知識の観点から）、確認テストなどからの総合評価を行う。 積極的なクラス参加20%、確認テスト40%、期末テスト40%					
履修上の注意	評価は総合的に行われる所以意欲と積極性が大きく求められる。その点を十分承知して予習復習を誠実に行い、積極的にクラス参加を行うこと。					
教科書	Surprising Japan! 2 : Alice Gordenker, John Rucynski 著（松柏社）					

参考書	文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月）
-----	--------------------------

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	異文化理解教育A					
担当教員	山内 啓子				科目ナンバー	T5225A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	英語教員としてふさわしい英語の背景にある異文化の多様性を理解し、発信を実践する。					
授業の概要	<p>この授業では「異文化理解」で学んだ異なるものを客観理解する重要性を基軸に、文化の多様性の理解をさらに深め、中学校および高等学校における外国語の学習・指導に関する知識と授業指導の基礎を身につける。具体的には文化の多様性を世界の宗教、教育、食文化、自文化などの側面から多角的に検討し、理解と考察を進める。あわせて、英語が使われている国・地域の文化を通じて、英語による表現力への理解を深める。</p> <p>また「異文化理解」で培った能力を活用して資料調査を行ったり、さらに授業では時おり共同（協働）学習の形態をとることで、グループワークやディスカッションを交え能動的かつ対話的な学びを促進する。最終的には自らが選択したトピックで独自に調査を行い、その資料に客観的な考察を交えることを確認しながら、視覚的な提示装置を活用した発表を行い、中学校および高等学校における外国語科の授業に資する知見を身につける。</p>					
到達目標	世界の文化の多様性を理解し、英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化について基本的な内容を理解している。また英語の表現力を増強させ中学校・高等学校での語彙表現や異文化理解に関する指導をするための基礎的な能力を身につける。【知識・理解】【汎用的技能】					
授業計画	第1回：オリエンテーション：異文化理解とは 第2回：世界情勢の概観：ICTを用いて英語ニュースを視聴 第3回：文化の多様性①：世界の宗教と多様な価値観 第4回：文化の多様性②：世界の言語と英語の関係 第5回：文化の多様性③：教育システム比較、英語教育に焦点をあてて 第6回：文化の多様性④：児童期の英語教育、日本と諸外国の比較 第7回：文化の多様性⑤：食文化を通して知る多様な人々の営み 第8回：文化の多様性⑥：米食から考察する日本と世界の比較 第9回：異文化の客観理解：コミュニケーションの諸相 第10回：異文化理解のための文献調査、資料涉猟の方法 第11回：異文化理解のためのグループワーク、協同学習と資料の分析 第12回：異文化理解のためのグループワーク、資料の分析と考察と発表 第13回：グループワークの振り返り、ディスカッション 第14回：異文化コミュニケーションの課題：DVDを視聴して分析 第15回：授業全体の振り返りと定期試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習し、指定された課題について下調べを行うこと。（平均学習時間：2時間） 授業後学習：授業内で指定された課題について指示されたように作成したり、manabaでの小テストを行うこと（平均学習時間：2時間）					
授業方法	テーマの導入時に授業後学習や授業前準備の成果をグループで話し合い、各回のテーマに沿って解説・講義、またテーマに応じて適宜演習を行う。 ペアワークやグループワークによる演習や、各回のテーマに応じてプレゼンテーションも多用する。					
評価基準と評価方法	積極的なクラス参加（意欲と知識の観点から）、到達度を測るための確認テスト、発表などからの総合評価を行う。 積極的なクラス参加20%、確認テスト30%、発表20%、期末テスト30%					
履修上の注意	予習復習、課題を誠実に行うこと。					
教科書	Mark Jewel:Cultural Context: Basic Aspect of Intercultural Communication (朝日出版社) ISBN 978-4-255-15346-9C1082					
参考書	文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 外国語編（平成30年） 及び、授業中に指示する。					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	異文化理解教育B					
担当教員	山内 啓子・F. Shiobara				科目ナンバー	T5225B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	To develop intercultural understanding. (異文化理解を深める)					
授業の概要	<p>(英文) This course will aim to introduce students to cultures around the world, but with a special emphasis on children and education systems around the world. Various cultures will be chosen, but specifically cultures which have a large number of immigrants living in Japan. In this way it is hoped that students will have some knowledge of the background of foreigners they may meet in Japan to encourage interaction and understanding. The course will incorporate four skills of English. Short videos will be used to introduce different countries and cultures as well as creating interest. There will be short reading passages created by the teacher adding detail to the video activities. This information will then be analyzed and developed through small group discussions allowing students to use critical thinking skills and relate the countries to Japan and Japanese culture. Finally students will create posters for poster presentations about various countries. This will give students the opportunity to research independently and share their findings.</p> <p>(和訳) この科目的目的は、世界の子供たちや世界の教育システムに焦点を当て、異文化理解を深めることである。講義の中ではさまざまな文化が紹介されるが、特に日本に居住する外国人の文化を教材として取り上げる。これらの文化を紹介することにより、日常生活で接することがあるかもしれない外国人についての文化的背景の知識を身につけ、その文化との交流を深める。さらに本講義では英語の4技能の訓練を取り入れ、その能力を向上させるために動画を観た後、その動画についての内容をまとめ、そこで得た知識をグループワークの形で分析する。これら意見を発展させ、観察力や思考力を駆使して学生自身の国の文化との比較などを行うことにより、最終的にポスター発表をして発表する。さらに、このような活動を経て、英語の教科指導における異文化理解教育の方法論や指導法を学ぶことを目指す。</p> <p>(オムニバス形式／全15回) (F. Shiobara／10回) 異文化交流、異文化コミュニケーションに関する事をグループワークを通して体験的な分析を行い、英語の運用を実践する。それらを統合したポスター発表をして発表する。 (山内啓子／5回) 文化に対する認知の技法を学ぶ。また価値観、ステレオタイプなどの異文化の多様性に焦点を当て、現状と課題を学ぶ。</p>					
到達目標	<p>(1) Students will develop understanding of cultures around the world. (世界中の文化についての理解を深める) 【知識・理解】 (2) Students will develop skills to compare their own culture and other cultures. (自らの文化と他の文化を比較するスキルを身に付ける) 【汎用的技術】</p>					
授業計画	<p>第1回 : People Around the World (世界の人々) 担当者 : F. Shiobara 第2回 : Unit 1 Communication (コミュニケーションとは) 担当者 : F. Shiobara 第3回 : Unit 2 Culture (文化とは) 担当者 : F. Shiobara 第4回 : Unit 3 Non-Verbal Communication (非言語コミュニケーション) 担当者 : F. Shiobara 第5回 : Unit 4 Communicating clearly (明確なコミュニケーション) 担当者 : F. Shiobara 第6回 : Unit 5 Culture Values (文化によって異なる価値観) 担当者 : 山内啓子 第7回 : Unit 6 Culture and Perception (文化との認知) 担当者 : 山内啓子 第8回 : Unit 7 Diversity (多様性) 担当者 : 山内啓子 ゲストスピーカー予定 第9回 : Unit 8 Stereotypes (ステレオタイプ) 担当者 : 山内啓子 第10回 : Unit 9 Culture Shock (カルチャーショック) 担当者 : 山内啓子 第11回 : Unit 10 Culture and Change (文化とその変化) 担当者 : F. Shiobara 第12回 : Unit 11 Talking about Japan (日本について語る) 担当者 : F. Shiobara 第13回 : Unit 12 Becoming a Global Person (国際的な人間になるために) 担当者 : F. Shiobara 第14回 : Country Poster Presentation (ポスター発表) 担当者 : F. Shiobara 第15回 : Review and Evaluation (授業のまとめと活動の評価) 担当者 : F. Shiobara</p>					
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>1. Students must prepare for weekly discussions. (4 hours per week) 2. Students must prepare a poster presentation.</p>					
授業方法	<p>Seminar: This class will involve groupwork and discussions.</p>					
評価基準と評価方法	80% Weekly assignments (各週の課題) 20% Poster Presentation (ポスター発表)					

履修上の注意	Students must attend a minimum of 2/3 of classes. Two late equals one absence.
教科書	Peter Vincent: Speaking of Intercultural Communication 南雲堂 ISBN978-4-523-17840-8
参考書	文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年） 文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 外国語編（平成30年）

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	英語学概論A					
担当教員	柏本 吉章				科目ナンバー	T5226A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	英語の特性を理解する英語学の基本的な考え方を学ぶ					
授業の概要	英語という言語の性質を理解するための英語学の基礎的概念を概観する講義である。英語教育に携わるものにとって、「英語とはどのような言語なのか」を理解し、その特性を明確に知ることは、英語の教科指導のさまざまな局面で重要な働きをする知識となる。この講義では、英語学の基本的な考え方を使って英語の特質をわかりやすく説明できるようになることを目指すと同時に、その知識を生かして英語の学習をより効果的・効率的にする方法を探求することが目標となる。とくに国際社会の中での英語の位置づけ、英語の歴史、英語の音韻、語の形態について取り上げ、英語学の基本的な考え方への導入を図る。					
到達目標	(1) 国際語としての英語の位置づけと英語の歴史的変遷を理解している。【知識・理解】 (2) 英語の基本的な音のしくみ、語のしくみを理解している。【知識・理解】 (3) 英語学の考え方を使って英語の特性を他者に説明することができる。【汎用的技能】					
授業計画	第1回：世界のなかの英語1 英語について考える視点 第2回：世界のなかの英語2 國際語としての英語 第3回：世界のなかの英語3 英語の変種、アメリカ英語とイギリス英語 第4回：英語の歴史1 イギリスの歴史、英語の始まり 第5回：英語の歴史2 古期英語の姿 第6回：英語の歴史3 中期英語への変遷 第7回：英語の歴史4 近代英語への流れ 第8回：音のしくみ1 発音のしくみと音の種類 第9回：音のしくみ2 音節の構造 第10回：音のしくみ3 音の連続と音変化 第11回：音のしくみ4 強勢とイントネーション 第12回：語のしくみ1 形態論の考え方 第13回：語のしくみ2 語を作る要素 第14回：語のしくみ3 語形成のしくみ 第15回：学習内容のまとめ、総復習と期末試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習し、事前に指定するキーワードについて、指定の参考書等で下調べをする（学習時間2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。また、松蔭manabaコースコンテンツに掲載する各回授業のキーワードの解説を確認し、理解が不十分な点についての質問事項をまとめる（学習時間2時間）					
授業方法	講義：テーマの導入を図る練習問題に取り組み、その解答案についてグループまたはペアでのディスカッションを行う。グループ（ペア）ワークの報告をふまえ、テーマに沿った各種話題について講義・解説する。					
評価基準と評価方法	期末試験70%、リアクションペーパーなどに基づく平常点30% 期末試験：授業で扱った英語の特性や英語学の基礎的概念に関する理解度を評価する。到達目標（1）（2）の到達度の確認。 平常点：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問・事例提案）の内容・記述の的確さ等を評価する。到達目標（3）の到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等について、翌週授業で紹介・解説する。					
履修上の注意	1. 練習問題のプリントは、各回の出席者のみに配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布する）。 2. 授業の出席回数が全体の3分の2に満たない人は、定期試験の受験資格を失うものとする。					
教科書	『新えいごエイゴ英語学』稻木昭子他著、松柏社 ISBN 978-4-7754-0004-3					
参考書	文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年） 文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 外国語編（平成30年） 『最新英語学・言語学辞典』中野弘三他監修、開拓社 ISBN 978-4-7589-2215-9					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	英語学概論B					
担当教員	柏本 吉章					
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	英語の特性を理解する英語学の基本的な考え方を学ぶ					
授業の概要	英語という言語の性質を理解するための英語学の基礎的概念を概観する講義である。英語の特質を明確な形で理解し、英語の教科指導のさまざまな場面でその知識を活用することができるようになることを目的とする。この講義では、英語のいくつかの形式的・機能的側面のうち、英語の文法構造、意味のあり方、対人関係の中での表現機能、コミュニケーションのしくみ、言語と社会の関係など、現代英語を構成する実際的で重要な言語的側面を取り上げ、英語研究への更なる関心を導き出すことを目指す。					
到達目標	(1) 英語の文構造のしくみ、意味表現のしくみを理解している。【知識・理解】 (2) 英語によるコミュニケーションのしくみを理解している。【知識・理解】 (3) 英語学の考え方を使って英語の特性を他者に説明することができる。【汎用的技能】					
授業計画	第1回：英語の音のしくみ、語のしくみ、文のしくみ 第2回：文のしくみ1 文の分析方法 第3回：文のしくみ2 文の構造と意味 第4回：文のしくみ3 言語習得と普遍文法 第5回：意味のしくみ1 意味の多様性 第6回：意味のしくみ2 意味変化と意味関係 第7回：意味のしくみ3 意味の意味 第8回：コミュニケーションのしくみ1 発話としてのことばの意味 第9回：コミュニケーションのしくみ2 会話のルールとていねいさ 第10回：コミュニケーションのしくみ3 テクストと談話 第11回：英語のスタイル1 文体と使用域 第12回：英語のスタイル2 コミュニケーションと英語のスタイル 第13回：言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション 第14回：言語と社会、言語と文化 第15回：学習内容のまとめ、総復習と期末試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習し、事前に指定するキーワードについて、指定の参考書等で下調べをする（学習時間2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。また、松蔭manabaコースコンテンツに掲載する各回授業のキーワードの解説を確認し、理解が不十分な点についての質問事項をまとめる（学習時間2時間）					
授業方法	講義：テーマの導入を図る練習問題に取り組み、その解答案についてグループまたはペアでのディスカッションを行う。グループ（ペア）ワークの報告をふまえ、テーマに沿った各種話題について講義・解説する。					
評価基準と評価方法	期末試験70%、リアクションペーパーなどに基づく平常点30% 期末試験：授業で扱った英語の特性や英語学の基礎的概念に関する理解度を評価する。到達目標（1）（2）の到達度の確認。 平常点：回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問・事例提案）の内容・記述の的確さ等を評価する。到達目標（3）の到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等について、翌週授業で紹介・解説する。					
履修上の注意	1. 練習問題のプリントは、各回の出席者のみに配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布する）。 2. 授業の出席回数が全体の3分の2に満たない人は、定期試験の受験資格を失うものとする。					
教科書	『新えいごエイゴ英語学』、稻木昭子他著、松柏社 ISBN 978-4-7754-0004-3					
参考書	文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年） 文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 外国語編（平成30年） 『最新英語学・言語学辞典』中野弘三他監修、開拓社 ISBN 978-4-7589-2215-9					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	英語教師のための英文法A					
担当教員	柏本 吉章				科目ナンバー	T5227A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	動詞の文法を中心とした英文法の基本的な考え方を習熟する					
授業の概要	この科目では、基礎的な英文法の知識を再確認し、英語による円滑なコミュニケーションのために必要な実用的文法能力を高めることを目的とすると同時に、英語の教科指導における文法的な観点からの解説・分析のために必要な専門的知識を身につけることを目指す。本講義では、とくに文の構造と文構造の核となる動詞に関わる文法を中心に取り扱うこととし、文の種類と文構造、時制、完了形・進行形、未来表現などの時間の文法、不定詞・動名詞、現在分詞・過去分詞、受動態の文法を取り上げる。各種文法現象の理解を英語の運用力の強化につなげるとともに、英語指導のための背景的知識の整備を図る。					
到達目標	(1) 動詞を中心とした英語の文法の基礎的な考え方を理解している。【知識・理解】 (2) 動詞文法を中心に英文法の基本的な用法に習熟している。【汎用的技能】 (3) 英文の構造を英文法の基本的な考え方を使って他者に説明することができる。【汎用的技能】					
授業計画	第1回：文の構造と文の種類1 文の種類と文の要素 第2回：文の構造と文の種類2 自動詞と補語の役割 第3回：文の構造と文の種類3 他動詞と目的語の役割 第4回：時間の表し方1 単純現在形と現在進行形 第5回：時間の表し方2 単純過去形と現在完了形 第6回：時間の表し方3 未来表現のいろいろ 第7回：不定詞と動名詞1 不定詞の基本用法 第8回：不定詞と動名詞2 不定詞の注意すべき用法 第9回：不定詞と動名詞3 動名詞の用法、中間試験 第10回：不定詞と動名詞4 不定詞・動名詞と意味上の主語 第11回：現在分詞と過去分詞1 現在分詞の用法 第12回：現在分詞と過去分詞2 過去分詞の用法 第13回：受動態1 受動態の形と意味 第14回：受動態2 受動態の注意すべき用法 第15回：学習内容のまとめ、総復習と期末試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業で扱う授業資料の当該箇所を予習し、練習問題等をすべて解答しておく。また、事前に指定するキーワードについて、授業内で指示する方法で下調べをする（学習時間2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。また、松蔭manabaコースコンテンツに掲載する各回授業に対応する追加用例を確認し、理解が不十分な点についての質問事項をまとめる（学習時間2時間）					
授業方法	講義：テーマの導入を図る練習問題に取り組み、テーマとする英文法の項目についてグループまたはペアでのディスカッションを行う。グループ（ペア）ワークの報告をふまえ、テーマに沿った各種英文法の用法について講義・解説する。学習した事項についての発展的練習問題による演習を行う。					
評価基準と評価方法	中間試験および期末試験70%、小テストなどによる平常点30% 中間・期末試験：授業で扱った英文法の基本的概念に関する理解度、および文法事項の運用における習熟度を評価する。到達目標（1）（2）（3）の到達度の確認。 平常点：小テストにより、文法事項の理解度及び運用能力を評価する。到達目標（1）（2）の到達度の確認。					
履修上の注意	1. 授業内で指示する予習・復習は、授業内容の理解、学修目標達成のための前提となるので、十分な時間をかけて取り組むこと。 2. 授業回数の3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失うものとする。					
教科書	プリント使用					
参考書	文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年） 文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 外国語編（平成30年）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	英語教師のための英文法B					
担当教員	柏本 吉章				科目ナンバー	T5227B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	英語の文を発展させる各種の英文法の基本的な考え方習熟する					
授業の概要	この科目では、基礎的な英文法の知識を再確認するとともに、コミュニケーション活動に求められる実用的文法能力を高めることを目的とし、あわせて、英語の教科指導において必要となる文法的知識を身につけることを目指す。本講義では、とくに法助動詞や仮定表現などの法性（モダリティ）の表現、名詞と代名詞、関係詞、比較表現、文の接続など、より大きな単位の文要素を扱う文法を取り上げる。各種文法現象の理解を英語の運用力の強化につなげるとともに、英語指導のための背景的知識の整備を図る。					
到達目標	(1) 英語の文を発展させる英文法の基礎的な考え方を理解している。【知識・理解】 (2) 英語の文を発展させる英文法の基本的な用法に習熟している。【汎用的技能】 (3) 英文の構造を英文法の基礎的な考え方を使って他者に説明することができる。【汎用的技能】					
授業計画	第1回：法助動詞と仮定法 1 法助動詞の意味と働き 第2回：法助動詞と仮定法 2 義務や許可を表す法助動詞 第3回：法助動詞と仮定法 3 確かさ・あやふやさを表す法助動詞 第4回：法助動詞と仮定法 4 仮定法の意味と慣用的用法 第5回：名詞と代名詞 1 名詞の種類と数量の考え方 第6回：名詞と代名詞 2 代名詞の種類と用法 第7回：冠詞と形容詞 第8回：副詞の用法 第9回：前置詞の種類と用法、中間試験 第10回：関係詞 1 関係代名詞の用法 第11回：関係詞 2 関係副詞の用法 第12回：比較表現 1 比較表現の形式と用法 第13回：比較表現 2 慣用的な比較表現 第14回：文の接続 第15回：学習内容のまとめ、総復習と期末試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業で扱う授業資料の当該箇所を予習し、練習問題等をすべて解答しておく。また、事前に指定するキーワードについて、授業内で指示する方法で下調べをする（学習時間2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。また、松蔭manabaコースコンテンツに掲載する各回授業に対応する追加用例を確認し、理解が不十分な点についての質問事項をまとめる（学習時間2時間）					
授業方法	講義：テーマの導入を図る練習問題に取り組み、テーマとする英文法の項目についてグループまたはペアでのディスカッションを行う。グループ（ペア）ワークの報告をふまえ、テーマに沿った各種英文法の用法について講義・解説する。学習した事項についての発展的練習問題による演習を行う。					
評価基準と評価方法	中間試験および期末試験70%、小テストなどによる平常点30% 中間・期末試験：授業で扱った英文法の基本的概念に関する理解度、および文法事項の運用における習熟度を評価する。到達目標(1)(2)(3)の到達度の確認。 平常点：小テストにより、文法事項の理解度及び運用能力を評価する。到達目標(1)(2)の到達度の確認。					
履修上の注意	1. 授業内で指示する予習・復習は、授業内容の理解、学修目標達成のための前提となるので、十分な時間をかけて取り組むこと。 2. 授業回数の3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失うものとする。					
教科書	プリント使用					
参考書	文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年） 文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 外国語編（平成30年）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	英語コミュニケーション概論A					
担当教員	川中 紀子				科目ナンバー	T5236A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	日本語字幕に頼らずに英語の映画を理解すること。					
授業の概要	授業の前半は英語の聴解能力・読解能力を強化するための導入として、英語圏のポップソングを素材として音声変化を体系的に学ぶ。授業の後半で、映画を視聴しながら実際の会話に英語音声変化の法則がどのように反映されているかを分析する。TOEIC形式の演習問題や受講生による発表を取り入れ、英語の4技能の向上を目指して、コミュニケーションのしくみや法則を学ぶ。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の音声変化の法則に習熟する。（汎用的技能） ・ディスカッション・読解などの演習を通じて総合的な英語力（CEFR B2レベル）を養成。（知識・理解） 					
授業計画	第1回：英語の音声変化の法則・コミュニケーションのしくみ 第2回：映画の視聴と字幕の利用・音声変化の複合 第3回：TOEIC形式の問題演習① 第4回：音の同化、映画の会話演習 第5回：音の脱落①、映画の会話演習 第6回：TOEIC形式の問題演習②・アメリカ英語の特徴① nt縮約 第7回：短縮形の音(can't, won't)の聞き取り、映画の会話演習 第8回：機能語の弱形と強形、映画の会話演習 第8回：TOEIC形式の問題演習③ 第9回：音の連結、映画の会話演習 第10回：ディスカッションと復習 第11回：TOEIC形式の問題演習④ 第12回：受講生が選んだ映画の発表① 第13回：受講生が選んだ映画の発表② 第14回：まとめと復習 第15回：質疑応答・期末試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で指示した課題・配布したプリントについては十分に準備してから授業に臨むこと。 （学習時間：2時間） 授業後学習：授業で学習した内容・プリントをファイルし、小テスト、定期テストに万全の準備をすること。 （学習時間：2時間）					
授業方法	講義：テーマに基づいて講義をした上で、演習を行う。理解度を確認するために、小テストを各章ごとに行う。					
評価基準と評価方法	受講状況（発表を重視）30%、定期試験70%の総合評価。					
履修上の注意	ナチュラル・スピードの英語を教材として用いるので、英語力に自信のある学生が、望ましい。最初の小テストで50パーセント以下の成績だった学生は受講資格を失う。また通年で2冊の教科書を使用することを納得した上で受講すること。マナーを厳守できる学生のみ、受講するように心がけて欲しい。					
教科書	角山照彦 Simon Capper Learn English with Titanic 成美堂、2016年 角山照彦 Simon Capper、ポップスで学ぶ総合英語、成美堂、2011年					
参考書	隨時紹介する。					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	英語コミュニケーション概論B					
担当教員	川中 紀子				科目ナンバー	T5236B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	日本語字幕に頼らずに英語の映画を理解すること。					
授業の概要	英語コミュニケーション概論Aに引き続き、授業の前半は英語の聴解能力・読解能力を強化するための手段の一つとして、英語圏のポップソングにおける各種の音声変化の例を紹介し、そのしくみを学ぶ。授業の後半で、映画に登場する会話表現に英語音声変化の法則がどのように反映されているかを分析する。TOEIC形式の演習問題や受講生による発表を取り入れ、英語運用力の向上を目指して、コミュニケーションのしくみや法則を積極的に探る姿勢を養成する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の音声変化の法則に習熟する。（汎用的技能） ・ディスカッション・読解などの演習を通じて総合的な英語力（CEFR B2レベル）を養成。（知識・理解） 					
授業計画	第1回：英語の音声変化の法則・コミュニケーションのしくみの復習 第2回：映画の視聴と字幕の利用・アメリカ英語の特徴② 第3回：TOEIC形式の問題演習⑤ 第4回：助動詞の短縮形の音①、映画の会話演習 第5回：映画の要約作成 第6回：TOEIC形式の問題演習⑥、助動詞の動詞の短縮形の音② 第7回：前置詞や接続詞の弱形の発音、映画の会話演習 第8回：ディスカッションと復習 第9回：音の脱落②（破裂音）、映画の会話演習 第10回：～ing形の発音、映画の会話演習 第11回：TOEIC形式の問題演習⑦ 第12回：受講生が選んだ映画の発表③ 第13回：受講生が選んだ映画の発表④ 第14回：まとめと復習 第15回：質疑応答・期末試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で指示した課題・配布したプリントについては十分に準備してから授業に臨むこと。 （学習時間：2時間） 授業後学習：授業で学習した内容・プリントをファイルし、小テスト、定期テストに万全の準備をすること。 （学習時間：2時間）					
授業方法	講義：テーマに基づいて講義をした上で、演習を行う。理解度を確認するために、小テストを各章ごとに行う。					
評価基準と評価方法	受講状況（発表を重視）30%、定期試験70%の総合評価。					
履修上の注意	ナチュラル・スピードの英語を教材として用いるので、英語力に自信のある学生が望ましい。最初の小テストで50パーセント以下の成績だった学生は受講資格を失う。 通年で2冊の教科書を使用することを納得した上で受講すること。マナーを厳守できる学生のみ、受講するよう心がけて欲しい。					
教科書	角山照彦 Simon Capper Learn English with Titanic 成美堂、2016年 角山照彦 Simon Capper、ポップスで学ぶ総合英語、成美堂、2011年					
参考書	隨時紹介する。					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	音楽実技					
担当教員	奥村・横山・河瀬・永峯・森				科目ナンバー	T41220
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数 1.0
授業のテーマ	「音楽入門」で学んだ楽典、ピアノ奏法の技能についてさらに向上させ、弾き歌いについて学ぶ。					
授業の概要	「音楽入門」と同様に1クラスを2つのグループに分けて実施する。毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のレベルに合わせて3つのグレードごとに設定された課題曲から選択した教材を学習する。歌唱教材の「弾き歌い」の技能とともに、身体の動きを伴った音楽表現の援助が行えるよう、鍵盤楽器でのレパートリーの拡充を図る。集団の授業では、コードネームについての理解を深め、主要三和音と副三和音を使用した簡単な伴奏付けや、使用する音を簡略化することができるよう、実践的な知識と技能を身につける。すべての時間において、クラスを半分に分け、表現技術などの理論を学習する班と少人数で音楽表現の個別指導を受ける班を設定する。授業の前半と後半でこれらの班を入れ替え、すべての学生が1単位時間で理論と実技の双方を学ぶ。					
到達目標	活動場面に相応しい楽曲を用いて、身体の動きを伴った音楽表現の援助が行える。【汎用的技能】子どもの歌唱教材から10曲を弾き歌いすることができる。【汎用的技能】伴奏譜に記載されている基礎的なコードネームについて説明することができる。【知識・理解】					
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 リズムと拍子、及び個人レッスン2 第4回 音階と調、及び個人レッスン3 第5回 歌唱教材の選択、及び個人レッスン4 第6回 移調、及び個人レッスン5 第7回 コードネーム、及び個人レッスン6 第8回 活動の環境づくり、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 �即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。 課題については、十分な学習時間を確保すること。 楽典のテキストについて、指示された箇所の予習を行う。 (学習時間：4時間)					
授業方法	演習 1クラスを2つのグループに分けて、個別の実技指導と集団での授業を行う。					
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。					
履修上の注意	授業で指摘された問題点を、次回までに解決するために、各自の積極的な取り組みと充分な練習が必須である。 「弾き歌い」については、必修の課題曲以外も、レパートリーを積極的に増やすこと。 「音楽入門」を履修していること。					
教科書	「おんがくのしきみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社 ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。					
参考書						

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	音楽実技					
担当教員	奥村・横山・河瀬・永峯・森				科目ナンバー	T41220
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数 1.0
授業のテーマ	「音楽入門」で学んだ楽典、ピアノ奏法の技能についてさらに向上させ、弾き歌いについて学ぶ。					
授業の概要	「音楽入門」と同様に1クラスを2つのグループに分けて実施する。毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のレベルに合わせて3つのグレードごとに設定された課題曲から選択した教材を学習する。歌唱教材の「弾き歌い」の技能とともに、身体の動きを伴った音楽表現の援助が行えるよう、鍵盤楽器でのレパートリーの拡充を図る。集団の授業では、コードネームについての理解を深め、主要三和音と副三和音を使用した簡単な伴奏付けや、使用する音を簡略化することができるよう、実践的な知識と技能を身につける。すべての時間において、クラスを半分に分け、表現技術などの理論を学習する班と少人数で音楽表現の個別指導を受ける班を設定する。授業の前半と後半でこれらの班を入れ替え、すべての学生が1単位時間で理論と実技の双方を学ぶ。					
到達目標	活動場面に相応しい楽曲を用いて、身体の動きを伴った音楽表現の援助が行える。【汎用的技能】子どもの歌唱教材から10曲を弾き歌いすることができる。【汎用的技能】伴奏譜に記載されている基礎的なコードネームについて説明することができる。【知識・理解】					
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 リズムと拍子、及び個人レッスン2 第4回 音階と調、及び個人レッスン3 第5回 歌唱教材の選択、及び個人レッスン4 第6回 移調、及び個人レッスン5 第7回 コードネーム、及び個人レッスン6 第8回 活動の環境づくり、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 �即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。 課題については、十分な学習時間を確保すること。 楽典のテキストについて、指示された箇所の予習を行う。 (学習時間：4時間)					
授業方法	演習 1クラスを2つのグループに分けて、個別の実技指導と集団での授業を行う。					
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。					
履修上の注意	授業で指摘された問題点を、次回までに解決するために、各自の積極的な取り組みと充分な練習が必須である。 「弾き歌い」については、必修の課題曲以外も、レパートリーを積極的に増やすこと。 「音楽入門」を履修していること。					
教科書	「おんがくのしきみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社 ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。					
参考書						

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	音楽入門					
担当教員	奥村・横山・幸野・河瀬・永峯・森				科目ナンバー	T41210
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数 1.0
授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の基礎を習得する。					
授業の概要	<p>子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。楽譜に書かれた音符を歌やピアノで実際に音として再現するために、記譜の約束事、音名、音程、音階、楽語などを理解する。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む中で、演奏する際の姿勢、手の形、打鍵、運指などについて確認する。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。</p> <p>すべての時間において、クラスを半分に分け、表現技術などの理論を学習する班と少人数で音楽表現の個別指導を受ける班を設定する。授業の前半と後半でこれらの班を入れ替え、すべての学生が1単位時間で技術を学び実践を通じて表現力を向上させることができる方式とする。</p>					
到達目標	<p>五線譜に記された音部記号、音名、音符、休符、拍子記号など基礎的な事項について知識のない人がわかるよう説明できるようになる。【知識・理解】</p> <p>ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、課題のピアノ曲を弾くことができるようになる。【汎用的技能】</p>					
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け</p> <p>第2回 ピアノ奏法のための基礎的な用語解説</p> <p>第3回 楽典について 及びレッスン1</p> <p>第4回 課題曲の解説 及びレッスン2</p> <p>第5回 「譜表と音名」 及びレッスン3</p> <p>第6回 「音符と休符」 及びレッスン4</p> <p>第7回 バーナムの練習曲による小テスト 及びレッスン5</p> <p>第8回 連弾について 及びレッスン6</p> <p>第9回 「音程」 及びレッスン7</p> <p>第10回 「音階と調」 及びレッスン8</p> <p>第11回 「リズムと拍子」 及びレッスン9</p> <p>第12回 連弾の発表</p> <p>第13回 「ペダルの使用法」 及びレッスン10</p> <p>第14回 「音楽表現のための楽語」 及びレッスン11</p> <p>第15回 演奏の発表（期末試験）とまとめ</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>グレード別の課題曲及び選択曲について、指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々、練習に取り組むこと。</p> <p>また、教科書の指定された箇所を予習しておくこと。（学習時間：5時間）</p>					
授業方法	<p>実習</p> <p>クラスを半分に分け、表現技術などの理論を学習する班と少人数で音楽表現の個別指導を受ける班を設定する。授業の前半と後半でこれらの班を入れ替え、すべての学生が1単位時間で技術を学び実践を通じて表現力を向上させることができる方式とする。</p>					
評価基準と評価方法	<p>平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60% 期末試験40%</p> <p>出席回数が10回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。</p>					
履修上の注意	<p>積極性、継続的な日々の練習は必須です。</p> <p>個々に練習時間を確保して、課題の練習を怠らないこと。</p>					
教科書	<p>「おんがくのしきみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第1回めの授業で発表します。</p>					
参考書						

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	音楽入門					
担当教員	奥村・横山・幸野・河瀬・永峯・森				科目ナンバー	T41210
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数 1.0
授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の基礎を習得する。					
授業の概要	<p>子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。楽譜に書かれた音符を歌やピアノで実際に音として再現するために、記譜の約束事、音名、音程、音階、楽語などを理解する。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む中で、演奏する際の姿勢、手の形、打鍵、運指などについて確認する。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。</p> <p>すべての時間において、クラスを半分に分け、表現技術などの理論を学習する班と少人数で音楽表現の個別指導を受ける班を設定する。授業の前半と後半でこれらの班を入れ替え、すべての学生が1単位時間で技術を学び実践を通じて表現力を向上させることができる方式とする。</p>					
到達目標	<p>五線譜に記された音部記号、音名、音符、休符、拍子記号など基礎的な事項について知識のない人がわかるよう説明できるようになる。【知識・理解】</p> <p>ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、課題のピアノ曲を弾くことができるようになる。【汎用的技能】</p>					
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け</p> <p>第2回 ピアノ奏法のための基礎的な用語解説</p> <p>第3回 楽典について 及びレッスン1</p> <p>第4回 課題曲の解説 及びレッスン2</p> <p>第5回 「譜表と音名」 及びレッスン3</p> <p>第6回 「音符と休符」 及びレッスン4</p> <p>第7回 バーナムの練習曲による小テスト 及びレッスン5</p> <p>第8回 連弾について 及びレッスン6</p> <p>第9回 「音程」 及びレッスン7</p> <p>第10回 「音階と調」 及びレッスン8</p> <p>第11回 「リズムと拍子」 及びレッスン9</p> <p>第12回 連弾の発表</p> <p>第13回 「ペダルの使用法」 及びレッスン10</p> <p>第14回 「音楽表現のための楽語」 及びレッスン11</p> <p>第15回 演奏の発表（期末試験）とまとめ</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>グレード別の課題曲及び選択曲について、指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々、練習に取り組むこと。</p> <p>また、教科書の指定された箇所を予習しておくこと。（学習時間：5時間）</p>					
授業方法	<p>実習</p> <p>クラスを半分に分け、表現技術などの理論を学習する班と少人数で音楽表現の個別指導を受ける班を設定する。授業の前半と後半でこれらの班を入れ替え、すべての学生が1単位時間で技術を学び実践を通じて表現力を向上させることができる方式とする。</p>					
評価基準と評価方法	<p>平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60% 期末試験40%</p> <p>出席回数が10回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。</p>					
履修上の注意	<p>積極性、継続的な日々の練習は必須です。</p> <p>個々に練習時間を確保して、課題の練習を怠らないこと。</p>					
教科書	<p>「おんがくのしきみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第1回めの授業で発表します。</p>					
参考書						

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	音楽表現					
担当教員	奥村 正子				科目ナンバー	T42360
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	感じたことを音や動きで表現し、音楽との一体感を味わうことができる。想像力を働かせて音楽と関わる。					
授業の概要	子どもと音楽の関わりを幼児の発達に着目して概観する。さらに歌を歌ったり、リズム楽器を使う音楽表現を体験する。具体的には第一に学生が楽典と歌うこと、弾き歌いについて学び、簡単なアンサンブルを通して音楽表現のよさを体験する。第二に生活の中でのさまざまな音や音楽に気づき、感じたこと考えたことなどを音や動きで表現し音楽との一体感を味わう。第三に想像力を働かせて音楽と関わることができるよう、体を動かす活動を取り入れ、身体から音楽を理解することの重要性に気づかせる。					
到達目標	歌唱や楽器演奏ができるために不可欠な楽典の基礎について理解し、説明することができる。【知識・理解】簡単な教材曲について指定された調に移調して弾くことができる。【汎用的技能】指定する子どもの歌唱教材について弾き歌いができるようになる。【汎用的技能】					
授業計画	第1回：幼稚園教育要領領域「表現」 子どもの発達と表現の姿 第2回：子どもの声と環境 及び楽典1（音名、音階） 第3回：保育者の声 及び楽典2（拍子、音価） 第4回：楽語の解説とグループ毎の歌うアンサンブルの実習 第5回：歌唱教材1（他の領域との関わり）及びピアノの基礎技能についての実習1 姿勢・身体の柔軟性・脱力 第6回：身の周りの音探しとリズム遊び 第7回：歌唱教材2（年齢に応じた教材）及びピアノの基礎技能についての実習2 フレージング・レガート・スタッカート 第8回：子どもと楽器の関わり（映像資料による子どもの実際の姿）及びリズムアンサンブル実習 第9回：アンサンブルの発表と振り返り、楽典のまとめ 第10回：身近なものの身体による表現とその伴奏 および弾き歌い実習1 第11回：コードネームの理解と伴奏の簡略化 第12回：コードネームの伴奏への応用、即興演奏について 第13回：声によるアンサンブル 及び弾き歌い実習2 第14回：声と楽器によるアンサンブル 及び弾き歌い実習3 第15回：演奏発表と振り返り 定期試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回授業で取り扱う教科書の該当箇所を予習すること。歌うこと、楽器を演奏することなど、子どもの音楽活動を支援するために必要な歌うことやピアノ演奏について、各自が十分な練習を行うこと。（学習時間5時間）					
授業方法	講義と演習					
評価基準と評価方法	授業への取り組み（小テスト、グループ発表、実習課題を含む）を平常点として評価する（60%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（40%）					
履修上の注意	全身で音楽を感じて表現できるよう、また想像力を働かせて音楽と関わることができるよう、体を動かす活動も多く取り入れている。授業への積極的な参加と日々の課題への取り組みが重要である。					
教科書	「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之、鈴木恵津子編著 教育芸術社 ISBN-13:978-4877888220 「おんがくのしくみ」 教育芸術社 ISBN-978-4-87888-377-5 （1年次に購入済）					
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	音楽表現					
担当教員	奥村 正子				科目ナンバー	T42360
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	感じたことを音や動きで表現し、音楽との一体感を味わうことができる。想像力を働かせて音楽と関わる。					
授業の概要	子どもと音楽の関わりを幼児の発達に着目して概観する。さらに歌を歌ったり、リズム楽器を使う音楽表現を体験する。具体的には第一に学生が楽典と歌うこと、弾き歌いについて学び、簡単なアンサンブルを通して音楽表現のよさを体験する。第二に生活の中でのさまざまな音や音楽に気づき、感じたこと考えたことなどを音や動きで表現し音楽との一体感を味わう。第三に想像力を働かせて音楽と関わることができるよう、体を動かす活動を取り入れ、身体から音楽を理解することの重要性に気づかせる。					
到達目標	歌唱や楽器演奏ができるために不可欠な楽典の基礎について理解し、説明することができる。【知識・理解】簡単な教材曲について指定された調に移調して弾くことができる。【汎用的技能】指定する子どもの歌唱教材について弾き歌いができるようになる。【汎用的技能】					
授業計画	第1回：幼稚園教育要領領域「表現」 子どもの発達と表現の姿 第2回：子どもの声と環境 及び楽典1（音名、音階） 第3回：保育者の声 及び楽典2（拍子、音価） 第4回：楽語の解説とグループ毎の歌うアンサンブルの実習 第5回：歌唱教材1（他の領域との関わり）及びピアノの基礎技能についての実習1 姿勢・身体の柔軟性・脱力 第6回：身の周りの音探しとリズム遊び 第7回：歌唱教材2（年齢に応じた教材）及びピアノの基礎技能についての実習2 フレージング・レガート・スタッカート 第8回：子どもと楽器の関わり（映像資料による子どもの実際の姿）及びリズムアンサンブル実習 第9回：アンサンブルの発表と振り返り、楽典のまとめ 第10回：身近なものの身体による表現とその伴奏 および弾き歌い実習1 第11回：コードネームの理解と伴奏の簡略化 第12回：コードネームの伴奏への応用、即興演奏について 第13回：声によるアンサンブル 及び弾き歌い実習2 第14回：声と楽器によるアンサンブル 及び弾き歌い実習3 第15回：演奏発表と振り返り 定期試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回授業で取り扱う教科書の該当箇所を予習すること。歌うこと、楽器を演奏することなど、子どもの音楽活動を支援するために必要な歌うことやピアノ演奏について、各自が十分な練習を行うこと。（学習時間5時間）					
授業方法	講義と演習					
評価基準と評価方法	授業への取り組み（小テスト、グループ発表、実習課題を含む）を平常点として評価する（60%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（40%）					
履修上の注意	全身で音楽を感じて表現できるよう、また想像力を働かせて音楽と関わることができるよう、体を動かす活動も多く取り入れている。授業への積極的な参加と日々の課題への取り組みが重要である。					
教科書	「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之、鈴木恵津子編著 教育芸術社 ISBN-13:978-4877888220 「おんがくのしくみ」 教育芸術社 ISBN-978-4-87888-377-5 （1年次に購入済）					
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）					

科目区分	教育学科専門教育科目																							
科目名	介護等体験																							
担当教員	村岡 弘朗				科目ナンバー	T22170																		
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数 2.0																		
授業のテーマ	介護等体験実習を有意義なものにするための意識の変容と資質の向上を図る。																							
授業の概要	この授業では介護等体験の意義、つまり個人の尊厳や社会連帯の理念に対する理解を深めることをねらいとしている。そこで、社会福祉に関する知識と理解、障害者や高齢者の介護や援助、そして参加と連帯の精神などを活かして、実際の介護等体験を充実させる必要がある。そのために、障害児や施設利用者への配慮、コミュニケーションの取り方、職員との接し方、施設での取り組みなどを探究していく。こうした学びと、介護等体験として経験し、その経験を振り返ることで、学校教育にいかに応用するのかについて学ぶ。																							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護等体験実習に向けて、それぞれの学校や施設及び利用者の現状や実態を把握し、有意義な介護等体験実習をすることができる。【汎用的技能】 ・介護等体験実習に向けて、実習上の心構えや態度などを養い、介護等体験実習を通して学んだことをまとめ、分かりやすく発表できる。【態度・志向性】 																							
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション：介護・介助等の意義と目的等についてノート整理（2時間）</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>特別支援学校の概要と実態についてノート整理（2時間）</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>特別支援学校での介護等体験に取り組む心構えをまとめる（2時間）</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>社会福祉施設での介護等体験に取り組む心構えをまとめる（2時間）</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>社会福祉施設の現状及び問題・課題について考えをノートにまとめる（2時間）</td> </tr> <tr> <td>第6回～第12回</td> <td>特別支援学校及び社会福祉施設への訪問・介護等体験の記録と感想をまとめる（2時間×7回）</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>特別支援学校での介護等体験の振り返り、レポートにまとめる（2時間）</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>社会福祉施設での介護等体験の振り返り、レポートにまとめる（2時間）</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>体験修了者の体験発表を聞き、感想をまとめる（2時間）</td> </tr> </table>						第1回	オリエンテーション：介護・介助等の意義と目的等についてノート整理（2時間）	第2回	特別支援学校の概要と実態についてノート整理（2時間）	第3回	特別支援学校での介護等体験に取り組む心構えをまとめる（2時間）	第4回	社会福祉施設での介護等体験に取り組む心構えをまとめる（2時間）	第5回	社会福祉施設の現状及び問題・課題について考えをノートにまとめる（2時間）	第6回～第12回	特別支援学校及び社会福祉施設への訪問・介護等体験の記録と感想をまとめる（2時間×7回）	第13回	特別支援学校での介護等体験の振り返り、レポートにまとめる（2時間）	第14回	社会福祉施設での介護等体験の振り返り、レポートにまとめる（2時間）	第15回	体験修了者の体験発表を聞き、感想をまとめる（2時間）
第1回	オリエンテーション：介護・介助等の意義と目的等についてノート整理（2時間）																							
第2回	特別支援学校の概要と実態についてノート整理（2時間）																							
第3回	特別支援学校での介護等体験に取り組む心構えをまとめる（2時間）																							
第4回	社会福祉施設での介護等体験に取り組む心構えをまとめる（2時間）																							
第5回	社会福祉施設の現状及び問題・課題について考えをノートにまとめる（2時間）																							
第6回～第12回	特別支援学校及び社会福祉施設への訪問・介護等体験の記録と感想をまとめる（2時間×7回）																							
第13回	特別支援学校での介護等体験の振り返り、レポートにまとめる（2時間）																							
第14回	社会福祉施設での介護等体験の振り返り、レポートにまとめる（2時間）																							
第15回	体験修了者の体験発表を聞き、感想をまとめる（2時間）																							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：参考書の該当箇所に目を通し、課題意識をもって授業に臨む。（2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点を確認・整理する。（2時間）																							
授業方法	講義：重要な点について講義し、テーマについてグループで検討し、全体に発表する。また、本時に学んだことを振り返り、まとめをする。 発表：体験後、自分の体験を振り返り、学んだことを発表する。																							
評価基準と評価方法	<table border="0"> <tr> <td>・平常点</td> <td>40%</td> <td>（発表、ワークシート）</td> </tr> <tr> <td>・体験レポート</td> <td>40%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・体験先の評価の参考</td> <td>20%</td> <td></td> </tr> </table>						・平常点	40%	（発表、ワークシート）	・体験レポート	40%		・体験先の評価の参考	20%										
・平常点	40%	（発表、ワークシート）																						
・体験レポート	40%																							
・体験先の評価の参考	20%																							
履修上の注意	特別支援学校、社会福祉施設での体験が充実するためにも、事前指導をしっかり受ける。 授業回数の3分の1以上欠席した人は、原則単位認定しない。																							
教科書	なし																							
参考書	「教師を目指す人の介護等体験ハンドブック」（現代教師養成研究会編）大修館書店																							

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	学校観察実習					
担当教員	村岡 弘朗				科目ナンバー	T22180
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	スクールサポーターとしての体験学習を通して、教職へのモチベーションを高める。					
授業の概要	小、中学校現場で、週1回（半日）、合計15回以上継続して、児童・生徒の学習支援や学校行事の手伝いを行う。ただし、ボランティア的活動とはいえ、児童に与える影響は大きいことから、十分な事前指導や説明、事後の集中講義を受ける必要がある。実習では教育の厳しさや喜びを体験でき、教職を目指す自覚も高められるだけでなく、人間理解を深め、自己啓発ができる機会も得られる。子どもにとってもスクールサポーターと接することで、自尊感情や学ぶ意欲を高めることができるなどの得がたい交流ができる。					
到達目標	小学校現場の実態を知り、体験を通して、子ども理解に基づく支援について理解を深めることができる。（知識・技能） 自己の適正を知り、教職への意欲を高めるとともに、自己をより高めたい課題を明確にする。（態度・志向性） 自分の体験から学んだことを、分かりやすくプレゼンテーションすることができる。（汎用的技能）					
授業計画	<p>○実習前の講義等 第1回 実習ガイダンス、実習記録・活動報告書の書き方、挨拶・自己紹介の仕方 第2回 小学校教育の現状と課題、スクールサポーターに求められる主な活動内容 第3回 学校生活全般における子ども理解と接し方、助言支援の方法 第4回 授業場面での学習支援の在り方</p> <p>○当該学校での観察実習 毎週1回（半日）以上、継続して実習を行う。活動状況報告書を書く。 スクールサポーター配置校を訪問し、学生の活動状況を把握し、指導助言を行う。</p> <p>○実習後の講義等（1月） 第5回 実習を振り返って① 活動報告書のコメントから学ぶこと、 第6回 実習を振り返って② 実習記録の整理・レポートの作成 第7回 実習を振り返って③ 報告会・経験したこと・学んだことをどう生かすか（プレゼンテーション） 第8回 実習を振り返って④ 教育実習に向けて自分の課題を明確にする（ディスカッション）</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>（授業前）次時の課題について下調べ、ノートにまとめる。プレゼンテーション前には、分かりやすい内容・方法を考え、準備する。（2時間）</p> <p>（授業後）本時の内容をまとめノートに整理する。活動内容を振り返り、次の授業や体験への課題を明確にする。（2時間）</p>					
授業方法	<p>体験前の授業では、講義により実情や課題を示し、それについて自分の考えを文章でまとめ、互いの考えを交流する。</p> <p>体験後の授業では、活動報告書や各自の体験から振り返り、まとめを整理するとともに自分の課題を明記し、プレゼンテーションを通じて互いの体験を交流し、意見交換をする。</p>					
評価基準と評価方法	<p>事前指導・事後指導を受けること。週1回程度継続して学校観察実習を行い、実習記録や感想文、レポートを提出することを評価の条件とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習回数は15回以上でなくてはならない。 ・当該学校の活動報告書、並びに事前・事後の指導時におけるレポートの内容を加味して評価する。 <p>実習校での実習意欲や態度、その活動報告書で40%、実習の記録と感想文で30%。事前・事後指導時のレポートで30%という割合で総合評価をする。</p>					
履修上の注意	体験活動を充実したものにするため、必ず事前授業には出席すること。また、体験の学びを今後に生かすためにも、事後授業にも出席すること。					
教科書	資料やプリントを配布する。					
参考書	講義時に紹介する。					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	学習・発達論					
担当教員	藤本 浩一				科目ナンバー	T01110
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	子ども支援のための発達と学習の心理学					
授業の概要	<p>学習発達論における代表的な研究を概観する。ピアジェは、主体（人）と対象（世界）の相互の関わりによって認識が発達するという認知発達の段階説を唱え、他方でヴィゴツキーは、文化や人とのかかわりこそ発達や教育に不可欠であると說いた。</p> <p>また、スキナーは、動物実験によって、主体が世界に適応する仕組みを条件づけという形で明らかにした。その他にも、学習の認知説や観察学習論など、さまざまな心理学の理論を検討しながら、人が自分を発見し世界に適応していく過程を、発達と学習という観点から理解を深めることを目的とする。</p>					
到達目標	子どもたちの学習を支援するための以下の知識を身につける。①学習理論、②発達理論。また、それらの理論の具体的な展開を理解できる。【知識・理解】 【汎用的技能】					
授業計画	第1回：発達・遺伝・環境 第2回：外界の認識についてピアジェの認知発達論 第3回：乳幼児・児童の認知発達 第4回：エリクソンの生涯発達論 第5回：社会性の発達 第6回：社会的関係の中の発達についてヴィゴツキー理論から学ぶ 第7回：道徳性の発達 第8回：思春期・青年期の心と体 第9回：思春期・青年期の知的発達 第10回：学習の仕組みについてスキナーの条件づけ理論から学ぶ 第11回：条件づけとは異なる学習について観察学習論から学ぶ 第12回：学習と動機づけの理論と具体例 第13回：やる気と学習アイデンティティの関係について 第14回：メタ認知と自己調整学習 第15回：生徒の心理アセスメント、定期試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に1) 各回授業内容について参考書やインターネット検索により予習して文章にまとめ、授業後には2) 授業中に示した課題について報告文を作成し、1) と2) を合わせてA4紙1枚の3前半と後半に記載して、授業開始時に教室にて提出する。学習時間は各2時間ずつ。					
授業方法	講義、グループ討論、視聴覚教材の使用。					
評価基準と評価方法	平常点と最終の定期テストの点数とをほぼ同率で合計し、その素点をもとに評価を行う					
履修上の注意	休まずに授業の最初から出席する、授業中は集中して受講する等、基本的な学習態度が要求される。					
教科書	藤本 浩一、他 2019『読んでわかる児童心理学』 サイエンス社					
参考書	授業中に適宜紹介する					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	学習・発達論					
担当教員	藤本 浩一				科目ナンバー	T01110
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	子ども支援のための発達と学習の心理学					
授業の概要	<p>学習発達論における代表的な研究を概観する。ピアジェは、主体（人）と対象（世界）の相互の関わりによって認識が発達するという認知発達の段階説を唱え、他方でヴィゴツキーは、文化や人とのかかわりこそ発達や教育に不可欠であると說いた。</p> <p>また、スキナーは、動物実験によって、主体が世界に適応する仕組みを条件づけという形で明らかにした。その他にも、学習の認知説や観察学習論など、さまざまな心理学の理論を検討しながら、人が自分を発見し世界に適応していく過程を、発達と学習という観点から理解を深めることを目的とする。</p>					
到達目標	子どもたちの学習を支援するための以下の知識を身につける。①学習理論、②発達理論。また、それらの理論の具体的な展開を理解できる。【知識・理解】 【汎用的技能】					
授業計画	第1回：発達・遺伝・環境 第2回：外界の認識についてピアジェの認知発達論 第3回：乳幼児・児童の認知発達 第4回：エリクソンの生涯発達論 第5回：社会性の発達 第6回：社会的関係の中の発達についてヴィゴツキー理論から学ぶ 第7回：道徳性の発達 第8回：思春期・青年期の心と体 第9回：思春期・青年期の知的発達 第10回：学習の仕組みについてスキナーの条件づけ理論から学ぶ 第11回：条件づけとは異なる学習について観察学習論から学ぶ 第12回：学習と動機づけの理論と具体例 第13回：やる気と学習アイデンティティの関係について 第14回：メタ認知と自己調整学習 第15回：生徒の心理アセスメント、定期試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に1) 各回授業内容について参考書やインターネット検索により予習して文章にまとめ、授業後には2) 授業中に示した課題について報告文を作成し、1) と2) を合わせてA4紙1枚の3前半と後半に記載して、授業開始時に教室にて提出する。学習時間は各2時間ずつ。					
授業方法	講義、グループ討論、視聴覚教材の使用。					
評価基準と評価方法	平常点と最終の定期テストの点数とをほぼ同率で合計し、その素点をもとに評価を行う					
履修上の注意	休まずに授業の最初から出席する、授業中は集中して受講する等、基本的な学習態度が要求される。					
教科書	藤本 浩一、他 2019『読んでわかる児童心理学』 サイエンス社					
参考書	授業中に適宜紹介する					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	学習・発達論					
担当教員	藤本 浩一				科目ナンバー	T01110
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	子ども支援のための発達と学習の心理学					
授業の概要	<p>学習発達論における代表的な研究を概観する。ピアジェは、主体（人）と対象（世界）の相互の関わりによって認識が発達するという認知発達の段階説を唱え、他方でヴィゴツキーは、文化や人とのかかわりこそ発達や教育に不可欠であると說いた。</p> <p>また、スキナーは、動物実験によって、主体が世界に適応する仕組みを条件づけという形で明らかにした。その他にも、学習の認知説や観察学習論など、さまざまな心理学の理論を検討しながら、人が自分を発見し世界に適応していく過程を、発達と学習という観点から理解を深めることを目的とする。</p>					
到達目標	子どもたちの学習を支援するための以下の知識を身につける。①学習理論、②発達理論。また、それらの理論の具体的な展開を理解できる。【知識・理解】 【汎用的技能】					
授業計画	第1回：発達・遺伝・環境 第2回：外界の認識についてピアジェの認知発達論 第3回：乳幼児・児童の認知発達 第4回：エリクソンの生涯発達論 第5回：社会性の発達 第6回：社会的関係の中の発達についてヴィゴツキー理論から学ぶ 第7回：道徳性の発達 第8回：思春期・青年期の心と体 第9回：思春期・青年期の知的発達 第10回：学習の仕組みについてスキナーの条件づけ理論から学ぶ 第11回：条件づけとは異なる学習について観察学習論から学ぶ 第12回：学習と動機づけの理論と具体例 第13回：やる気と学習アイデンティティの関係について 第14回：メタ認知と自己調整学習 第15回：生徒の心理アセスメント、定期試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に1) 各回授業内容について参考書やインターネット検索により予習して文章にまとめ、授業後には2) 授業中に示した課題について報告文を作成し、1) と2) を合わせてA4紙1枚の3前半と後半に記載して、授業開始時に教室にて提出する。学習時間は各2時間ずつ。					
授業方法	講義、グループ討論、視聴覚教材の使用。					
評価基準と評価方法	平常点と最終の定期テストの点数とをほぼ同率で合計し、その素点をもとに評価を行う					
履修上の注意	休まずに授業の最初から出席する、授業中は集中して受講する等、基本的な学習態度が要求される。					
教科書	藤本 浩一、他 2019『読んでわかる児童心理学』 サイエンス社					
参考書	授業中に適宜紹介する					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	教育原理					
担当教員	松岡 靖				科目ナンバー	T01100
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	教育の理念・歴史・思想を踏まえて現代日本の教育問題を考察する。					
授業の概要	本科目の内容と目標は次の三つに整理できる。第一に学生が教育の基本概念を修得し、教育を成り立たせる諸要因とその相互関係を理解することである。第二に学生が教育史の基礎的知識を修得し、それと多様な教育の理念との関わりを理解し、乳幼児教育から小学校・中学校・高校までの歴史的変遷を理解することである。第三に学生が教育に関する多様な思想と理念について修得し、それらと実際の教育や各学校教育段階との関わりを理解することである。具体的なキーワードは、学校系統図、近代公教育制度、学校化、業績原理、ジェンダー、臨床教育学、教育評価などである。					
到達目標	教育の基本的概念は何か、また教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学生が学び【汎用的技能】、これまでの教育・学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを学生が理解する【知識・理解】。					
授業計画	第1回：オリエンテーション：教育の理念・歴史・思想 第2回：学校教育の理念(1)：人間の発達と教育段階の関連 第3回：学校教育の理念(2)：小学校就学と高校進学の歴史 第4回：学校教育の理念(3)：目的・内容・方法の多様性 第5回：学校化の歴史(1)：帰属原理から業績原理への移行 第6回：学校化の歴史(2)：教育にみるジェンダーの変遷 第7回：学校化の歴史(3)：三育主義から生涯学習の要請へ 第8回：臨床教育学の思想(1)：カウンセリングマインド 第9回：臨床教育学の思想(2)：子ども・学校・家庭の関係 第10回：教育評価にみる理念(1)：相対評価と絶対評価 第11回：教育評価にみる理念(2)：診断・形成・総括 第12回：教育の定義(1)：伝統的稽古から近代的教育へ 第13回：教育の定義(2)：世界と日本にみる教育思想史 第14回：成果の活用(1)：教育の理念・歴史・思想の発表 第15回：成果の活用(2)：授業のまとめと授業評価					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 参加者が自分の物語をテキストとして考察する（学習時間計20時間）。 2. 時事問題に隠れた教育原理上の課題を発見する（学習時間計20時間）。 3. 期末レポートの作成と発表に楽しんで取り組む（学習時間計20時間）。					
授業方法	1. 前半では配付資料と教科書について主に教員が解説する。 2. 中盤では視聴覚教材を使ってグループワークを実施する。 3. 後半ではレポート作成とプレゼンテーションを実施する。					
評価基準と評価方法	1. 平常点40点（毎回のコメントカード、レポート発表など） 2. レポート60点（授業を踏まえて現代日本の教育問題を論じる）					
履修上の注意	1. 授業が理解できなければ遠慮せずに積極的に質問すること。 2. 私語等で受講者に迷惑をかけるようなら欠席すること。 3. 原則として2/3以上の出席に満たなければ受験資格を失う。					
教科書	必要に応じて配付と指示を行う。					
参考書	中内敏夫『教育学第一歩』岩波書店、ISBN4-00-000416-6					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	教育原理					
担当教員	松岡 靖				科目ナンバー	T01100
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	教育の理念・歴史・思想を踏まえて現代日本の教育問題を考察する。					
授業の概要	本科目の内容と目標は次の三つに整理できる。第一に学生が教育の基本概念を修得し、教育を成り立たせる諸要因とその相互関係を理解することである。第二に学生が教育史の基礎的知識を修得し、それと多様な教育の理念との関わりを理解し、乳幼児教育から小学校・中学校・高校までの歴史的変遷を理解することである。第三に学生が教育に関する多様な思想と理念について修得し、それらと実際の教育や各学校教育段階との関わりを理解することである。具体的なキーワードは、学校系統図、近代公教育制度、学校化、業績原理、ジェンダー、臨床教育学、教育評価などである。					
到達目標	教育の基本的概念は何か、また教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学生が学び【汎用的技能】、これまでの教育・学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを学生が理解する【知識・理解】。					
授業計画	第1回：オリエンテーション：教育の理念・歴史・思想 第2回：学校教育の理念(1)：人間の発達と教育段階の関連 第3回：学校教育の理念(2)：小学校就学と高校進学の歴史 第4回：学校教育の理念(3)：目的・内容・方法の多様性 第5回：学校化の歴史(1)：帰属原理から業績原理への移行 第6回：学校化の歴史(2)：教育にみるジェンダーの変遷 第7回：学校化の歴史(3)：三育主義から生涯学習の要請へ 第8回：臨床教育学の思想(1)：カウンセリングマインド 第9回：臨床教育学の思想(2)：子ども・学校・家庭の関係 第10回：教育評価にみる理念(1)：相対評価と絶対評価 第11回：教育評価にみる理念(2)：診断・形成・総括 第12回：教育の定義(1)：伝統的稽古から近代的教育へ 第13回：教育の定義(2)：世界と日本にみる教育思想史 第14回：成果の活用(1)：教育の理念・歴史・思想の発表 第15回：成果の活用(2)：授業のまとめと授業評価					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 参加者が自分の物語をテキストとして考察する（学習時間計20時間）。 2. 時事問題に隠れた教育原理上の課題を発見する（学習時間計20時間）。 3. 期末レポートの作成と発表に楽しんで取り組む（学習時間計20時間）。					
授業方法	1. 前半では配付資料と教科書について主に教員が解説する。 2. 中盤では視聴覚教材を使ってグループワークを実施する。 3. 後半ではレポート作成とプレゼンテーションを実施する。					
評価基準と評価方法	1. 平常点40点（毎回のコメントカード、レポート発表など） 2. レポート60点（授業を踏まえて現代日本の教育問題を論じる）					
履修上の注意	1. 授業が理解できなければ遠慮せずに積極的に質問すること。 2. 私語等で受講者に迷惑をかけるようなら欠席すること。 3. 原則として2/3以上の出席に満たなければ受験資格を失う。					
教科書	必要に応じて配付と指示を行う。					
参考書	中内敏夫『教育学第一歩』岩波書店、ISBN4-00-000416-6					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	教育原理					
担当教員	松岡 靖				科目ナンバー	T01100
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	教育の理念・歴史・思想を踏まえて現代日本の教育問題を考察する。					
授業の概要	本科目の内容と目標は次の三つに整理できる。第一に学生が教育の基本概念を修得し、教育を成り立たせる諸要因とその相互関係を理解することである。第二に学生が教育史の基礎的知識を修得し、それと多様な教育の理念との関わりを理解し、乳幼児教育から小学校・中学校・高校までの歴史的変遷を理解することである。第三に学生が教育に関する多様な思想と理念について修得し、それらと実際の教育や各学校教育段階との関わりを理解することである。具体的なキーワードは、学校系統図、近代公教育制度、学校化、業績原理、ジェンダー、臨床教育学、教育評価などである。					
到達目標	教育の基本的概念は何か、また教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学生が学び【汎用的技能】、これまでの教育・学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを学生が理解する【知識・理解】。					
授業計画	第1回：オリエンテーション：教育の理念・歴史・思想 第2回：学校教育の理念(1)：人間の発達と教育段階の関連 第3回：学校教育の理念(2)：小学校就学と高校進学の歴史 第4回：学校教育の理念(3)：目的・内容・方法の多様性 第5回：学校化の歴史(1)：帰属原理から業績原理への移行 第6回：学校化の歴史(2)：教育にみるジェンダーの変遷 第7回：学校化の歴史(3)：三育主義から生涯学習の要請へ 第8回：臨床教育学の思想(1)：カウンセリングマインド 第9回：臨床教育学の思想(2)：子ども・学校・家庭の関係 第10回：教育評価にみる理念(1)：相対評価と絶対評価 第11回：教育評価にみる理念(2)：診断・形成・総括 第12回：教育の定義(1)：伝統的稽古から近代的教育へ 第13回：教育の定義(2)：世界と日本にみる教育思想史 第14回：成果の活用(1)：教育の理念・歴史・思想の発表 第15回：成果の活用(2)：授業のまとめと授業評価					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 参加者が自分の物語をテキストとして考察する（学習時間計20時間）。 2. 時事問題に隠れた教育原理上の課題を発見する（学習時間計20時間）。 3. 期末レポートの作成と発表に楽しんで取り組む（学習時間計20時間）。					
授業方法	1. 前半では配付資料と教科書について主に教員が解説する。 2. 中盤では視聴覚教材を使ってグループワークを実施する。 3. 後半ではレポート作成とプレゼンテーションを実施する。					
評価基準と評価方法	1. 平常点40点（毎回のコメントカード、レポート発表など） 2. レポート60点（授業を踏まえて現代日本の教育問題を論じる）					
履修上の注意	1. 授業が理解できなければ遠慮せずに積極的に質問すること。 2. 私語等で受講者に迷惑をかけるようなら欠席すること。 3. 原則として2/3以上の出席に満たなければ受験資格を失う。					
教科書	必要に応じて配付と指示を行う。					
参考書	中内敏夫『教育学第一歩』岩波書店、ISBN4-00-000416-6					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	教育社会学					
担当教員	長谷川 誠				科目ナンバー	T01070
学期	前期 前半	曜日・時限	火曜5	配当学年	1	単位数 1.0
授業のテーマ	学校の社会的機能を理解し、教育政策の動向を把握する。					
授業の概要	教育社会学は、さまざまな教育現象を社会学的に研究する学問領域である。講義では、教育と選抜、社会階層と教育、情報化と教育といった教育が抱える社会的な課題や、社会変化に伴うさまざまな教育問題、例えば、いじめや発達障害、不登校、若者の就労問題等、幼児、児童期から青年期にかけて生じる諸問題に対する教育的な支援や指導の在り方について、教育社会学の理論や分析手法を用いて検討を加えていく。これにより、事象を個人的な経験を基にした主観的な見方ではなく、客観的に捉える力を養うことを目指していく。そして、学校と家庭、地域等、教育を取り巻く社会について、その相互メカニズムを理解しながら、学校教育に対する社会的期待や批判等について客観的に考えられるようになることを目的とする。					
到達目標	教育と社会の関わりについて学ぶことを通して、社会の変化が学校教育に与える影響を理解し、それによって生じる様々な教育課題を社会学的に考察することで、現象を客観的に捉える力を養う。					
授業計画	第1回：教育社会学とは何か 第2回：日本の教育政策の動向—諸外国との比較から— 第3回：教育をめぐる格差問題 第4回：教育問題①—ネットいじめ問題 第5回：教育問題②—不登校の問題 第6回：教育問題③—特別な支援を必要とする子どもへの対応 第7回：学校と地域社会との連携 第8回：学校安全への対応					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> 教育社会学に関するトピックスに日常から関心を持ち、関連文献や行政資料の下調べを通して理解を深めておくこと（学習時間：90分）。 授業内容をふまえ学生同士でディスカッションを行い自身の意見をまとめておくこと（学習時間：90分）。 					
授業方法	講義およびグループディスカッションを中心に行う					
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 課題試験60%：授業で扱った教育と社会の関係性に対する理解度、社会における教育の在り方に対する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価するとともに、到達度目標（1）から（3）に関する確認。 平常点40%：リアクションペーパーの内容についてのコメント、質問の記述の的確性や、それを基にしたディスカッションへの参加態度を評価するとともに到達度目標（1）から（3）に関する確認 					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 出席及び授業への参加度重視。 欠席した場合は、必ず相談すること。 					
教科書	原 清治、山内 乾史（2019）『新しい教職教育講座 教職教育編③ 教育社会学』ミネルヴァ書房					
参考書	授業中に指示する。					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	教育社会学					
担当教員	長谷川 誠				科目ナンバー	T01070
学期	前期 前半	曜日・時限	金曜1	配当学年	1~2	単位数 1.0
授業のテーマ	学校の社会的機能を理解し、教育政策の動向を把握する。					
授業の概要	教育社会学は、さまざまな教育現象を社会学的に研究する学問領域である。講義では、教育と選抜、社会階層と教育、情報化と教育といった教育が抱える社会的な課題や、社会変化に伴うさまざまな教育問題、例えば、いじめや発達障害、不登校、若者の就労問題等、幼児、児童期から青年期にかけて生じる諸問題に対する教育的な支援や指導の在り方について、教育社会学の理論や分析手法を用いて検討を加えていく。これにより、事象を個人的な経験を基にした主観的な見方ではなく、客観的に捉える力を養うことを目指していく。そして、学校と家庭、地域等、教育を取り巻く社会について、その相互メカニズムを理解しながら、学校教育に対する社会的期待や批判等について客観的に考えられるようになることを目的とする。					
到達目標	教育と社会の関わりについて学ぶことを通して、社会の変化が学校教育に与える影響を理解し、それによって生じる様々な教育課題を社会学的に考察することで、現象を客観的に捉える力を養う。					
授業計画	第1回：教育社会学とは何か 第2回：日本の教育政策の動向—諸外国との比較から— 第3回：教育をめぐる格差問題 第4回：教育問題①—ネットいじめ問題 第5回：教育問題②—不登校の問題 第6回：教育問題③—特別な支援を必要とする子どもへの対応 第7回：学校と地域社会との連携 第8回：学校安全への対応					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> 教育社会学に関するトピックスに日常から関心を持ち、関連文献や行政資料の下調べを通して理解を深めておくこと（学習時間：90分）。 授業内容をふまえ学生同士でディスカッションを行い自身の意見をまとめておくこと（学習時間：90分）。 					
授業方法	講義およびグループディスカッションを中心に行う					
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 課題試験60%：授業で扱った教育と社会の関係性に対する理解度、社会における教育の在り方に対する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価するとともに、到達度目標（1）から（3）に関する確認。 平常点40%：リアクションペーパーの内容についてのコメント、質問の記述の的確性や、それを基にしたディスカッションへの参加態度を評価するとともに到達度目標（1）から（3）に関する確認。 					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 出席及び授業への参加度重視。 欠席した場合は、必ず相談すること。 					
教科書	原 清治、山内 乾史（2019）『新しい教職教育講座 教職教育編③ 教育社会学』ミネルヴァ書房					
参考書	授業中に指示する。					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	教育課程の意義と編成					
担当教員	大下 順司				科目ナンバー	T11030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	カリキュラムの在り方について学び、自ら設定できるようになる。					
授業の概要	教育課程・カリキュラムに関する基礎的事項と考え方の習得を目指すために、次の4つを主たる目的として授業内容を構成する。第一に、各学校段階の教育課程・カリキュラムに関する基本的知識と特色、学校間の接続について理解する。第二に、授業実践や学力問題といったさまざまな視点からアプローチすることで、内容に基づくカリキュラムと能力に基づくカリキュラムの違い、教育課程・カリキュラムと授業および評価との関わりについて理解を深める。第三に、教育課程・カリキュラム改革の歴史に関する知識を身につけることで、カリキュラム・マネジメントの考え方の背景について理解を深める。第四に、不登校問題の子どもに対する教育課程の在り方、学校の支援について学ぶ。					
到達目標	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その基本的な考え方、意義や編成の方法を理解する【知識・理解】。そのために、学習指導要領・幼稚園指導要領の改訂の変遷および各内容、社会的な背景について理解する【知識・理解】。以上を踏まえ、各学校の実情に合わせて、短期的、中期的、長期的なカリキュラムのあり方、幼児期・児童期、青年期の発達段階に対応したカリキュラムについて考え、試作することを通じて、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する【汎用的技能】。また、教科横断的な学び、およびカリキュラムについて学び、その意味を具体例とともに理解する【知識・理解】。					
授業計画	第1回：オリエンテーション：「教育課程」と「カリキュラム」 第2回：幼・小・中・高の学習指導要領の教育課程について時間割から考える 第3回：発達段階とカリキュラム 第4回：幼稚園・小学校のカリキュラムのポイント 第5回：中学校・高校のカリキュラムのポイント 第6回：教育課程編成の原理 経験主義・系統主義・人間中心主義 第7回：教育課程の歴史① 戦後民主主義と経験主義カリキュラム 第8回：教育課程の歴史② 戦後の経済的発展と系統主義・現代化カリキュラム 第9回：教育課程の歴史③ 「荒れ」の時代と「ゆとり」、不登校と教育課程 第10回：教育課程の歴史④ コンテンツからコンピテンシーへ 第11回：現代の教育課程 アクティブラーニングを取り入れたカリキュラム開発とカリキュラム・マネジメント 第12回：教科の学びと合科的な学び 生活科・総合的な学習の時間・カリキュラム開発事例 第13回 カリキュラムと評価 学力問題とカリキュラム評価 第14回 パフォーマンス評価とカリキュラム作り 第15回 筆記試験と講義全体のまとめ					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業中に指示した教科書の該当箇所や配布資料について予習し、自分なりの間を持つ（2時間）。 授業後学習：授業で学んだことを整理し、ポイント等を教科書や参考書等で確認しながら復習し、理解を深める また、授業中に提示した問題等を復習し、理解を深める（2時間）。					
授業方法	講義形態による授業に加えて、グループで課題に取り組むなどのアクティブラーニングを取り入れる。また、視聴覚教材を活用して、多様なアプローチによって授業内容に関する学生の理解を深めることを目指す。					
評価基準と評価方法	授業毎の小レポート（20%）および筆記試験（80%）による					
履修上の注意	1. これまで受けてきた教育経験（受けてきた授業などを中心に）を自分なりに振り返りながら受講すると、授業内容がより身近なものになって理解しやすいと思われる。 2. 5回以上欠席すると単位を認定しない。必修授業なので、単位を落とすと翌年度に再履修しなければならない。 3. 上記の授業計画は予定であり、受講人数や受講生の興味・関心、講義の進行具合などによって変更する可能性があることを了承されたい。					
教科書	田中耕治『よくわかる教育課程第2版』ミネルヴァ書房2018年 ISBN:978-4-623-08269-8					
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	教育課程の意義と編成					
担当教員	大下 順司				科目ナンバー	T11030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	カリキュラムの在り方について学び、自ら設定できるようになる。					
授業の概要	教育課程・カリキュラムに関する基礎的事項と考え方の習得を目指すために、次の4つを主たる目的として授業内容を構成する。第一に、各学校段階の教育課程・カリキュラムに関する基本的知識と特色、学校間の接続について理解する。第二に、授業実践や学力問題といったさまざまな視点からアプローチすることで、内容に基づくカリキュラムと能力に基づくカリキュラムの違い、教育課程・カリキュラムと授業および評価との関わりについて理解を深める。第三に、教育課程・カリキュラム改革の歴史に関する知識を身につけることで、カリキュラム・マネジメントの考え方の背景について理解を深める。第四に、不登校問題の子どもに対する教育課程の在り方、学校の支援について学ぶ。					
到達目標	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その基本的な考え方、意義や編成の方法を理解する【知識・理解】。そのために、学習指導要領・幼稚園指導要領の改訂の変遷および各内容、社会的な背景について理解する【知識・理解】。以上を踏まえ、各学校の実情に合わせて、短期的、中期的、長期的なカリキュラムのあり方、幼児期・児童期、青年期の発達段階に対応したカリキュラムについて考え、試作することを通じて、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する【汎用的技能】。また、教科横断的な学び、およびカリキュラムについて学び、その意味を具体例とともに理解する【知識・理解】。					
授業計画	第1回：オリエンテーション：「教育課程」と「カリキュラム」 第2回：幼・小・中・高の学習指導要領の教育課程について時間割から考える 第3回：発達段階とカリキュラム 第4回：幼稚園・小学校のカリキュラムのポイント 第5回：中学校・高校のカリキュラムのポイント 第6回：教育課程編成の原理・経験主義・系統主義・人間中心主義 第7回：教育課程の歴史① 戦後民主主義と経験主義カリキュラム 第8回：教育課程の歴史② 戦後の経済的発展と系統主義・現代化カリキュラム 第9回：教育課程の歴史③ 「荒れ」の時代と「ゆとり」、不登校と教育課程 第10回：教育課程の歴史④ コンテンツからコンピテンシーへ 第11回：現代の教育課程 アクティブラーニングを取り入れたカリキュラム開発とカリキュラム・マネジメント 第12回：教科の学びと合科的な学び 生活科・総合的な学習の時間・カリキュラム開発事例 第13回：カリキュラムと評価 学力問題とカリキュラム評価 第14回：パフォーマンス評価とカリキュラム作り 第15回：筆記試験と講義全体のまとめ					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業中に指示した教科書の該当箇所や配布資料について予習し、自分なりの問を持つ（2時間）。 授業後学習：授業で学んだことを整理し、ポイント等を教科書や参考書等で確認しながら復習し、理解を深める また、授業中に提示した問題等を復習し、理解を深める（2時間）。					
授業方法	講義形態による授業に加えて、グループで課題に取り組むなどのアクティブラーニングを取り入れる。また、視聴覚教材を活用して、多様なアプローチによって授業内容に関する学生の理解を深めることを目指す。					
評価基準と評価方法	授業毎の小レポート（20%）および筆記試験（80%）による					
履修上の注意	1. これまで受けてきた教育経験（受けてきた授業などを中心に）を自分なりに振り返りながら受講すると、授業内容がより身近なものになって理解しやすいと思われる。 2. 5回以上欠席すると単位を認定しない。必修授業なので、単位を落とすと翌年度に再履修しなければならない。 3. 上記の授業計画は予定であり、受講人数や受講生の興味・関心、講義の進行具合などによって変更する可能性があることを了承されたい。					
教科書	田中耕治『よくわかる教育課程第2版』ミネルヴァ書房2018年 ISBN:978-4-623-08269-8					
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	教育現場体験					
担当教員	井上・根津・寺見・郭・水田・金丸				科目ナンバー	T01020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数 1.0
授業のテーマ	学校・保育・子育て支援現場での実地学習を行う。					
授業の概要	<p>保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援施設の実際を見学する。見学の事前指導・事後指導では、全体指導や訪問時、グループ別の指導など保育実習・教育実習といった将来の学びを見据えて、現場でのマナーはもちろん、実践を見る際の視点、子どもを観察する際の視点、観察記録の書き方などを学ぶ。複数の訪問先に応じて複数の教員が引率を行ったり、1単位時間の授業でも、前半は、各学校園・施設について教員を中心とした全体への指導を行い、後半は、各クラスに分かれて、訪問に関する指導を小グループで行うなど、教員が共同することで多様に学習形態を変えながら授業を進める。</p>					
到達目標	<p>①乳幼児・児童・生徒期の子どもの育ちと教育についてレポートにまとめることができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ②乳幼児・児童・生徒を援助するための保育・教育についてレポートにまとめることができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ③授業全体を通じて、教師や保育者の仕事について説明することができる。【態度・志向性】</p>					
授業計画	<p>保育所（代表：寺見）、幼稚園（代表：井上）、小学校（代表：根津）、中学校、高等学校（代表：水田）、特別支援施設（代表：金丸）を中心に、見学と実地体験を行う。具体的な訪問順、および訪問先は授業開始までに確定する。</p> <p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方・レポートに関する説明（郭・金丸）、訪問上の注意（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸） 第2回 事前指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第3回 現場見学と実地体験（1）：引率（全教員） 第4回 事後指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）とレポート作成（郭・金丸） 第5回 事前指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第6回 現場見学と実施体験（2）：引率（全教員） 第7回 事後指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）とレポート作成（郭・金丸） 第8回 事前指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第9回 現場見学と実施体験（3）：引率（全教員） 第10回 事後指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）とレポート作成（郭・金丸） 第11回 事前指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第12回 現場見学と実地体験（4）：引率（全教員） 第13回 事後指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）とレポート作成（郭・金丸） 第14回 全体に関するディスカッション（全教員） 第15回 まとめ（全教員）</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各訪問校種の事前学習で行う内容の予習（学習時間90分） 授業後学習：各訪問校種の事後学習の内容の確認・整理（学習時間90分）</p>					
授業方法	講義およびグループディスカッション、実習見学					
評価基準と評価方法	学外実習レポート：80% 総括レポート：20%					
履修上の注意	学外見学が中心のため、出席および無遅刻で参加すること。 提出物については、期限を厳守すること。					
教科書	無し。					

参考書	必要に応じて示す。
-----	-----------

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	教育の制度と経営					
担当教員	郭 晓博				科目ナンバー	T02120
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	第一に、現代の学校教育に関する経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、学校と地域との連携、それらに関連する課題を理解する。第二に、現代の学校教育に関する制度的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。					
授業の概要	まず、教育経営全体を概観したのち、学校の組織や教育委員会など教育行政の制度の中での学校経営について学ぶ。教育法規との関係の下で、学校教育は如何にあるべきか、学校教育の目的を再考し、教育行政や教育制度が現在の教育法規の基でどのようにになっているのかも学習する。 次に、教育関連の法規から、学校教育の社会的・制度的側面について広く必要な知識を獲得する。 教育行政の仕組みや教育法規の構成についてその基本が的確に理解できるようにするほか、憲法や教育基本法など学校教育を支える法令について、現在社会の状況や教育改革、現場の実際とあわせて理解できるように授業が行われる。					
到達目標	第一に、学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例をふまえて理解する。第二に、現代の公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。					
授業計画	第1回 オリエンテーション：教育経営と教育制度の概説 第2回 教育段階の接続に有効な連携方策と具体例 第3回 就学前教育の課題、政策動向と改善策 第4回 教職員の服務と法規 第5回 教職員の専門職性と職能開発 第6回 学校評価と開かれた学校づくりの理論—保護者・住民参画の制度と経営 第7回 学校評価と開かれた学校づくりの事例—保護者・住民参画の制度と経営 第8回 質疑応答と中間まとめ 第9回 教育法規の基礎と教育制度：学校教育を支える法令 第10回 地方教育行政：教育行財政と学校経営 第11回 学校教育制度（懲戒と体罰、保健等）と学校間の接続制度 第12回 教職員に関する法制度・政策（教員養成・研修・採用とその職務） 第13回 家庭教育・社会教育・生涯学習に関する法規 第14回 諸外国の教育事情や教育改革の政策動向 第15回 試験と講義全体のまとめ					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う内容を事前に予習し、事前に指定するキーワードについて、下調べをする。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。その上、自分の最も興味関心のところを調べて、知見をより深める。（学習時間：2時間）					
授業方法	講義形式で、映像や画像などを用いながら進めていく。ほぼ毎回授業内容に沿ったレジュメを配布する。 指定のテーマに対し、グループまたはペアによるディスカッションを行う。					
評価基準と評価方法	定期試験70%、授業毎の課題30%					
履修上の注意	興味関心を高め、自分の考えや意見を積極的に表すこと。 2／3以上の出席を単位認定の基準とする。					
教科書	授業中にプリントを適宜配布する。					
参考書	授業中にプリントを配布する。 文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年） 高見茂、宮村裕子、開沼太郎『教育法規スタートアップ—教育行政・政策入門（Ver. 3.0）』昭和堂、2015年。 高見茂、宮村裕子、開沼太郎『教育法規スタートアップ・ネクスト』昭和堂、2018年					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	教育の制度と経営					
担当教員	郭 晓博				科目ナンバー	T02120
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	第一に、現代の学校教育に関する経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、学校と地域との連携、それらに関連する課題を理解する。第二に、現代の学校教育に関する制度的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。					
授業の概要	まず、教育経営全体を概観したのち、学校の組織や教育委員会など教育行政の制度の中での学校経営について学ぶ。教育法規との関係の下で、学校教育は如何にあるべきか、学校教育の目的を再考し、教育行政や教育制度が現在の教育法規の基でどのようにになっているのかも学習する。 次に、教育関連の法規から、学校教育の社会的・制度的側面について広く必要な知識を獲得する。 教育行政の仕組みや教育法規の構成についてその基本が的確に理解できるようにするほか、憲法や教育基本法など学校教育を支える法令について、現在社会の状況や教育改革、現場の実際とあわせて理解できるように授業が行われる。					
到達目標	第一に、学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例をふまえて理解する。【知識・理解】【汎用的技能】【態度・志向性】 第二に、現代の公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。【知識・理解】【汎用的技能】【態度・志向性】					
授業計画	第1回 オリエンテーション：教育経営と教育制度の概説 第2回 教育段階の接続に有効な連携方策と具体例 第3回 就学前教育の課題、政策動向と改善策 第4回 教職員の服務と法規 第5回 教職員の専門職性と職能開発 第6回 学校評価と開かれた学校づくりの理論—保護者・住民参画の制度と経営 第7回 学校評価と開かれた学校づくりの事例—保護者・住民参画の制度と経営 第8回 質疑応答と中間まとめ 第9回 教育法規の基礎と教育制度：学校教育を支える法令 第10回 地方教育行政：教育行財政と学校経営 第11回 学校教育制度（懲戒と体罰、保健等）と学校間の接続制度 第12回 教職員に関する法制度・政策（教員養成・研修・採用とその職務） 第13回 家庭教育・社会教育・生涯学習に関する法規 第14回 諸外国の教育事情や教育改革の政策動向 第15回 試験と講義全体のまとめ					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う内容を事前に予習し、事前に指定するキーワードについて、下調べをする。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。その上、自分の最も興味関心のところを調べて、知見をより深める。（学習時間：2時間）					
授業方法	講義形式で、映像や画像などを用いながら進めていく。ほぼ毎回授業内容に沿ったレジュメを配布する。 指定のテーマに対し、グループまたはペアによるディスカッションを行う。					
評価基準と評価方法	定期試験70%、授業毎の課題30%					
履修上の注意	興味関心を高め、自分の考え方や意見を積極的に表すこと。 2／3以上の出席を単位認定の基準とする。					
教科書	授業中にプリントを適宜配布する。					
参考書	授業中にプリントを配布する。 文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年） 高見茂、宮村裕子、開沼太郎『教育法規スタートアップ—教育行政・政策入門（Ver. 3.0）』昭和堂、2015年。 高見茂、宮村裕子、開沼太郎『教育法規スタートアップ・ネクスト』昭和堂、2018年					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	教育の制度と経営					
担当教員	郭 晓博				科目ナンバー	T02120
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	第一に、現代の学校教育に関する経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、学校と地域との連携、それらに関連する課題を理解する。第二に、現代の学校教育に関する制度的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。					
授業の概要	まず、教育経営全体を概観したのち、学校の組織や教育委員会など教育行政の制度の中での学校経営について学ぶ。教育法規との関係の下で、学校教育は如何にあるべきか、学校教育の目的を再考し、教育行政や教育制度が現在の教育法規の基でどのようにになっているのかも学習する。 次に、教育関連の法規から、学校教育の社会的・制度的側面について広く必要な知識を獲得する。 教育行政の仕組みや教育法規の構成についてその基本が的確に理解できるようにするほか、憲法や教育基本法など学校教育を支える法令について、現在社会の状況や教育改革、現場の実際とあわせて理解できるように授業が行われる。					
到達目標	第一に、学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例をふまえて理解する。第二に、現代の公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。					
授業計画	第1回 オリエンテーション：教育経営と教育制度の概説 第2回 教育段階の接続に有効な連携方策と具体例 第3回 就学前教育の課題、政策動向と改善策 第4回 教職員の服務と法規 第5回 教職員の専門職性と職能開発 第6回 学校評価と開かれた学校づくりの理論—保護者・住民参画の制度と経営 第7回 学校評価と開かれた学校づくりの事例—保護者・住民参画の制度と経営 第8回 質疑応答と中間まとめ 第9回 教育法規の基礎と教育制度：学校教育を支える法令 第10回 地方教育行政：教育行財政と学校経営 第11回 学校教育制度（懲戒と体罰、保健等）と学校間の接続制度 第12回 教職員に関する法制度・政策（教員養成・研修・採用とその職務） 第13回 家庭教育・社会教育・生涯学習に関する法規 第14回 諸外国の教育事情や教育改革の政策動向 第15回 試験と講義全体のまとめ					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う内容を事前に予習し、事前に指定するキーワードについて、下調べをする。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。その上、自分の最も興味関心のところを調べて、知見をより深める。（学習時間：2時間）					
授業方法	講義形式で、映像や画像などを用いながら進めていく。ほぼ毎回授業内容に沿ったレジュメを配布する。 指定のテーマに対し、グループまたはペアによるディスカッションを行う。					
評価基準と評価方法	定期試験70%、授業毎の課題30%					
履修上の注意	興味関心を高め、自分の考えや意見を積極的に表すこと。 2／3以上の出席を単位認定の基準とする。					
教科書	授業中にプリントを適宜配布する。					
参考書	授業中にプリントを配布する。 文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年） 高見茂、宮村裕子、開沼太郎『教育法規スタートアップ—教育行政・政策入門（Ver. 3.0）』昭和堂、2015年。 高見茂、宮村裕子、開沼太郎『教育法規スタートアップ・ネクスト』昭和堂、2018年					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	教育方法の理論と実践					
担当教員	大下 順司				科目ナンバー	T01090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	教育の方法と指導技術を学び、ICTも用いながら授業として実践する。					
授業の概要	これから社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育・保育の方法、技術、情報機器および教材の活用、学習評価の理論に関する基礎的な知識・技能を身につける科目である。資質・能力を育成するために主体的・対話的で深い学びの実現等をいかに授業や保育において実現するか、その指導技術を理解し、身につける。具体的には、学級、子ども、教員、教室、教材など子どもの学びを構成する基礎的な要件を理解するとともに、幼児教育・初等教育・中等教育における発達に応じた基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成する。これをマイクロティーチングとして実践することを通して、話法や板書はもちろん、ICTの効果的な利用、評価の役割について体験的に学ぶ。					
到達目標	以下3点を目標とする。これから社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。そのために、教育の目的に適した指導技術を理解し身に付ける。また、情報機器（ICT）を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。					
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業とは何か 第2回 学習指導案・保育指導案の検討：授業保育の基本要素（教室・板書・指導言）を学ぶ。 第3回 教材教具を工夫した授業実践・保育：授業ビデオの視聴 第4回 アクティブラーニングとは何か：ディベートの実践を見る 第5回 アクティブラーニングの視点と学び：多様な教授・学習形態と学び 第6回 授業・保育づくりと実践に情報機器を活用する 第7回 ICTを活用する学習・保育：佐賀県高雄市の反転学習とICTの活用 第8回 評価とは何か：基礎的な理論と育みたい資質・能力を見通した指導 第9回 学習指導案・保育指導案の作成①：教材観・子ども観・指導観・評価基準 第10回 学習指導案を作成する②：単元計画・保育計画を立てる 第11回 学習指導案を作成する③：保育・学習展開と評価の視点 第12回 授業・保育としての実践①：マイクロティーチング（クラスの半数） 第13回 授業・保育としての実践②：マイクロティーチング（クラスの残り半数） 第14回 授業を振り返り、授業評価をする：PDCAサイクルとは何か？ 第15回 講義全体の振り返りと授業改善に取り組む					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に前の授業で配布した資料の該当箇所を読み、理解できなかったことをメモしておくこと。授業で配布した資料や自分の記録を読み返し、理解を深めること（30分）。 学習指導案作成による模擬授業の計画・実施を通じて、体験的に学習を深めること。学習指導案はPCで作成し、保育や教育の実践では、授業外での学習や準備が必要となる（60分）。					
授業方法	講義や視聴覚教材を通じて、授業の方法について理解を深めた後、履修者数に応じて、グループで模擬授業を行うことを主体的な学びを促す。					
評価基準と評価方法	平常点10%（授業時の小レポートなど）、指導案の作成20%、模擬授業の実施40%、授業改善レポート30%。					
履修上の注意	1. 積極的に授業に参加し、優れた教師になることをめざすこと 2. 上記の授業計画は予定であり、受講人数や受講生の興味・関心、講義の進行具合などによって変更する可能性があることを了承されたい。 3. 2/3以上の出席を単位認定の基準とする。					
教科書	授業中に適宜指示する。					
参考書	田中耕治『よくわかる授業』ミネルヴァ書房、2017年。 田中耕治他『新しい時代の教育方法』有斐閣アルマ、2012年 文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	教育方法の理論と実践					
担当教員	大下 順司				科目ナンバー	T01090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	教育の方法と指導技術を学び、ICTも用いながら授業として実践する。					
授業の概要	これから社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育・保育の方法、技術、情報機器および教材の活用、学習評価の理論に関する基礎的な知識・技能を身につける科目である。資質・能力を育成するために主体的・対話的で深い学びの実現等をいかに授業や保育において実現するか、その指導技術を理解し、身につける。具体的には、学級、子ども、教員、教室、教材など子どもの学びを構成する基礎的な要件を理解するとともに、幼児教育・初等教育・中等教育における発達に応じた基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成する。これをマイクロティーチングとして実践することを通して、話法や板書はもちろん、ICTの効果的な利用、評価の役割について体験的に学ぶ。					
到達目標	以下3点を目標とする。これから社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。そのために、教育の目的に適した指導技術を理解し身に付ける。また、情報機器（ICT）を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。					
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業とは何か 第2回 学習指導案・保育指導案の検討：授業保育の基本要素（教室・板書・指導言）を学ぶ。 第3回 教材教具を工夫した授業実践・保育：授業ビデオの視聴 第4回 アクティブラーニングとは何か：ディベートの実践を見る 第5回 アクティブラーニングの視点と学び：多様な教授・学習形態と学び 第6回 授業・保育づくりと実践に情報機器を活用する 第7回 ICTを活用する学習・保育：佐賀県高雄市の反転学習とICTの活用 第8回 評価とは何か：基礎的な理論と育みたい資質・能力を見通した指導 第9回 学習指導案・保育指導案の作成①：教材観・子ども観・指導観・評価基準 第10回 学習指導案を作成する②：単元計画・保育計画を立てる 第11回 学習指導案を作成する③：保育・学習展開と評価の視点 第12回 授業・保育としての実践①：マイクロティーチング（クラスの半数） 第13回 授業・保育としての実践②：マイクロティーチング（クラスの残り半数） 第14回 授業を振り返り、授業評価をする：P D C Aサイクルとは何か？ 第15回 講義全体の振り返りと授業改善に取り組む					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に前の授業で配布した資料の該当箇所を読み、理解できなかったことをメモしておくこと。授業で配布した資料や自分の記録を読み返し、理解を深めること（30分）。 学習指導案作成による模擬授業の計画・実施を通じて、体験的に学習を深めること。学習指導案はPCで作成し、保育や教育の実践では、授業外での学習や準備が必要となる（60分）。					
授業方法	講義や視聴覚教材を通じて、授業の方法について理解を深めた後、履修者数に応じて、グループで模擬授業を行うことを主体的な学びを促す。					
評価基準と評価方法	平常点 10%（授業時の小レポートなど）、指導案の作成 20%、模擬授業の実施 40%、授業改善レポート 30%。					
履修上の注意	1. 積極的に授業に参加し、優れた教師になることをめざすこと 2. 上記の授業計画は予定であり、受講人数や受講生の興味・関心、講義の進行具合などによって変更する可能性があることを了承されたい。 3. 2／3以上の出席を単位認定の基準とする。					
教科書	授業中に適宜指示する。					
参考書	田中耕治『よくわかる授業』ミネルヴァ書房、2017年。 田中耕治他『新しい時代の教育方法』有斐閣アルマ、2012年。 文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	教育方法の理論と実践					
担当教員	大下 順司				科目ナンバー	T01090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	教育の方法と指導技術を学び、ICTも用いながら授業として実践する。					
授業の概要	これから社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育・保育の方法、技術、情報機器および教材の活用、学習評価の理論に関する基礎的な知識・技能を身につける科目である。資質・能力を育成するために主体的・対話的で深い学びの実現等をいかに授業や保育において実現するか、その指導技術を理解し、身につける。具体的には、学級、子ども、教員、教室、教材など子どもの学びを構成する基礎的な要件を理解するとともに、幼児教育・初等教育・中等教育における発達に応じた基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成する。これをマイクロティーチングとして実践することを通して、話法や板書はもちろん、ICTの効果的な利用、評価の役割について体験的に学ぶ。					
到達目標	以下3点を目標とする。これから社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。そのために、教育の目的に適した指導技術を理解し身に付ける。また、情報機器（ICT）を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。					
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業とは何か 第2回 学習指導案・保育指導案の検討：授業保育の基本要素（教室・板書・指導言）を学ぶ。 第3回 教材教具を工夫した授業実践・保育：授業ビデオの視聴 第4回 アクティブラーニングとは何か：ディベートの実践を見る 第5回 アクティブラーニングの視点と学び：多様な教授・学習形態と学び 第6回 授業・保育づくりと実践に情報機器を活用する 第7回 ICTを活用する学習・保育：佐賀県高雄市の反転学習とICTの活用 第8回 評価とは何か：基礎的な理論と育みたい資質・能力を見通した指導 第9回 学習指導案・保育指導案の作成①：教材観・子ども観・指導観・評価基準 第10回 学習指導案を作成する②：単元計画・保育計画を立てる 第11回 学習指導案を作成する③：保育・学習展開と評価の視点 第12回 授業・保育としての実践①：マイクロティーチング（クラスの半数） 第13回 授業・保育としての実践②：マイクロティーチング（クラスの残り半数） 第14回 授業を振り返り、授業評価をする：PDCAサイクルとは何か？ 第15回 講義全体の振り返りと授業改善に取り組む					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に前の授業で配布した資料の該当箇所を読み、理解できなかったことをメモしておくこと。授業で配布した資料や自分の記録を読み返し、理解を深めること（30分）。 学習指導案作成による模擬授業の計画・実施を通じて、体験的に学習を深めること。学習指導案はPCで作成し、保育や教育の実践では、授業外での学習や準備が必要となる（60分）。					
授業方法	講義や視聴覚教材を通じて、授業の方法について理解を深めた後、履修者数に応じて、グループで模擬授業を行うことを主体的な学びを促す。					
評価基準と評価方法	平常点10%（授業時の小レポートなど）、指導案の作成20%、模擬授業の実施40%、授業改善レポート30%。					
履修上の注意	1. 積極的に授業に参加し、優れた教師になることをめざすこと 2. 上記の授業計画は予定であり、受講人数や受講生の興味・関心、講義の進行具合などによって変更する可能性があることを了承されたい。 3. 2/3以上の出席を単位認定の基準とする。					
教科書	授業中に適宜指示する。					
参考書	田中耕治『よくわかる授業』ミネルヴァ書房、2017年。 田中耕治他『新しい時代の教育方法』有斐閣アルマ、2012年。 文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	教職概論					
担当教員	大石 正廣				科目ナンバー	T01060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	教職課程の出発点として、教職に対する自らの適性を吟味させつつ教員として働く意欲を引き出す。					
授業の概要	<p>教職課程の出発点として、教職の社会的意義と役割を理解する。</p> <p>また、教職に対する自らの適性を吟味させつつ教員として働く意欲を引き出すことを目指す。そのため、次の3点を主な目標に授業内容を構成する。第一に、教職の特徴と現状に関する基本的な知識を習得しその社会的意義を理解する。第二に、教員の職務内容を知り、これから時代に求められる役割や資質能力について理解する。第三に、教員としての力量形成と教職の専門性に関する認識を深める。</p>					
到達目標	教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け【知識・理解】、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の有り方を理解する【態度・志向性】。					
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション：今日の学校教育や教職の社会的意義</p> <p>第2回：公教育の目的、教職の職業的特徴</p> <p>第3回：幼稚園の教育内容、職務内容</p> <p>第4回：小学校・中学校の教育内容、職務内容</p> <p>第5回：教員の職務内容の全体像、</p> <p>第6回：教員に課せられる服務上・身分上の義務および身分保障</p> <p>第7回：教育観の変遷を踏まえた、今日の教員に求められる役割</p> <p>第8回：今日の教員に求められる基礎的な資質、能力・技能</p> <p>第9回：子ども理解に基づく指導・支援</p> <p>第10回：人権尊重の精神を基盤とした教育</p> <p>第11回：チーム学校としての組織的な諸課題への対応</p> <p>第12回：多様な専門性を持つ人材、関係諸機関との連携・分担</p> <p>第13回：教育をめぐる改革動向と求められる教師の専門性</p> <p>第14回：教員養成段階における教員としての資質の向上</p> <p>第15回：教員としての資質、専門性を高めるための今後の自らの課題</p> <p>定期試験</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回授業で扱うテキストの当該箇所を予習し、事前にキーワードについて、指定された参考書等で下調べをする。（2時間）</p> <p>授業後学習：配布のレジメをもとに、授業で取り上げた内容の要点と重要個所を確認・整理する。また、学べたこと、考えたこと、さらに調べたいことなどをジャーナルとして記述しまとめておく。（2時間）</p>					
授業方法	講義：授業内容のポイントについて、グループまたはペアによるディスカッションを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえて、重要事項についてさらに解説・講義を行う。					
評価基準と評価方法	授業への参加度。積極的な学び（資料作成力やグループ内での積極的姿勢など）と各回のリアクションペーパーで50%、テスト（授業内容の理解）で50%。					
履修上の注意	<p>1. グループ（ペア）ワークを多く取り入れるので、主体的で対話的な学びを求める。</p> <p>2. 授業での資料は、各回の出席者のみ配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布する）。</p> <p>3. 出席が10回以上ないと期末試験の受験資格を失うものとする。</p>					
教科書	<p>文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月）</p> <p>文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月）</p> <p>文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月）</p> <p>文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年）</p>					
参考書	<p>文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月）</p> <p>文部科学省 小学校学習指導要領解説（平成29年3月）</p> <p>文部科学省 中学校学習指導要領解説（平成29年3月）</p> <p>文部科学省 高等学校学習指導要領解説（平成30年）</p>					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	教職概論					
担当教員	大石 正廣				科目ナンバー	T01060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	教職課程の出発点として、教職に対する自らの適性を吟味させつつ教員として働く意欲を引き出す。					
授業の概要	<p>教職課程の出発点として、教職の社会的意義と役割を理解する。</p> <p>また、教職に対する自らの適性を吟味させつつ教員として働く意欲を引き出すことを目指す。そのため、次の3点を主な目標に授業内容を構成する。第一に、教職の特徴と現状に関する基本的な知識を習得しその社会的意義を理解する。第二に、教員の職務内容を知り、これから時代に求められる役割や資質能力について理解する。第三に、教員としての力量形成と教職の専門性に関する認識を深める。</p>					
到達目標	教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け【知識・理解】、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の有り方を理解する【態度・志向性】。					
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション：今日の学校教育や教職の社会的意義</p> <p>第2回：公教育の目的、教職の職業的特徴</p> <p>第3回：幼稚園の教育内容、職務内容</p> <p>第4回：小学校・中学校の教育内容、職務内容</p> <p>第5回：教員の職務内容の全体像、</p> <p>第6回：教員に課せられる服務上・身分上の義務および身分保障</p> <p>第7回：教育観の変遷を踏まえた、今日の教員に求められる役割</p> <p>第8回：今日の教員に求められる基礎的な資質、能力・技能</p> <p>第9回：子ども理解に基づく指導・支援</p> <p>第10回：人権尊重の精神を基盤とした教育</p> <p>第11回：チーム学校としての組織的な諸課題への対応</p> <p>第12回：多様な専門性を持つ人材、関係諸機関との連携・分担</p> <p>第13回：教育をめぐる改革動向と求められる教師の専門性</p> <p>第14回：教員養成段階における教員としての資質の向上</p> <p>第15回：教員としての資質、専門性を高めるための今後の自らの課題</p> <p>定期試験</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回授業で扱うテキストの当該箇所を予習し、事前にキーワードについて、指定された参考書等で下調べをする。（2時間）</p> <p>授業後学習：配布のレジメをもとに、授業で取り上げた内容の要点と重要個所を確認・整理する。また、学べたこと、考えたこと、さらに調べたいことなどをジャーナルとして記述しまとめておく。（2時間）</p>					
授業方法	講義：授業内容のポイントについて、グループまたはペアによるディスカッションを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえて、重要事項についてさらに解説・講義を行う。					
評価基準と評価方法	授業への参加度。積極的な学び（資料作成力やグループ内での積極的姿勢など）と各回のリアクションペーパーで50%、テスト（授業内容の理解）で50%。					
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> グループ（ペア）ワークを多く取り入れるので、主体的で対話的な学びを求める。 授業での資料は、各回の出席者のみ配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布する。 出席が10回以上ないと期末試験の受験資格を失うものとする。 					
教科書	<p>文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月）</p> <p>文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月）</p> <p>文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月）</p> <p>文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年）</p>					
参考書	<p>文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月）</p> <p>文部科学省 小学校学習指導要領解説（平成29年3月）</p> <p>文部科学省 中学校学習指導要領解説（平成29年3月）</p> <p>文部科学省 高等学校学習指導要領解説（平成30年）</p>					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	教職概論					
担当教員	大石 正廣				科目ナンバー	T01060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	教職課程の出発点として、教職に対する自らの適性を吟味させつつ教員として働く意欲を引き出す。					
授業の概要	<p>教職課程の出発点として、教職の社会的意義と役割を理解する。</p> <p>また、教職に対する自らの適性を吟味させつつ教員として働く意欲を引き出すことを目指す。そのため、次の3点を主な目標に授業内容を構成する。第一に、教職の特徴と現状に関する基本的な知識を習得しその社会的意義を理解する。第二に、教員の職務内容を知り、これから時代に求められる役割や資質能力について理解する。第三に、教員としての力量形成と教職の専門性に関する認識を深める。</p>					
到達目標	教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け【知識・理解】、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の有り方を理解する【態度・志向性】。					
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション：今日の学校教育や教職の社会的意義</p> <p>第2回：公教育の目的、教職の職業的特徴</p> <p>第3回：幼稚園の教育内容、職務内容</p> <p>第4回：小学校・中学校の教育内容、職務内容</p> <p>第5回：教員の職務内容の全体像、</p> <p>第6回：教員に課せられる服務上・身分上の義務および身分保障</p> <p>第7回：教育観の変遷を踏まえた、今日の教員に求められる役割</p> <p>第8回：今日の教員に求められる基礎的な資質、能力・技能</p> <p>第9回：子ども理解に基づく指導・支援</p> <p>第10回：人権尊重の精神を基盤とした教育</p> <p>第11回：チーム学校としての組織的な諸課題への対応</p> <p>第12回：多様な専門性を持つ人材、関係諸機関との連携・分担</p> <p>第13回：教育をめぐる改革動向と求められる教師の専門性</p> <p>第14回：教員養成段階における教員としての資質の向上</p> <p>第15回：教員としての資質、専門性を高めるための今後の自らの課題</p> <p>定期試験</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回授業で扱うテキストの当該箇所を予習し、事前にキーワードについて、指定された参考書等で下調べをする。（2時間）</p> <p>授業後学習：配布のレジメをもとに、授業で取り上げた内容の要点と重要個所を確認・整理する。また、学べたこと、考えたこと、さらに調べたいことなどをジャーナルとして記述しまとめておく。（2時間）</p>					
授業方法	講義：授業内容のポイントについて、グループまたはペアによるディスカッションを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえて、重要事項についてさらに解説・講義を行う。					
評価基準と評価方法	授業への参加度。積極的な学び（資料作成力やグループ内での積極的姿勢など）と各回のリアクションペーパーで50%、テスト（授業内容の理解）で50%。					
履修上の注意	<p>1. グループ（ペア）ワークを多く取り入れるので、主体的で対話的な学びを求める。</p> <p>2. 授業での資料は、各回の出席者のみ配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布する）。</p> <p>3. 出席が10回以上ないと期末試験の受験資格を失うものとする。</p>					
教科書	<p>文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月）</p> <p>文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月）</p> <p>文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月）</p> <p>文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年）</p>					
参考書	<p>文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月）</p> <p>文部科学省 小学校学習指導要領解説（平成29年3月）</p> <p>文部科学省 中学校学習指導要領解説（平成29年3月）</p> <p>文部科学省 高等学校学習指導要領解説（平成30年）</p>					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	基礎演習A					
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸				科目ナンバー	T0101A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	大学での勉強方法を身に付け、自身の教育者としての素養を高める。					
授業の概要	<p>(概要) この科目では高校での学びと大学での学びの進め方の違いについて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式で、専門分野をベースに演習形式で学生に説明する。大学での授業と自習がいかに連動しているか、どのように図書館を活用して情報収集を行うか、インプットした情報を用いていかに発表としてアウトプットするか、といった大学での学びの基礎を提供する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6 柏本 吉章・15 大下 卓司・18 松岡 靖・20 内田 祐貴・22 郭 曜博・23 金丸 彰寿／3回) (共同)</p> <p>各クラスで担任教員が中心となって、大学での自宅学習の必要性、図書館の活用法、授業でのプレゼンテーションの基礎について説明し、学生がプレゼンテーションを実践する。</p> <p>(6 柏本 吉章／2回)</p> <p>子どもと英語に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと英語の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(15 大下 卓司／2回)</p> <p>初等教育や中等教育、幼児教育の類似点や相違点について教育方法に着目して整理し、学生がグループごとにその特徴について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(18 松岡 靖／2回)</p> <p>高校での学習と大学での学習の違いをいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとにその違いについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(20 内田 祐貴／2回)</p> <p>子どもと科学に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと科学の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(22 郭 曜博／2回)</p> <p>各種学校園と教育制度に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(23 金丸 彰寿／2回)</p> <p>子どもと障害に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと障害の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p>					
到達目標	<p>1. 大学と高校での勉強方法の違いを理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】</p> <p>2. 教育の時事問題について自分で調べ理解し、他者にわかりやすく説明できる。【知識・理解】</p> <p>3. 教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】</p>					
授業計画	<p>全体指導</p> <p>第01回 (1) 大学での勉強方法1：高校と大学の違い、履修計画</p> <p>第02回 (2) 大学での勉強方法2：資料の調べ方、図書館の利用</p> <p>第03回 (3) 大学での勉強方法3：大学施設を利用した学習</p> <p>松岡担当</p> <p>第04回 (1) 高校と大学の教育はどう違うか？</p> <p>第05回 (2) 学生によるグループ討論と発表</p> <p>大下担当</p> <p>第06回 (1) 小学校教師（幼稚園教諭）の仕事を知る</p> <p>第07回 (2) 中学校教師（保育士）の仕事を知り、小学校（幼稚園）と比較する</p> <p>郭担当</p> <p>第08回 (1) 教育制度と学校の種類を学ぶ</p> <p>第09回 (2) 学校制度改革について考えてみよう</p> <p>内田担当</p> <p>第10回 (1) 子どもと科学1：アイデアの出し方、まとめ方</p> <p>第11回 (2) 子どもと科学2：資料調べ、レポートの書き方</p> <p>柏本担当</p> <p>第12回 (1) コミュニケーションのしくみ、会話のしくみ</p> <p>第13回 (2) 日本語のコミュニケーションと英語のコミュニケーションを比較する</p> <p>金丸担当</p> <p>第14回 (1) 「障害」と「障害のある子ども」：自分のイメージを客観的・相対的に見つめてみる</p> <p>第15回 (2) 障害のある子どもと教育：根拠をもとに自分の考えを明確にする</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：授業で扱った内容の確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる（学習時間2時間）</p>					
授業方法	<p>講義・演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにする。全体でディスカッションしまとめる。</p>					

評価基準と評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作製したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	特になし
参考書	授業ごとに紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	基礎演習A					
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸				科目ナンバー	T0101A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	大学での勉強方法を身に付け、自身の教育者としての素養を高める。					
授業の概要	<p>(概要) この科目では高校での学びと大学での学びの進め方の違いについて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式で、専門分野をベースに演習形式で学生に説明する。大学での授業と自習がいかに連動しているか、どのように図書館を活用して情報収集を行うか、インプットした情報を用いていかに発表としてアウトプットするか、といった大学での学びの基礎を提供する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6 柏本 吉章・15 大下 卓司・18 松岡 靖・20 内田 祐貴・22 郭 曜博・23 金丸 彰寿／3回) (共同)</p> <p>各クラスで担任教員が中心となって、大学での自宅学習の必要性、図書館の活用法、授業でのプレゼンテーションの基礎について説明し、学生がプレゼンテーションを実践する。</p> <p>(6 柏本 吉章／2回)</p> <p>子どもと英語に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと英語の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(15 大下 卓司／2回)</p> <p>初等教育や中等教育、幼児教育の類似点や相違点について教育方法に着目して整理し、学生がグループごとにその特徴について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(18 松岡 靖／2回)</p> <p>高校での学習と大学での学習の違いをいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとにその違いについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(20 内田 祐貴／2回)</p> <p>子どもと科学に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと科学の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(22 郭 曜博／2回)</p> <p>各種学校園と教育制度に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(23 金丸 彰寿／2回)</p> <p>子どもと障害に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと障害の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p>					
到達目標	<p>1. 大学と高校での勉強方法の違いを理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】</p> <p>2. 教育の時事問題について自分で調べ理解し、他者にわかりやすく説明できる。【知識・理解】</p> <p>3. 教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】</p>					
授業計画	<p>全体指導</p> <p>第01回 (1) 大学での勉強方法1：高校と大学の違い、履修計画</p> <p>第02回 (2) 大学での勉強方法2：資料の調べ方、図書館の利用</p> <p>第03回 (3) 大学での勉強方法3：大学施設を利用した学習</p> <p>松岡担当</p> <p>第04回 (1) 高校と大学の教育はどう違うか？</p> <p>第05回 (2) 学生によるグループ討論と発表</p> <p>大下担当</p> <p>第06回 (1) 小学校教師（幼稚園教諭）の仕事を知る</p> <p>第07回 (2) 中学校教師（保育士）の仕事を知り、小学校（幼稚園）と比較する</p> <p>郭担当</p> <p>第08回 (1) 教育制度と学校の種類を学ぶ</p> <p>第09回 (2) 学校制度改革について考えてみよう</p> <p>内田担当</p> <p>第10回 (1) 子どもと科学1：アイデアの出し方、まとめ方</p> <p>第11回 (2) 子どもと科学2：資料調べ、レポートの書き方</p> <p>柏本担当</p> <p>第12回 (1) コミュニケーションのしくみ、会話のしくみ</p> <p>第13回 (2) 日本語のコミュニケーションと英語のコミュニケーションを比較する</p> <p>金丸担当</p> <p>第14回 (1) 「障害」と「障害のある子ども」：自分のイメージを客観的・相対的に見つめてみる</p> <p>第15回 (2) 障害のある子どもと教育：根拠をもとに自分の考えを明確にする</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：授業で扱った内容の確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる（学習時間2時間）</p>					
授業方法	<p>講義・演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにする。全体でディスカッションしまとめる。</p>					

評価基準と評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作製したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	特になし
参考書	授業ごとに紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	基礎演習A					
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸				科目ナンバー	T0101A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	大学での勉強方法を身に付け、自身の教育者としての素養を高める。					
授業の概要	<p>(概要) この科目では高校での学びと大学での学びの進め方の違いについて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式で、専門分野をベースに演習形式で学生に説明する。大学での授業と自習がいかに連動しているか、どのように図書館を活用して情報収集を行うか、インプットした情報を用いていかに発表としてアウトプットするか、といった大学での学びの基礎を提供する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6 柏本 吉章・15 大下 卓司・18 松岡 靖・20 内田 祐貴・22 郭 曜博・23 金丸 彰寿／3回) (共同)</p> <p>各クラスで担任教員が中心となって、大学での自宅学習の必要性、図書館の活用法、授業でのプレゼンテーションの基礎について説明し、学生がプレゼンテーションを実践する。</p> <p>(6 柏本 吉章／2回)</p> <p>子どもと英語に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと英語の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(15 大下 卓司／2回)</p> <p>初等教育や中等教育、幼児教育の類似点や相違点について教育方法に着目して整理し、学生がグループごとにその特徴について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(18 松岡 靖／2回)</p> <p>高校での学習と大学での学習の違いをいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとにその違いについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(20 内田 祐貴／2回)</p> <p>子どもと科学に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと科学の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(22 郭 曜博／2回)</p> <p>各種学校園と教育制度に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(23 金丸 彰寿／2回)</p> <p>子どもと障害に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと障害の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p>					
到達目標	<p>1. 大学と高校での勉強方法の違いを理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】</p> <p>2. 教育の時事問題について自分で調べ理解し、他者にわかりやすく説明できる。【知識・理解】</p> <p>3. 教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】</p>					
授業計画	<p>全体指導</p> <p>第01回 (1) 大学での勉強方法1：高校と大学の違い、履修計画</p> <p>第02回 (2) 大学での勉強方法2：資料の調べ方、図書館の利用</p> <p>第03回 (3) 大学での勉強方法3：大学施設を利用した学習</p> <p>松岡担当</p> <p>第04回 (1) 高校と大学の教育はどう違うか？</p> <p>第05回 (2) 学生によるグループ討論と発表</p> <p>大下担当</p> <p>第06回 (1) 小学校教師（幼稚園教諭）の仕事を知る</p> <p>第07回 (2) 中学校教師（保育士）の仕事を知り、小学校（幼稚園）と比較する</p> <p>郭担当</p> <p>第08回 (1) 教育制度と学校の種類を学ぶ</p> <p>第09回 (2) 学校制度改革について考えてみよう</p> <p>内田担当</p> <p>第10回 (1) 子どもと科学1：アイデアの出し方、まとめ方</p> <p>第11回 (2) 子どもと科学2：資料調べ、レポートの書き方</p> <p>柏本担当</p> <p>第12回 (1) コミュニケーションのしくみ、会話のしくみ</p> <p>第13回 (2) 日本語のコミュニケーションと英語のコミュニケーションを比較する</p> <p>金丸担当</p> <p>第14回 (1) 「障害」と「障害のある子ども」：自分のイメージを客観的・相対的に見つめてみる</p> <p>第15回 (2) 障害のある子どもと教育：根拠をもとに自分の考えを明確にする</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：授業で扱った内容の確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる（学習時間2時間）</p>					
授業方法	<p>講義・演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにする。全体でディスカッションしまとめる。</p>					

評価基準と評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作製したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	特になし
参考書	授業ごとに紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	基礎演習A					
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸				科目ナンバー	T0101A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	大学での勉強方法を身に付け、自身の教育者としての素養を高める。					
授業の概要	<p>(概要) この科目では高校での学びと大学での学びの進め方の違いについて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式で、専門分野をベースに演習形式で学生に説明する。大学での授業と自習がいかに連動しているか、どのように図書館を活用して情報収集を行うか、インプットした情報を用いていかに発表としてアウトプットするか、といった大学での学びの基礎を提供する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6 柏本 吉章・15 大下 卓司・18 松岡 靖・20 内田 祐貴・22 郭 曜博・23 金丸 彰寿／3回) (共同)</p> <p>各クラスで担任教員が中心となって、大学での自宅学習の必要性、図書館の活用法、授業でのプレゼンテーションの基礎について説明し、学生がプレゼンテーションを実践する。</p> <p>(6 柏本 吉章／2回)</p> <p>子どもと英語に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと英語の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(15 大下 卓司／2回)</p> <p>初等教育や中等教育、幼児教育の類似点や相違点について教育方法に着目して整理し、学生がグループごとにその特徴について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(18 松岡 靖／2回)</p> <p>高校での学習と大学での学習の違いをいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとにその違いについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(20 内田 祐貴／2回)</p> <p>子どもと科学に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと科学の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(22 郭 曜博／2回)</p> <p>各種学校園と教育制度に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(23 金丸 彰寿／2回)</p> <p>子どもと障害に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと障害の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p>					
到達目標	<p>1. 大学と高校での勉強方法の違いを理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】</p> <p>2. 教育の時事問題について自分で調べ理解し、他者にわかりやすく説明できる。【知識・理解】</p> <p>3. 教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】</p>					
授業計画	<p>全体指導</p> <p>第01回 (1) 大学での勉強方法1：高校と大学の違い、履修計画</p> <p>第02回 (2) 大学での勉強方法2：資料の調べ方、図書館の利用</p> <p>第03回 (3) 大学での勉強方法3：大学施設を利用した学習</p> <p>松岡担当</p> <p>第04回 (1) 高校と大学の教育はどう違うか？</p> <p>第05回 (2) 学生によるグループ討論と発表</p> <p>大下担当</p> <p>第06回 (1) 小学校教師（幼稚園教諭）の仕事を知る</p> <p>第07回 (2) 中学校教師（保育士）の仕事を知り、小学校（幼稚園）と比較する</p> <p>郭担当</p> <p>第08回 (1) 教育制度と学校の種類を学ぶ</p> <p>第09回 (2) 学校制度改革について考えてみよう</p> <p>内田担当</p> <p>第10回 (1) 子どもと科学1：アイデアの出し方、まとめ方</p> <p>第11回 (2) 子どもと科学2：資料調べ、レポートの書き方</p> <p>柏本担当</p> <p>第12回 (1) コミュニケーションのしくみ、会話のしくみ</p> <p>第13回 (2) 日本語のコミュニケーションと英語のコミュニケーションを比較する</p> <p>金丸担当</p> <p>第14回 (1) 「障害」と「障害のある子ども」：自分のイメージを客観的・相対的に見つめてみる</p> <p>第15回 (2) 障害のある子どもと教育：根拠をもとに自分の考えを明確にする</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：授業で扱った内容の確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる（学習時間2時間）</p>					
授業方法	<p>講義・演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにする。全体でディスカッションしまとめる。</p>					

評価基準と評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作製したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	特になし
参考書	授業ごとに紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	基礎演習A					
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸				科目ナンバー	T0101A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	大学での勉強方法を身に付け、自身の教育者としての素養を高める。					
授業の概要	<p>(概要) この科目では高校での学びと大学での学びの進め方の違いについて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式で、専門分野をベースに演習形式で学生に説明する。大学での授業と自習がいかに連動しているか、どのように図書館を活用して情報収集を行うか、インプットした情報を用いていかに発表としてアウトプットするか、といった大学での学びの基礎を提供する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6 柏本 吉章・15 大下 卓司・18 松岡 靖・20 内田 祐貴・22 郭 曜博・23 金丸 彰寿／3回) (共同)</p> <p>各クラスで担任教員が中心となって、大学での自宅学習の必要性、図書館の活用法、授業でのプレゼンテーションの基礎について説明し、学生がプレゼンテーションを実践する。</p> <p>(6 柏本 吉章／2回)</p> <p>子どもと英語に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと英語の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(15 大下 卓司／2回)</p> <p>初等教育や中等教育、幼児教育の類似点や相違点について教育方法に着目して整理し、学生がグループごとにその特徴について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(18 松岡 靖／2回)</p> <p>高校での学習と大学での学習の違いをいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとにその違いについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(20 内田 祐貴／2回)</p> <p>子どもと科学に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと科学の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(22 郭 曜博／2回)</p> <p>各種学校園と教育制度に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(23 金丸 彰寿／2回)</p> <p>子どもと障害に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと障害の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p>					
到達目標	<p>1. 大学と高校での勉強方法の違いを理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】</p> <p>2. 教育の時事問題について自分で調べ理解し、他者にわかりやすく説明できる。【知識・理解】</p> <p>3. 教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】</p>					
授業計画	<p>全体指導</p> <p>第01回 (1) 大学での勉強方法1：高校と大学の違い、履修計画</p> <p>第02回 (2) 大学での勉強方法2：資料の調べ方、図書館の利用</p> <p>第03回 (3) 大学での勉強方法3：大学施設を利用した学習</p> <p>松岡担当</p> <p>第04回 (1) 高校と大学の教育はどう違うか？</p> <p>第05回 (2) 学生によるグループ討論と発表</p> <p>大下担当</p> <p>第06回 (1) 小学校教師（幼稚園教諭）の仕事を知る</p> <p>第07回 (2) 中学校教師（保育士）の仕事を知り、小学校（幼稚園）と比較する</p> <p>郭担当</p> <p>第08回 (1) 教育制度と学校の種類を学ぶ</p> <p>第09回 (2) 学校制度改革について考えてみよう</p> <p>内田担当</p> <p>第10回 (1) 子どもと科学1：アイデアの出し方、まとめ方</p> <p>第11回 (2) 子どもと科学2：資料調べ、レポートの書き方</p> <p>柏本担当</p> <p>第12回 (1) コミュニケーションのしくみ、会話のしくみ</p> <p>第13回 (2) 日本語のコミュニケーションと英語のコミュニケーションを比較する</p> <p>金丸担当</p> <p>第14回 (1) 「障害」と「障害のある子ども」：自分のイメージを客観的・相対的に見つめてみる</p> <p>第15回 (2) 障害のある子どもと教育：根拠をもとに自分の考えを明確にする</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：授業で扱った内容の確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる（学習時間2時間）</p>					
授業方法	<p>講義・演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにする。全体でディスカッションしまとめる。</p>					

評価基準と評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作製したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	特になし
参考書	授業ごとに紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	基礎演習A					
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸				科目ナンバー	T0101A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	大学での勉強方法を身に付け、自身の教育者としての素養を高める。					
授業の概要	<p>(概要) この科目では高校での学びと大学での学びの進め方の違いについて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式で、専門分野をベースに演習形式で学生に説明する。大学での授業と自習がいかに連動しているか、どのように図書館を活用して情報収集を行うか、インプットした情報を用いていかに発表としてアウトプットするか、といった大学での学びの基礎を提供する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6 柏本 吉章・15 大下 卓司・18 松岡 靖・20 内田 祐貴・22 郭 曜博・23 金丸 彰寿／3回) (共同)</p> <p>各クラスで担任教員が中心となって、大学での自宅学習の必要性、図書館の活用法、授業でのプレゼンテーションの基礎について説明し、学生がプレゼンテーションを実践する。</p> <p>(6 柏本 吉章／2回)</p> <p>子どもと英語に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと英語の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(15 大下 卓司／2回)</p> <p>初等教育や中等教育、幼児教育の類似点や相違点について教育方法に着目して整理し、学生がグループごとにその特徴について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(18 松岡 靖／2回)</p> <p>高校での学習と大学での学習の違いをいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとにその違いについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(20 内田 祐貴／2回)</p> <p>子どもと科学に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと科学の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(22 郭 曜博／2回)</p> <p>各種学校園と教育制度に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p> <p>(23 金丸 彰寿／2回)</p> <p>子どもと障害に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと障害の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。</p>					
到達目標	<p>1. 大学と高校での勉強方法の違いを理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】</p> <p>2. 教育の時事問題について自分で調べ理解し、他者にわかりやすく説明できる。【知識・理解】</p> <p>3. 教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】</p>					
授業計画	<p>全体指導</p> <p>第01回 (1) 大学での勉強方法1：高校と大学の違い、履修計画</p> <p>第02回 (2) 大学での勉強方法2：資料の調べ方、図書館の利用</p> <p>第03回 (3) 大学での勉強方法3：大学施設を利用した学習</p> <p>松岡担当</p> <p>第04回 (1) 高校と大学の教育はどう違うか？</p> <p>第05回 (2) 学生によるグループ討論と発表</p> <p>大下担当</p> <p>第06回 (1) 小学校教師（幼稚園教諭）の仕事を知る</p> <p>第07回 (2) 中学校教師（保育士）の仕事を知り、小学校（幼稚園）と比較する</p> <p>郭担当</p> <p>第08回 (1) 教育制度と学校の種類を学ぶ</p> <p>第09回 (2) 学校制度改革について考えてみよう</p> <p>内田担当</p> <p>第10回 (1) 子どもと科学1：アイデアの出し方、まとめ方</p> <p>第11回 (2) 子どもと科学2：資料調べ、レポートの書き方</p> <p>柏本担当</p> <p>第12回 (1) コミュニケーションのしくみ、会話のしくみ</p> <p>第13回 (2) 日本語のコミュニケーションと英語のコミュニケーションを比較する</p> <p>金丸担当</p> <p>第14回 (1) 「障害」と「障害のある子ども」：自分のイメージを客観的・相対的に見つめてみる</p> <p>第15回 (2) 障害のある子どもと教育：根拠をもとに自分の考えを明確にする</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：授業で扱った内容の確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる（学習時間2時間）</p>					
授業方法	<p>講義・演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにする。全体でディスカッションしまとめる。</p>					

評価基準と評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作製したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	特になし
参考書	授業ごとに紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	基礎演習B					
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸				科目ナンバー	T0101B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	自分の意見を明確に伝えられるようにプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めて、自身の教育者としての素養を深める。					
授業の概要	<p>(概要) この科目では基礎演習Aで学んだ内容に基づいて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式でより発展的な学習を行う。各教員が専門分野をベースに演習形式で学生に説明してから、学生がそれぞれのトピックに関するプレゼンテーションを行う。最終授業では1年次での学びを学生が自己評価できるよう指導する。 (オムニバス方式／全15回) (6 柏本 吉章・15 大下 順司・18 松岡 靖・20 内田 裕貴・22 郭 曜博・23 金丸 彰寿／3回) (共同) 多様な情報の収集・分析の手法について解説してから、前期に引き続いて学生による討議とプレゼンテーションの進め方を指導し、最後に学生の学びの自己評価を発表する。 (6 柏本 吉章／2回) 子どもに英語教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに英語教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (15 大下 順司／2回) 各学校段階での教師像について学び、それに向けての大学での学びを計画し、学生がグループごとにそれらについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (18 松岡 靖／2回) 現代日本にみられる重要な教育問題をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとそれらの論点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (20 内田 裕貴／2回) 子どもに科学教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに科学教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (22 郭 曜博／2回) 外国の事例を含む学校教育システムの重要な論点を講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (23 金丸 彰寿／2回) 障害に関わる教育上の重要な論点について講義してから、学生がグループごとに障害と教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 </p>					
到達目標	<p>(1) 教育に関わる多様な情報の収集・分析の手法について理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】 (2) 教育に関わるトピックを自分で設定し、他者に分かりやすくプレゼンテーションすることができる。【知識・理解】 (3) 教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】</p>					
授業計画	<p><全体指導> 第01回 プrezentationの方法 (1) 情報の収集・分析の手法 第02回 プrezentationの方法 (2) プrezentationの方法 (柏本担当) 第03回 世界のなかの英語の位置づけを知る 第04回 異文化を理解する、多文化共生について考える (大下担当) 第01回 評価の仕組みを知り、教師・保育士の仕事への理解を深める 第02回 評価方法を実践し、教師・保育士への志望を明確にする (松岡担当) 第07回 現代日本の教育時事問題について解説する 第08回 学生のグループ討論とプレゼンテーション (内田担当) 第09回 子どもと科学教育 1 : 論理的な文章 第10回 子どもと科学教育 2 : 論理的なまとめ方 (郭担当) 第11回 教育の境界を探検する (教育制度の国際比較) 第12回 世界の教育事情: 数字から見た日本 (金丸担当) 第13回 障害はどこにあるのか? : 人間と社会(環境)との関係から考える 第14回 特別支援教育=障害児教育? : 共に生きる社会に向かう教育のあり方について考える <全体指導> 第15回 学生の自己評価: 大学での一年間を振り返る </p>					
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる (学習時間6時間) 授業後学習: 授業で扱った内容を確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる (学習時間6時間)					

授業方法	演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにしたりし、全体でディスカッションまとめる。最後に、大学での1年間を振り返り、学びの成果を自己評価し、2年次以降の学びに活かす。
評価基準と評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作成したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	(内田担当分) 「子どもの未来を育む保育・教育の実践知——保育者・教師を目指すあなたに」、神戸松蔭女子学院大学子ども発達学科、北大路書房、ISBN 978-4-7628-3009-9
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	基礎演習B					
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸				科目ナンバー	T0101B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	自分の意見を明確に伝えられるようにプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めて、自身の教育者としての素養を深める。					
授業の概要	<p>(概要) この科目では基礎演習Aで学んだ内容に基づいて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式でより発展的な学習を行う。各教員が専門分野をベースに演習形式で学生に説明してから、学生がそれぞれのトピックに関するプレゼンテーションを行う。最終授業では1年次での学びを学生が自己評価できるよう指導する。 (オムニバス方式／全15回) (6 柏本 吉章・15 大下 順司・18 松岡 靖・20 内田 裕貴・22 郭 曜博・23 金丸 彰寿／3回) (共同) 多様な情報の収集・分析の手法について解説してから、前期に引き続いて学生による討議とプレゼンテーションの進め方を指導し、最後に学生の学びの自己評価を発表する。 (6 柏本 吉章／2回) 子どもに英語教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに英語教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (15 大下 順司／2回) 各学校段階での教師像について学び、それに向けての大学での学びを計画し、学生がグループごとにそれらについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (18 松岡 靖／2回) 現代日本にみられる重要な教育問題をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとそれらの論点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (20 内田 裕貴／2回) 子どもに科学教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに科学教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (22 郭 曜博／2回) 外国の事例を含む学校教育システムの重要な論点を講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (23 金丸 彰寿／2回) 障害に関わる教育上の重要な論点について講義してから、学生がグループごとに障害と教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 </p>					
到達目標	<p>(1) 教育に関わる多様な情報の収集・分析の手法について理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】 (2) 教育に関わるトピックを自分で設定し、他者に分かりやすくプレゼンテーションすることができる。【知識・理解】 (3) 教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】</p>					
授業計画	<p><全体指導> 第01回 プrezentationの方法 (1) 情報の収集・分析の手法 第02回 プrezentationの方法 (2) プrezentationの方法 (柏本担当) 第03回 世界のなかの英語の位置づけを知る 第04回 異文化を理解する、多文化共生について考える (大下担当) 第01回 評価の仕組みを知り、教師・保育士の仕事への理解を深める 第02回 評価方法を実践し、教師・保育士への志望を明確にする (松岡担当) 第07回 現代日本の教育時事問題について解説する 第08回 学生のグループ討論とプレゼンテーション (内田担当) 第09回 子どもと科学教育 1 : 論理的な文章 第10回 子どもと科学教育 2 : 論理的なまとめ方 (郭担当) 第11回 教育の境界を探検する (教育制度の国際比較) 第12回 世界の教育事情: 数字から見た日本 (金丸担当) 第13回 障害はどこにあるのか? : 人間と社会(環境)との関係から考える 第14回 特別支援教育=障害児教育? : 共に生きる社会に向かう教育のあり方について考える <全体指導> 第15回 学生の自己評価: 大学での一年間を振り返る </p>					
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる (学習時間6時間) 授業後学習: 授業で扱った内容を確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる (学習時間6時間)					

授業方法	演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにしたりし、全体でディスカッションまとめる。最後に、大学での1年間を振り返り、学びの成果を自己評価し、2年次以降の学びに活かす。
評価基準と評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作成したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	(内田担当分) 「子どもの未来を育む保育・教育の実践知——保育者・教師を目指すあなたに」、神戸松蔭女子学院大学子ども発達学科、北大路書房、ISBN 978-4-7628-3009-9
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	基礎演習B					
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸				科目ナンバー	T0101B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	自分の意見を明確に伝えられるようにプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めて、自身の教育者としての素養を深める。					
授業の概要	<p>(概要) この科目では基礎演習Aで学んだ内容に基づいて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式でより発展的な学習を行う。各教員が専門分野をベースに演習形式で学生に説明してから、学生がそれぞれのトピックに関するプレゼンテーションを行う。最終授業では1年次での学びを学生が自己評価できるよう指導する。 (オムニバス方式／全15回) (6 柏本 吉章・15 大下 順司・18 松岡 靖・20 内田 裕貴・22 郭 曜博・23 金丸 彰寿／3回) (共同) 多様な情報の収集・分析の手法について解説してから、前期に引き続いて学生による討議とプレゼンテーションの進め方を指導し、最後に学生の学びの自己評価を発表する。 (6 柏本 吉章／2回) 子どもに英語教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに英語教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (15 大下 順司／2回) 各学校段階での教師像について学び、それに向けての大学での学びを計画し、学生がグループごとにそれらについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (18 松岡 靖／2回) 現代日本にみられる重要な教育問題をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとそれらの論点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (20 内田 裕貴／2回) 子どもに科学教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに科学教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (22 郭 曜博／2回) 外国の事例を含む学校教育システムの重要な論点を講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (23 金丸 彰寿／2回) 障害に関わる教育上の重要な論点について講義してから、学生がグループごとに障害と教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 </p>					
到達目標	<p>(1) 教育に関わる多様な情報の収集・分析の手法について理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】 (2) 教育に関わるトピックを自分で設定し、他者に分かりやすくプレゼンテーションすることができる。【知識・理解】 (3) 教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】</p>					
授業計画	<p><全体指導> 第01回 プrezentationの方法 (1) 情報の収集・分析の手法 第02回 プrezentationの方法 (2) プrezentationの方法 (柏本担当) 第03回 世界のなかの英語の位置づけを知る 第04回 異文化を理解する、多文化共生について考える (大下担当) 第01回 評価の仕組みを知り、教師・保育士の仕事への理解を深める 第02回 評価方法を実践し、教師・保育士への志望を明確にする (松岡担当) 第07回 現代日本の教育時事問題について解説する 第08回 学生のグループ討論とプレゼンテーション (内田担当) 第09回 子どもと科学教育 1 : 論理的な文章 第10回 子どもと科学教育 2 : 論理的なまとめ方 (郭担当) 第11回 教育の境界を探検する (教育制度の国際比較) 第12回 世界の教育事情: 数字から見た日本 (金丸担当) 第13回 障害はどこにあるのか? : 人間と社会(環境)との関係から考える 第14回 特別支援教育=障害児教育? : 共に生きる社会に向かう教育のあり方について考える <全体指導> 第15回 学生の自己評価: 大学での一年間を振り返る </p>					
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習: 各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる (学習時間6時間) 授業後学習: 授業で扱った内容を確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる (学習時間6時間)</p>					

授業方法	演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにしたりし、全体でディスカッションまとめる。最後に、大学での1年間を振り返り、学びの成果を自己評価し、2年次以降の学びに活かす。
評価基準と評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作成したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	(内田担当分) 「子どもの未来を育む保育・教育の実践知——保育者・教師を目指すあなたに」、神戸松蔭女子学院大学子ども発達学科、北大路書房、ISBN 978-4-7628-3009-9
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	基礎演習B					
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸				科目ナンバー	T0101B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	自分の意見を明確に伝えられるようにプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めて、自身の教育者としての素養を深める。					
授業の概要	<p>(概要) この科目では基礎演習Aで学んだ内容に基づいて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式でより発展的な学習を行う。各教員が専門分野をベースに演習形式で学生に説明してから、学生がそれぞれのトピックに関するプレゼンテーションを行う。最終授業では1年次での学びを学生が自己評価できるよう指導する。 (オムニバス方式／全15回) (6 柏本 吉章・15 大下 順司・18 松岡 靖・20 内田 裕貴・22 郭 曜博・23 金丸 彰寿／3回) (共同) 多様な情報の収集・分析の手法について解説してから、前期に引き続いて学生による討議とプレゼンテーションの進め方を指導し、最後に学生の学びの自己評価を発表する。 (6 柏本 吉章／2回) 子どもに英語教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに英語教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (15 大下 順司／2回) 各学校段階での教師像について学び、それに向けての大学での学びを計画し、学生がグループごとにそれらについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (18 松岡 靖／2回) 現代日本にみられる重要な教育問題をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとそれらの論点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (20 内田 裕貴／2回) 子どもに科学教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに科学教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (22 郭 曜博／2回) 外国の事例を含む学校教育システムの重要な論点を講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (23 金丸 彰寿／2回) 障害に関わる教育上の重要な論点について講義してから、学生がグループごとに障害と教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 </p>					
到達目標	<p>(1) 教育に関わる多様な情報の収集・分析の手法について理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】 (2) 教育に関わるトピックを自分で設定し、他者に分かりやすくプレゼンテーションすることができる。【知識・理解】 (3) 教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】</p>					
授業計画	<p><全体指導> 第01回 プrezentationの方法 (1) 情報の収集・分析の手法 第02回 プrezentationの方法 (2) プrezentationの方法 (柏本担当) 第03回 世界のなかの英語の位置づけを知る 第04回 異文化を理解する、多文化共生について考える (大下担当) 第01回 評価の仕組みを知り、教師・保育士の仕事への理解を深める 第02回 評価方法を実践し、教師・保育士への志望を明確にする (松岡担当) 第07回 現代日本の教育時事問題について解説する 第08回 学生のグループ討論とプレゼンテーション (内田担当) 第09回 子どもと科学教育 1 : 論理的な文章 第10回 子どもと科学教育 2 : 論理的なまとめ方 (郭担当) 第11回 教育の境界を探検する (教育制度の国際比較) 第12回 世界の教育事情: 数字から見た日本 (金丸担当) 第13回 障害はどこにあるのか? : 人間と社会(環境)との関係から考える 第14回 特別支援教育=障害児教育? : 共に生きる社会に向かう教育のあり方について考える <全体指導> 第15回 学生の自己評価: 大学での一年間を振り返る </p>					
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる (学習時間6時間) 授業後学習: 授業で扱った内容を確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる (学習時間6時間)					

授業方法	演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにしたりし、全体でディスカッションまとめる。最後に、大学での1年間を振り返り、学びの成果を自己評価し、2年次以降の学びに活かす。
評価基準と評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作成したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	(内田担当分) 「子どもの未来を育む保育・教育の実践知——保育者・教師を目指すあなたに」、神戸松蔭女子学院大学子ども発達学科、北大路書房、ISBN 978-4-7628-3009-9
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	基礎演習B					
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸				科目ナンバー	T0101B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	自分の意見を明確に伝えられるようにプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めて、自身の教育者としての素養を深める。					
授業の概要	<p>(概要) この科目では基礎演習Aで学んだ内容に基づいて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式でより発展的な学習を行う。各教員が専門分野をベースに演習形式で学生に説明してから、学生がそれぞれのトピックに関するプレゼンテーションを行う。最終授業では1年次での学びを学生が自己評価できるよう指導する。 (オムニバス方式／全15回) (6 柏本 吉章・15 大下 順司・18 松岡 靖・20 内田 裕貴・22 郭 曜博・23 金丸 彰寿／3回) (共同) 多様な情報の収集・分析の手法について解説してから、前期に引き続いて学生による討議とプレゼンテーションの進め方を指導し、最後に学生の学びの自己評価を発表する。 (6 柏本 吉章／2回) 子どもに英語教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに英語教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (15 大下 順司／2回) 各学校段階での教師像について学び、それに向けての大学での学びを計画し、学生がグループごとにそれらについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (18 松岡 靖／2回) 現代日本にみられる重要な教育問題をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとそれらの論点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (20 内田 裕貴／2回) 子どもに科学教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに科学教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (22 郭 曜博／2回) 外国の事例を含む学校教育システムの重要な論点を講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (23 金丸 彰寿／2回) 障害に関わる教育上の重要な論点について講義してから、学生がグループごとに障害と教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 </p>					
到達目標	<p>(1) 教育に関わる多様な情報の収集・分析の手法について理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】 (2) 教育に関わるトピックを自分で設定し、他者に分かりやすくプレゼンテーションすることができる。【知識・理解】 (3) 教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】</p>					
授業計画	<p><全体指導> 第01回 プrezentationの方法 (1) 情報の収集・分析の手法 第02回 プrezentationの方法 (2) プrezentationの方法 (柏本担当) 第03回 世界のなかの英語の位置づけを知る 第04回 異文化を理解する、多文化共生について考える (大下担当) 第01回 評価の仕組みを知り、教師・保育士の仕事への理解を深める 第02回 評価方法を実践し、教師・保育士への志望を明確にする (松岡担当) 第07回 現代日本の教育時事問題について解説する 第08回 学生のグループ討論とプレゼンテーション (内田担当) 第09回 子どもと科学教育 1 : 論理的な文章 第10回 子どもと科学教育 2 : 論理的なまとめ方 (郭担当) 第11回 教育の境界を探検する (教育制度の国際比較) 第12回 世界の教育事情: 数字から見た日本 (金丸担当) 第13回 障害はどこにあるのか? : 人間と社会(環境)との関係から考える 第14回 特別支援教育=障害児教育? : 共に生きる社会に向かう教育のあり方について考える <全体指導> 第15回 学生の自己評価: 大学での一年間を振り返る </p>					
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる (学習時間6時間) 授業後学習: 授業で扱った内容を確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる (学習時間6時間)					

授業方法	演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにしたりし、全体でディスカッションまとめる。最後に、大学での1年間を振り返り、学びの成果を自己評価し、2年次以降の学びに活かす。
評価基準と評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作成したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	(内田担当分) 「子どもの未来を育む保育・教育の実践知——保育者・教師を目指すあなたに」、神戸松蔭女子学院大学子ども発達学科、北大路書房、ISBN 978-4-7628-3009-9
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	基礎演習B					
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸				科目ナンバー	T0101B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	自分の意見を明確に伝えられるようにプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めて、自身の教育者としての素養を深める。					
授業の概要	<p>(概要) この科目では基礎演習Aで学んだ内容に基づいて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式でより発展的な学習を行う。各教員が専門分野をベースに演習形式で学生に説明してから、学生がそれぞれのトピックに関するプレゼンテーションを行う。最終授業では1年次での学びを学生が自己評価できるよう指導する。 (オムニバス方式／全15回) (6 柏本 吉章・15 大下 順司・18 松岡 靖・20 内田 裕貴・22 郭 曜博・23 金丸 彰寿／3回) (共同) 多様な情報の収集・分析の手法について解説してから、前期に引き続いて学生による討議とプレゼンテーションの進め方を指導し、最後に学生の学びの自己評価を発表する。 (6 柏本 吉章／2回) 子どもに英語教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに英語教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (15 大下 順司／2回) 各学校段階での教師像について学び、それに向けての大学での学びを計画し、学生がグループごとにそれらについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (18 松岡 靖／2回) 現代日本にみられる重要な教育問題をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとそれらの論点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (20 内田 裕貴／2回) 子どもに科学教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに科学教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (22 郭 曜博／2回) 外国の事例を含む学校教育システムの重要な論点を講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (23 金丸 彰寿／2回) 障害に関わる教育上の重要な論点について講義してから、学生がグループごとに障害と教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 </p>					
到達目標	<p>(1) 教育に関わる多様な情報の収集・分析の手法について理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】 (2) 教育に関わるトピックを自分で設定し、他者に分かりやすくプレゼンテーションすることができる。【知識・理解】 (3) 教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】</p>					
授業計画	<p><全体指導> 第01回 プrezentationの方法 (1) 情報の収集・分析の手法 第02回 プrezentationの方法 (2) プrezentationの方法 (柏本担当) 第03回 世界のなかの英語の位置づけを知る 第04回 異文化を理解する、多文化共生について考える (大下担当) 第01回 評価の仕組みを知り、教師・保育士の仕事への理解を深める 第02回 評価方法を実践し、教師・保育士への志望を明確にする (松岡担当) 第07回 現代日本の教育時事問題について解説する 第08回 学生のグループ討論とプレゼンテーション (内田担当) 第09回 子どもと科学教育 1 : 論理的な文章 第10回 子どもと科学教育 2 : 論理的なまとめ方 (郭担当) 第11回 教育の境界を探検する (教育制度の国際比較) 第12回 世界の教育事情: 数字から見た日本 (金丸担当) 第13回 障害はどこにあるのか? : 人間と社会(環境)との関係から考える 第14回 特別支援教育=障害児教育? : 共に生きる社会に向かう教育のあり方について考える <全体指導> 第15回 学生の自己評価: 大学での一年間を振り返る </p>					
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる (学習時間6時間) 授業後学習: 授業で扱った内容を確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる (学習時間6時間)					

授業方法	演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにしたりし、全体でディスカッションまとめる。最後に、大学での1年間を振り返り、学びの成果を自己評価し、2年次以降の学びに活かす。
評価基準と評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作成したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	(内田担当分) 「子どもの未来を育む保育・教育の実践知——保育者・教師を目指すあなたに」、神戸松蔭女子学院大学子ども発達学科、北大路書房、ISBN 978-4-7628-3009-9
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	国語科指導法					
担当教員	大石 正廣・丸山 純織				科目ナンバー	T52120
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	国語科教育の意義を理解し、授業設計を行ない、模擬授業として実践する。					
授業の概要	<p>小学国語で学んだことを前提として、模擬授業を行う。学習指導要領に示された、国語科の目標、学習内容、授業のあり方や指導のポイント、教材研究、効果的なICTの活用した学びについての検討し、分かりやすく力のつく授業づくりについて理解を深める。こうした学習を前提として、教科書から選んだ内容について、グループで教材研究を行い指導案を作成する。これに基づいて模擬授業を行う。授業を行った後、相互評価を通じて改善点を明らかにし、授業改善を図る。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (大石 正廣／14回)</p> <p>第一に学習指導要領に示された国語科の目標、そしてその学習内容や指導のポイントについて講義する。第二に具体的な教材研究を深め、効果的な指導法について指導する。第三に具体的な教材を取り上げて、学生がグループで学習指導案を作成し、模擬授業を実践してその更なる改善を図る。</p> <p>(丸山 純織／1回)</p> <p>小学校国語科における書写の目標、漢字指導において書写が果たす役割、言語事項について指導する上で教師が注意すべき事項などを説明する。</p>					
到達目標	国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の学習内容について理解を深めるとともに【知識・理解】、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける【態度・志向性】。					
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション：国語科における小学校新学習指導要領のポイントを理解する。（担当：大石）</p> <p>第2回：国語科の目標、領域・学習内容についての指導上のポイント（担当：大石）</p> <p>第3回：国語科における学習評価の観点・方法、力のつく授業を考える。（担当：大石）</p> <p>第4回：国語科における思考力・判断力・表現力とは（担当：大石）</p> <p>第5回：子供の発達と国語科の系統的な指導（担当：大石）</p> <p>第6回：教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法（担当：大石）</p> <p>第7回：読むことの指導①：説明文（担当：大石）</p> <p>第8回：読むことの指導②：文学教材（担当：大石）</p> <p>第9回：読むことの指導③：詩と俳句（担当：大石）</p> <p>第10回：書くことの指導①：指導のポイント、実践研究の動向（担当：大石）</p> <p>第11回：書くことの指導②：漢字と文法（担当：大石）</p> <p>第12回：書くことの指導③：作文と子どもの言語表現（担当：大石）</p> <p>第13回：話す・聞くことの指導：指導のポイント、実践研究の動向（担当：大石）</p> <p>第14回：書写、漢字指導、言語事項の指導の実際（担当：丸山）</p> <p>第15回：授業全体のまとめと定期試験（担当：大石）</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回で扱うテキスト、教材の当該箇所を予習し、課題について、指定された参考書や配布の資料で下調べする（2時間）</p> <p>授業後学習：配付のレジメをもとに、授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認整理する。また、学べたこと、考えを深めたこと、さらに調べたいことなどをジャーナルとして記述しまとめておく。（2時間）</p>					
授業方法	講義・演習方式で行う：担当の教材について、協働して作成した指導案に基づき模擬授業等を行う。また、授業内容のポイントについて、グループまたはペアによるディスカッションを行う。グループ(ペア)ワークの報告を踏まえて、重要事項についてさらに解説・講義を行う。					
評価基準と評価方法	授業への参加度。積極的な学び（資料作成力やグループ内での積極的姿勢など）と各回のリアクションペーパーで50%、テスト（授業内容の理解）で50%。					
履修上の注意	<p>1. グループ（ペア）ワークを多く取り入れるので、主体的に対話的な学びを求める。</p> <p>2. 授業での資料は、各回の出席者のみ配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布する）。</p> <p>3. 出席が授業回数の3分の2以上ないと期末試験の受験資格を失うものとする。</p>					
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領解説 国語編（平成29年7月）					
参考書	文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	子ども家庭支援の心理学					
担当教員	寺見 陽子				科目ナンバー	T41030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	子育て支援、保護者と子ども					
授業の概要	第一に人間の生涯における発達に関する心理学の基礎知識を習得した上で、人生の初期経験がもっている重要性と発達課題について理解する。第二に家族・家庭がもっている意義・機能を理解するとともに、今の日本における子育て家庭にとっての状況と課題を社会的な文脈において理解する。第三に子育て家庭について社会的・個別的に理解することを前提に、子どもの精神保健とそこでの課題に考慮して、子育て家庭を支援する方法を学ぶ。					
到達目標	1. 人の発達を生涯発達の観点から捉え、初期経験の重要性や発達課題を理解することができる。【知識・理解】 2. 家族・家庭の意義・機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等を発達的な観点から理解し、子どもとの過程を包括的に捉える視点を習得できる。【汎用的技術】 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題が理解できる。【知識・理解】 4. 子どもの精神保健とその課題について理解するとともに、子どもの精神的安定と育ちを支える視点と、子どもを支える保護者・家庭を支援する視点と支援の実際を習得できる。【態度・志向性】					
授業計画	第1回 生涯発達的観点から見た子ども・保護者の課題 第2回 乳幼児期から学童期前期の子どもの発達 第3回 学童期後期から青年期にかけての発達 第4回 成人期から老年期にかけての発達 第5回 発達環境としての家族・家庭ーその意義・機能と関係性、 第6回 親の養育性と親子関係の発達：ライフコースと仕事・子育て、子育て経験と親になる過程 第7回 子育て家庭の現状と課題—ライフコースと子育て・仕事、多様な家庭、 第8回 特別な配慮を要する子どもと家庭 第9回 子育てのストレスコーピングと社会的資源の活用・ネットワークづくり 第10回 子どもの精神保健とその課題—子どもの生活・成育環境と心の健康 第11回 子どもの養育と保護者支援・家族支援 地域支援・次世代育成支援の視点 第12回 子育て支援・保護者と家族の支援・地域支援の展開—子育て支援関連施設の見学 第13回 子育て支援実習—「まつぼっくり」実習と保護者インタビュー 第14回 実習と見学を踏まえたディスカッション 第15回 まとめとテスト					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前の準備学習：各授業で取り扱う内容のキーワードを事前に調べておく。（学習時間2時間） 授業後の準備学習：事前に調べたキーワードの内容を確認し、各授業で学んだ内容をそれらのキーワードを用いて簡単なアサインメントを作成する。（学習時間2時間）					
授業方法	講義とワーク、子育て支援活動現場の見学					
評価基準と評価方法	まとめのテスト50点 実習20点 見学レポート20点 インタビュー10点					
履修上の注意	子育てや現実の親子の姿に感心を持ち、実践的な学びにつながるように自分で工夫しながら学んでほしい。					
教科書	プリントを配布する					
参考書	寺見陽子編「子育ち・子育て支援学」保育出版 (ISBN978-4-938795-93-1) 必要に応じて示す。					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	子ども家庭支援の心理学					
担当教員	寺見 陽子				科目ナンバー	T41030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	子育て支援、保護者と子ども					
授業の概要	第一に人間の生涯における発達に関する心理学の基礎知識を習得した上で、人生の初期経験がもっている重要性と発達課題について理解する。第二に家族・家庭がもっている意義・機能を理解するとともに、今の日本における子育て家庭にとっての状況と課題を社会的な文脈において理解する。第三に子育て家庭について社会的・個別的に理解することを前提に、子どもの精神保健とそこでの課題に考慮して、子育て家庭を支援する方法を学ぶ。					
到達目標	1. 人の発達を生涯発達の観点から捉え、初期経験の重要性や発達課題を理解することができる。【知識・理解】 2. 家族・家庭の意義・機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等を発達的な観点から理解し、子どもとの過程を包括的に捉える視点を習得できる。【汎用的技術】 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題が理解できる。【知識・理解】 4. 子どもの精神保健とその課題について理解するとともに、子どもの精神的安定と育ちを支える視点と、子どもを支える保護者・家庭を支援する視点と支援の実際を習得できる。【態度・志向性】					
授業計画	第1回 生涯発達的観点から見た子ども・保護者の課題 第2回 乳幼児期から学童期前期の子どもの発達 第3回 学童期後期から青年期にかけての発達 第4回 成人期から老年期にかけての発達 第5回 発達環境としての家族・家庭—その意義・機能と関係性、 第6回 親の養育性と親子関係の発達：ライフコースと仕事・子育て、子育て経験と親になる過程 第7回 子育て家庭の現状と課題—ライフコースと子育て・仕事、多様な家庭、 第8回 特別な配慮を要する子どもと家庭 第9回 子育てのストレスコーピングと社会的資源の活用・ネットワークづくり 第10回 子どもの精神保健とその課題—子どもの生活・成育環境と心の健康 第11回 子どもの養育と保護者支援・家族支援・地域支援・次世代育成支援の視点 第12回 子育て支援・保護者と家族の支援・地域支援の展開—子育て支援関連施設の見学 第13回 子育て支援実習—「まつぼっくり」実習と保護者インタビュー 第14回 実習と見学を踏まえたディスカッション 第15回 まとめとテスト					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前の準備学習：各授業で取り扱う内容のキーワードを事前に調べておく。（学習時間2時間） 授業後の準備学習：事前に調べたキーワードの内容を確認し、各授業で学んだ内容をそれらのキーワードを用いて簡単なアサインメントを作成する。（学習時間2時間）					
授業方法	講義とワーク、子育て支援活動現場の見学					
評価基準と評価方法	まとめのテスト50点 実習20点 見学レポート20点 インタビュー10点					
履修上の注意	子育てや現実の親子の姿に感心を持ち、実践的な学びにつながるように自分で工夫しながら学んでほしい。					
教科書	プリントを配布する					
参考書	寺見陽子編「子育ち・子育て支援学」保育出版 (ISBN978-4-938795-93-1) 必要に応じて示す。					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	子ども家庭支援論					
担当教員	山中 明世				科目ナンバー	T42070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	子育て家庭に対する支援の意義・役割について理解し、保育の専門性を生かした子ども家庭支援について具体的に理解する。					
授業の概要	第一に保育士が保護者と行う子育てに関する相談など、子ども家庭を支援することの意義・役割について現状を踏まえて理解する。第二に子育て家庭支援をするさいに求められる基本的態度と、専門性を活かした支援の特性を具体的に理解する。第三に子育て家庭に特別な配慮を必要とする場合に、保育士が配慮すべき事項を理解する。第四に関係諸機関と連携・協働しながら、子育て家庭を多様に展開するために、保育士が配慮すべき事項を理解する。					
到達目標	子育て家庭に対する支援の意義や目的、体制について理解する。 保育の専門性を生かした子ども家庭支援の意義と基本について具体的に理解する。 子育て家庭ニーズに応じた多様な支援の展開やその現状・課題について理解する。					
授業計画	第1回：子ども家庭支援の意義と必要性 第2回：子ども家庭支援の目的と機能 第3回：保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 第4回：保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する以遠 第5回：保育士に求められる基本的態度 第6回：家庭の状況に応じた支援 第7回：地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 第8回：子育て家庭の福祉を図るための社会資源 第9回：子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 第10回：子ども家庭支援の内容と対象 第11回：地域の子育て家庭への支援 第12回：地域の子育て家庭への支援 第13回：要保護児童等及びその家庭に対する支援 第14回：子ども家庭支援に関する現状と課題 第15回：まとめとテスト					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：次の授業テーマについて、授業中に紹介する参考文献やウェブサイトを用いて下調べをすること。 授業後学習：授業で取り上げた内容について、要点を整理・確認する。					
授業方法	講義及びグループワーク					
評価基準と評価方法	平常点20点、小テスト（レポート）30点、テスト50点					
履修上の注意	授業回数の1/3以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失うものとする。					
教科書	プリントを配布する					
参考書	橋本真紀・山縣文治編「よくわかる家庭支援論」第2版 ミネルヴァ書房 2018.2.25 (ISBN 978-4-623-07342-9)					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	子ども家庭支援論					
担当教員	山中 明世				科目ナンバー	T42070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	子育て家庭に対する支援の意義・役割について理解し、保育の専門性を生かした子ども家庭支援について具体的に理解する。					
授業の概要	第一に保育士が保護者と行う子育てに関する相談など、子ども家庭を支援することの意義・役割について現状を踏まえて理解する。第二に子育て家庭支援をするさいに求められる基本的態度と、専門性を活かした支援の特性を具体的に理解する。第三に子育て家庭に特別な配慮を必要とする場合に、保育士が配慮すべき事項を理解する。第四に関係諸機関と連携・協働しながら、子育て家庭を多様に展開するために、保育士が配慮すべき事項を理解する。					
到達目標	子育て家庭に対する支援の意義や目的、体制について理解する。 保育の専門性を生かした子ども家庭支援の意義と基本について具体的に理解する。 子育て家庭ニーズに応じた多様な支援の展開やその現状・課題について理解する。					
授業計画	第1回：子ども家庭支援の意義と必要性 第2回：子ども家庭支援の目的と機能 第3回：保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 第4回：保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する以遠 第5回：保育士に求められる基本的態度 第6回：家庭の状況に応じた支援 第7回：地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 第8回：子育て家庭の福祉を図るための社会資源 第9回：子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 第10回：子ども家庭支援の内容と対象 第11回：地域の子育て家庭への支援 第12回：地域の子育て家庭への支援 第13回：要保護児童等及びその家庭に対する支援 第14回：子ども家庭支援に関する現状と課題 第15回：まとめとテスト					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：次の授業テーマについて、授業中に紹介する参考文献やウェブサイトを用いて下調べをすること。 授業後学習：授業で取り上げた内容について、要点を整理・確認する。					
授業方法	講義及びグループワーク					
評価基準と評価方法	平常点20点、小テスト（レポート）30点、テスト50点					
履修上の注意	授業回数の1/3以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失うものとする。					
教科書	プリントを配布する					
参考書	橋本真紀・山縣文治編「よくわかる家庭支援論」第2版 ミネルヴァ書房 2018.2.25 (ISBN 978-4-623-07342-9)					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	子ども家庭福祉					
担当教員	塚元 重範				科目ナンバー	T42080
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	児童家庭福祉の意義と役割					
授業の概要	この科目では、子どもと家庭の捉え方を歴史的経緯の中で理解することで、現代の子どもと家庭を取り巻く環境について考え、現代社会における児童問題とそれに対応する児童家庭福祉制度やサービスの概要を理解し、こうした制度やサービスの活用の仕方について探究する。そのために児童問題に対応するための児童家庭福祉の理念、仕組み、法律、制度を理解し、主たる法律、制度を学ぶ。児童家庭福祉の現状と課題を理解し、今後の展望について考える。					
到達目標	1 児童家庭福祉の理念、仕組み、法律、制度を理解し、主たる法律、制度を列挙できる。【知識・理解】 2 現代の子どもと家庭を取り巻く環境について考え、児童問題とそれに対応する児童家庭福祉制度やサービスについて理解し、活用の仕方について説明できる。【汎用的技能】 3 子どもの人権擁護について理解し、考え方や制度等が説明できる。【汎用的技能】 4 児童家庭福祉の現状と課題を理解し、今後の展望について考えることができる。【態度・志向性】					
授業計画	第1回 オリエンテーション、児童家庭福祉の理念と概念 第2回：児童家庭福祉を取り巻く状況 第3回：子どもの人権擁護 第4回：児童家庭福祉の歴史（外国） 第5回：児童家庭福祉の歴史（日本） 第6回：児童家庭福祉の法体系 第7回：児童家庭福祉の行政、機関、施設 第8回：保育サービス 第9回：ひとり親家庭への福祉サービス 第10回：子ども虐待の防止とその対応 第11回：社会的養護を必要とする子どもへの福祉施策 第12回：障害がある子どもへの福祉施策 第13回：非行問題を抱える子どもへの支援 第14回：児童家庭福祉の専門職と連携 第15回：まとめと試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> 授業該当範囲をテキスト等で予習する（2時間） 日頃から子ども家庭福祉に関する新聞、テレビ、書籍等が扱う問題（児童虐待等）について関心を持ち知識の習得に努めるとともに自分なりの考え方を持ちレポートを作成し、提出する（2時間） 					
授業方法	講義を主とするが、テーマによりグループ又はペアによるディスカッションを導入する					
評価基準と評価方法	平常点30%（授業内の提出物、質疑応答） 小レポート20% 試験50%					
履修上の注意	・授業回数の2/3以上の出席に満たない学生は試験の受験資格を失う					
教科書	みらい×子どもの福祉ブックス 「児童家庭福祉」 喜多一憲 監修 堀場純矢 編集 みらい					
参考書	毎回、プリントを配布					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	子ども家庭福祉					
担当教員	塚元 重範				科目ナンバー	T42080
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	児童家庭福祉の意義と役割					
授業の概要	この科目では、子どもと家庭の捉え方を歴史的経緯の中で理解することで、現代の子どもと家庭を取り巻く環境について考え、現代社会における児童問題とそれに対応する児童家庭福祉制度やサービスの概要を理解し、こうした制度やサービスの活用の仕方について探究する。そのために児童問題に対応するための児童家庭福祉の理念、仕組み、法律、制度を理解し、主たる法律、制度を学ぶ。児童家庭福祉の現状と課題を理解し、今後の展望について考える。					
到達目標	1 児童家庭福祉の理念、仕組み、法律、制度を理解し、主たる法律、制度を列挙できる。【知識・理解】 2 現代の子どもと家庭を取り巻く環境について考え、児童問題とそれに対応する児童家庭福祉制度やサービスについて理解し、活用の仕方について説明できる。【汎用的技能】 3 子どもの人権擁護について理解し、考え方や制度等が説明できる。【汎用的技能】 4 児童家庭福祉の現状と課題を理解し、今後の展望について考えることができる。【態度・志向性】					
授業計画	第1回 オリエンテーション、児童家庭福祉の理念と概念 第2回：児童家庭福祉を取り巻く状況 第3回：子どもの人権擁護 第4回：児童家庭福祉の歴史（外国） 第5回：児童家庭福祉の歴史（日本） 第6回：児童家庭福祉の法体系 第7回：児童家庭福祉の行政、機関、施設 第8回：保育サービス 第9回：ひとり親家庭への福祉サービス 第10回：子ども虐待の防止とその対応 第11回：社会的養護を必要とする子どもへの福祉施策 第12回：障害がある子どもへの福祉施策 第13回：非行問題を抱える子どもへの支援 第14回：児童家庭福祉の専門職と連携 第15回：まとめと試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業該当範囲をテキスト等で予習する（2時間） ・日頃から子ども家庭福祉に関する新聞、テレビ、書籍等が扱う問題（児童虐待等）について関心を持ち知識の習得に努めるとともに自分なりの考え方を持ちレポートを作成し、提出する（2時間） 					
授業方法	講義を主とするが、テーマによりグループ又はペアによるディスカッションを導入する					
評価基準と評価方法	平常点30%（授業内の提出物、質疑応答） 小レポート20% 試験50%					
履修上の注意	・授業回数の2/3以上の出席に満たない学生は試験の受験資格を失う					
教科書	みらい×子どもの福祉ブックス 「児童家庭福祉」 喜多一憲 監修 堀場純矢 編集 みらい					
参考書	毎回、プリントを配布					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	子どもと環境					
担当教員	寺見 陽子				科目ナンバー	T42240
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	領域「環境」を保育・教育実践と関連付けて理解する。					
授業の概要	この科目では、学生が日常生活において活用している算数の基礎的な知識を確認しつつ、その技能の更なる習熟を図る。こうした理解や技能を前提とした上で、幼児教育を担う人材として、幼児期という発達段階において育むべき、数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚について学ぶ。その上で子どもの好奇心を生かしながら、学びや生活をどのように保育や幼児教育に取り入れるのかについて、心理学や保育学、教育学などの知見から学ぶ。					
到達目標	領域「環境」にある「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力」について、具体的な保育場面・教育場面と関連付けて、理解を深める。【知識・技術】そのために、幼稚園教育要領の「環境」のねらい及び内容を、背景となる専門領域と関連付けて学ぶ。【汎用的技術】また幼児から小学校低学年児童への教育上の接続に留意して、生活科や算数科への接続について学ぶ。【態度・志向性】					
授業計画	第1回：授業概要：幼児にとっての環境の意義 第2回：幼児の環境とのかかわりと発達—幼児の能動性と環境との相互性・関係性 第3回：幼児の環境とのかかわりと遊び—好奇心と興味・関心、象徴活動と試行・思考、社会的関係 第4回：幼児の遊びと学び①—コミュニケーションと対人関係 第5回：幼児の遊びと学び②—ものの操作性、イメージと象徴、数量・図形・空間認識と科学的概念 第6回：幼児の遊びと学び③—身体の動き、絵画、造形、音楽（自己表現） 第7回：幼児の動植物・自然とのかかわりと学び—生命への気づきと理解 第8回：幼児の文字・標識・情報とのかかわりと学び—物理・社会的知識と認識 第9回：幼児と地域環境とのかかわり—多様な人間関係と地域理解 第10回：幼児の人間性の基盤の発達①—身体と運動、言葉の概念と思考 第11回：幼児の人間性の基盤の発達②—人間関係と他者理解（思いやり・共感性・道徳性） 第12回：幼児の人間性の基盤の発達③—生きる力と自我の育ち 第13回：小学校低学年における教科への接続—生活科・算数科・理科・社会科 第14回：幼児を取り巻く環境と育ちにおける今日の課題 第15回：まとめとテスト					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前の準備学習：各授業で取り扱う内容のキーワードを事前に調べておく。（学習時間30分） 授業後の準備学習：事前に調べたキーワードの内容を確認し、各授業で学んだ内容をそれらのキーワードを用いて簡単なアサインメントを作成する。（学習時間30分）					
授業方法	講義とグループワーク					
評価基準と評価方法	授業への参加度とリアクションペーパーなどの平常点で50点、テストで50点。					
履修上の注意	保育園や認定こども園、幼稚園等でボランティアをするなどして、乳幼児が生活や遊びを通して、どのような経験をしているか、体験的に学ぶ機会を積極的に持つてほしい。					
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月）					
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月） 神戸松蔭女子学院大学子ども発達学科編『子どもの未来を育む保育・教育の実践知——保育者・教師を目指すあなたに』北大路書房					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	子どもと環境					
担当教員	寺見 陽子				科目ナンバー	T42240
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	領域「環境」を保育・教育実践と関連付けて理解する。					
授業の概要	この科目では、学生が日常生活において活用している算数の基礎的な知識を確認しつつ、その技能の更なる習熟を図る。こうした理解や技能を前提とした上で、幼児教育を担う人材として、幼児期という発達段階において育むべき、数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚について学ぶ。その上で子どもの好奇心を生かしながら、学びや生活をどのように保育や幼児教育に取り入れるのかについて、心理学や保育学、教育学などの知見から学ぶ。					
到達目標	領域「環境」にある「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力」について、具体的な保育場面・教育場面と関連付けて、理解を深める。【知識・技術】そのために、幼稚園教育要領の「環境」のねらい及び内容を、背景となる専門領域と関連付けて学ぶ。【汎用的技術】また幼児から小学校低学年児童への教育上の接続に留意して、生活科や算数科への接続について学ぶ。【態度・志向性】					
授業計画	第1回：授業概要： 幼児にとっての環境の意義 第2回：幼児の環境とのかかわりと発達—幼児の能動性と環境との相互性・関係性 第3回：幼児の環境とのかかわりと遊び—好奇心と興味・関心、象徴活動と試行・思考、社会的関係 第4回：幼児の遊びと学び①—コミュニケーションと対人関係 第5回：幼児の遊びと学び②—ものの操作性、イメージと象徴、数量・図形・空間認識と科学的概念 第6回：幼児の遊びと学び③—身体の動き、絵画、造形、音楽（自己表現） 第7回：幼児の動植物・自然とのかかわりと学び—生命への気づきと理解 第8回：幼児の文字・標識・情報とのかかわりと学び—物理・社会的知識と認識 第9回：幼児と地域環境とのかかわり—多様な人間関係と地域理解 第10回：幼児の人間性の基盤の発達①—身体と運動、言葉の概念と思考 第11回：幼児の人間性の基盤の発達②—人間関係と他者理解（思いやり・共感性・道徳性） 第12回：幼児の人間性の基盤の発達③—生きる力と自我の育ち 第13回：小学校低学年における教科への接続—生活科・算数科・理科・社会科 第14回：幼児を取り巻く環境と育ちにおける今日の課題 第15回：まとめとテスト					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前の準備学習：各授業で取り扱う内容のキーワードを事前に調べておく。（学習時間30分） 授業後の準備学習：事前に調べたキーワードの内容を確認し、各授業で学んだ内容をそれらのキーワードを用いて簡単なアサインメントを作成する。（学習時間30分）					
授業方法	講義とグループワーク					
評価基準と評価方法	授業への参加度とリアクションペーパーなどの平常点で50点、テストで50点。					
履修上の注意	保育園や認定こども園、幼稚園等でボランティアをするなどして、乳幼児が生活や遊びを通して、どのような経験をしているか、体験的に学ぶ機会を積極的に持つてほしい。					
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月）					
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月） 神戸松蔭女子学院大学子ども発達学科編『子どもの未来を育む保育・教育の実践知——保育者・教師を目指すあなたに』北大路書房					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	子どもと健康					
担当教員	倉 真智子				科目ナンバー	T41230
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数 1.0
授業のテーマ	幼児期の心身の発達や基本的生活習慣、運動発達を学び、幼児自らが安全に生活を営まれるよう専門的知識を身につける。					
授業の概要	幼児期は生涯にわたって心身の健康の基盤を培う重要な時期である。遊びの中で十分体を動かし、諸機能の発達を促し、認知的、情緒・社会的発達を相互に関連させながら発達している。それには生活習慣の形成が大きくかかわっていることを理解し、年齢による発達を踏まえ、適切な指導や援助ができる基礎的技能を習得するため、さまざまなアクティビティを取り入れた学習を行い、背後にある理論も含めた理解を促す。					
到達目標	①領域「健康」ねらいと内容を理解し他者に説明できる。 ②乳幼児の発達から基本的生活習慣の形成を理解している。 ③安全教育と危機管理、応急処置が適切におこなうことができる。 ④幼児期の運動のあり方を理解し、運動の意義を説明できる。					
授業計画	第1回：幼児の健康と5領域における「健康」のねらいと内容 第2回：今日における健康の課題と子どもを取り巻く環境の現状 第3回：幼児のおかれている環境と自然教育 第4回：基本的生活習慣の重要性 第5回：発達段階からみた睡眠と食事の形成 第6回：発達段階からみた排泄・衣服の着脱・清潔の形成 第7回：基本的生活習慣の獲得と保育者の支援 第8回：日常生活と運動 - 日常の動きにみられる遊びの意味を考える - 第9回：幼児期の運動・体力の考え方 第10回：年齢による運動発達の特徴 - 映像と事例から - 第11回：幼児期の運動遊びの重要性 - 幼児期運動指針から考える - 第12回：運動遊びにおける動機づけと保育者の役割 第13回：運動が不得意な幼児の支援と対応 - 運動嫌いや配慮を要する幼児について - 第14回：幼児の怪我や事故の実態と病気等の予防と対策 第15回：安全教育・危機管理 - リスクとハザードの相違について - 定期試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備：毎回の予習に加え、特に第3回～6回目の事前学習として、自分の幼少期を振り返り、家族等へのヒアリングを行いレポートにまとめる。（学習時間2時間） 授業後学習：授業内で課したテーマ等のレポートを作成し、manaba等に提出する。（学習時間1時間）					
授業方法	講義および演習 授業前準備でのレポートをもとにグループ討議を行い、問題点、課題を探っていく。 これらを踏まえ、考察を加えながら講義を行う。					
評価基準と評価方法	リアクションペーパーなどの平常点20%、グループ討議と発表30%、期末試験50%					
履修上の注意	1. 幼・保の免許必修であることから、保育者としての意識をもって積極的に受講すること。 2. 授業回数の3分の2以上の出席であること。					
教科書	勝木洋子他 『みらい』『保育者をめざすあなたへ 子どもと健康』 ISBN978-4-86015-316-8c3037 2014年4月					
参考書	倉真智子他 『みらい』『子どもが育つ運動遊び』 ISBN978-4-86015-379-3c3037 2016年4月 文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	子どもと健康					
担当教員	倉 真智子				科目ナンバー	T41230
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数 1.0
授業のテーマ	幼児期の心身の発達や基本的生活習慣、運動発達を学び、幼児自らが安全に生活を営まれるよう専門的知識を身につける。					
授業の概要	幼児期は生涯にわたって心身の健康の基盤を培う重要な時期である。遊びの中で十分体を動かし、諸機能の発達を促し、認知的、情緒・社会的発達を相互に関連させながら発達している。それには生活習慣の形成が大きくかかわっていることを理解し、年齢による発達を踏まえ、適切な指導や援助ができる基礎的技能を習得するため、さまざまなアクティビティを取り入れた学習を行い、背後にある理論も含めた理解を促す。					
到達目標	①領域「健康」ねらいと内容を理解し他者に説明できる。 ②乳幼児の発達から基本的生活習慣の形成を理解している。 ③安全教育と危機管理、応急処置が適切におこなうことができる。 ④幼児期の運動のあり方を理解し、運動の意義を説明できる。					
授業計画	第1回：幼児の健康と5領域における「健康」のねらいと内容 第2回：今日における健康の課題と子どもを取り巻く環境の現状 第3回：幼児のおかれている環境と自然教育 第4回：基本的生活習慣の重要性 第5回：発達段階からみた睡眠と食事の形成 第6回：発達段階からみた排泄・衣服の着脱・清潔の形成 第7回：基本的生活習慣の獲得と保育者の支援 第8回：日常生活と運動 - 日常の動きにみられる遊びの意味を考える - 第9回：幼児期の運動・体力の考え方 第10回：年齢による運動発達の特徴 - 映像と事例から - 第11回：幼児期の運動遊びの重要性 - 幼児期運動指針から考える - 第12回：運動遊びにおける動機づけと保育者の役割 第13回：運動が不得意な幼児の支援と対応 - 運動嫌いや配慮を要する幼児について - 第14回：幼児の怪我や事故の実態と病気等の予防と対策 第15回：安全教育・危機管理 - リスクとハザードの相違について - 定期試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備：毎回の予習に加え、特に第3回～6回目の事前学習として、自分の幼少期を振り返り、家族等へのヒアリングを行いレポートにまとめる。（学習時間2時間） 授業後学習：授業内で課したテーマ等のレポートを作成し、manaba等に提出する。（学習時間1時間）					
授業方法	講義および演習 授業前準備でのレポートをもとにグループ討議を行い、問題点、課題を探っていく。 これらを踏まえ、考察を加えながら講義を行う。					
評価基準と評価方法	リアクションペーパーなどの平常点20%、グループ討議と発表30%、期末試験50%					
履修上の注意	1. 幼・保の免許必修であることから、保育者としての意識をもって積極的に受講すること。 2. 授業回数の3分の2以上の出席であること。					
教科書	勝木洋子他 『みらい』『保育者をめざすあなたへ 子どもと健康』 ISBN978-4-86015-316-8c3037 2014年4月					
参考書	倉真智子他 『みらい』『子どもが育つ運動遊び』 ISBN978-4-86015-379-3c3037 2016年4月 文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	子どもとことば					
担当教員	大石 正廣				科目ナンバー	T42250
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	幼児期のことばの学びと児童期への連続性について					
授業の概要	この科目では言葉の学びにおける次の三つのねらいを学ぶ。①「自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう」。②「人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう」。③「日常生活に必要な言葉がわかるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる」。授業では具体的な指導内容を取り上げながら、以上のねらいを考察することで理解を深め、さらに指導の際の留意点について考察する。さらに他領域との関連性や小学校での言葉の学びのつながりを理解する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 「言葉」の領域のねらい及び内容を理解している。【知識・理解】 「言葉」の領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導の留意点評価の考え方を理解している。【汎用的技能】 他領域との関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。【知識・理解】 					
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション：幼児期から児童期への言葉の学びの連続性 第2回：幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本：各領域のねらい 第3回：領域「言葉」のねらいと内容 第4回：内容の相互関連と全体構造 第5回：指導の留意点(1)：親しみを持って日常のあいさつをしたり、聞いたり話したりする。 第6回：指導の留意点(2)：自分なりの言葉で表現する。 第7回：指導の留意点(3)：話を注意して聞き、相手にわかるように話す。分からぬことをたずねたりする。文字で伝える楽しさを味わう。 第8回：指導の留意点(4)：生活の中で必要な言葉がわかり、使う。 第9回：指導の留意点(5)：生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。 第10回：指導の留意点(6)：体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。 第11回：指導の留意点(7)：絵本や物語に親しみ想像する楽しさを味わう。 第12回：各内容の指導と評価 第13回：他領域との関連：「言葉」と「環境」「表現」との関連 第14回：幼児期から児童期へのスパイラルな言葉の学び 第15回：幼児の言語活動の充実 定期試験</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回で扱うテキストの当該箇所を予習し、事前にキーワードや課題について、指定された参考書や配布の資料で下調べする（2時間） 授業後学習：配付のレジメをもとに、授業で取り上げた内容の要点と重要個所を確認整理する。また、学べたこと、考えを深めたこと、さらに調べたいことなどをジャーナルとして記述しまとめておく。（2時間）</p>					
授業方法	講義：授業内容のポイントについて、グループまたはペアによるディスカッション等を行う。グループ(ペア)ワークの報告を踏まえて、重要事項についてさらに解説・講義を行う。					
評価基準と評価方法	授業への参加度。積極的な学び（資料作成力やグループ内での積極的姿勢など）と各回のリアクションペーパーで50%、テスト（授業内容の理解）で50%。					
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> グループ（ペア）ワークを多く取り入れるので、主体的に対話的な学びを求める。 授業での資料は、各回の出席者のみ配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布する。） 出席が授業回数の3分の2以上でないと期末試験の受験資格を失うものとする。 					
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月）					
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	子どもとことば					
担当教員	大石 正廣				科目ナンバー	T42250
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	幼児期のことばの学びと児童期への連続性について					
授業の概要	この科目では言葉の学びにおける次の三つのねらいを学ぶ。①「自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう」。②「人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう」。③「日常生活に必要な言葉がわかるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる」。授業では具体的な指導内容を取り上げながら、以上のねらいを考察することで理解を深め、さらに指導の際の留意点について考察する。さらに他領域との関連性や小学校での言葉の学びのつながりを理解する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 「言葉」の領域のねらい及び内容を理解している。【知識・理解】 「言葉」の領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導の留意点評価の考え方を理解している。【汎用的技能】 他領域との関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。【知識・理解】 					
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション：幼児期から児童期への言葉の学びの連続性</p> <p>第2回：幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本：各領域のねらい</p> <p>第3回：領域「言葉」のねらいと内容</p> <p>第4回：内容の相互関連と全体構造</p> <p>第5回：指導の留意点(1)：親しみを持って日常のあいさつをしたり、聞いたり話したりする。</p> <p>第6回：指導の留意点(2)：自分なりの言葉で表現する。</p> <p>第7回：指導の留意点(3)：話を注意して聞き、相手にわかるように話す。分からぬことをたずねたりする。文字で伝える楽しさを味わう。</p> <p>第8回：指導の留意点(4)：生活の中で必要な言葉がわかり、使う。</p> <p>第9回：指導の留意点(5)：生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。</p> <p>第10回：指導の留意点(6)：体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。</p> <p>第11回：指導の留意点(7)：絵本や物語に親しみ想像する楽しさを味わう。</p> <p>第12回：各内容の指導と評価</p> <p>第13回：他領域との関連：「言葉」と「環境」「表現」との関連</p> <p>第14回：幼児期から児童期へのスパイラルな言葉の学び</p> <p>第15回：幼児の言語活動の充実</p> <p>定期試験</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回で扱うテキストの当該箇所を予習し、事前にキーワードや課題について、指定された参考書や配布の資料で下調べする（2時間）</p> <p>授業後学習：配付のレジメをもとに、授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認整理する。また、学べたこと、考えを深めたこと、さらに調べたいことなどをジャーナルとして記述しましておく。（2時間）</p>					
授業方法	講義：授業内容のポイントについて、グループまたはペアによるディスカッション等を行う。グループ(ペア)ワークの報告を踏まえて、重要事項についてさらに解説・講義を行う。					
評価基準と評価方法	授業への参加度。積極的な学び（資料作成力やグループ内での積極的姿勢など）と各回のリアクションペーパーで50%、テスト（授業内容の理解）で50%。					
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> グループ（ペア）ワークを多く取り入れるので、主体的に対話的な学びを求める。 授業での資料は、各回の出席者のみ配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布する。） 出席が授業回数の3分の2以上でないと期末試験の受験資格を失うものとする。 					
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月）					
参考書	<p>文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月）</p> <p>厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月）</p> <p>厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月）</p> <p>内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月）</p> <p>内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）</p>					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	子どもと人間関係					
担当教員	秋山 麗子・林 悠子				科目ナンバー	T42260
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	領域「人間関係」を保育・教育実践と結びつけて理解する。					
授業の概要	<p>この科目では幼稚園教育要領にある保育内容「人間関係」のねらいと内容を踏まえて次の内容を扱う。他の人と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養うこと目標とする。乳幼児期における人との関わりの意義と育ちの過程を理解するとともに、保育における実践事例を通して、子どもの発達に応じた人間関係づくり、保護者同士の関係づくりなど、人間関係の育ちを促す保育の在り方や保育内容について理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (秋山 麗子／5回) 幼児期から児童期にかけての児童にとって人間関係がどんな意義をもっているかを解説し、人の関わる力に関する研究を深めることで、それぞれの子どもの特徴に配慮した保育内容について講義する。 (林 悠子／10回) 幼児にとって周囲の人間関係がどんな意義をもっているかを解説してから、具体的に保育所や幼稚園などにおける人間関係に配慮の行き届いた環境をどう作るかについて講義する。</p>					
到達目標	領域「人間関係」で学ぶ「他の人と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力」について、具体的な教育場面・保育場面と関連付けて、理解を深める。【知識・理解】そのために、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい、および、内容について、背景となる専門領域と関連付けて学ぶ。また、幼児教育および低学年の児童への初等教育への接続に留意して、主体的・対話的で、深い学びが実現される過程について学ぶ。【汎用的技能】					
授業計画	<p>第1回：領域「人間関係」の意義と内容（担当：林） 第2回：幼児期の人間関係と心の育ち（担当：林） 第3回：幼児期の人間関係と保育（担当：林） 第4回：生活・遊びと人間関係—個の育ちと集団（担当：林） 第5回：多様な人間関係と保育—地域交流（担当：林） 第6回：育ちの気がかりな子どもと人間関係（担当：林） 第7回：豊かな人間関係を育てる保育の環境（担当：林） 第8回：人の関わりを育てる保育者の役割（担当：林） 第9回：絵本に見る人間関係の育ち（担当：林） 第10回：まとめとテスト（担当：林） 第11回：小学校低学年の人間関係と心の育ち（担当：秋山） 第12回：小学校低学年の人間関係の育ち：教材研究①（担当：秋山） 第13回：小学校低学年の人間関係の育ち：教材研究②（担当：秋山） 第14回：小学校低学年の教材に見る子どもの育ちの特徴（担当：秋山） 第15回：子どもの育ちと小学校への接続、テスト（担当：秋山）</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：テキストや参考文献に当たり、授業内容に合わせたキーワードについての予習や、模擬授業の指導案作成等を行うこと。（学習時間：2時間） 授業後学習：生活科の教材となりうる自然や社会の様々な事象について目を向け調査研究をする。（学習時間：2時間）</p>					
授業方法	講義：グループによるワークショップやディスカッションを行う。また、グループまたはペアで調査研究した結果を踏まえて、解説や講義を行う。					
評価基準と評価方法	授業への参加度とリアクションペーパーなどの平常点で50点、テストで50点。					
履修上の注意	使用したプリントは、各回の出席者のみ配布する。（欠席の場合は、翌週の授業時に限り再配布する）					
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月）					
参考書	<p>文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）</p>					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	子どもと人間関係					
担当教員	秋山 麗子・林 悠子				科目ナンバー	T42260
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	領域「人間関係」を保育・教育実践と結びつけて理解する。					
授業の概要	<p>この科目では幼稚園教育要領にある保育内容「人間関係」のねらいと内容を踏まえて次の内容を扱う。他の人と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養うこと目標とする。乳幼児期における人との関わりの意義と育ちの過程を理解するとともに、保育における実践事例を通して、子どもの発達に応じた人間関係づくり、保護者同士の関係づくりなど、人間関係の育ちを促す保育の在り方や保育内容について理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (秋山 麗子／5回) 幼児期から児童期にかけての児童にとって人間関係がどんな意義をもっているかを解説し、人の関わる力に関する研究を深めることで、それぞれの子どもの特徴に配慮した保育内容について講義する。 (林 悠子／10回) 幼児にとって周囲の人間関係がどんな意義をもっているかを解説してから、具体的に保育所や幼稚園などにおける人間関係に配慮の行き届いた環境をどう作るかについて講義する。</p>					
到達目標	領域「人間関係」で学ぶ「他の人と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力」について、具体的な教育場面・保育場面と関連付けて、理解を深める。【知識・理解】そのために、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい、および、内容について、背景となる専門領域と関連付けて学ぶ。また、幼児教育および低学年の児童への初等教育への接続に留意して、主体的・対話的で、深い学びが実現される過程について学ぶ。【汎用的技能】					
授業計画	<p>第1回：領域「人間関係」の意義と内容（担当：林） 第2回：幼児期の人間関係と心の育ち（担当：林） 第3回：幼児期の人間関係と保育（担当：林） 第4回：生活・遊びと人間関係—個の育ちと集団（担当：林） 第5回：多様な人間関係と保育—地域交流（担当：林） 第6回：育ちの気がかりな子どもと人間関係（担当：林） 第7回：豊かな人間関係を育てる保育の環境（担当：林） 第8回：人の関わりを育てる保育者の役割（担当：林） 第9回：絵本に見る人間関係の育ち（担当：林） 第10回：まとめとテスト（担当：林） 第11回：小学校低学年の人間関係と心の育ち（担当：秋山） 第12回：小学校低学年の人間関係の育ち：教材研究①（担当：秋山） 第13回：小学校低学年の人間関係の育ち：教材研究②（担当：秋山） 第14回：小学校低学年の教材に見る子どもの育ちの特徴（担当：秋山） 第15回：子どもの育ちと小学校への接続、テスト（担当：秋山）</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：テキストや参考文献に当たり、授業内容に合わせたキーワードについての予習や、模擬授業の指導案作成等を行うこと。（学習時間：2時間） 授業後学習：生活科の教材となりうる自然や社会の様々な事象について目を向け調査研究をする。（学習時間：2時間）</p>					
授業方法	講義：グループによるワークショップやディスカッションを行う。また、グループまたはペアで調査研究した結果を踏まえて、解説や講義を行う。					
評価基準と評価方法	授業への参加度とリアクションペーパーなどの平常点で50点、テストで50点。					
履修上の注意	使用したプリントは、各回の出席者のみ配布する。（欠席の場合は、翌週の授業時に限り再配布する）					
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月）					
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	子どもの食と栄養					
担当教員	西川 央江				科目ナンバー	T41010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	子どもが健やかに成長・発達するために必要な栄養や食生活について基礎的な知識を学ぶ。また、食育についての理解を深め、正しい食習慣の確立を含めて、子どもの食生活を豊かにすることについて学ぶ。					
授業の概要	この授業では幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された食育に関する下記の5点について学ぶ。 ①健康な食生活と生活リズムの意義と栄養に関する基本的知識を学ぶ。②子どもの発育・発達に応じた調理形態や食生活について理解を深める。③食育の基本と内容および食育のための環境と地域社会との連携について理解する。④家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。⑤特別な配慮をする子どもの食と栄養について理解する。					
到達目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。【知識・理解】 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。【知識・理解】 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する【知識・理解】 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。【知識・理解・汎用的技能】 5. 関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮をする子どもの食と栄養について理解する。【知識・理解・汎用的技能】 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月、厚生労働省）、 「保育所における食事の提供ガイドライン」（平成24年3月、厚生労働省）等					
授業計画	第1回 子どもの健康と食生活の意義（子どもの心身の健康と食生活および食生活的現状と課題） 第2回 栄養に関する基本的知識（1）栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 第3回 栄養に軽する基礎的知識（2）食事摂取基準と献立作成・調理の基本 第4回 子どもの発育・発達と食生活（1）乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 第5回 子どもの発育・発達と食生活（2）調乳と離乳食調理に関する演習（レポート作成） 第6回 子どもの発育・発達と食生活（3）幼児期の心身の発達と食生活 第7回 子どもの発育・発達と食生活（4）学童期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活 第8回 食育の基本と内容（1）保育における食育の意義・目的と基本的考え方、食育の内容と計画及び評価 第9回 食育の基本と内容（2）食育のための環境、地域の関係機関や職員間の連携 第10回 食育の基本と内容（3）食生活指導及び食を通した保護者への支援、家庭や児童福祉施設における食事と栄養 第11回 特別な配慮をする子どもの食と栄養（1）疾病及び体調不良の子どもへの対応 第12回 特別な配慮をする子どもの食と栄養（2）食物アレルギーのある子どもへの対応 第13回 特別な配慮をする子どもの食と栄養（3）障害のある子どもへの対応 第14回 特別な配慮をする子どもの食と栄養（4）災害時の食物アレルギーのある子どもへの対応まとめ試験 第15回 講義全体の内容の総復習					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業で扱う教科書の該箇所を予習し、授業内容に関する情報を集める（学習時間2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点をまとめ、重要箇所を確認する、課題レポートがある時は作成する（学習時間2時間）					
授業方法	講義：テーマごとに重要事項について講義・解説を行う。 演習：調乳と離乳食の調理を実施し、実施時の留意点をレポートにまとめる。					
評価基準と評価方法	まとめ試験60% 授業内の提出物（リアクションペーパー）30% 課題レポート10% まとめ試験：授業で扱った子どもの食と栄養についての理解度を評価する。授業内でまとめ試験結果の講評を行つ。到達目標（1）（2）（3）（4）（5）に関する到達度の確認。 授業内の提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義についてのコメント・質問・課題への自分の考え）の内容・記述の的確さを評価する。質問には翌週の授業で解説する。到達目標（1）（2）（3）（4）（5）に関する到達度の確認。 課題レポート：実施した演習の留意点を的確にレポートできているかを評価する。レポートの評価後は、コメントして返却し各自にフィードバックする。到達課題（4）（5）に関する到達度の確認。					
履修上の注意	単位認定は出席3分の2以上で行います。20分以上の遅刻は欠席として扱います。子どもの食事、栄養、食育に関する報道等に关心をもって学習してください。					
教科書	「最新 子どもの食と栄養 食生活の基礎を築くために」飯塚美和子・他編集 学建書院 ISBN978-4-7624-5841-5					

参考書	講義内で適宜紹介します
-----	-------------

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	子どもの食と栄養					
担当教員	西川 央江				科目ナンバー	T41010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	子どもが健やかに成長・発達するために必要な栄養や食生活について基礎的な知識を学ぶ。また、食育についての理解を深め、正しい食習慣の確立を含めて、子どもの食生活を豊かにすることについて学ぶ。					
授業の概要	この授業では幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された食育に関する下記の5点について学ぶ。 ①健康な食生活と生活リズムの意義と栄養に関する基本的知識を学ぶ。②子どもの発育・発達に応じた調理形態や食生活について理解を深める。③食育の基本と内容および食育のための環境と地域社会との連携について理解する。④家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。⑤特別な配慮をする子どもの食と栄養について理解する。					
到達目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学得する。【知識・理解】 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。【知識・理解】 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する【知識・理解】 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。【知識・理解・汎用的技能】 5. 関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮をする子どもの食と栄養について理解する。【知識・理解・汎用的技能】 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月、厚生労働省）、 「保育所における食事の提供ガイドライン」（平成24年3月、厚生労働省）等					
授業計画	第1回 子どもの健康と食生活の意義（子どもの心身の健康と食生活および食生活の現状と課題） 第2回 栄養に関する基本的知識（1）栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 第3回 栄養に軽する基礎的知識（2）食事摂取基準と献立作成・調理の基本 第4回 子どもの発育・発達と食生活（1）乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 第5回 子どもの発育・発達と食生活（2）調乳と離乳食調理に関する演習（レポート作成） 第6回 子どもの発育・発達と食生活（3）幼児期の心身の発達と食生活 第7回 子どもの発育・発達と食生活（4）学童期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活 第8回 食育の基本と内容（1）保育における食育の意義・目的と基本的考え方、食育の内容と計画及び評価 第9回 食育の基本と内容（2）食育のための環境、地域の関係機関や職員間の連携 第10回 食育の基本と内容（3）食生活指導及び食を通した保護者への支援、家庭や児童福祉施設における食事と栄養 第11回 特別な配慮をする子どもの食と栄養（1）疾病及び体調不良の子どもへの対応 第12回 特別な配慮をする子どもの食と栄養（2）食物アレルギーのある子どもへの対応 第13回 特別な配慮をする子どもの食と栄養（3）障害のある子どもへの対応 第14回 特別な配慮をする子どもの食と栄養（4）災害時の食物アレルギーのある子どもへの対応まとめ試験 第15回 講義全体の内容の総復習					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業で扱う教科書の該箇所を予習し、授業内容に関する情報を集める（学習時間2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点をまとめ、重要箇所を確認する、課題レポートがある時は作成する（学習時間2時間）					
授業方法	講義：テーマごとに重要事項について講義・解説を行う。 演習：調乳と離乳食の調理を実施し、実施時の留意点をレポートにまとめる。					
評価基準と評価方法	まとめ試験60% 授業内の提出物（リアクションペーパー）30% 課題レポート10% まとめ試験：授業で扱った子どもの食と栄養についての理解度を評価する。授業内でまとめ試験結果の講評を行つ。到達目標（1）（2）（3）（4）（5）に関する到達度の確認。 授業内の提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義についてのコメント・質問・課題への自分の考え）の内容・記述の的確さを評価する。質問には翌週の授業で解説する。到達目標（1）（2）（3）（4）（5）に関する到達度の確認。 課題レポート：実施した演習の留意点を的確にレポートできているかを評価する。レポートの評価後は、コメントして返却し各自にフィードバックする。到達課題（4）（5）に関する到達度の確認。					
履修上の注意	単位認定は出席3分の2以上で行います。20分以上の遅刻は欠席として扱います。子どもの食事、栄養、食育に関する報道等に関心をもって学習してください。					
教科書	「最新 子どもの食と栄養 食生活の基礎を築くために」飯塚美和子・他編集 学建書院 ISBN978-4-7624-5841-5					

参考書	講義内で適宜紹介します
-----	-------------

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	個別の教育支援計画論					
担当教員	谷川 弘治				科目ナンバー	T61030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	土曜3	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	個別の教育支援計画を検討するシステムと検討過程を学ぶ。					
授業の概要	<p>本科目は特別支援教育に関する科目である。</p> <p>「個別の教育支援計画」とは、「障害のある児童生徒の一人一人のニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応していく」という考え方の下、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な支援を行うことを目的として策定されるもので、教育のみならず、福祉、医療、労働等の様々な側面からの取組を含め関係機関、関係部局の密接な連携協力を確保することが不可欠であり、教育的支援を行うに当たり同計画を活用することが意図されている（「特別支援教育を推進するための制度の在り方について（答申）」中央教育審議会、平成17年12月）。</p> <p>本授業では特別支援教育の実践が個々のニーズに応じた長期的見通しをもった取り組みであること、さまざまな関係機関や専門職との協働によって成立することへの理解を深めるため、入門期の学生がその合理的な配慮を把握しやすい病弱児の模擬事例を用いて、「個別の教育支援計画」を検討するシステムと検討過程を学ぶ。なお、病弱教育の場合、とくに入院した子どもを対象とする場合は、特別支援学校（学級）と入院していくなければ在籍している地域の学校（特別支援学校を含む）があるという特殊性を踏まえておきたい。</p>					
到達目標	<p>1) 特別支援教育の実践が個々のニーズに応じた長期的見通しをもった取り組みであること、さまざまな関係機関や専門職との協働によって成立することへの理解を自分の言葉で説明できる。</p> <p>2) 「個別の教育支援計画」を検討するシステムと検討過程を説明できる。</p>					
授業計画	<p>第1回：「個別の教育支援計画」と個別の指導計画の役割とPDCAプロセス</p> <p>第2回：「個別の教育支援計画」を検討するシステムと関与する医療、福祉、労働等の機関の役割</p> <p>第3回：病弱児の「個別の教育支援計画」の視点と検討過程</p> <p>第4回：入院中の病弱児の「個別の教育支援計画」の立案①児童</p> <p>第5回：入院中の病弱児の「個別の教育支援計画」の立案②小学生</p> <p>第6回：入院中の病弱児の「個別の教育支援計画」の立案③中学生</p> <p>第7回：入院中の病弱児の「個別の教育支援計画」の立案④高校生</p> <p>第8回：入院中の病弱児の「個別の教育支援計画」の調整①退院時</p> <p>第9回：入院中の病弱児の「個別の教育支援計画」の調整②後遺障害を残しての退院時</p> <p>第10回：入院中の病弱児の「個別の教育支援計画」の調整③エンドオブライフケアへの移行時</p> <p>第11回：地域で暮らす病弱児の「個別の教育支援計画」①自宅療養を続ける病弱児</p> <p>第12回：地域で暮らす病弱児の「個別の教育支援計画」②地域の学校において合理的な配慮が必要な病弱児</p> <p>第13回：地域で暮らす病弱児の「個別の教育支援計画」③成人医療への移行と就労支援</p> <p>第14回：子どもと家族の情報の扱いと多職種コミュニケーション</p> <p>第15回：特別支援教育コーディネーターに求められるもの</p> <p>期末テスト</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：</p> <p>事前課題を提示するので、取り組んで授業に参加する。（30分程度）</p> <p>授業後学習：</p> <p>適宜、事前課題と授業の振り返りを行う。リアクションペーパーに関する解説を配付するので目を通し、他者（他の受講生）の視点に学ぶことが望ましい。（10分程度）</p>					
授業方法	講義、事前課題の発表、ペアあるいはグループワーク、リアクションペーパーの解説などを組み合わせる。					
評価基準と評価方法	定期試験 80% リアクションペーパー 20%					
履修上の注意	<p>各回の講義資料及び事前課題は、原則として前の授業までに配付あるいは提示する。</p> <p>リアクションペーパー及びリアクションペーパー解説は、授業の開始時に配付する。</p> <p>はじめて考える課題も多いと思われるが、入門期の学修であるので、疑問に感じたこと、自分なりの判断など、自信の有無にかかわらず他者に伝えること、他者の思いに耳を傾け自らを振り返ることを大切にしたい。</p> <p>授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末試験の受験資格を失うものとする。</p>					
教科書	適宜、講義資料を配付する。					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『特別支援学校幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領、高等部学習指導要領』、文部科学省、2016 ・『多職種合同ワークショップ「病気の子どものトータルケアセミナー」研修プログラム集 第8集：表現力を高める 医療現場での対話と実践を振り返り、共有するために』、谷川弘治ほか、(http://k-tanigawa.com) ・『多職種合同ワークショップ「病気の子どものトータルケアセミナー」研修プログラム集 第2集：個別支援計画の立案と実施』、谷川弘治、(http://k-tanigawa.com) 					

参考書	<ul style="list-style-type: none">・『病弱・虚弱児の医療・療育・教育』、改定第3版、宮本信也・土橋圭子（編）、金芳堂、978-4-7653-1627-9・『特別支援教育の基礎・基本』、新訂版、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所、ジアース教育新社、978-4-86371-297-3・『病気の子どもの教育支援ガイド』、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所、ジアース教育新社、978-4-8637-1406-9・『病弱教育における各教科の指導』、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所、ジアース教育新社、978-4-8637-1333-8・『病気の子どもの心理社会的支援入門 医療保育・病弱教育・医療ソーシャルワーク・心理臨床を学ぶ人に』第2版、谷川弘治ほか（編）、ナカニシヤ出版978-4-7795-0289-7・『18トリソミー 子どもへのよりよい医療と家族支援をめざして』、櫻井浩子・橋本洋子・古庄和己（編）メディカ出版、978-4-8404-5314-1・『障害のある子の支援計画作成事例集 発達を支える障がい児支援利用計画と個別支援計画』、日本相談支援専門員協会（編）、中央法規、978-4-8058-5292-7
-----	--

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	算数科指導法					
担当教員	尾上 昭				科目ナンバー	T52110
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	算数科教育の意義を理解し、模擬授業として実践する。					
授業の概要	小学算数で学んだことを前提として、模擬授業を行う。算数の授業ビデオを見て、算数科の特徴、授業のあり方や論点、ICTの効果的な活用方法等を検討し、楽しい授業づくりについて理解を深める。こうした学習を前提として、教科書から選んだ内容について、教材研究を行ったうえで、グループで指導案を作成し、これに基づいて模擬授業を行う。授業を行った後、相互評価を通じて改善点を明らかにし、授業改善を図る。					
到達目標	算数科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された算数科の学習内容について理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。【知識・理解】【汎用的技能】					
授業計画	第1回 オリエンテーション：算数科における新学習指導要領のポイントを理解する。 第2回 算数科の指導のポイント：つまずきやすい単元とその指導 第3回 評価と学力調査をもとに分かれる授業を考える。 第4回 算数的・数学的思考とは何か？ 第5回 子どもの発達と算数 第6回 ICTを活用した算数の授業づくり 第7回 授業プラン作成（1）グループごとに教材研究を行い、指導案の単元計画を立てる。 第8回 授業プラン作成（2）グループごとに模擬授業で行う本時の展開と板書計画を立てる。 第9回 授業プラン作成（3）グループごとに指導案を完成させ、検討会を行う。 第10回 模擬授業（1）グループごとに模擬授業を実施し、簡単な事後検討会を行う。 第11回 模擬授業（2）グループごとに模擬授業を実施し、簡単な事後検討会を行う。 第12回 模擬授業（3）グループごとに模擬授業を実施し、簡単な事後検討会を行う。 第13回 学力調査やテストの事例をもとに、算数・数学教育研究の動向を学ぶ 第14回 授業プランを洗練し、アクティブラーニングとその評価を取り入れた単元を計画する。 第15回 まとめ：講義全体を振り返り、レポートを作成する。					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、事前に指定するキーワードについて、指定した参考書等で下調べをする。（学習時間2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容を十分確認し、要点を整理して課題に対するレポートを作成する。（学習時間2時間）					
授業方法	講義：授業テーマに基づき、グループまたはペアによる課題解決型のディスカッションを行い、重要事項についてプレゼンテーションで講義・解説を行う。 模擬授業：3名程度のグループにより教材研究を行い、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。					
評価基準と評価方法	意欲 発表および授業毎の課題 20 % 知識 指導案およびレポート 60 % 適正 模擬授業 20 %					
履修上の注意	・関心や意欲を高め、自分なりの意見を持って授業に臨むこと。 ・2／3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。					
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領解説 算数編 （平成29年7月）					
参考書	文部科学省 小学校学習指導要領 （平成29年3月）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	社会的養護I					
担当教員	大西 能成				科目ナンバー	T41040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	社会的養護の概要を学ぶ					
授業の概要	保育所保育指針に則って、保護者のない児童や保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行う必要性について学ぶとともに、「子どもの最善の利益のために」と「社会全体で子どもを育む」という社会的養護の理念について理解する。そのうえで、社会的養護がどのようにこれまでに展開してきたのか、また、現在どのような制度・方法の下で行われているのか、といった基本的な内容について理解し、社会的養護の体系や施設養護の実際、役割を学ぶ。					
到達目標	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。					
授業計画	第1回オリエンテーション、社会的養護とは 第2回社会的養護の基本理念と原理 第3回社会的養護の現状 第4回社会的養護の歴史 第5回子どもの権利擁護 第6回社会的養護の制度と法体系 第7回社会的養護の仕組みと実施体制 第8回社会的養護の領域と概要（1）：施設養護① 第9回社会的養護の領域と概要（2）：施設養護② 第10回社会的養護の領域と概要（3）：家庭養護 第11回社会的養護に関わる専門職と職業倫理 第12回社会的養護とソーシャルワーク 第13回社会的養護の課題（1）：新しい社会的養育ビジョン 第14回社会的養護の課題（2）：親・家族、地域支援など 第15回まとめ、試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回の授業対象範囲を参考書等で予習すること（60分） 授業後学習：毎回授業後にリアクションペーパーを提出のこと。 また講義資料等により授業で学んだ内容を確認、整理し、不明な点等を明らかにすること（60分） その他：日頃から、社会的養護（児童虐待、児童福祉施設、里親、養子縁組など）に関心をもち、新聞、テレビ、書籍等が扱う問題等について自分なりの考え方を持つこと また、レポート課題について自分の意見等をまとめ、提出すること					
授業方法	講義					
評価基準と評価方法	平常点：30% 毎回、授業での学び、感想などに関するコメント、質問等についてリアクションペーパーを提出のこと（各回の到達度等を確認するとともに、講義内容等についての意見などが自分の言葉で書かれているかなどを評価） レポート：20% 提出はもとより、課題に対応した内容・記述の的確さ（自分の考えなどが簡潔かつ分かりやすくまとめられているか）等を評価 試験：50% 筆記試験により授業全体の目標に対する到達度を確認					
履修上の注意	授業回数の2/3以上の出席に満たない学生は試験の受験資格を失う なお、遅刻、早退は欠席1/2としてカウントする					
教科書	授業時に資料（プリント）配布					
参考書	新・基本保育シリーズ6「社会的養護I」（中央法規出版） 監修：公益財団法人児童育成協会 編集：相澤仁/林浩康 ISBN 978-4-8058-5786-1 みらい×子どもの福祉ブックス「社会的養護」（みらい） 監修：喜多一憲 編集：堀場純矢 ISBN 978-4-86015-418-9					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	社会的養護I					
担当教員	大西 能成				科目ナンバー	T41040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	社会的養護の概要を学ぶ					
授業の概要	保育所保育指針に則って、保護者のない児童や保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行う必要性について学ぶとともに、「子どもの最善の利益のために」と「社会全体で子どもを育む」という社会的養護の理念について理解する。そのうえで、社会的養護がどのようにこれまでに展開してきたのか、また、現在どのような制度・方法の下で行われているのか、といった基本的な内容について理解し、社会的養護の体系や施設養護の実際、役割を学ぶ。					
到達目標	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。					
授業計画	第1回オリエンテーション、社会的養護とは 第2回社会的養護の基本理念と原理 第3回社会的養護の現状 第4回社会的養護の歴史 第5回子どもの権利擁護 第6回社会的養護の制度と法体系 第7回社会的養護の仕組みと実施体制 第8回社会的養護の領域と概要（1）：施設養護① 第9回社会的養護の領域と概要（2）：施設養護② 第10回社会的養護の領域と概要（3）：家庭養護 第11回社会的養護に関わる専門職と職業倫理 第12回社会的養護とソーシャルワーク 第13回社会的養護の課題（1）：新しい社会的養育ビジョン 第14回社会的養護の課題（2）：親・家族、地域支援など 第15回まとめ、試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回の授業対象範囲を参考書等で予習すること（60分） 授業後学習：毎回授業後にリアクションペーパーを提出のこと。 また講義資料等により授業で学んだ内容を確認、整理し、不明な点等を明らかにすること（60分） その他：日頃から、社会的養護（児童虐待、児童福祉施設、里親、養子縁組など）に関心をもち、新聞、テレビ、書籍等が扱う問題等について自分なりの考え方を持つこと また、レポート課題について自分の意見等をまとめ、提出すること					
授業方法	講義					
評価基準と評価方法	平常点：30% 毎回、授業での学び、感想などに関するコメント、質問等についてリアクションペーパーを提出のこと（各回の到達度等を確認するとともに、講義内容等についての意見などが自分の言葉で書かれているかなどを評価） レポート：20% 提出はもとより、課題に対応した内容・記述の的確さ（自分の考えなどが簡潔かつ分かりやすくまとめられているか）等を評価 試験：50% 筆記試験により授業全体の目標に対する到達度を確認					
履修上の注意	授業回数の2/3以上の出席に満たない学生は試験の受験資格を失う なお、遅刻、早退は欠席1/2としてカウントする					
教科書	授業時に資料（プリント）配布					
参考書	新・基本保育シリーズ6「社会的養護I」（中央法規出版） 監修：公益財団法人児童育成協会 編集：相澤仁/林浩康 ISBN 978-4-8058-5786-1 みらい×子どもの福祉ブックス「社会的養護」（みらい） 監修：喜多一憲 編集：堀場純矢 ISBN 978-4-86015-418-9					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	社会的養護II					
担当教員	塚元 重範				科目ナンバー	T42100
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	社会的養護を必要とする子どもの現状と援助の実際を通して、施設養護の専門性と子どもの理解、専門的なかかわり方を学ぶ。					
授業の概要	この科目では、児童福祉施設の役割や援助の実際を通して、社会的養護を必要とする子どもの現状と援助のあり方を学ぶ。健康や食事、排せつ、衣服の着脱、清潔、睡眠など養護内容の実践領域に沿って、施設職員としての役割や技術を理解し、施設養護の専門性と子どもの理解、専門的なかかわり方を学ぶ。加えて、施設に入所している子どもやその保護者、家族のこころの理解や基本的な応対を学ぶとともに適切な対応方法や対応の留意点を考える。					
到達目標	1. 社会的養護の基礎的な内容について理解した上で、施設養護及び家庭養護の実際について理解し説明できる。 【知識・理解】 2. 社会的養護における生活支援や家庭支援の方法・技術について理解し、専門家の指導の下で基本的な支援が実践できる。 【汎用的技能】					
授業計画	第1回 オリエンテーション及び社会的養護の現状 第2回 施設養護と家庭養護、里親 第3回 施設養護における生活支援1（健康、食事等） 第4回 施設養護における生活支援2（排泄、衣服の着脱等） 第5回 施設養護における生活支援3（清潔、睡眠等） 第6回 問題行動と子どもの理解 第7回 施設養護の実際と子どもへの具体的な対応方法 第8回 施設養護における治療的支援と職種間連携 第9回 施設養護における自立支援 第10回 アセスメントと自立支援計画の作成 第11回 家庭支援と他機関との連携 第12回 社会的養護に関わる相談援助の知識と技術とその実践 第13回 子どもの権利擁護と守る仕組み 第14回 社会的養護の課題と展望 第15回 まとめと試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・児童福祉施設及び里親に関連する新聞記事や社会的養護観点のテキスト・参考書等を読んで、問題点などを考えるようすること（2時間） ・授業内でディスカッションした内容と解説・講義の中での内容についてまとめること（2時間）					
授業方法	講義及びグループディスカッションを中心に行うが、テーマによっては職員と子ども役でのロールプレイ等の演習を導入する					
評価基準と評価方法	平常点 20%（授業内の提出物、質疑応答） 小レポート 30% 試験 50%					
履修上の注意	・毎回出席を原則とし、無断欠席は禁ずる ・授業に用いる資料、プリントは授業参加者に配布する					
教科書	隨時、資料を配布					
参考書	基本保育シリーズ18 「社会的養護内容」 監修 公益財団法人児童育成協会 中央法規 児童の福祉を支える 演習「社会的養護II」 編著 吉田眞理 萌文書林 演習・保育と社会的養護実践 編集 橋本好市 原田旬哉 みらい みらい×子どもの福祉ブックス 社会的養護II 喜多一憲監修 みらい					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	社会的養護II					
担当教員	塚元 重範				科目ナンバー	T42100
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	社会的養護を必要とする子どもの現状と援助の実際を通して、施設養護の専門性と子どもの理解、専門的なかかわり方を学ぶ。					
授業の概要	この科目では、児童福祉施設の役割や援助の実際を通して、社会的養護を必要とする子どもの現状と援助のあり方を学ぶ。健康や食事、排せつ、衣服の着脱、清潔、睡眠など養護内容の実践領域に沿って、施設職員としての役割や技術を理解し、施設養護の専門性と子どもの理解、専門的なかかわり方を学ぶ。加えて、施設に入所している子どもやその保護者、家族のこころの理解や基本的な応対を学ぶとともに適切な対応方法や対応の留意点を考える。					
到達目標	1. 社会的養護の基礎的な内容について理解した上で、施設養護及び家庭養護の実際にについて理解し説明できる。 【知識・理解】 2. 社会的養護における生活支援や家庭支援の方法・技術について理解し、専門家の指導の下で基本的な支援が実践できる。 【汎用的技能】					
授業計画	第1回 社会的養護の現状と課題 第2回 施設養護と家庭養護、里親 第3回 施設養護における生活支援（健康、食事、排泄等） 第4回 施設養護における生活支援2（衣服の着脱、清潔、睡眠等） 第5回 問題行動と子どもの理解 第6回 施設における治療的支援と職種間連携 第7回 施設における自立支援と家庭支援、他機関との連携 第8回 まとめと試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・児童福祉施設及び里親に関連する新聞記事や社会的養護観点のテキスト・参考書等を読んで、問題点などを考えるようすること（2時間） ・授業内でディスカッションした内容と解説・講義の中での内容についてまとめること（2時間）					
授業方法	講義及びグループディスカッションを中心に行うが、テーマによっては職員と子ども役でのロールプレイ等の演習を導入する					
評価基準と評価方法	平常点 20%（授業内の提出物、質疑応答） 小レポート 30% 試験 50%					
履修上の注意	・毎回出席を原則とし、無断欠席は禁ずる ・授業に用いる資料、プリントは授業参加者に配布する					
教科書	隨時、資料を配布					
参考書	基本保育シリーズ18 「社会的養護内容」 監修 公益財団法人児童育成協会 中央法規 児童の福祉を支える 社会的養護II 編著 吉田眞理 萌文書林 演習・保育と社会的養護実践 編集 橋本好市 原田旬哉 みらい					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	障害児保育					
担当教員	谷川 弘治				科目ナンバー	T42110
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	障害のある子どもと家族が、安定した生活の中で成長・発達していくような保育を構成していくための考え方と方法を学ぶ。					
授業の概要	障害のある子どもの保育は、子どもの状態に応じた保育によって生活に適応し、発達が促進されるよう個別のかわりを含めた取り組みが必要となる。また、一緒に生活する子どもたちと共に発達していくような配慮が必要となる。そのため、家族や専門機関との連携を行っていく必要がある。本講義では、これら障害児保育の基本課題を踏まえ、保育所において出会うことのある代表的な障害の基本的理解と合理的な配慮を深めると共に、日々の保育実践の展開の方法を学ぶことから始める。その上で、保護者の支援、きょうだいの支援に保育士としてどのようにかかわるかについて、検討を進めていきたい。					
到達目標	1. 障害のある子どもと家族が抱えがちな生活のし辛さを理解し、どのような配慮が求められるかについて説明できる。 2. 個々の子どもと家族の状況を把握し、特別な支援を含む適切な保育を保護者や関係者と共に構成し、展開していく方法を説明できる。 3. 障害のある子どもの保護者は、保育士にとって共に子どもの生活を支え、発達を促進するパートナーであると共に、支えられるべき存在でもあることを理解し、保護者が子育てに自信をもつことができるよう支援の進め方を説明できる。 4. 障害のある子どものきょうだいの支援について関心をもち、保育士としてできることを検討できる。					
授業計画	第1回：障害のある子どもと保育 第2回：発達の個人差と偏り 第3回：障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する ①視覚障害、聴覚障害、肢体不自由 第4回：障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する②知的障害、発達障害 第5回：障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する③病弱・身体虚弱 第6回：支援方法を理解する①「心の支援」 第7回：支援方法を理解する②「発達論による支援」 第8回：支援方法を理解する③「行動への支援」 第9回：支援方法を理解する④「環境調整による支援」 第10回：支援方法を理解する⑤「家族及び周囲の人の連携による支援」 第11回：保護者の支援 第12回：きょうだいの支援 第13回：医療、福祉との連携 第14回：個別の教育支援計画 第15回：ケーススタディ 定期試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 授業前準備学習：プレパレーションペーパー（レポート）の作成（学習時間120分程度） ・プレパレーションペーパーは「レポート」として評価する。 ・課題は授業の原則1週間前にマナバに掲示する。テキストの指定箇所（必要に応じて配付資料）を参照して課題を完成させ、期限内にマナバ経由で提出する。 教材・教具の作成等、マナバで提出が難しい場合は、授業当日に提出するように指示する。 ・プレパレーションペーパーは受講生全員が閲覧できるように設定するので、個人の経験等を記述する場合は、個人情報等に留意すること。 ・授業計画とテキストの該当箇所は下記の通りである。 学習状況を踏まえて調整する場合はマナバにて通知する。 第1回 テキストlesson1 第2回 テキストlesson2, 3 第3回 テキストlesson4 第4回 テキストlesson4, lesson5 第5回 テキストlesson4 第6回 テキストlesson6 第7回 テキストlesson7 第8回 テキストlesson8 第9回 テキストlesson9 第10回 テキストlesson10 第11回 テキストlesson14 第12回 別途配付資料 第13回 別途配付資料 第14回 テキストlesson11, 12 第15回 テキストlesson13 2. 授業後学習：振り返り（学習時間60分程度） ・授業資料の末尾にノート欄をおくので、授業を通して得ることができた知識や技能、疑問点、今後深めていくたい点を整理する。 ・ノートと合わせて返却されたリアクションペーパーを整理しておく。 ・プレパレーションペーパー等の提出物は再提出を求める場合がある。その場合は、期限までに提出する。					

授業方法	<ul style="list-style-type: none"> 講義にグループワーク、発表等を加えて進めていく。 提出されたプレパレーションペーパーの内容と教員のコメントを共有して授業（講義、グループワーク）に活かしていく。 学生が主体となってミニ授業等を行うことがある。
評価基準と評価方法	定期試験 50% レポート 35% 発表・提出物 15% 発表・提出物は、グループワークの成果物やリアクションペーパーをさす。
履修上の注意	<p><連絡></p> <ul style="list-style-type: none"> 上述の準備課題に加え、各種の連絡はマナバを通して行う。マナバのリマインダには注意する。 <p><欠席></p> <ul style="list-style-type: none"> 資料類やリアクションペーパーは適宜、出席者に配付する。欠席した場合は教員研究室にて受け取るか、つぎの授業回で受け取る。 学外実習等による欠席の際は、実習終了後、テキスト等の該当箇所を読んでプレパレーションペーパーを作成して提出する。また、講義資料に示されている課題に取り組んで、提出する。 授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末テストの受験資格を失うものとする。 <p><評価></p> <ul style="list-style-type: none"> 目標への配分（各々について定期テスト50%，レポート35%，発表・提出物15%） <ul style="list-style-type: none"> ①障害のある子どもと家族が抱えがちな生活のし辛さを理解し、どのような配慮が求められるかについて説明できる（知識・技術）。40点 ②個々の子どもと家族の状況を把握し、特別な支援を含む適切な保育を保護者や関係者と共に構成し、展開していく方法を説明できる（汎用的技能）。40点 ③障害のある子どもの保護者は、保育士にとって共に子どもの生活を支え、発達を促進するパートナーであると共に、支えられるべき存在でもあることを理解し、保護者が子育てに自信をもつことができるよう支援の進め方を説明できる（知識・技術）。10点 ④障害のある子どものきょうだいの支援について関心をもち、保育士としてできることを検討できる（知識・技術）。10点 評価基準が下記を基本とする。 <ul style="list-style-type: none"> AA, A : 根拠をもって述べることができる、発展性・独自性が認められる。 B : おおむね基本を押さえている。 C : 基本を押さえているが不十分な箇所が目立つ。 ・プレパレーションペーパーはテキスト及び配付物の概要や基礎となる知識を整理する重要な要素であり「レポート」として評価する（全体の35%）。記述が不十分な場合には再提出を求めることがある。 ・グループワークの成果物には、発表やミニ授業とその際に使われた資料類を含む。また、振り返りのためにリアクションペーパーの提出を求めることがある。これらは「発表・提出物」として評価する（全体の15%）。 <p><理解を確実なものとするために></p> <ul style="list-style-type: none"> 授業内容の理解のためには、ボランティア活動等で障害のある子どもと接する機会を設けることが望ましい。ボランティア活動が難しい場合は、図書館にあるDVDを視聴するなど、経験を補うことが不可欠である。 <p><試験について></p> <ul style="list-style-type: none"> 定期試験は16回目に実施する。 定期試験の詳細は授業中に説明する。
教科書	『障害児保育ワークブック』、星山麻木（編）、萌文書林、978-4-89347-250-2
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 『障害のある子の支援計画作成事例集 発達を支える障がい児支援利用計画と個別支援計画』、日本相談支援専門員協会（編）、中央法規、978-4-8058-5292-7 『基礎から学ぶ障害児保育』、小川英彦（編）、ミネルヴァ書房、978-4-623-07991-9 『障害児保育』、第2版、鯨岡峻（編）、ミネルヴァ書房、978-4-623-06549-3 『保育者のためのテキスト 障害児保育』、近藤直子・白石正久・中村尚子（編）、全障研出版部、978-4-88134-125-4 『医療保育セミナー』、日本医療保育学会（編）、健帛社、978-4-7679-5033-4

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	障害児保育					
担当教員	谷川 弘治				科目ナンバー	T42110
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	障害のある子どもと家族が、安定した生活の中で成長・発達していくような保育を構成していくための考え方と方法を学ぶ。					
授業の概要	障害のある子どもの保育は、子どもの状態に応じた保育によって生活に適応し、発達が促進されるよう個別のかわりを含めた取り組みが必要となる。また、一緒に生活する子どもたちと共に発達していくような配慮が必要となる。そのため、家族や専門機関との連携を行っていく必要がある。本講義では、これら障害児保育の基本課題を踏まえ、保育所において出会うことのある代表的な障害の基本的理解と合理的な配慮を深めると共に、日々の保育実践の展開の方法を学ぶことから始める。その上で、保護者の支援、きょうだいの支援に保育士としてどのようにかかわるかについて、検討を進めていきたい。					
到達目標	1. 障害のある子どもと家族が抱えがちな生活のし辛さを理解し、どのような配慮が求められるかについて説明できる。 2. 個々の子どもと家族の状況を把握し、特別な支援を含む適切な保育を保護者や関係者と共に構成し、展開していく方法を説明できる。 3. 障害のある子どもの保護者は、保育士にとって共に子どもの生活を支え、発達を促進するパートナーであると共に、支えられるべき存在でもあることを理解し、保護者が子育てに自信をもつことができるような支援の進め方を説明できる。 4. 障害のある子どものきょうだいの支援について関心をもち、保育士としてできることを検討できる。					
授業計画	第1回：障害のある子どもと保育 第2回：発達の個人差と偏り 第3回：障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する ①視覚障害、聴覚障害、肢体不自由 第4回：障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する②知的障害、発達障害 第5回：障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する③病弱・身体虚弱 第6回：支援方法を理解する①「心の支援」 第7回：支援方法を理解する②「発達論による支援」 第8回：支援方法を理解する③「行動への支援」 第9回：支援方法を理解する④「環境調整による支援」 第10回：支援方法を理解する⑤「家族及び周囲の人の連携による支援」 第11回：保護者の支援 第12回：きょうだいの支援 第13回：医療、福祉との連携 第14回：個別の教育支援計画 第15回：ケーススタディ 定期試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 授業前準備学習：プレパレーションペーパー（レポート）の作成（学習時間120分程度） ・プレパレーションペーパーは「レポート」として評価する。 ・課題は授業の原則1週間前にマナバに掲示する。テキストの指定箇所（必要に応じて配付資料）を参照して課題を完成させ、期限内にマナバ経由で提出する。 教材・教具の作成等、マナバで提出が難しい場合は、授業当日に提出するように指示する。 ・プレパレーションペーパーは受講生全員が閲覧できるように設定するので、個人の経験等を記述する場合は、個人情報等に留意すること。 ・授業計画とテキストの該当箇所は下記の通りである。 学習状況を踏まえて調整する場合はマナバにて通知する。 第1回 テキストlesson1 第2回 テキストlesson2, 3 第3回 テキストlesson4 第4回 テキストlesson4, lesson5 第5回 テキストlesson4 第6回 テキストlesson6 第7回 テキストlesson7 第8回 テキストlesson8 第9回 テキストlesson9 第10回 テキストlesson10 第11回 テキストlesson14 第12回 別途配付資料 第13回 別途配付資料 第14回 テキストlesson11, 12 第15回 テキストlesson13 2. 授業後学習：振り返り（学習時間60分程度） ・授業資料の末尾にノート欄をおくので、授業を通して得ることができた知識や技能、疑問点、今後深めていくたい点を整理する。 ・ノートと合わせて返却されたリアクションペーパーを整理しておく。 ・プレパレーションペーパー等の提出物は再提出を求める場合がある。その場合は、期限までに提出する。					

授業方法	<ul style="list-style-type: none"> 講義にグループワーク、発表等を加えて進めていく。 提出されたプレパレーションペーパーの内容と教員のコメントを共有して授業（講義、グループワーク）に活かしていく。 学生が主体となってミニ授業等を行うことがある。
評価基準と評価方法	<p>定期試験 50% レポート 35% 発表・提出物 15%</p> <p>発表・提出物は、グループワークの成果物やリアクションペーパーをさす。</p>
履修上の注意	<p><連絡></p> <ul style="list-style-type: none"> 上述の準備課題に加え、各種の連絡はマナバを通して行う。マナバのリマインダには注意する。 <p><欠席></p> <ul style="list-style-type: none"> 資料類やリアクションペーパーは適宜、出席者に配付する。欠席した場合は教員研究室にて受け取るか、つぎの授業回で受け取る。 学外実習等による欠席の際は、実習終了後、テキスト等の該当箇所を読んでプレパレーションペーパーを作成して提出する。また、講義資料に示されている課題に取り組んで、提出する。 授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末テストの受験資格を失うものとする。 <p><評価></p> <ul style="list-style-type: none"> 目標への配分（各々について定期テスト50%, レポート35%, 発表・提出物15%） <ul style="list-style-type: none"> ①障害のある子どもと家族が抱えがちな生活のし辛さを理解し、どのような配慮が求められるかについて説明できる（知識・技術）。40点 ②個々の子どもと家族の状況を把握し、特別な支援を含む適切な保育を保護者や関係者と共に構成し、展開していく方法を説明できる（汎用的技能）。40点 ③障害のある子どもの保護者は、保育士にとって共に子どもの生活を支え、発達を促進するパートナーであると共に、支えられるべき存在でもあることを理解し、保護者が子育てに自信をもつことができるような支援の進め方を説明できる（知識・技術）。10点 ④障害のある子どものきょうだいの支援について関心をもち、保育士としてできることを検討できる（知識・技術）。10点 評価基準が下記を基本とする。 <p>AA, A : 根拠をもって述べることができる、発展性・独自性が認められる。</p> <p>B : おおむね基本を押さえている。</p> <p>C : 基本を押さえているが不十分な箇所が目立つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> プレパレーションペーパーはテキスト及び配付物の概要や基礎となる知識を整理する重要な要素であり「レポート」として評価する（全体の35%）。記述が不十分な場合には再提出を求めることがある。 グループワークの成果物には、発表やミニ授業とその際に使われた資料類を含む。また、振り返りのためにリアクションペーパーの提出を求めることがある。これらは「発表・提出物」として評価する（全体の15%）。 <p><理解を確実なものとするために></p> <ul style="list-style-type: none"> 授業内容の理解のためには、ボランティア活動等で障害のある子どもと接する機会を設けることが望ましい。ボランティア活動が難しい場合は、図書館にあるDVDを視聴するなど、経験を補うことが不可欠である。 <p><試験について></p> <ul style="list-style-type: none"> 定期試験は16回目に実施する。 定期試験の詳細は授業中に説明する。
教科書	『障害児保育ワークブック』、星山麻木（編）、萌文書林、978-4-89347-250-2
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 『障害のある子の支援計画作成事例集 発達を支える障がい児支援利用計画と個別支援計画』、日本相談支援専門員協会（編）、中央法規、978-4-8058-5292-7 『基礎から学ぶ障害児保育』、小川英彦（編）、ミネルヴァ書房、978-4-623-07991-9 『障害児保育』、第2版、鯨岡峻（編）、ミネルヴァ書房、978-4-623-06549-3 『保育者のためのテキスト 障害児保育』、近藤直子・白石正久・中村尚子（編）、全障研出版部、978-4-88134-125-4 『医療保育セミナー』、日本医療保育学会（編）、健帛社、978-4-7679-5033-4

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	小学国語					
担当教員	大石 正廣				科目ナンバー	T52040
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	確かに豊かな言語力を育てる国語科の教科専門力につける					
授業の概要	国語科教育の役割と課題、国語科の全体構造、国語科で育てる学力の系統、言葉の機能、子どもの言語発達と言語環境といった国語力を養うために必要な知識や、国語科の2領域「知識・技能」（言葉の特徴や使い方に関する事項、伝統的な言語文化）と「思考力・判断力・表現力」（話すこと・聞くこと、読むこと、書くこと）について理解する。これらの知識や内容の理解は、教材をもとに考察することで一層深められるので、現行教科書教材を取り上げながら、その指導の留意点や眼点等について学ぶ。					
到達目標	学習指導要領に示された小学校国語科における教育目標、育成をめざす資質・能力を理解し【知識・理解】、学習内容や指導上の留意点について理解を深める【汎用的技能】。					
授業計画	第1回：オリエンテーション：求められる国語力（資質・能力） 第2回：学習指導要領からみた国語教育の変遷と新学習指導要領「国語科」 第3回：学習指導要領「国語科」の目標、領域、学習内容 第4回：「読むこと」の指導：物語文の指導内容と系統、指導上の留意点 第5回：物語文章の指導1：低学年の典型作品と指導上の留意点 第6回：物語文章の指導2：高学年の典型作品と指導上の留意点 第7回：「読むこと」の指導：説明文の指導内容と系統、指導上の留意点 第8回：説明文章の指導1：低学年の典型作品と指導上の留意点 第9回：説明文章の指導2：高学年の典型作品と指導上の留意点 第10回：音声言語教育の内容と系統、指導上の留意点 第11回：書くことの指導内容と系統、指導上の留意点 第12回：語彙・漢字指導、書写の指導内容と留意点 第13回：伝統的な言語文化：指導の内容の系統、指導上の留意点 第14回：国語科における学習評価 第15回：言語力の向上、言語活動・言語生活の充実 定期試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱うテキストの当該箇所を予習し、事前にキーワードや課題について、指定された参考書や配布の資料で下調べする（2時間） 授業後学習：配付のレジメをもとに、授業で取り上げた内容の要点と重要個所を確認整理する。また、学べたこと、考えを深めたこと、さらに調べたいことなどをジャーナルとして記述しましておく。（2時間）					
授業方法	講義：授業内容のポイントについて、グループまたはペアによるディスカッション等を行う。グループ(ペア)ワークの報告を踏まえて、重要事項についてさらに解説・講義を行う。					
評価基準と評価方法	授業への参加度。積極的な学び（資料作成力やグループ内での積極的姿勢など）と各回のリアクションペーパーで50%、テスト（授業内容の理解）で50%。					
履修上の注意	1. グループ（ペア）ワークを多く取り入れるので、主体的で対話的な学びを求める。 2. 授業での資料は、各回の出席者のみ配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布する。） 3. 出席が授業回数の3分の2以上でないと期末試験の受験資格を失うものとする。					
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領解説 国語編（平成29年7月）					
参考書	文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	小学算数					
担当教員	尾上 昭・大下 阜司				科目ナンバー	T51010
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1~2	単位数 1.0
授業のテーマ	算数の楽しさを自ら体験する					
授業の概要	<p>学習者が算数的・数学的な見方・考え方を働きかせ、数学的に考えることができるように日常生活で用いる算数の基礎的事項をわかりなおす。こうした過程で、教師として指導する際のポイントを確認する。学生自らの算数数学の学びを土台に数の不思議さや面白さ、図形の美しさ、学習内容の系統性や移行・発展性の内容などを、数と計算・図形・測定・変化と関係・データの活用という小学校学習指導要領における各領域から考察し、理解していく。これにより、日常の事象を数理的に捉え、データに基づいて論理的・客観的に思考し、図や式、言葉として、簡潔・明瞭・的確に表す力を育成する。この科目はオムニバス方式とし、以下のように開講する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (尾上 昭／12回)</p> <p>計算のポイント、測定のポイント、関数関係のポイント、グラフやデータの活用のポイントについて数学と関連付けながら学ぶ。日常生活と算数のかかわりについて学び、大人として必要な数理的な思考について学ぶ。また、誤って理解されることが多い内包量と概念などをトピックに、算数数学をわかりなおす過程を通じて、子どもが算数を学ぶ過程を考察する。</p> <p>(大下 阜司／3回)</p> <p>図形の性質とポイント、面積と体積の関係などについて理解しなおす。</p>					
到達目標	算数の基本的な内容を理解するとともに、算数科教育の研究手法や楽しさを体得する。【知識・理解】【汎用的技能】					
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：授業内容説明。算数科の目標・内容。（担当：尾上）</p> <p>第2回 小数や分数とは何か？その意味と計算のポイント（担当：尾上）</p> <p>第3回 ことばと演算（加減乗除）の関係。（担当：尾上）</p> <p>第4回 数の世界と量の世界（担当：尾上）</p> <p>第5回 測定とは何か？測定のポイント（担当：尾上）</p> <p>第6回 内包量とは何か？①パーセントを理解する（担当：尾上）</p> <p>第7回 内包量とは何か？②速度や密度を使いこなす（担当：尾上）</p> <p>第8回 関数とは何か？比例、反比例、一次関数を中心に（担当：尾上）</p> <p>第9回 グラフやデータの活用のポイント（担当：尾上）</p> <p>第10回 子どもの認知発達と算数数学（担当：尾上）</p> <p>第11回 幼稚園児の遊びと算数の関係（4領域や算数的活動）を考える。（担当：尾上）</p> <p>第12回 図形の性質とポイント（担当：大下）</p> <p>第13回 図形と面積（担当：大下）</p> <p>第14回 算数・数学教育研究の歴史（担当：大下）</p> <p>第15回 試験と授業全体の振り返り（担当：尾上）</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、事前に指定するキーワードについて、指定した参考書等で下調べをする。（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理してレポートを作成し、松蔭manabaに投稿する。（学習時間2時間）</p>					
授業方法	講義：授業テーマに基づき、グループまたはペアによる課題解決型のディスカッションを行う。グループワークやペアワークの結果発表やプレゼンテーションを踏まえて、重要事項について講義・解説を行う。					
評価基準と評価方法	授業毎の課題20% 試験80%					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・関心や意欲を高め、自分なりの意見を持って授業に臨むこと。 ・2／3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。 					
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領解説 算数編（平成29年7月）					

参考書	文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月）
-----	--------------------------

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	小学算数					
担当教員	尾上 昭・大下 阜司				科目ナンバー	T51010
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1~2	単位数 1.0
授業のテーマ	算数の楽しさを自ら体験する					
授業の概要	<p>学習者が算数的・数学的な見方・考え方を働きかせ、数学的に考えることができるように日常生活で用いる算数の基礎的事項をわかりなおす。こうした過程で、教師として指導する際のポイントを確認する。学生自らの算数数学の学びを土台に数の不思議さや面白さ、図形の美しさ、学習内容の系統性や移行・発展性の内容などを、数と計算・図形・測定・変化と関係・データの活用という小学校学習指導要領における各領域から考察し、理解していく。これにより、日常の事象を数理的に捉え、データに基づいて論理的・客観的に思考し、図や式、言葉として、簡潔・明瞭・的確に表す力を育成する。この科目はオムニバス方式とし、以下のように開講する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (尾上 昭／12回)</p> <p>計算のポイント、測定のポイント、関数関係のポイント、グラフやデータの活用のポイントについて数学と関連付けながら学ぶ。日常生活と算数のかかわりについて学び、大人として必要な数理的な思考について学ぶ。また、誤って理解されることが多い内包量と概念などをトピックに、算数数学をわかりなおす過程を通じて、子どもが算数を学ぶ過程を考察する。</p> <p>(大下 阜司／3回)</p> <p>図形の性質とポイント、面積と体積の関係などについて理解しなおす。</p>					
到達目標	算数の基本的な内容を理解するとともに、算数科教育の研究手法や楽しさを体得する。【知識・理解】【汎用的技能】					
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：授業内容説明。算数科の目標・内容。（担当：尾上）</p> <p>第2回 小数や分数とは何か？その意味と計算のポイント（担当：尾上）</p> <p>第3回 ことばと演算（加減乗除）の関係。（担当：尾上）</p> <p>第4回 数の世界と量の世界（担当：尾上）</p> <p>第5回 測定とは何か？測定のポイント（担当：尾上）</p> <p>第6回 内包量とは何か？①パーセントを理解する（担当：尾上）</p> <p>第7回 内包量とは何か？②速度や密度を使いこなす（担当：尾上）</p> <p>第8回 関数とは何か？比例、反比例、一次関数を中心に（担当：尾上）</p> <p>第9回 グラフやデータの活用のポイント（担当：尾上）</p> <p>第10回 子どもの認知発達と算数数学（担当：尾上）</p> <p>第11回 幼稚園児の遊びと算数の関係（4領域や算数的活動）を考える。（担当：尾上）</p> <p>第12回 図形の性質とポイント（担当：大下）</p> <p>第13回 図形と面積（担当：大下）</p> <p>第14回 算数・数学教育研究の歴史（担当：大下）</p> <p>第15回 試験と授業全体の振り返り（担当：尾上）</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、事前に指定するキーワードについて、指定した参考書等で下調べをする。（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理してレポートを作成し、松蔭manabaに投稿する。（学習時間2時間）</p>					
授業方法	講義：授業テーマに基づき、グループまたはペアによる課題解決型のディスカッションを行う。グループワークやペアワークの結果発表やプレゼンテーションを踏まえて、重要事項について講義・解説を行う。					
評価基準と評価方法	授業毎の課題20% 試験80%					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・関心や意欲を高め、自分なりの意見を持って授業に臨むこと。 ・2／3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。 					
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領解説 算数編（平成29年7月）					

参考書	文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月）
-----	--------------------------

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	小学社会					
担当教員	村岡 弘朗				科目ナンバー	T52070
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	確かな学力が身に付き、楽しく学べる社会科学習のあり方を追究する					
授業の概要	社会科成立の趣旨を理解し、現在に至るまでの社会科教育史を概観し、小学校社会科教育は、公民的資質の基礎を養うことを究極の目標にしていることに理解する。さらに、学習指導要領で求められている資質・能力、教科の目標や内容を理解する。そして、それに基づいた授業づくりのための指導計画、指導案、教材研究、教材づくりについて理解をふかめ、1時間の授業案が作成できるようになる。					
到達目標	学習指導要領で示された社会科の教育目標や内容、育成を目指す資質・能力について理解を深める（理解・技能） 「問題解決的な学習」の理論を学び、教材や資料を作り、授業案に位置付けることができる。（理解・技能） 授業の各場面における自分の考えを、根拠をもってわかりやすく説明することができる（汎用的技能）					
授業計画	第1回 オリエンテーション：どのような社会科の授業が求められるか。 第2回 社会科教育の出発 第3回 社会科教育の変遷 第4回 学習指導要領で社会科に求められているもの　社会的なものの見方・考え方、指導と評価 第5回 第3学年の目標と内容（地域教材・市の学習）　地域の素材、人材、施設を生かす 第6回 第4学年の目標と内容（県の学習）地図帳の活用 第7回 第5学年の目標と内容（国の学習）国土と地理的環境 第8回 第6学年の目標と内容（政治単元）政治に関心を持たせるために 第9回 第6学年の目標と内容（歴史単元）人物・文化遺産中心の学習 第10回 問題解決的な学習（主体的・対話的で深い学び）　学習問題づくり 第11回 基礎的資料を活用する授業づくり　資料の特性を生かす 第12回 映像資料を活用する授業づくり　具体的でわかりやすい資料の活用 第13回 社会科教育における防災教育①：「生きる力」と社会科 第14回 社会科教育における防災教育②：「阪神・淡路大震災」をどう伝えるか 第15回 まとめ：講義全体を振り返る。テストをする。					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：学習にかかる学習指導要領を読み、課題意識をもって授業に臨めるようにする。（2時間） 授業後：授業で学習したことをノートに整理する。また、授業で話題になった事例や場所などに実際にに行って確かめたり、文献等でさらに詳しく調べたりする。（2時間）					
授業方法	重要な項目を講義し、それに関連する演習を行い、自分の考えを交流する。 自分のまとめたものや考えをプレゼンテーションする。					
評価基準と評価方法	[評価基準] ・社会科の理念や歴史的な変遷、学習指導要領で示されている目標や内容について理解できている。 ・各学年の目標や内容をふまえ、問題解決的な学習ができるような教材開発や資料作りができる。 [評価方法] ・毎授業の授業に取り組む態度、演習や授業のまとめ等の記述物・レポート：60%　・テスト：40%					
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した場合は定期試験の受験資格を失う。					
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領解説 社会編（平成29年7月）					
参考書	「主体的・対話的で深い学びを実現する社会科授業づくり」 北俊夫著（明治図書）					

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	小学生活						
担当教員	秋山 麗子				科目ナンバー	T51020	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1~2	単位数 1.0	
授業のテーマ	生活科の創設の背景や意図、ねらい及び歴史的な変遷について学ぶ						
授業の概要	小学校に入学した子どもたちに対して、小1プロブレムのことが問題にされている。本来は、この問題・課題を解決するために生活科が創設されている。また、生活科のような学習が、歴史的に何度も行われており、それらを学びながら、保育所・幼稚園での保育・教育と小学校低学年教育とを連携するとともに、遊びを取り入れた学習を行うなど小学校への円滑な移行が図られるように、小学校入門期の第1、2学年における生活科教育のあり方やカリキュラム構成のあり方などを学んでいく。						
到達目標	生活科の趣旨やねらい、特徴並びに児童中心主義的な教育の歴史的な変遷や在り方などについて理解する（知識・理解）とともに、自分なりに生活科の授業観・学習観をもつことができる。幼児教育と初等教育の接続として生活科を理解する。（汎用的技能）						
授業計画	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング 生活科学習の想起と特徴 生活科の基礎研究としての大正自由主義教育 生活科の基礎研究としてのコア・カリキュラム 戦後の教育の主な流れ：学習指導要領の変遷 生活科の創設：その背景や意図、ねらい 生活科の特徴：教科学習、合科的な学習、総合的な学習との違い 生活科の目的や目標：低学年期の望ましい教育や学習、生活科教育目標 生活科の内容：第1、2学年における内容構成・留意事項 生活科の学習：具体的な学習の流れ及び学習の実際 生活科における教師の役割：指導と支援の違い、学習場面での教師の働きかけ 生活科のカリキュラム構成：単元や年間指導計画の作成 生活科における評価：カリキュラム、学習指導、子どもの変容 小学校第3学年以上への円滑な移行：社会科や理科、他教科等への移行 まとめ：望ましい生活科教育・授業のあり方の総括及びレポート提出					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：テキストや参考文献に当たり、授業内容に合わせたキーワードについての予習を行うこと（学習時間：2時間） 授業後学習：生活科の教材となりうる自然や社会の様々な事象について目を向け調査研究をする。（学習時間：2時間）						
授業方法	・講義：グループによるワークショップやディスカッションを行う。また、生活科の学習内容について、グループまたはペアで調査研究をした結果を踏まえて、解説や講義を行う。						
評価基準と評価方法	・平常点50%（授業やグループ発表での意欲・関心・態度、小テスト、授業のワークシートの内容や意見・感想など） ・レポート50%（望ましい生活科教育のあり方、授業を受けての意見・感想など） ・意欲は授業への関心や態度、知識は授業での質問や小テスト、適正は授業中の言動や授業後の意見や感想、レポートなどから評価						
履修上の注意	・授業で使用したプリントは、各回の出席者のみ配布する。（欠席の場合は、翌週の授業時に限り再配布する）						
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領解説 生活編（平成29年7月） 文部科学省 小学校新学習指導要領の展開 生活編（平成29年10月）						
参考書	文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月）						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	小学生活						
担当教員	秋山 麗子				科目ナンバー	T51020	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1~2	単位数 1.0	
授業のテーマ	生活科の創設の背景や意図、ねらい及び歴史的な変遷について学ぶ						
授業の概要	小学校に入学した子どもたちに対して、小1プロブレムのことが問題にされている。本来は、この問題・課題を解決するために生活科が創設されている。また、生活科のような学習が、歴史的に何度も行われており、それらを学びながら、保育所・幼稚園での保育・教育と小学校低学年教育とを連携するとともに、遊びを取り入れた学習を行うなど小学校への円滑な移行が図られるように、小学校入門期の第1、2学年における生活科教育のあり方やカリキュラム構成のあり方などを学んでいく。						
到達目標	生活科の趣旨やねらい、特徴並びに児童中心主義的な教育の歴史的な変遷や在り方などについて理解する（知識・理解）とともに、自分なりに生活科の授業観・学習観をもつことができる。幼児教育と初等教育の接続として生活科を理解する。（汎用的技能）						
授業計画	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング 生活科学習の想起と特徴 生活科の基礎研究としての大正自由主義教育 生活科の基礎研究としてのコア・カリキュラム 戦後の教育の主な流れ：学習指導要領の変遷 生活科の創設：その背景や意図、ねらい 生活科の特徴：教科学習、合科的な学習、総合的な学習との違い 生活科の目的や目標：低学年期の望ましい教育や学習、生活科教育目標 生活科の内容：第1、2学年における内容構成・留意事項 生活科の学習：具体的な学習の流れ及び学習の実際 生活科における教師の役割：指導と支援の違い、学習場面での教師の働きかけ 生活科のカリキュラム構成：単元や年間指導計画の作成 生活科における評価：カリキュラム、学習指導、子どもの変容 小学校第3学年以上への円滑な移行：社会科や理科、他教科等への移行 まとめ：望ましい生活科教育・授業のあり方の総括及びレポート提出					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：テキストや参考文献に当たり、授業内容に合わせたキーワードについての予習を行うこと（学習時間：2時間） 授業後学習：生活科の教材となりうる自然や社会の様々な事象について目を向け調査研究をする。（学習時間：2時間）						
授業方法	・講義：グループによるワークショップやディスカッションを行う。また、生活科の学習内容について、グループまたはペアで調査研究をした結果を踏まえて、解説や講義を行う。						
評価基準と評価方法	・平常点50%（授業やグループ発表での意欲・関心・態度、小テスト、授業のワークシートの内容や意見・感想など） ・レポート50%（望ましい生活科教育のあり方、授業を受けての意見・感想など） ・意欲は授業への関心や態度、知識は授業での質問や小テスト、適正は授業中の言動や授業後の意見や感想、レポートなどから評価						
履修上の注意	・授業で使用したプリントは、各回の出席者のみ配布する。（欠席の場合は、翌週の授業時に限り再配布する）						
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領解説 生活編（平成29年7月） 文部科学省 小学校新学習指導要領の展開 生活編（平成29年10月）						
参考書	文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月）						

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	小学理科					
担当教員	内田 祐貴				科目ナンバー	T52030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	小学校における理科教育について、その指導に必要な科学の基礎を習得する。					
授業の概要	近年問題となっている理科離れを受け、理科が好きな教師、子どもの科学への探究心を育めるような教師となるために、小学校理科の授業に必要な科学の基礎基本を学習する。「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」の各領域について、その基本となる科学的知識を理解し、小学校で扱う科学を体系的に理解する。また、小学校理科で必要な、観察実験を行い、観察実験の基本的知識、技術を身に付けられるようにする。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校理科で教えるために必要な科学の基本知識を習得する。【知識・理解】【汎用的技能】 ・小学校理科で教えるための、観察実験の基本知識と技術を習得する。【知識・理解】 					
授業計画	第1回：オリエンテーション：小学校理科に必要な科学とは 第2回：科学の歴史と科学的考え方 第3回：実験の知識と技術 第4回：観察の知識と技術 第5回：「生命」領域①：植物の科学 第6回：「生命」領域②：動物、人体の科学 第7回：「地球」領域①：地質、地層の科学 第8回：「地球」領域②：太陽、月、星の科学 第9回：「粒子」領域①：物質の性質 第10回：「粒子」②：化学変化 第11回：「粒子」③：状態変化 第12回：「エネルギー」①：力 第13回：「エネルギー」②：電磁気 第14回：「エネルギー」③：エネルギー保存則 第15回：まとめ：講義全体の振り返りと定期試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で取り扱う単元を教科書などで予習し、ポイントになる点についてまとめておく（学習時間2時間） 授業後学習：松蔭manabaコースコンテンツを利用して、授業で扱った内容の確認、復習、改善方法を考察する（学習時間2時間）					
授業方法	講義と演習：必要事項について講義し、各人orペアで模擬授業案を作成し、実施に模擬授業を行う。その後、グループで模擬授業についてディスカッションし、全体で改善案を考える。					
評価基準と評価方法	授業中の小レポート50%、定期試験50%。					
履修上の注意	小学校免許取得希望者は「理科研究」と「理科指導法」をセットで履修すること。					
教科書	わくわく理科3年生～6年生（2020年度用） 啓林館 文部科学省 小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月） 東洋館出版社 ISBN: 978-4491034638					
参考書	なし					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	小学理科					
担当教員	内田 祐貴				科目ナンバー	T52030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	小学校における理科教育について、その指導に必要な科学の基礎を習得する。					
授業の概要	近年問題となっている理科離れを受け、理科が好きな教師、子どもの科学への探究心を育めるような教師となるために、小学校理科の授業に必要な科学の基礎基本を学習する。「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」の各領域について、その基本となる科学的知識を理解し、小学校で扱う科学を体系的に理解する。また、小学校理科で必要な、観察実験を行い、観察実験の基本的知識、技術を身に付けられるようにする。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校理科で教えるために必要な科学の基本知識を習得する。【知識・理解】【汎用的技能】 ・小学校理科で教えるための、観察実験の基本知識と技術を習得する。【知識・理解】 					
授業計画	第1回：オリエンテーション：小学校理科に必要な科学とは 第2回：科学の歴史と科学的考え方 第3回：実験の知識と技術 第4回：観察の知識と技術 第5回：「生命」領域①：植物の科学 第6回：「生命」領域②：動物、人体の科学 第7回：「地球」領域①：地質、地層の科学 第8回：「地球」領域②：太陽、月、星の科学 第9回：「粒子」領域①：物質の性質 第10回：「粒子」②：化学変化 第11回：「粒子」③：状態変化 第12回：「エネルギー」①：力 第13回：「エネルギー」②：電磁気 第14回：「エネルギー」③：エネルギー保存則 第15回：まとめ：講義全体の振り返りと定期試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で取り扱う単元を教科書などで予習し、ポイントになる点についてまとめておく（学習時間2時間） 授業後学習：松蔭manabaコースコンテンツを利用して、授業で扱った内容の確認、復習、改善方法を考察する（学習時間2時間）					
授業方法	講義と演習：必要事項について講義し、各人orペアで模擬授業案を作成し、実施に模擬授業を行う。その後、グループで模擬授業についてディスカッションし、全体で改善案を考える。					
評価基準と評価方法	授業中の小レポート50%、定期試験50%。					
履修上の注意	小学校免許取得希望者は「理科研究」と「理科指導法」をセットで履修すること。					
教科書	わくわく理科3年生～6年生（2020年度用） 啓林館 文部科学省 小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月） 東洋館出版社 ISBN: 978-4491034638					
参考書	なし					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	視覚障害教育総論					
担当教員	和角 輝美子				科目ナンバー	T61010
学期	後期 前半	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数 1.0
授業のテーマ	視覚障害の心理と生理、特性の基本的知識を理解し、視覚障害のある子どもの指導やその実際の基礎を学ぶ。					
授業の概要	本科目は特別支援教育に関する科目である。視覚障害の概念、特性や視覚障害教育の基礎知識を学ぶと共に、視覚障害のある子どもの発達的特徴を学びつつ、特別支援教育における視覚障害教育の位置や役割を理解する。視覚障害児教育の歴史を概観しつつ、視覚障害児教育の指導法や盲学校(視覚特別支援学校)における、幼稚部、小学部、中学部、高等部の教育課程や教育の実際を学ぶ。さらに視覚障害のある子どもの発達を理解すると共に、学びの特徴や、それを支援するための様々な方法について学ぶ。また視覚障害者の就労や進学などの進路保障についても知る。特別支援学校の教育現場や、インクルーシブ教育現場での視覚障害児の困り感や進学についての事例を通して、視覚障害教育が抱える問題を考える。					
到達目標	1. 視覚障害の基礎的な生理と病理を理解し、視覚障害のある子どもの感覚補償の観点から見た行動とその支援の方法を説明できる。 2. 視覚障害教育の基礎的な指導法やその実際を理解し、視覚障害のある子どもの発達に応じた指導の在り方を自分なりに検討できる。 3. 特別支援教育における視覚障害教育の課題と展望を自分なりに検討できる。					
授業計画	第1回：視覚障害の心理特性及び発達 第2回：特別支援教育における視覚障害教育の位置づけ 第3回：視覚障害の心理と病理 第4回：視覚障害教育の歴史 第5回：視覚障害のある子どもの障害特性に応じた支援①—発達的理解と認知的理解 第6回：視覚障害のある子どもの障害特性に応じた支援②—ロービジョン教育と盲教育 第7回：視覚障害のある人の進学、キャリア教育、就労 第8回：インクルージョン時代における視覚障害教育の課題と展望 定期試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	前回の授業を踏まえて次回の授業を行なうので、各回の授業を受けた後、その授業のノートや配布資料を見直して復習してください（学習時間1時間）。					
授業方法	講義と視覚障害体験（アイマスク装用による全盲体験、ロービジョン体験キットを利用した弱視体験）を行います。					
評価基準と評価方法	定期試験 40% レポート 60%					
履修上の注意	進度によって、授業のスケジュールを調整することがあります。第1回目の授業時に説明します。					
教科書	毎回の授業資料を作成し、それを基に授業を行なう。					
参考書	適宜、指示する。					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	肢体不自由児の教育と指導					
担当教員	垂髪 あかり				科目ナンバー	T62060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	肢体不自由のある子どもの内面に沿った理解と支援ができるようになるために、肢体不自由教育の歴史から学校教育現場における肢体不自由への指導の実際を学び、肢体不自由教育において何が大切にされているかを理解する。					
授業の概要	<p>本科目は特別支援教育に関する科目である。 肢体不自由教育の歴史や教育課程、自立活動等の基本事項について理解し、肢体不自由の特徴や指導法、個別の教育支援計画、個別の指導計画について考えることができるよう学ぶ。講義前半では「肢体不自由」の用語の概念、我が国における肢体不自由教育の発足と発展の道筋を紹介する。 また、近年の特別支援教育制度下における肢体不自由教育の現状と課題について解説する。講義中盤では肢体不自由特別支援学校における自立活動の指導の意義と内容の取扱いの基本、肢体不自由児特有の摂食指導、排泄指導やコミュニケーション指導等の実際を扱い、重複障害児に対する自立活動を中心とした指導についても紹介する。 講義終盤では児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援を行うための重要なツールである、個別の教育支援計画、個別の指導計画について理解できるよう解説する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 肢体不自由のある子どもの捉え方についての基本を理解し、子どもの内面に沿った支援ができるよう対象理解が深められる。【知識・理解】【態度・志向性】 肢体不自由教育の歴史について理解し、肢体不自由を含む特別支援学校の教育課程の基本類型と教育形態、編成上の特徴について説明できる。【知識・理解】 特別支援学校（肢体不自由）における自立活動の指導の特色および内容、指導方法について説明できる。【知識・理解】 特別支援学校（肢体不自由）における授業、教育活動全般を通した自立活動の指導（摂食指導、排泄指導等）、コミュニケーション指導等の理論と方法を説明できる。【知識・理解】 重複障害児の教育課程の内容と特徴について説明でき、訪問教育を含む重複障害児への指導の理論と方法について説明できる。【知識・理解】 特別支援学校（肢体不自由）における個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成・実施・評価、他職種との連携・協働について理解し、教師の立場にたったときをイメージして支援者の視点を明確にできる。【知識・理解】【汎用的技能】 					
授業計画	<p>第1回：肢体不自由のある子どもの捉え方「子どもの内面に沿った肢体不自由児の理解」 第2回：肢体不自由教育の歴史「肢体不自由教育の歴史と特別支援教育の現状と課題」 第3回：特別支援学校（肢体不自由）の教育課程①「教育法令における特別支援学校・特別支援学級」 第4回：特別支援学校（肢体不自由）の教育課程②「特別支援学校的教育課程」 第5回：特別支援学校（肢体不自由）の教育課程③「特別支援学校的学習指導要領」 第6回：特別支援学校（肢体不自由）の教育課程④「特別支援学校（肢体不自由）の教育課程編成上の配慮の実際」 第7回：特別支援学校（肢体不自由）の教育課程⑤「特別支援学校における自立活動の指導」 第8回：学校教育現場における肢体不自由児等への指導の実際①「肢体不自由教育の実際—特別支援学校（肢体不自由）における授業づくり」 第9回：学校教育現場における肢体不自由児等への指導の実際②「肢体不自由教育の実際—教育活動全般を通した自立活動の指導」 第10回：「学校教育現場における肢体不自由児等への指導の実際③「肢体不自由教育の実際—コミュニケーションの指導」 第11回：学校教育現場における肢体不自由児等への指導の実際④「肢体不自由教育の実際—各教科の指導」 第12回：学校教育現場における肢体不自由児等への指導の実際⑤「医療的ケアと他職種との連携」 第13回：肢体不自由児等の「個別の教育支援計画、個別の指導計画」①「個別の教育支援計画、個別の指導計画について」 第14回：肢体不自由児等の「個別の教育支援計画、個別の指導計画」②「個別の教育支援計画、個別の指導計画作成の実際」 第15回：まとめ</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：授業に関連するキーワードについて、授業中に指定した方法で下調べをし、manaba入力、またはワークシートに記入した上で授業に参加する。（学習時間2時間） 授業後学習：授業内に指示したテーマ・課題について報告文を作成し、manabaに入力する。（学習時間2時間）</p>					
授業方法	<p>ディスカッション：毎回、各テーマに関連したトピックについて調べてきたものに基づき、グループまたはペア、全体ディスカッションを行う。 講義：各回設定のテーマについて、解説・講義を行う。</p>					
評価基準と評価方法	<p>①毎回の記録用紙による評価（授業内容の概要ならびに感想・意見をまとめる）30% ②レポート提出と個別発表（文献収集等への意欲、発表内容の工夫等）35% ③定期試験35%</p>					
履修上の注意	出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 毎回の提出物、レポートの期限は守ること。					

教科書	<ul style="list-style-type: none">・文部科学省『特別支援学校学習指導要領』・『テキスト 肢体不自由教育』、初版、猪狩恵美子、河合隆平、櫻井宏明編全障研出版部、978-4881342459
参考書	<ul style="list-style-type: none">・『肢体不自由教育の基本とその展開』、初版、日本肢体不自由教育研究会（監修）、慶應義塾大学出版会、978-4766414097・『コミュニケーションの支援と授業づくり』、初版、日本肢体不自由教育研究会（監修）慶應義塾大学出版会、978-4766414103・『これから健康と医療的ケア』、初版、日本肢体不自由教育研究会（監修）、慶應義塾大学出版会、978-4766414110

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	重度重複障害教育総論					
担当教員	垂髪 あかり				科目ナンバー	T61050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	重度重複障害のある子どもの理解、重度重複障害児の教育課程、教育内容、具体的指導の展開についての基本的な視点を学ぶことを通して、教育現場における実践力を身につける。					
授業の概要	<p>授業の概要 本科目は特別支援教育に関する科目である。 重度重複障害児教育の歴史、重度重複障害についての基礎的な理解、重度重複障害のある子どもの教育目標、教育内容・方法、教育課程のあり方にについて概説を行う。特別支援学校の実践事例を紹介しながら、重い障害のある子どもへの理解や教育方法のあり方について学生が主体的に学べるよう留意する。また、訪問教育および医療的ケアについても概説するとともに、学校教育終了後の支援や地域生活支援についても概説する。講義では、重度重複障害児への指導の実際を写真や映像等で紹介することや重症心身障害児施設職員や重度重複障害児の家族をゲストに招いて講話を聴く機会を企画し、学生らが重度重複障害児者への教育に共感できるよう図っていく。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 重度重複障害のある子どもたちに対する基本的理解が可能になり、重い障害のある子どもたちへの共感的態度を身につける【知識・理解】【態度・志向性】 重度重複障害学級の位置づけと教育の現状を理解し、教育課程のあり方を学ぶ。【知識・理解】 「重複障害者等に関する教育課程の取り扱い」における指導の形態と指導計画の立て方を学ぶ。【知識・理解】 【汎用的技能】 関係機関との連携の重要性および個別の教育支援計画の有効性について理解する。【知識・理解】 					
授業計画	<p>第1回：重度重複障害児教育の歴史 第2回：重度重複障害の概念と子ども理解 第3回：重度重複障害児への教育指導 第4回：重度重複障害児の教育課程の概説 第5回：教育課程①「知的障害を併せ有する児童生徒の場合」 第6回：教育課程②「障害の状態により特に必要のある児童生徒の場合」 第7回：教育課程③「訪問教育の場合」 第8回：指導の形態と指導計画①「自立活動を主とした指導」 第9回：指導の形態と指導計画②「領域・教科を合わせた指導」 第10回：特別支援学校における重度重複障害児への指導の実際 第11回：訪問学級の指導の実際 第12回：個別の教育支援計画と個別の指導計画 第13回：学級経営と他職種との連携、医療的ケア（ゲストスピーカー） 第14回：危機管理について 第15回：関係諸機関との連携</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、事前に指定するキーワードについて、指定された参考書等で下調べをする（学習時間2時間） 授業後学習：授業内で指示したテーマ・課題について報告文を作成し、松蔭manabaコースコンテンツに投稿する（学習時間2時間）</p>					
授業方法	講義：各回テーマに基づき、グループもしくはペアでのディスカッションを行う。グループ（ペア）ワークの結果発表を踏まえて、各回設定のテーマについて解説・講義を行う。					
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 毎回の小レポートによる評価（授業内容の概要ならびに感想・意見をまとめる）20% 3つのレポート提出と個別発表（文献収集等への意欲、発表内容の工夫等）45% 定期試験 35% 					
履修上の注意	<p>出席回数が開講日数の2／3に満たないものには、原則単位認定は行わない。 遅刻、早退、途中退席等は、やむを得ない場合を除き、認めない。 毎回の提出物、レポートの期限は厳守すること。</p>					
教科書	<p>『重い障害を生きるということ』、初版、高谷清、岩波書店、978-4004313359 『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』（平成29年4月告示） 『<ヨコの発達>とは何か？：障害の重い子どもの発達保障』垂髪あかり、日本標準、978-4820806890</p>					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 『特別支援学校幼稚部教育要領』（平成29年4月告示） 『特別支援学校高等部学習指導要領』（平成30年度告示予定） 『特別支援学校学習指導要領解説』幼稚部・小学部・中学部（平成30年3月） 『障害の重い子どもの指導Q&A』、初版、全国特別支援学校肢体不自由教育校長会、ジアース教育新社、978-4863711730 『重症児教育』、初版、兵庫県重症心身障害児教育研究集会実行委員会編、クリエイツかもがわ、978-4902244236 『障害の重い子どもの教育実践ハンドブック』、初版、大久保哲夫、三島敏男、竹沢清勞働旬報社、978-4845104659 『障害の重い子どもの授業づくり』、飯野順子、授業づくり研究会、I&Mシリーズ 					

参考書	<ul style="list-style-type: none">・『重症児の発達と指導』、初版、細渕富夫、全国障害者問題研究会出版部、978-4881344941・『瞳輝いて 重症心身障害児の教育』、初版、藤本文朗、白石正久、上田和美、全国障害者問題研究会出版部、978-4881349137・『重症児の心に迫る授業づくり—生活の主体者として育てる』、初版、三木裕和、原田文孝、白石正久、河南勝、株式会社かもがわ出版、978-4876993161
-----	---

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	児童体育					
担当教員	前田 正登				科目ナンバー	T52060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	小学校における体育科の理論と実践					
授業の概要	小学校学習指導要領に基づき、各学年における指導の領域を理解し、指導する力を身につける。また、幼児教育、中等教育との接続を踏まえ、自身の身体能力を高めることは勿論のこと、情緒面や知的発達を促すことや集団活動などを通じてコミュニケーション能力を育成し、教師としてこれらを育成する前提となる学習を行う。さらに、論理的思考力を育むことを踏まえ、生涯にわたって運動に親しむことができるよう指導する能力を養う。					
到達目標	小学校における体育科を考えるとき、低学年においては幼児期の運動発達をしっかりと捉える必要がある。そのためには教師自身が幼小の連携について理解しておかなければならぬ。本授業の到達目標は、①各学年において学習する運動領域を理解する【知識・理解】、②小学校体育のあり方を実践的に学び、教師としての資質・能力を高める【汎用的技能】、の2つができることとする。					
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業概要と導入 意識づけ 第2回 小学校体育の意義とねらい 第3回 学習指導要領 基本方針及び改善事項の理解 第4回 幼児期の運動遊び 第5回 小学校体育の考え方 第6回 からだほぐし運動 第7回 からだつくり運動 第8回 ボール運動（中学年） 第9回 ボール運動（高学年） 第10回 子どもの体力と遊び 第11回 走・跳の運動 第12回 器械運動（マット・跳び箱） 第13回 ボール運動（ゴール型） 第14回 ボール運動（ベースボール型） 第15回 まとめと試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	小学校学習指導要領解説 体育編および小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック 低学年・中学年・高学年を読み、各学年の目標や内容を把握しておくこと。〈準備のための学習：1.5時間〉。また、授業後にはその授業回のテーマおよび内容についてまとめるとともに発展型として、その回のテーマでの授業指導案を簡易的に作成する〈応用の学習：2.5時間〉。					
授業方法	講義と演習					
評価基準と評価方法	授業態度(50%)、課題達成度(30%)、レポート(20%)					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・教師になるための授業であることを理解し、まじめに取り組むこと。 ・授業に臨む態度は厳正に評価する。 ・演習にあたっては、運動に適した服装で、シューズを着用し頭髪などの身なりを整えて受講すること。 ・12回以上出席すること。 <p>※ 授業に関しての質問は授業の前後に受け付けます。それ以外の時間帯は、教職支援センターに申し出ください。</p>					
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月）					
参考書	文部科学省 小学校学習指導要領解説 体育編（平成29年7月） 小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック 低学年・中学年・高学年					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	スポーツと健康					
担当教員	藤木 大三				科目ナンバー	T01050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	本学学生以前に、社会の一員として豊かで健康的な社会生活を送るために、不可欠な基礎要件としての資質に関する認識と自己の実現を、様々な身体活動や講義を通して学習、実践していくことを目的とする。					
授業の概要	<p>授業は、主に教室での講義を中心に進める。また学期中、体育館等での履修学生自身の能動的な学び（Active Learning）の機会も設けながら、学習内容をより実践的に体得していく、という形式で行う。</p> <p>また履修学生全員が、以下のいずれかの方法で「スポーツ」、「身体活動」、および「健康」に関する授業外自己学習を行い、学期期間中に全体へのプレゼンテーションを行うことを義務付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「スポーツ関連書」読後感想 2. 「スポーツ実体験（個人）」と実践報告 3. 「スポーツ実体験（グループワーク）」と実践報告 					
到達目標	<p>本授業を通して、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 普段の学生生活から、より健康への意識を高めることができる。【知識・理解】 2. 美技体験を通して、履修学生同士が今以上にコミュニケーションを深めることができる。【汎用的技能】 3. 他にはないユニークな授業実践を通して、本学学生としてのアイデンティティを高めることができる。【態度・志向性】 					
授業計画	<p>第1回：授業概要オリエンテーション+講師自己紹介 第2回：体力についての再認識 第3回：体力について 第4回：筋力について 第5回：筋力についての基礎的知見を深める 第6回：授業フィードバックとしての実技体験1 第7回：ダイエットについて 第8回：知っておきたいダイエットの真実 第9回：脳の構造について 第10回：脳の構造から見た男女の相違について 第11回：授業フィードバックとしての実技体験2 第12回：子どもから健やかな老後へ 第13回：子どもから健やかな老後へのいざない 第14回：選択コース発表会1 第15回：選択コース発表会2</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>本授業では、グループワークを通しての講義内容の共通理解のみならず、他者を受容する実践学習を試みる。そのため、以下の授業外学習が必要となる。</p> <p>授業外学習1 内容：授業の復習およびグループワークのための資料収集 方法：図書館及びウェブ検索 時間：週2～3.5時間程度 内容：授業に関連した軽スポーツ及び運動 方法：自重トレーニング、ウォーキング等用具を用いずに実施できる運動全般 時間：週1～2時間程度</p>					
授業方法	授業は、講義とグループワークを中心に行われる予定である。また学期中複数回に渡り、主に体育館にて講義で学んだ内容をより深めるために、実践形式の講義授業も予定している。					
評価基準と評価方法	授業平常点 60 % 個人課題 30% 松蔭manaba経由での期末レポート提出 10%					
履修上の注意	まず授業に対して、前向きかつ積極的に取り組んでもらいたい。また、実践形式授業における技能の優劣は一切問わない。各自、身体活動出来る喜びを持って、本授業に臨んでいただきたい。					
教科書	特になし					
参考書	特になし					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	スポーツと健康					
担当教員	藤木 大三				科目ナンバー	T01050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	本学学生以前に、社会の一員として豊かで健康的な社会生活を送るために、不可欠な基礎要件としての資質に関する認識と自己の実現を、様々な身体活動や講義を通して学習、実践していくことを目的とする。					
授業の概要	<p>授業は、主に教室での講義を中心に進める。また学期中、体育館等での履修学生自身の能動的な学び（Active Learning）の機会も設けながら、学習内容をより実践的に体得していく、という形式で行う。</p> <p>また履修学生全員が、以下のいずれかの方法で「スポーツ」、「身体活動」、および「健康」に関する授業外自己学習を行い、学期期間中に全体へのプレゼンテーションを行うことを義務付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「スポーツ関連書」読後感想 「スポーツ実体験（個人）」と実践報告 「スポーツ実体験（グループワーク）」と実践報告 					
到達目標	<p>本授業を通して、</p> <ol style="list-style-type: none"> 普段の学生生活から、より健康への意識を高めることができる。【知識・理解】 実技体験を通して、履修学生同士が今以上にコミュニケーションを深めることができる。【汎用的技能】 他にはないユニークな授業実践を通して、本学学生としてのアイデンティティを高めることができる。【態度・志向性】 					
授業計画	<p>第1回：授業概要オリエンテーション+講師自己紹介 第2回：体力についての再認識 第3回：体力について 第4回：筋力について 第5回：筋力についての基礎的知見を深める 第6回：授業フィードバックとしての実技体験1 第7回：ダイエットについて 第8回：知っておきたいダイエットの真実 第9回：脳の構造について 第10回：脳の構造から見た男女の相違について 第11回：授業フィードバックとしての実技体験2 第12回：子どもから健やかな老後へ 第13回：子どもから健やかな老後へのいざない 第14回：選択コース発表会1 第15回：選択コース発表会2</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>本授業では、グループワークを通しての講義内容の共通理解のみならず、他者を受容する実践学習を試みる。そのため、以下の授業外学習が必要となる。</p> <p>授業外学習1 内容：授業の復習およびグループワークのための資料収集 方法：図書館及びウェブ検索 時間：週2～3.5時間程度 内容：授業に関連した軽スポーツ及び運動 方法：自重トレーニング、ウォーキング等用具を用いずに実施できる運動全般 時間：週1～2時間程度</p>					
授業方法	授業は、講義とグループワークを中心に行われる予定である。また学期中複数回に渡り、主に体育館にて講義で学んだ内容をより深めるために、実践形式の講義授業も予定している。					
評価基準と評価方法	授業平常点 60 % 個人課題 30% 松蔭manaba経由での期末レポート提出 10%					
履修上の注意	まず授業に対して、前向きかつ積極的に取り組んでもらいたい。また、実践形式授業における技能の優劣は一切問わない。各自、身体活動出来る喜びを持って、本授業に臨んでいただきたい。					
教科書	特になし					
参考書	特になし					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	図画工作					
担当教員	奥 美佐子				科目ナンバー	T52050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	図工科教育の意義について考える					
授業の概要	この授業では美術および図工科教育を具体的なイメージをもって理解することを目指す。図画工作科の意味と意義について検証するために、図工科教育の理念、図工科教育史、小学校学習指導要領図画工作編、子どもの発達と表現形式の変化についての基本的な知識を得るとともに、事例研究や実技を伴う実践的な試行を通じて図画工作科の学習を通じて培われる発想や構想力や表現技能を体感し、図工科の授業設計に役立つ力を身につける。					
到達目標	1. 図工科教育の変遷を踏まえて、学習指導要領を理解している。（知識・理解） 2. 子どもの美術表現を俯瞰的に見ることができ、その発達と特質を、事例を通じて説明することができる。（知識・理解） 3. 美術の多様な表現方法を学び、子どもの活動や自分の表現を発想や技能の視点から分析できる。（汎用的技能）					
授業計画	第1回：美術について考える：子どもの作品・美術作品を観る 第2回：図工科教育の理念と目標：学習指導要領解説 第3回：図工科教育の流れ 第4回：学習指導要領図画工作科の内容について 第5回：事例を通じて子どもの表現の発達を理解する 第6回：子どもの表現の発達の特徴をファイルする 第7回：美術表現の構想と表現の関係 第8回：実践研究（1）造形遊びの研究 第9回：実践研究（2）造形遊び実践の考察—記録・プレゼン・manabaによる共有 第10回：実践研究（3）絵に表す 第11回：実践研究（4）絵に表す実践と評価 第12回：実践研究（5）立体・工作中に表す 第13回：実践研究（6）立体・工作中に表す実践の考察と相互評価 第14回：実践研究（7）鑑賞の実践とプレゼンテーション 第15回：図工科教育の課題—グループディスカッション					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画に沿って授業ごとに必要な次回の課題を指示する。課題のキーワードを参考図書などで調べておくこと。材料用具が必要な場合は、それらの教材研究を各回ごとにし、次回授業に役立つようにしておくこと。（学習時間2時間） 授業後学習：授業ごとに小課題を課す。各回の内容を系統的にまとめ、最終的に提出できるようにファイルに蓄積しておくこと。（学習時間2時間）					
授業方法	演習：実践的な授業再現や実技的な内容を含んだグループワークとディスカッションを行い、それらを基にした討議形式で進めていく。					
評価基準と評価方法	課題レポート30%、実践的授業の記録あるいは作品とレポート50%、プレゼンテーション等20%					
履修上の注意	・履修者は基本的な美術教材（1年次の美術表現で購入し、4年間の美術系科目共通で使用する）を全員購入する。 ・各回に必要な教材については隨時伝達するので、各自準備を怠らないこと。 ・指定された提出物がすべて提出されていること、授業回数の2/3以上出席していることが評価対象の条件。					
教科書	山口善雄・佐藤昌彦・奥村高明編著『小学校図画工作科教育法』 建帛社 ISBN978-4-7679-2113-6 C3037 文部科学省『小学校学習指導要領図画工作編』日本文京出版 ISBN978-4-536-59011-2C3037					
参考書	『ニュー・ベーシック・アート・シリーズ』 TASCHEN 70人以上の芸術家の作品が紹介されている。 その他必要に応じて授業内で紹介する。					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	生活科指導法					
担当教員	秋山 麗子				科目ナンバー	T52130
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	生活科における望ましい授業実践のあり方や方法の追求					
授業の概要	生活科の目標や内容、方法などから、他教科との違いや幼児期との円滑な接続が目指されているという教科の特徴を理解し、それらを生かした教材研究や学習指導案の作成を行い、模擬授業として展開する。授業における学習形態や指導・支援のあり方並びに教師の働きかけ、なども学びながら、子どもの発達段階に沿い、円滑な学校生活の土台となる生活科の授業構想や学習指導方法・技術を探求する。また、ICTなどを活用した学びについても、模擬授業で取り入れる。					
到達目標	生活科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された内容について理解を深める。【知識・理解】生活科における具体的な教材研究を通して、幼児教育との接続を踏まえた生活科のカリキュラム構成や、子どもの発達段階を踏まえた学習指導案の作成及び授業実践などの力を身につける。【汎用的技能】					
授業計画	第1回 オリエンテーション：生活科における新学習指導要領のポイントを理解する。 第2回 栽培の教材研究：実際の栽培活動（栽培の時期や方法など） 第3回 栽培活動における観察活動とその意義：ICTを使った学び 第4回 栽培の教材研究：実際の栽培活動（栽培の時期や方法など） 第5回 「動植物の飼育栽培」の目標と内容：目標の具体化と他教科との比較 第6回 単元「秋を見つけよう」：秋のイメージマップづくりと単元構成、および造形活動の教材研究 第7回 授業プラン作成（1） グループごとに教材研究を行い、指導案の単元計画を立てる。 第8回 授業プラン作成（2） グループごとに模擬授業で行う本時の展開と板書計画を立てる。 第9回 授業プラン作成（3） グループごとに指導案を完成させ、検討会を行う。 第10回 模擬授業（1） グループごとに模擬授業を実施し、簡単な事後検討会を行う。 第11回 模擬授業（2） グループごとに模擬授業を実施し、簡単な事後検討会を行う。 第12回 模擬授業（3） グループごとに模擬授業を実施し、簡単な事後検討会を行う。 第13回 他教科との合科的・関連的な学習に向けての教材研究と授業構想生活科における学びの評価 第14回 授業プランを洗練し、アクティブラーニングとその評価を取り入れた単元を計画する。 第15回 まとめ：講義全体を振り返り、レポートを作成する。					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：テキストや参考文献に当たり、授業内容に合わせたキーワードについての予習や、模擬授業の指導案作成等を行うこと。（学習時間：2時間） 授業後学習：生活科の教材となりうる自然や社会の様々な事象について目を向け調査研究をする。（学習時間：2時間）					
授業方法	講義：グループによるワークショップやディスカッションを行う。また、生活科の授業について、グループまたはペアで調査研究をした結果を踏まえて、一人1回の指導案作成と模擬授業を行う。					
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点40%（授業での意欲・関心・態度及びワークシートの内容や感想・意見、模擬授業やグループ発表などの取り組み、並びに教材の製作などの取り組み状況など） ・作成・製作物30パーセント（作成した学習展開案や製作した教材の作品、観察記録など） ・学期末テスト・レポート30%（望ましい生活科学習に向けた単元構成や展開案、生活科学習及び基本的な知識理解のテストなど） 					
履修上の注意	使用したプリントは、各回の出席者のみ配布する。（欠席の場合は、翌週の授業時に限り再配布する）					
教科書	特になし					
参考書	文部科学省 小学校学習指導要領解説 生活編（平成29年7月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 生活科の教科書（啓林館や大日本図書など）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	早期英語教育基礎					
担当教員	山内 啓子				科目ナンバー	T52370
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	英語教員としての基本的な指導能力を身に付ける					
授業の概要	小学校で教科化される英語教育に関する歴史的背景を概観し理解することでその必要性を認識し、早期英語教育の理論について基礎的なことを学ぶ。特に音声認知が柔軟である小学生の発達段階を考慮して日本語との差異に注目しながらの基礎的な音声理解や、文字と音との関連を学ぶことで初学者の英語に対する理解を深める。また早期英語教育で必要とされる日常表現や慣用表現を体得するために学校文法では通常学ばないような表現が散見される英語絵本を活用する。英語絵本の教材適性を考察し、音読練習・読み聞かせ練習を行いながら自らの技能・表現力の拡充を促す。					
到達目標	小学校での外国語活動・教育の背景が分かり、必要性が認識できる。早期英語教育理論の基礎的なことを理解し、教材に対する基本的な活用能力を身に付ける。【知識・理解】【汎用的技能】					
授業計画	第1回：オリエンテーション：早期英語教育とは 第2回：児童期の語学学習 第3回：小学校外国語活動・外国語の背景1：学習指導要領の変遷と今後 第4回：小学校外国語活動・外国語の背景2：小学校英語の経緯 第5回：小学校外国語活動・外国語の背景3：現状と課題 第6回：小学校外国語活動・外国語の指導者1：指導に必要な実践力 第7回：小学校外国語活動・外国語の指導者2：指導者と研修 第8回：小学校外国語活動・外国語の指導者3：ALTとのTT 第9回：小学校外国語活動・外国語指導の教材1：教材のいろいろ 第10回：小学校外国語活動・外国語指導の教材2：応用 第11回：小学校外国語活動・外国語指導：絵本の活用法 第12回：小学校外国語活動・外国語指導：絵本の音読・読み聞かせ 第13回：小学校外国語活動・外国語指導：音声指導・訓練 第14回：児童期の語学学習の課題と今後に向けて 第15回：授業のまとめと試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習し、指定された課題について下調べを行うこと。また英語の児童書・絵本を多読し記録をつけること（平均学習時間：2時間） 授業後学習：授業内で指定された課題について指示されたように作成したり、松蔭manabaでの小テストを行うこと（平均学習時間：2時間）					
授業方法	各回のテーマに沿って解説・講義、またテーマに応じて適宜演習を行う。 ペアワークやグループワークによる演習や、各回のテーマに応じてプレゼンテーションも多用する。					
評価基準と評価方法	試験50%、発表20%、積極的授業参加（知識と意欲の観点）30%					
履修上の注意	予習復習、課題を誠実に行うこと。					
教科書	村野井仁（編著）『小学校英語教育の基礎知識』大修館書店（2018年）					
参考書	文部科学省 中学校学習指導要領解説（平成29年3月） 小学校学習指導要領解説（外国語活動・外国語編）（平成29年告示）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	楽しい理科実験					
担当教員	内田 祐貴				科目ナンバー	T51210
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数 1.0
授業のテーマ	理科の面白さの1つに実験がある。しかしながら、高校までは自身で能動的に実験をする機会は少なく、実験に苦手意識を持つ初等教育の教員が多い。この授業ではそれぞれの実験を学生自身が行うことにより、理科実験の楽しさを体験する。					
授業の概要	理科の面白さの1つに実験がある。しかしながら、小学校から高校までは、実験を行うとしても指示をされた実験であることが多く、自分で自ら仮説を設定し、実験計画を立て、実験し、結果を記録し、仮説を検証するといった能動的に実験をする機会は少ない。そのため、実験に苦手意識を持つ、小学校の教員は数多くいる。この授業では、学生自身が実験を能動的に行うことにより、理科実験の楽しさを体験するとともに、実験の基礎的な知識や技術を磨く。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理科実験を自身が楽しむ。【態度・志向性】 ・将来、子どもたちに見せられるようになること。【態度・志向性】 ・実験器具、操作などの基本事項を修得すること。【知識・理解】 					
授業計画	第1回：オリエンテーション：理科実験の基本 第2回：身の回りの液体を調べる：液性と指示薬 第3回：万華鏡、望遠鏡づくり：光の性質 第4回：大気圧を見る：手作り真空ポンプ 第5回：液体窒素による低温実験：物理変化と3態 第6回：すぐできる結晶：物質の溶解度 第7回：発泡スチロールスタンプ：環境にやさしい科学 第8回：自動で記録する温度計：ICT機器の利用 第9回：葉脈の葉づくり：タンパク質の性質 第10回：カルメ焼き：炭酸水素ナトリウムの熱分解 第11回：スライムづくり：高分子の性質 第12回：電気クラゲ：静電気の性質と利用 第13回：顕微鏡の世界 第14回：目で見るDNA：DNA抽出実験 第15回：電気パン：ジュール熱の利用					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：manabaに講義資料を掲載しておくので、前回の実験で扱った実験内容、方法の復習をして実験に臨むこと（学習時間2時間） 授業後学習：各回で行った実験に対し、考察、レポートの作成を行う。作成したレポートは、次の回までに提出すること（学習時間2時間）					
授業方法	実験：基本事項について説明した後、ペアもしくは個人で実験を行う。ディスカッションを通じて考察し、レポートを作成する。					
評価基準と評価方法	授業中の成果物20%、各回のレポート80%。					
履修上の注意	特になし					
教科書	実験テキストを毎回配布					
参考書	無し					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	楽しい理科実験					
担当教員	内田 祐貴				科目ナンバー	T51210
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数 1.0
授業のテーマ	理科の面白さの1つに実験がある。しかしながら、高校までは自身で能動的に実験をする機会は少なく、実験に苦手意識を持つ初等教育の教員が多い。この授業ではそれぞれの実験を学生自身が行うことにより、理科実験の楽しさを体験する。					
授業の概要	理科の面白さの1つに実験がある。しかしながら、小学校から高校までは、実験を行うとしても指示をされた実験であることが多く、自分で自ら仮説を設定し、実験計画を立て、実験し、結果を記録し、仮説を検証するといった能動的に実験をする機会は少ない。そのため、実験に苦手意識を持つ、小学校の教員は数多くいる。この授業では、学生自身が実験を能動的に行うことにより、理科実験の楽しさを体験するとともに、実験の基礎的な知識や技術を磨く。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理科実験を自身が楽しむ。【態度・志向性】 ・将来、子どもたちに見せられるようになること。【態度・志向性】 ・実験器具、操作などの基本事項を修得すること。【知識・理解】 					
授業計画	第1回：オリエンテーション：理科実験の基本 第2回：身の回りの液体を調べる：液性と指示薬 第3回：万華鏡、望遠鏡づくり：光の性質 第4回：大気圧を見る：手作り真空ポンプ 第5回：液体窒素による低温実験：物理変化と3態 第6回：すぐできる結晶：物質の溶解度 第7回：発泡スチロールスタンプ：環境にやさしい科学 第8回：自動で記録する温度計：ICT機器の利用 第9回：葉脈の葉づくり：タンパク質の性質 第10回：カルメ焼き：炭酸水素ナトリウムの熱分解 第11回：スライムづくり：高分子の性質 第12回：電気クラゲ：静電気の性質と利用 第13回：顕微鏡の世界 第14回：目で見るDNA：DNA抽出実験 第15回：電気パン：ジュール熱の利用					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：manabaに講義資料を掲載しておくので、前回の実験で扱った実験内容、方法の復習をして実験に臨むこと（学習時間2時間） 授業後学習：各回で行った実験に対し、考察、レポートの作成を行う。作成したレポートは、次の回までに提出すること（学習時間2時間）					
授業方法	実験：基本事項について説明した後、ペアもしくは個人で実験を行う。ディスカッションを通じて考察し、レポートを作成する。					
評価基準と評価方法	授業中の成果物20%、各回のレポート80%。					
履修上の注意	特になし					
教科書	実験テキストを毎回配布					
参考書	無し					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	第二言語習得と英語教育					
担当教員	作井 恵子				科目ナンバー	T52280
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	第二言語習得について広く学んだことを授業内での振り返りやディスカッション、またプレゼンテーションを通して単なる知識としてではなく、自分自身の経験あるいは教育現場のいろいろな要因を視野にいれ、多角的にとらえる。					
授業の概要	本講義では、子供がどう言語を学習するかという第一言語習得について簡単に学んだあと、第二言語習得論についての知識を深め、その理論に基づいた英語教育のあり方について理解を深めることを目標とする。具体的には、「人間にはもともと言葉を学ぶ能力があるのか」あるいは「言葉は後天的に学習されるものなのか」といった疑問について考えることを通じて、異なる言語習得理論があることを学ぶ。それと同時に、学習者のエラーに注目しそれをどう英語指導上、理解し指導に生かすかを考えることにより、学習者の年齢や個人差を鑑みたうえで、効果的な語学の指導法はどういったものがあるかを考える過程をとおし、「言葉を学ぶ」ということはどういうことかについて考察する。					
到達目標	第二言語習得理論について学び、語学習得のプロセスについて理解を深めることができる。その後、理論から発展させてどういう教え方・学び方があるかを考えながら、また絶えず自分の語学学習の経験に照らし合わせ振り返りをしながら、さらに理論と実践の関係について理解を深めることができる。【知識・理解】【汎用的技能】					
授業計画	第1回：母語習得について 第2回：第二言語習得について 第3回：臨界期説 第4回：語学習得のプロセス 第5回：エラーについて 第6回：エラーの対処について 第7回：第2言語習得に関するプレゼンテーション 第8回：インプット・アウトプット・インタラクション仮説について 第9回：パターンプラクティスについて 第10回：CLTIについて 第11回：TBLTIについて 第12回：第二言語習得からみた良い学習者とは？ 第13回：学習者の個人差について 第14回：プレゼンテーション：第二言語習得からみた実践 第15回：授業総括と定期試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業内容に該当する教科書や資料を読むこと（2時間） 授業後：プリント、資料や教科書を読み返し理解を深めるとともに疑問点を整理する。課題を与えられた場合はその準備をする（2時間）					
授業方法	講義 各トピック・課題について準備された質問に答える形で授業を行う。説明や解説を行いながら、適宜ペア・グループディスカッション形式をとりいれる。					
評価基準と評価方法	定期試験 50%、 プrezentation 30%、 ディスカッション参加度 20%					
履修上の注意	参加型の授業なので出席重視。自分の意見が明確に述べられるように事前学習をしっかりと行うこと。					
教科書	「ことばの習得」鈴木孝明・白畠知彦、くろしお出版 ISBN978-4-87424-544-6					
参考書	文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年） 文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 外国語編（平成30年）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	聴覚障害教育総論					
担当教員	谷 充弘				科目ナンバー	T61020
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1	単位数 1.0
授業のテーマ	聴覚障害の心理と生理、特性の基本的知識を理解し、聴覚障害のある子どもの指導やその実際の基礎を学ぶ。					
授業の概要	本科目は特別支援教育に関する科目である。聴覚障害の機序や聴覚障害のある子どもの言語発達および心理特性を理解する。さらに聴覚障害児教育の歴史を概観しつつ、聴覚障害児教育の指導法や、ろう学校（聴覚障害特別支援学校）における、幼稚部、小学部、中学部、高等部の教育課程や教育の実際を学ぶ。また聴覚障害のある人の権利保障やろう文化の発展を学びつつ、聴覚障害領域で幅広く議論される、インテグレーションおよびインクルージョンの考え方にも触れる。また可能であれば、ろう学校に訪問し、授業観察や聴覚障害のある子どもたちと交流することを通して実践的に学ぶことを促す。					
到達目標	1. 聴覚障害の基礎的な整理と病理を理解し、聴覚障害のある子どもの言語発達及び心理特性を説明できる。 2. 聴覚障害教育の基礎的な指導方法やその実際を理解し、聴覚障害のある子どもの発達に応じた指導の在り方を自分なりに検討できる。 3. 特別支援教育における聴覚障害教育の課題と展望を自分なりに検討できる。					
授業計画	第1回：聴覚障害の心理特性 第2回：聴覚障害のある子どもの心理特性に応じた支援 第3回：特別支援教育における聴覚障害教育の位置づけ 第4回：聴覚障害教育の歴史 第5回：ろう文化と権利保障 第6回：聴覚障害のある人のインクルージョン 第7回：聴覚障害教育の指導法と実際 第8回：インクルージョン時代における聴覚障害教育の課題と展望 定期試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業内容の資料は、授業1週間前にはmanabaの掲示板を通じて、配付するので、不明な用語などを調べ、内容が不明な点は質問が出来るように準備しておく。同一講座を受講している他の学生とディスカッションをするのも大切です。（学習時間2時間） 授業後学習：各授業で配付された資料を参考にし、取り上げた内容の要点と重要箇所を確認整理する。（学習時間2時間）					
授業方法	授業の前半では、その日のテーマを解説します。 授業の後半では、各回のテーマに応じた実例を示すので、その最善と思える対処方法につき、3～5名程度のグループによるディスカッションで結論を導きだし発表する。 発表後は、個人ごとに当日の検討過程をまとめ、意見をつけてレポートとして提出をする。					
評価基準と評価方法	定期試験 40% レポート 60%					
履修上の注意	1. 講義資料等は、各回の出席者のみ配布する（欠席の時は、翌授業時に限り本人から申し出があれば配布する） 2. 理由の如何に関わらず、全授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受講資格を失うものとする。					
教科書	毎回の授業資料を作成し、それを基に授業を行なう。					
参考書	適宜、指示する。					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	知的障害児教育論					
担当教員	渡部 昭男・金丸 彰寿				科目ナンバー	T62100
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	土曜2	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	知的障害者を含む我が国の特別支援教育を支える「発達保障」思想と実践の創出と展開過程とそれらの持つ歴史的意義を理解し、その上で、現代における教育の意義と課題について学ぶ。					
授業の概要	<p>本科目は特別支援教育に関する科目である。「発達保障」の思想と実践について学び、知的障害者、肢体不自由者、病弱者等への教育の在り方を探求する。 (オムニバス方式／全15回) (金丸彰寿／8回)</p> <p>本学は、キリスト教精神を建学理念としている。そこで「知的障害児者福祉の父」とも呼ばれる糸賀一雄（1914-68年）による「この子らを世の光に」の思想と実践に着目する。知的障害児施設近江学園（1946年）及び重症心身障害児施設びわこ学園（1963年）の実践は、どんなに重い障害があっても「人間としての同じ発達のすじ道」を歩むことを明らかにし、知的障害者を含む全ての人の「人格発達の権利」を徹底的に保障することを目指した。この「発達保障」思想は、現在の特別支援教育を支える根本的な考え方となっている。糸賀『福祉の思想』（1968年、NHK出版）をテキストに、「一次元の子どもたち」（1965年）、「夜明け前の子どもたち」（1968年）等も視聴し、「発達保障」の思想と実践を学ぶ。 (渡部昭男／7回)</p> <p>垂髪が講じた糸賀らの思想と実践が1960年代末～70年代における京都府下の養護学校開設、1979年度の養護学校教育の義務制実施に影響したこと、さらには今日の特別支援教育における知的障害者等の教育の思想と実践に繋がっていることを探求する。</p>					
到達目標	<p>1. わが国の知的障害者教育において根本的な思想となる「発達保障」の成り立ちと、知的障害福祉の父、糸賀一雄による「この子らを世の光に」の言葉の意味について理解できる。【知識・理解】</p> <p>2. 「発達保障」思想の源流である知的障害者施設近江学園および重症心身障害児施設びわこ学園の思想と実践の持つ歴史的意義を理解し、特別支援教育の諸問題と重ねて検討することができる。【知識・理解】</p> <p>3. 「発達保障」の思想と実践の展開が、京都府下での養護学校開設、養護学校義務制実施や高等部全入運動など、現在の特別支援教育の基礎を創り上げる権利保障の取り組みへと、どのように繋がったのかについて、その展開の要点を説明できる。【知識・理解】</p> <p>4. 「発達保障」の思想と実践及び、それを発展させた権利保障の取り組みが、今日の特別支援教育における知的障害者教育の思想と実践に、どのように繋がったのか、また今後の知的障害者を含む発達支援の課題と展望とは何かについて検討できる。【態度・志向性】</p>					
授業計画	<p>第1回：「ガイダンスと特別支援教育における『発達保障』の思想」（担当：金丸彰寿） 第2回：『発達保障』の思想の成り立ち①「1950年代以前の『発達』のみかた」（担当：金丸彰寿） 第3回：『発達保障』の思想の成り立ち②「『発達保障』思想の創出と歴史的意義」（担当：金丸彰寿） 第4回：糸賀一雄による『この子らを世の光に』①「障害の重い子どもの自己実現と教育の可能性」（担当：金丸彰寿） 第5回：糸賀一雄による『この子らを世の光に』②「『この子らを世の光に』の現代的意義」（担当：金丸彰寿） 第6回：「近江学園・びわこ学園の思想と実践」①「療育記録映画『夜明け前の子どもたち』から特別支援教育の課題を考える（担当：金丸彰寿）」 第7回：「近江学園・びわこ学園の思想と実践」②「重症心身障害児施設、びわこ学園の実践から特別支援教育の課題を考える」（担当：金丸彰寿） 第8回：第2回から第7回までのまとめ（担当：金丸彰寿） 第9回：「発達保障」の思想と実践の展開①「京都府下における知的障害児、肢体不自由児、病弱児に対する養護学校教育の開始」（担当：渡部昭男） 第10回：「発達保障」の思想と実践の展開②「養護学校義務制とその歴史的意義」（担当：渡部昭男） 第11回：『発達保障』に根差した教育のインテグレーションの取り組み「知的障害児等を対象にした『共同教育』実践運動から現代の特別支援教育を考える」（担当：渡部昭男） 第12回：学校教育における発達支援の展開と広がり「知的障害児等を中心とした高等部全入運動及び訪問教育制度の展開」（担当：渡部昭男） 第13回：地域における発達支援の思想と実践「知的障害児等を中心にした発達支援システムの展開」（担当：渡部昭男） 第14回：特別支援教育における知的障害者等の発達支援の思想と実践（担当：渡部昭男） 第15回：第9回から第14回までのまとめ（担当：渡部昭男）</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、疑問点や分からぬ点を整理して授業に臨む（学習時間：2時間）。</p> <p>授業後学習：各回の授業内容の要点とそれに対する自分の意見をミニレポートとしてまとめて提出する（学習時間：2時間）。</p>					
授業方法	講義：各回のテーマに関するディスカッションやグループ（ペア）ワークを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえて、重要事項について解説・講義を行う。					
評価基準と評価方法	<p>①レポート 60 %, ②グループ発表 40 % (文献収集への意欲等、発表内容の工夫等) 上記の他に、授業全般を通して積極的に発言する等、態度面を重視する。</p>					

評価基準と評価方法	
履修上の注意	1. 5回以上、欠席した場合は、受験資格を失う。 2. ミニレポートは出席確認を兼ねるため、ミニレポートを確認できなければ出席したと見なさないので要注意。 3. レポートの提出や記述式試験にあたって特別な配慮が必要な場合は、前もって相談に来ること。
教科書	・『福祉の思想』、糸賀一雄、NHK出版、978-4140010679 ・その他、資料を作成し配布する。
参考書	・『復刊 この子らを世の光に—近江学園二十年の願い』、糸賀一雄、NHK出版、978-4-14-080836-8 ・『糸賀一雄最後の講義—愛と共感の教育』、糸賀一雄、中川書店、978-4931363656 ・『発達障害の探求』、田中昌人・清水寛編、全国障害者問題研究会出版部、4-88134-603-2。 ・『人間発達研究の創出と展開：田中昌人・田中杉恵の仕事をとおして歴史をつなぐ』、第1版、渡部昭男・中村隆一編、978-4-434-22101-9。 ・「[ぼくらの学校：与謝の海養護学校の実践」、島田開（監督）、アジア・ワイド・コミュニケーションズ、1981、BA85669458

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	知的障害児の指導法					
担当教員	村上 公也・赤木 和重				科目ナンバー	T62070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	知的障害児を中心に、教育課程の構造と内容と共に、障害・発達・生活の視点を踏まえた指導方法と教育の在り方について学ぶ。					
授業の概要	<p>本科目では、知的障害児を対象とした授業づくりや教育的指導方法について学ぶことを中心とする。また、特別支援学校学習指導要領の構造と内容を理解し、教育課程の実際も併せて学ぶ。</p> <p>本講義においては、知的障害児等の、障害特性、発達的力量や生活を総合的に踏まえた教育について、各教科での指導、領域・教科を合わせた指導、障害のない子どもとの交流及び共同学習や特別活動などの基本的観点を踏まえて概説する。その際、学習指導要領における教育内容や配列などの基本的事項を整理しつつ、授業づくりを行う実際的な視点を学ぶ。</p> <p>なお本講義では、各教科などにおける指導方法について、実践記録や視覚教材なども用いて講義する。加えて学生自身が、指導案や授業で用いる教材を開発するグループ発表をしたり、実践事例の検討を行うグループディスカッションを適宜行う時間を設ける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (赤木和重／7回)</p> <p>理論的な視点から知的障害児教育について概説する。 (村上公也／8回)</p> <p>実践的な視点から知的障害児の指導方法・授業づくりについて論じる。</p>					
到達目標	<p>知的障害児の指導形態や指導方法の視点や留意点を説明し、活用できることを目標とする。その際、知的障害児教育の指導方法についての理論的な背景を把握しつつ、実際の指導方法についても、様々な視聴覚教材および実践記録などを用いて、指導法の実際を理解することができる。</p> <p>あわせて、知的障害児の指導法を支える歴史や教育課程や障害特性に関する基礎的な知識を獲得することができる。</p>					
授業計画	<p>第1回：知的障害児教育の歴史：セガン、ヴィゴツキー、糸賀一雄に注目して（担当者：赤木和重） 第2回：知的障害児の理解（1）：障害特性の視点から（担当者：赤木和重） 第3回：知的障害児の理解（2）：発達的な視点から（担当者：赤木和重） 第4回：特別支援学級・学校における教育課程の理論：カリキュラムマネジメント（担当者：赤木和重） 第5回：特別支援学級・学校における教育指導の理論：主体的・対話的・深い学び（担当者：赤木和重） 第6回：知的障害児におけるコミュニケーションの指導方法の現状と課題（担当者：赤木和重） 第7回：特別支援学級・学校における教科指導の実際（1）：「知的障害児の学力」（担当者：村上公也） 第8回：特別支援学級・学校における教科指導の実際（2）：「知的障害児の芸術と運動」（担当者：村上公也） 第9回：領域・教科を合せた指導の実際（1）：「生活単元学習と遊びの指導」（担当者：村上公也） 第10回：領域・教科を合せた指導の実際（2）：「自立活動と日常生活の指導」（担当者：村上公也） 第11回：交流・共同教育（交流及び共同学習）の歴史及び授業づくり（担当者：村上公也） 第12回：知的障害児教育における授業づくり（1）「子どもの実態把握」（担当者：村上公也） 第13回：知的障害児教育における授業づくり（2）「教材・教具づくり」（担当者：村上公也） 第14回：知的障害児教育における授業づくり（3）「単元計画と指導案」（担当者：村上公也） 第15回：知的障害児教育におけるキャリア教育の理論と実際（担当者：村上公也）</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	適宜、参考文献を提示するので、時間外に学習するようにこころがけてください。					
授業方法	受講者の興味・関心をひきつけることを意識します。具体的には、視聴覚教材や、実際の教材・教具などを提示しながら授業を行うようにこころがけます。					
評価基準と評価方法	授業毎に実施するミニレポート（35%），レポート（30%），グループワーク（模擬授業の計画・準備・発表）（35%）					
履修上の注意	積極的に履修してください。					
教科書	指定しない。 授業資料を作成し、活用する。					

参考書	<ul style="list-style-type: none">・『特別支援学校幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領、高等部学習指導要領』、文部科学省、2016・『教育実践は子どもも発見』、竹沢清、全国障害者問題研究会出版部、ISBN4-88134-293-2・『キミヤーズの教材・教具：知的好奇心を引き出す』、村上公也・赤木和重クリエイツかもがわ、978-4-86342-060-1・『交流・共同教育と障害理解学習』、藤森善正・青木道忠・池田江美子・越野和之編、全国障害者問題研究会出版部、ISBN 4-88134-071-9・『この子らも・かく：おくれた子どもと綴方』、近藤益雄、牧書店、全国書誌番号53001539・『障害児の発達理解と教育指導—「重症心身障害」から「軽度発達障害」まで』、玉村公二彦、山学出版、ISBN4-921134-90-・『障害児教育実践ハンドブック』、大久保哲夫・三島敏男編労働旬報社、ISBN 4-8451-0226-9・『特別支援教育の学習指導案と授業研究』、肥後祥治・雲井未歓・片岡美華・鹿児島大学教育学部附属特別支援学校編ジース教育新社、ISBN978-4-86371-213-3・『ぼくらの学校：与謝の海養護学校の実践』島田開（監督）、アジア・ワイド・コミュニケーションズ、ISBN BA85669458
-----	--

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	特別支援教育原論					
担当教員	渡部 昭男・金丸 彰寿				科目ナンバー	T61040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	特別支援教育の基礎理論を学び、インクルーシブ教育としての特別支援教育の特質と課題について理解する。					
授業の概要	<p>本科目は特別支援教育に関する科目である。 京都盲唸院開設（1878年）以来の我が国戦前の障害児教育から、日本国憲法・教育基本法（1947年）の下での戦後の特殊教育及び特別支援教育に至るまでの理念、思想及び歴史を学ぶ。その際、障害概念の国際的展開についても学ぶ。さらに通常学級に在籍する発達障害のある幼児児童生徒も教育対象に含めた特別支援教育の制度、経営、社会的側面について、国内外における共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育の動向と併せて学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （金丸彰寿/5回） 授業の導入、特別支援教育及びインクルーシブ教育の歴史に関する学修を支援する。 （渡部昭男/10回） 特別支援教育の理念及び思想、制度、経営、社会的側面に関する学修を支援する。</p>					
到達目標	<p>1. 特別支援教育及びインクルーシブ教育の理念及び目的を学び、今後の展望や課題を考えることができる。 2. 特別支援教育及びインクルーシブ教育に至るまでの障害児教育の歴史及び思想を学び、主要な事項を説明できる。 3. 特別支援教育の制度、経営、社会的側面に関する主要事項を学び、説明することができる。</p>					
授業計画	<p>第1回：障害概念の歴史的・国際的展開（ICIDHからICF）（担当：渡部昭男） 第2回：インクルーシブ教育と特別支援教育～インテグレーションからインクルージョンの歴史的発展（担当：渡部昭男） 第3回：障害者権利条約と合理的配慮（担当：渡部昭男） 第4回：特別支援教育の制度①～特別支援学校、特別支援学級、通常学級における教育（担当：渡部昭男） 第5回：特別支援教育の制度②：障害のある子どもの就学（担当：渡部昭男） 第6回：特別支援教育の制度③～個別の教育支援計画と個別の指導計画（担当：渡部昭男） 第7回：特別支援教育の制度④～自立活動（担当：渡部昭男） 第8回：戦前の障害児教育史（担当：金丸彰寿） 第9回：戦後の障害児教育史①～発達保障論の成立と展開（担当：金丸彰寿） 第10回：戦後の障害児教育史②～養護学校義務制（1979年）（担当：金丸彰寿） 第11回：戦後の障害児教育史③～「交流教育」政策と「共同教育」実践運動（担当：金丸彰寿） 第12回：戦後の障害児教育史④～インクルーシブ教育と「交流及び共同学習」（担当：金丸彰寿） 第13回：青年期における障害者支援の理念と課題～高等教育段階における障害学生支援（担当：渡部昭男） 第14回：発達支援・地域づくりの一環としての特別支援教育～専攻科の取り組み（担当：渡部昭男） 第15回：総括～インクルーシブ教育としての特別支援教育の意義と課題（担当：渡部昭男） 定期試験</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、疑問点や分からぬ点を整理して授業に臨む（学習時間：2時間）。 授業後学習：各回の授業内容の要点とそれに対する自分の意見をミニレポートとしてまとめて提出する（学習時間：2時間）。</p>					
授業方法	講義：各回のテーマに関するディスカッションやグループ（ペア）ワークを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえて、重要事項について解説・講義を行う。					
評価基準と評価方法	ミニレポート（30%），定期試験（70%）					
履修上の注意	<p>1. 特別支援学校教員免許状の取得を希望する学生は必ず受講すること。また、この授業に関心のある学生の受講も歓迎する。 2. 5回以上、欠席した場合は、受験資格を失う。 3. ミニレポートは出席確認を兼ねるため、ミニレポートを確認できなければ出席したと見なさないので要注意。 4. レポートの提出や記述式試験にあたって特別な配慮が必要な場合は、前もって相談に来ること。</p>					
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・『特別支援教育の基礎と動向 改訂版』、大沼直樹・吉利宗久編、培風館、978-4-563-05227-0 ・また各授業において、別途、レジュメや資料を配布する。 					

参考書	<ul style="list-style-type: none">・『キーワードブック特別支援教育——インクルーシブ教育時代の障害児教育』、玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・向井啓二編クリエイツかもがわ、ISBN978-4-86342-155-4・『事例で学ぶ 発達障害者のセルフアドボカシー：「合理的配慮」の時代をたくましく生きるための理論と実践』、片岡美華・小島道生編、金子書房、ISBN978-4-7608-2661-2・『日本型インクルーシブ教育への道—中教審報告のインパクト—』、渡部昭男編、三学出版、ISBN978-4-903520-70-4
-----	--

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	特別支援教育と共生社会					
担当教員	谷川 弘治				科目ナンバー	T61170
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	土曜4	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	生きることと死ぬことをめぐる人々の思い、いのちを支える人々の努力と思いに目を向け、子どもたちにいのちの大切さを伝えるためになすべきことを考える。					
授業の概要	本科目は特別支援教育に関する科目である。教師はいのちと向き合い、発達しようとする傾向を子どもの中に見つけ、育む専門職である。現代社会は子どものいのちを守る仕組みを作り上げ、新生児死亡率等を減少させるなど大きな成果を得てきた。一方で事件、事故、災害、自死、難病など、さまざまな理由で失われていくいのちもある。全般に、人々が子どもの死による「痛み」と向き合う機会が減少する中、遺族は思いを受け止めてもらえないもどかしさや孤立感をいただくことが少なくない。本講は、こうした状況を遠くの出来事ではなく、身近なこととして捉える機会を提供する。特別支援教育を担う教員を目指すものとして、主に、病気や障害によって、いのちと向き合わざるをえない子どもと家族と支援者とのかかわりを取り上げ、ロールプレイやグループディスカッション等をとおして支援者の視点を学ぶ。クラスメイト、遺族、親を亡くした子どもなど視野を広げ、教師としてできることを探求し、共生社会に求められるものを考察していく。					
到達目標	1. 生きることと死ぬことをめぐって生ずる人々の思いに耳を傾けることができ、自らの思いにも耳を傾けることができるようになる。 2. 病気や障害のある子どものもつ生きようとする傾向とそれを支える人々の相互作用に目を向け、生きることを支えるとはどういうことか自分なりに説明できる。 3. 病気や障害のある子どものいのちを支える現場で生ずるさまざまな状況、葛藤に目を向け、判断のための視野を広げる必要を自覚する。 4. いのちの教育の動向と課題を理解し、特別支援教育を担う教師を目指すものとして仲間と協力して対象と場面を想定した実践を計画、試行して、振り返ることができる。					
授業計画	第1回：子どものいのちをめぐる人々の努力と問題状況 第2回：いのちと向き合う①「いのちを迎える」 第3回：いのちと向き合う②「病を生きる」 第4回：いのちと向き合う③「死を迎える」 第5回：いのちと向き合う④「いのちと別れる」 第6回：病気や障害のためいのちと向き合う子どもと家族を支える①「新生児医療の現場から」 第7回：病気や障害のためいのちと向き合う子どもと家族を支える②「子どものホスピスの現場から」 第8回：病気や障害のためいのちと向き合う子どもと家族を支える③「重症心身障害児者の療育の現場から」 第9回：病気や障害のためいのちと向き合う子どもと家族を支える④「死を迎えた子どもの家族と友達を支える」 第10回：通常教育と特別支援教育におけるいのちの教育の動向と課題 第11回：いのちの授業の計画と実施①「いのちと向き合う子どもとクラスメイトをつなぐ授業」 第12回：いのちの授業の計画と実施②「いのちと向き合う子どもたちに提供する授業における病気や死のテーマの扱い」 第13回：いのちの授業の計画と実施③「いのちと向き合う子どもたちに提供するいのちの授業」 第14回：いのちの授業の計画と実施④「クラスメイトを亡くした子どもたちのためのいのちの授業」 第15回：いのちの授業の計画と実施⑤「思いを共有し、語り継ぐためにできること」 第11回から第15回は、グループを構成し、仲間と協力し、特別支援教育の現場を想定したいのちの授業を計画、試行する。					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：事前課題を提示するがあるので、取り組んで参加する。（60分程度） 授業後学習：授業中に生じた思い、注目した他者の視点、今後大切にしていきたい視点などをノートに整理しておきたい（30分程度）					
授業方法	講義及びグループワーク					
評価基準と評価方法	小レポート45% 発表10% レポート45%					

履修上の注意	各回の講義資料及び事前課題は原則として前の授業までに配付あるいは提示する。 小レポート、レポートについては第1回の授業時に説明するので、計画的に取り組むこと。 授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末試験の受験資格を失うものとする。
教科書	適宜指示する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『空にかかるはしご 天使になった子どもと生きるグリーフサポートブック』、「空にかかるはしご」編集委員会、九州大学大学院 ・『よく生き よく笑い よき死と出会う』アルフォンス・デーケン、新潮社、978-4-1046-2501-7 ・『死とどう向き合うか』、新版、アルフォンス・デーケン、NHK出版、978-4-1408-1500-1 ・『永遠の別れ 悲しみを癒やす智恵の書』、エリザベス・キューブラー・ロス、日本教文社、978-4-5310-8159-2 ・『悲嘆カウンセリング：臨床実践ハンドブック』、ウォーデン、JW、誠信書房、978-4-4144-1445-5 ・『死別体験 研究と介入の最前線』、シュトレイベ、MSIほか、誠信書房、978-4-4144-1454-7 ・『輝く子どものいのち こどもホスピス・癒しと希望』、鍋谷まこと、いのちのことば社、978-4-2640-3348-6 ・『私たちの先生は子どもたち！ 子どもの「悲嘆」をサポートする本』リンダ・エスピー、青海社、978-4-9022-4912-5 ・『赤ちゃんの死へのまなざし 両親の体験談から学ぶ周産期のグリーフケア』、竹内正人（編）、中央法規出版、978-4-8058-3381-0 ・『いのちのおはなし』、日野原重明、講談社、988-4-0621-3793-5 ・『明日をつくる十歳のきみへ 一〇三歳のわたしから』、日野原重明、富山房インターナショナル、978-4-9051-9490-3 ・『尾木ママのいのちの授業』、全五冊、ポプラ社、978-4-5919-1652-0 ・『母と子と家族のためのいのちの授業』、寺田恵子、ライフサポート社、978-4-9040-8432-8 ・『大人のための「いのちの授業』、鈴木中人、致知出版社、978-4-8009-1159-9 ・『このあと どうしゃおう』、ヨシタケシンスケ、ブロンズ社、978-4-8930-9617-3 ・『わすれられないおくりもの』、スザン・バーレイ、評論社、978-4-5660-0264-7 ・『ぐりとぐらとすみれちゃん』、なかがわりえこ、福音館書店、978-4-8340-0633-9 ・『うまれててくれてありがとう』、にしもとよう、童心社、978-4-4940-0751-6 ・『ねこのき』、長田弘、クレヨンハウス、978-4-9063-7959-0 ・『くまとやまねこ』、湯本香樹実、川出書房新社、978-4-3092-7007-4 ・『なみだ』、細谷亮太、ドンボスコ、978-4-8862-6515-9

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	特別支援教育入門					
担当教員	金丸・渡部・谷川・垂髪					
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	障害、文化的差異や貧困など、多様な特別な教育的ニーズのある子どもの特性、発達や生活の様子等の実態及び、それらを踏まえた支援対応の基本的知識を学ぶ。					
授業の概要	多様な人々を包摂する共生社会の創造に向けて、次世代の担い手である障害のある子どもの全体像をトータルに理解するため、障害の階層性や環境との相互作用などの考え方を有する国際的な障害概念や、インクルーシブ教育に基づく特別支援教育の意義について概説する。それを踏まえて、特別支援教育の教育課程、通級による指導や自立活動の意義、特別支援教育コーディネーターを中心とした連携、視覚障害、聴覚障害、知的障害（軽度知的障害も含む）、肢体不自由、病弱、や発達障害などの特性や支援方法の基礎的事項を講義する。加えて外国人児童や貧困問題などの特別な教育的ニーズのある子どもの支援の基礎的事項に言及する。理解を深めるため、毎回ミニレポートを課す。各回の授業については、金丸が、特別支援教育の歴史・思想の事項、渡部が特別支援教育の理念、社会的・制度的・経営的事項を中心に扱いながら、金丸・渡部が共同で行う。					
到達目標	<p>(1) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解について、①インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。②発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。③視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。【知識・理解】</p> <p>(2) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法について、①発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。②「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。③特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。④特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。【汎用的技能】</p> <p>(3) 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援について、①母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。【汎用的技能】</p>					
授業計画	<p>第1回：国際的な障害概念と特別支援教育</p> <p>第2回：特別な教育的ニーズと特別支援教育</p> <p>第3回：インクルーシブ教育システムに位置づく特別支援教育の理念と目的</p> <p>第4回：障害のある子どもの理解と支援①「視覚障害と聴覚障害を中心に」</p> <p>第5回：障害のある子どもの理解と支援②「発達障害を中心に」</p> <p>第6回：障害のある子どもの理解と支援③「知的障害（軽度知的障害も含む）を中心に」</p> <p>第7回：障害のある子どもの理解と支援④「肢体不自由と重度重複障害を中心に」</p> <p>第8回：障害のある子どもの理解と支援⑤「病弱・身体虚弱を中心に」</p> <p>第9回：特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援①「外国人児童生徒を中心に」</p> <p>第10回：特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援②「貧困問題を中心に」</p> <p>第11回：障害のある子どものライフステージに応じた教育支援計画</p> <p>第12回：特別支援教育の教育課程①「教育課程の構造と指導計画」</p> <p>第13回：特別支援教育の教育課程②「通級による指導を中心に」</p> <p>第14回：特別支援教育の教育課程③「自立活動を中心に」</p> <p>第15回：特別支援教育における支援体制と連携</p> <p>定期試験</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、疑問点や分からぬ点を整理して授業に臨む（学習時間：2時間）。</p> <p>授業後学習：各回の授業内容の要点とそれに対する自分の意見をミニレポートとしてまとめて提出する（学習時間：2時間）。</p>					
授業方法	講義：各回のテーマに関するディスカッションやグループ（ペア）ワークを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえて、重要事項について解説・講義を行う。					
評価基準と評価方法	定期試験（70%）・レポート（30%）					
履修上の注意	<p>1. 教育学部生は全員必修であるため、必ず受講すること。</p> <p>2. 5回以上、欠席した場合は、受験資格を失う。</p> <p>3. ミニレポートは出席確認を兼ねるため、ミニレポートを確認できなければ出席したと見なさないので要注意。</p> <p>4. レポートの提出や記述式試験にあたって特別な配慮が必要な場合は、前もって相談に来ること。</p>					

教科書	『新しい特別支援教育のかたち インクルーシブ教育の実現に向けて』 吉利 宗久, 是永 かな子, 大沼 直樹 培風館 ISBN 9784563052492
参考書	<ul style="list-style-type: none">・『キーワードブック特別支援教育——インクルーシブ教育時代の障害児教育』, 玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・向井啓二編クリエイツかもがわ, ISBN978-4-86342-155-4・『日本型インクルーシブ教育への道—中教審報告のインパクト—』, 渡部昭男編, 三学出版, ISBN978-4-903520-70-4

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	特別支援教育入門					
担当教員	金丸・渡部・谷川・垂髪				科目ナンバー	T01080
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	障害、文化的差異や貧困など、多様な特別な教育的ニーズのある子どもの特性、発達や生活の様子等の実態及び、それらを踏まえた支援対応の基本的知識を学ぶ。					
授業の概要	多様な人々を包摂する共生社会の創造に向けて、次世代の担い手である障害のある子どもの全体像をトータルに理解するため、障害の階層性や環境との相互作用などの考え方を有する国際的な障害概念や、インクルーシブ教育に基づく特別支援教育の意義について概説する。それを踏まえて、特別支援教育の教育課程、通級による指導や自立活動の意義、特別支援教育コーディネーターを中心とした連携、視覚障害、聴覚障害、知的障害（軽度知的障害も含む）、肢体不自由、病弱、や発達障害などの特性や支援方法の基礎的事項を講義する。加えて外国人児童や貧困問題などの特別な教育的ニーズのある子どもの支援の基礎的事項に言及する。理解を深めるため、毎回ミニレポートを課す。各回の授業については、金丸が、特別支援教育の歴史・思想の事項、渡部が特別支援教育の理念、社会的・制度的・経営的事項を中心に扱いながら、金丸・渡部が共同で行う。					
到達目標	<p>(1) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解について、①インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。②発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。③視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。【知識・理解】</p> <p>(2) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法について、①発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。②「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。③特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。④特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。【汎用的技能】</p> <p>(3) 障害がないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援について、①母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。【汎用的技能】</p>					
授業計画	<p>第1回：国際的な障害概念と特別支援教育 第2回：特別な教育的ニーズと特別支援教育 第3回：インクルーシブ教育システムに位置づく特別支援教育の理念と目的 第4回：障害のある子どもの理解と支援①「視覚障害と聴覚障害を中心に」 第5回：障害のある子どもの理解と支援②「発達障害を中心に」 第6回：障害のある子どもの理解と支援③「知的障害（軽度知的障害も含む）を中心に」 第7回：障害のある子どもの理解と支援④「肢体不自由と重度重複障害を中心に」 第8回：障害のある子どもの理解と支援⑤「病弱・身体虚弱を中心に」 第9回：特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援①「外国人児童生徒を中心に」 第10回：特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援②「貧困問題を中心に」 第11回：障害のある子どものライフステージに応じた教育支援計画 第12回：特別支援教育の教育課程①「教育課程の構造と指導計画」 第13回：特別支援教育の教育課程②「通級による指導を中心に」 第14回：特別支援教育の教育課程③「自立活動を中心に」 第15回：特別支援教育における支援体制と連携 定期試験 </p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、疑問点や分からぬ点を整理して授業に臨む（学習時間：2時間）。 授業後学習：各回の授業内容の要点とそれに対する自分の意見をミニレポートとしてまとめて提出する（学習時間：2時間）。</p>					
授業方法	講義：各回のテーマに関するディスカッションやグループ（ペア）ワークを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえて、重要事項について解説・講義を行う。					
評価基準と評価方法	定期試験（70%）・レポート（30%）					
履修上の注意	<p>1. 教育学部生は全員必修であるため、必ず受講すること。 2. 5回以上、欠席した場合は、受験資格を失う。 3. ミニレポートは出席確認を兼ねるため、ミニレポートを確認できなければ出席したと見なさないので要注意。 4. レポートの提出や記述式試験にあたって特別な配慮が必要な場合は、前もって相談に来ること。</p>					

教科書	『新しい特別支援教育のかたち インクルーシブ教育の実現に向けて』 吉利 宗久, 是永 かな子, 大沼 直樹 培風館 ISBN 9784563052492-0
参考書	<ul style="list-style-type: none">・『キーワードブック特別支援教育——インクルーシブ教育時代の障害児教育』, 玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・向井啓二編クリエイツかもがわ, ISBN978-4-86342-155-4・『日本型インクルーシブ教育への道—中教審報告のインパクト—』, 渡部昭男編, 三学出版, ISBN978-4-903520-70-4

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	特別支援教育入門					
担当教員	金丸・渡部・谷川・垂髪				科目ナンバー	T01080
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	障害、文化的差異や貧困など、多様な特別な教育的ニーズのある子どもの特性、発達や生活の様子等の実態及び、それらを踏まえた支援対応の基本的知識を学ぶ。					
授業の概要	多様な人々を包摂する共生社会の創造に向けて、次世代の担い手である障害のある子どもの全体像をトータルに理解するため、障害の階層性や環境との相互作用などの考え方を有する国際的な障害概念や、インクルーシブ教育に基づく特別支援教育の意義について概説する。それを踏まえて、特別支援教育の教育課程、通級による指導や自立活動の意義、特別支援教育コーディネーターを中心とした連携、視覚障害、聴覚障害、知的障害（軽度知的障害も含む）、肢体不自由、病弱、や発達障害などの特性や支援方法の基礎的事項を講義する。加えて外国人児童や貧困問題などの特別な教育的ニーズのある子どもの支援の基礎的事項に言及する。理解を深めるため、毎回ミニレポートを課す。各回の授業については、金丸が、特別支援教育の歴史・思想の事項、渡部が特別支援教育の理念、社会的・制度的・経営的事項を中心に扱いながら、金丸・渡部が共同で行う。					
到達目標	<p>(1) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解について、①インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。②発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。③視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。【知識・理解】</p> <p>(2) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法について、①発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。②「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。③特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。④特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。【汎用的技能】</p> <p>(3) 障害がないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援について、①母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。【汎用的技能】</p>					
授業計画	<p>第1回：国際的な障害概念と特別支援教育 第2回：特別な教育的ニーズと特別支援教育 第3回：インクルーシブ教育システムに位置づく特別支援教育の理念と目的 第4回：障害のある子どもの理解と支援①「視覚障害と聴覚障害を中心に」 第5回：障害のある子どもの理解と支援②「発達障害を中心に」 第6回：障害のある子どもの理解と支援③「知的障害（軽度知的障害も含む）を中心に」 第7回：障害のある子どもの理解と支援④「肢体不自由と重度重複障害を中心に」 第8回：障害のある子どもの理解と支援⑤「病弱・身体虚弱を中心に」 第9回：特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援①「外国人児童生徒を中心に」 第10回：特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援②「貧困問題を中心に」 第11回：障害のある子どものライフステージに応じた教育支援計画 第12回：特別支援教育の教育課程①「教育課程の構造と指導計画」 第13回：特別支援教育の教育課程②「通級による指導を中心に」 第14回：特別支援教育の教育課程③「自立活動を中心に」 第15回：特別支援教育における支援体制と連携 定期試験 </p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、疑問点や分からぬ点を整理して授業に臨む（学習時間：2時間）。 授業後学習：各回の授業内容の要点とそれに対する自分の意見をミニレポートとしてまとめて提出する（学習時間：2時間）。</p>					
授業方法	講義：各回のテーマに関するディスカッションやグループ（ペア）ワークを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえて、重要事項について解説・講義を行う。					
評価基準と評価方法	定期試験（70%）・レポート（30%）					
履修上の注意	<p>1. 教育学部生は全員必修であるため、必ず受講すること。 2. 5回以上、欠席した場合は、受験資格を失う。 3. ミニレポートは出席確認を兼ねるため、ミニレポートを確認できなければ出席したと見なさないので要注意。 4. レポートの提出や記述式試験にあたって特別な配慮が必要な場合は、前もって相談に来ること。</p>					

教科書	『新しい特別支援教育のかたち インクルーシブ教育の実現に向けて』 吉利 宗久, 是永 かな子, 大沼 直樹 培風館 ISBN 9784563052492
参考書	<ul style="list-style-type: none">・『キーワードブック特別支援教育——インクルーシブ教育時代の障害児教育』, 玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・向井啓二編クリエイツかもがわ, ISBN978-4-86342-155-4・『日本型インクルーシブ教育への道—中教審報告のインパクト—』, 渡部昭男編, 三学出版, ISBN978-4-903520-70-4

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	道徳教育の理論と方法					
担当教員	松岡 靖				科目ナンバー	T12040
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	道徳教育の指導案を倫理学で組み立てよう。					
授業の概要	本科目の内容と目標は次の三つに整理できる。第一に教育基本法などの方針に基づき、主体的かつ自立した人間として、他者と共生する基盤となる道徳性について、学生が理解を深めることである。第二に道徳の意義や原理を踏まえて、学校での道徳教育の目標と内容を、学生が修得することである。第三に道徳教育が学校の教育活動全体を通じて行われることを理解した上で、その要となる道徳化の指導方針と指導方法を、学生が修得することである。具体的には授業序盤は講義を中心とし、中盤で倫理学の視点で指導案を検討・作成し、終盤で学生が模擬授業を実施する。					
到達目標	道徳の意義や原理などを踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と、その要となる道徳科の目標・内容・指導計画等を学生が理解し【知識・理解】、教材研究・学習指導案の作成・模擬授業の実践などを通じて、学生が実践的な指導力を身に付ける【汎用的技能】。					
授業計画	第1回：オリエンテーション：私語の倫理学 第2回：体験した道徳教育：グループで発表する 第3回：指導要領にみる道徳科(1)：学校教育の役割 第4回：指導要領にみる道徳科(2)：他教科との関係 第5回：道徳科の教材研究(1)：自己との関わり 第6回：道徳科の教材研究(2)：他者との関わり 第7回：道徳科の教材研究(3)：集団・社会との関わり 第8回：道徳科の教材研究(4)：生命・自然との関わり 第9回：指導案の作成(1)：資料・ねらい・発問の工夫 第10回：指導案の作成(2)：導入・展開・終末の工夫 第11回：模擬授業の実践(1)：自己との関わり 第12回：模擬授業の実践(2)：他者との関わり 第13回：模擬授業の実践(3)：集団・社会との関わり 第14回：模擬授業の実践(4)：生命・自然との関わり 第15回：まとめ：相互評価・レポート返却・成績説明など					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 前半は学習指導要領と教科書を各自で読み込む（学習時間計20時間）。 2. 中盤はグループごとに指導案を作成し改善する（学習時間計20時間）。 3. 後半は各グループで模擬授業の実施を練習する（学習時間計20時間）。					
授業方法	1. 前半は反転授業を取り入れつつ教員が資料について解説する。 2. 中盤は具体的な指導案を題材にディスカッションを実施する。 3. 後半は各グループが模擬授業を実施し学生同士で質疑を行う。					
評価基準と評価方法	1. 平常点30点（コメントカードや授業での発言などによる） 2. 模擬授業40点（教員だけでなく学生の相互評価をも含む） 3. 学期末レポート30点（模擬授業と質疑応答を題材とする）					
履修上の注意	1. 授業が理解できない場合は遠慮せず積極的に質問すること。 2. 第11回～14回は6月下旬～7月上旬の土曜午前に実施する。 3. 原則として2/3以上の出席に満たない者は受験資格を失う。					
教科書	必要に応じて配布と指示を行う。					
参考書	『道徳教育はホントに道徳的か？』 松下良平、日本図書センター、978-4-284-30447-4 文部科学省 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成29年7月） 文部科学省 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成29年3月）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	乳児保育I					
担当教員	垂髪 あかり				科目ナンバー	T42120
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	乳児期の子どもの豊かな発達について理解し、子どもが主体性を發揮できるような乳児保育のあり方について検討するとともに、近年の乳児保育の現状と課題について探求する。					
授業の概要	近年の社会情勢を踏まえて、乳児保育の意義・目的と保育者としての役割について自覚できるよう図っていく。3歳未満の乳児の心身の健全な発達を保障していくために、0, 1, 2歳児の発達の特徴について学び、どのような保育が必要かを理解できるようにする。また、障害のある子どもや乳児院等で生活する子ども等、さまざまな状況にある乳児を理解し、多様な場における乳児保育の現状と課題について検討する。さらに、保育者間はもとより保護者や地域関係機関との連携のもとで、より質の高い保育を目指すことができるよう、具体的な事例から学生自らに引き寄せて学べるよう導いていく。					
到達目標	(1) 近年の社会情勢を踏まえた乳児保育の意義・目的と歴史的変遷、保育者としての役割について理解できる（知識・理解）。 (2) 子どもが主体的であるためにはどのような乳児保育が必要であるかを理解し、説明できる（知識・理解） (3) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容と運営体制について理解し、説明できる（知識・理解／汎用性技能） (4) 多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解できる（知識・理解） (5) 乳児保育における職員間の連携・協働、保護者や地域の関係機関との連携について理解し、説明できる（知識・理解／汎用性技能）					
授業計画	第1回 導入 乳児保育の意義・目的と役割「乳児ってどんな存在」 第2回 乳児保育の役割と機能・歴史的変遷 第3回 乳児保育の現状と課題「社会的状況と課題」 第4回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育①「0歳児の発育・発達①：0～6ヶ月児」 第5回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育②「0歳児の発育・発達②：7～12ヶ月児」 第6回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育③「0歳児クラスの日課、遊びと環境」（レポートA） 第7回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育④「1歳児の発育・発達①：13～18ヶ月児」 第8回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育⑤「1歳児の発育・発達②：19～24ヶ月児」 第9回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育⑥「1歳児クラスの日課、遊びと環境」 第10回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育⑦「2歳児の発育・発達」 第11回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育⑧「2歳児クラスの日課、遊びと環境」（レポートB） 第12回 在宅保育支援、家庭的保育等における乳児保育 第13回 保育所以外の児童福祉施設、医療機関、障害児施設等における乳児保育 第14回 乳児保育における連携・協働（職員、保護者） 第15回 乳児保育における連携・協働とまとめ（プレゼンテーション）					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業に関連するキーワードについて、授業中に指定した方法で下調べをし、manaba入力、またはワークシートに記入した上で授業に参加する。（学習時間2時間） 授業後学習：授業内に指示したテーマ・課題について報告文を作成し、manabaに入力する。manabaによる小テスト、レポート提出を行う。（学習時間2時間）					
授業方法	グループワーク：毎回、各テーマに関連したトピックについて調べてきたものに基づき、グループまたはペア、でワークおよびディスカッションを行い、全体に向けて発表する。 講義：各回設定のテーマについて、解説・講義を行う。					
評価基準と評価方法	①定期試験 30% ②レポート 30% ③平常点（リアクションペーパーへの取り組み） 30% ④グループワーク、ペアワーク、発表でのパフォーマンス 10%					
評価は下記の基準をもとに実施する。	100%～90% 問題を多角的に検討でき、適切な解を求めることができる。 89%～80% 授業で学んだことを自分の言葉で説明できる。 79%～70% 授業で学んだことを概ね説明できる。 69%～60% 知識・理解が十分とはいえない箇所が見受けられる。					
履修上の注意	出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 毎回の提出物、レポートの期限は守ること。					
教科書	『アクティブラーニング対応 乳児保育 一日の流れで考える発達と個性に応じた保育実践』、尾野朋美、小湊真衣、菊池篤子、萌文書林、初版、978-4-89347-286-1					

参考書	<ul style="list-style-type: none">・『乳児保育 一人ひとりが大切に育てられるために』, 吉本和子, 第6版, エイデル出版社,・『睡眠・食事・生活の基本（赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育 第1巻）』, 三池輝久, 上野有理, 小西行郎他, 初版, 中央法規出版, 978-4805854181・『運動・遊び・音楽（赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育 第2巻）』, 小西行郎, 小西薰, 志村洋子, 日本赤ちゃん学協会編, 初版, 中央法規出版, 978-4805854198・『乳児の発達と保育-遊びと育児』, 園と家庭を結ぶ「げんき」編集部, 初版, エイデル研究所, 978-4871684927・『抱っこを育てる乳児保育-育児担当者がめざすもの』樋口正春, 初版, 解放出版社, 978-4759222630
-----	---

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	乳児保育I					
担当教員	垂髪 あかり				科目ナンバー	T42120
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	乳児期の子どもの豊かな発達について理解し、子どもが主体性を發揮できるような乳児保育のあり方について検討するとともに、近年の乳児保育の現状と課題について探求する。					
授業の概要	近年の社会情勢を踏まえて、乳児保育の意義・目的と保育者としての役割について自覚できるよう図っていく。3歳未満の乳児の心身の健全な発達を保障していくために、0, 1, 2歳児の発達の特徴について学び、どのような保育が必要かを理解できるようにする。また、障害のある子どもや乳児院等で生活する子ども等、さまざまな状況にある乳児を理解し、多様な場における乳児保育の現状と課題について検討する。さらに、保育者間はもとより保護者や地域関係機関との連携のもとで、より質の高い保育を目指すことができるよう、具体的な事例から学生自らに引き寄せて学べるよう導いていく。					
到達目標	(1) 近年の社会情勢を踏まえた乳児保育の意義・目的と歴史的変遷、保育者としての役割について理解できる（知識・理解）。 (2) 子どもが主体的であるためにはどのような乳児保育が必要であるかを理解し、説明できる（知識・理解） (3) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容と運営体制について理解し、説明できる（知識・理解／汎用性技能） (4) 多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解できる（知識・理解） (5) 乳児保育における職員間の連携・協働、保護者や地域の関係機関との連携について理解し、説明できる（知識・理解／汎用性技能）					
授業計画	第1回 導入 乳児保育の意義・目的と役割「乳児ってどんな存在」 第2回 乳児保育の役割と機能・歴史的変遷 第3回 乳児保育の現状と課題「社会的状況と課題」 第4回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育①「0歳児の発育・発達①：0～6ヶ月児」 第5回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育②「0歳児の発育・発達②：7～12ヶ月児」 第6回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育③「0歳児クラスの日課、遊びと環境」（レポートA） 第7回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育④「1歳児の発育・発達①：13～18ヶ月児」 第8回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育⑤「1歳児の発育・発達②：19～24ヶ月児」 第9回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育⑥「1歳児クラスの日課、遊びと環境」 第10回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育⑦「2歳児の発育・発達」 第11回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育⑧「2歳児クラスの日課、遊びと環境」（レポートB） 第12回 在宅保育支援、家庭的保育等における乳児保育 第13回 保育所以外の児童福祉施設、医療機関、障害児施設等における乳児保育 第14回 乳児保育における連携・協働（職員、保護者） 第15回 乳児保育における連携・協働とまとめ（プレゼンテーション）					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業に関連するキーワードについて、授業中に指定した方法で下調べをし、manaba入力、またはワークシートに記入した上で授業に参加する。（学習時間2時間） 授業後学習：授業内に指示したテーマ・課題について報告文を作成し、manabaに入力する。manabaによる小テスト、レポート提出を行う。（学習時間2時間）					
授業方法	グループワーク：毎回、各テーマに関連したトピックについて調べてきたものに基づき、グループまたはペア、でワークおよびディスカッションを行い、全体に向けて発表する。 講義：各回設定のテーマについて、解説・講義を行う。					
評価基準と評価方法	①定期試験 30% ②レポート 30% ③平常点（リアクションペーパーへの取り組み） 30% ④グループワーク、ペアワーク、発表でのパフォーマンス 10%					
評価は下記の基準をもとに実施する。	100%～90% 問題を多角的に検討でき、適切な解を求めることができる。 89%～80% 授業で学んだことを自分の言葉で説明できる。 79%～70% 授業で学んだことを概ね説明できる。 69%～60% 知識・理解が十分とはいえない箇所が見受けられる。					
履修上の注意	出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 毎回の提出物、レポートの期限は守ること。					
教科書	『アクティブラーニング対応 乳児保育 一日の流れで考える発達と個性に応じた保育実践』、尾野朋美、小湊真衣、菊池篤子、萌文書林、初版、978-4-89347-286-1					

参考書	<ul style="list-style-type: none">・『乳児保育 一人ひとりが大切に育てられるために』, 吉本和子, 第6版, エイデル出版社,・『睡眠・食事・生活の基本（赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育 第1巻）』, 三池輝久, 上野有理, 小西行郎他, 初版, 中央法規出版, 978-4805854181・『運動・遊び・音楽（赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育 第2巻）』, 小西行郎, 小西薰, 志村洋子, 日本赤ちゃん学協会編, 初版, 中央法規出版, 978-4805854198・『乳児の発達と保育-遊びと育児』, 園と家庭を結ぶ「げんき」編集部, 初版, エイデル研究所, 978-4871684927・『抱っこを育てる乳児保育-育児担当者がめざすもの』樋口正春, 初版, 解放出版社, 978-4759222630
-----	---

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	発達障害教育総論					
担当教員	赤木 和重				科目ナンバー	T62110
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	発達障害のある児童・生徒の理解と教育指導と教育課程					
授業の概要	<p>本科目は特別支援教育に関する科目である。発達障害についての基礎的な理解、および発達障害のある児童・生徒を対象とした指導方法や教育課程についての概説を行う。発達障害の中でも、とくに、自閉症スペクトラム障害(ASD)、読み書き障害(LD)、注意欠如多動性障害(AD/HD)、言語障害に注目するとともに、これらの障害を抱え児童・生徒の情緒的な問題にも注目する。</p> <p>指導方法については、特に、それぞれの障害特性に応じた指導方法の概説とともに、視聴覚教材や実践的なエピソードなどを通して、具体的に理解できるようにつとめる。代表的な指導方法としては、TEACCHプログラム、SCERTSモデル、多層指導モデルMIMなどを概説する。また、発達障害のある児童・生徒を対象としたアクティブ・ラーニングの実際についても、その特徴を説明するとともに、アクティブ・ラーニングを導入している先進的な実践の紹介を通して、その理解と活用ができるように努める。</p> <p>教育課程については、学習指導要領でも取り入れられているカリキュラム・マネジメントに注目して、発達障害のある児童・生徒の発達を支えるような教育課程のあり方について、いくつかの特別支援学校の実例を紹介しながら述べる。同時に、インクルーシブ教育を可能にするような教育課程のあり方について、アメリカやイギリスでの学校での教育課程を紹介しながら、幅広い視野で教育課程を理解・作成できる基礎的力量を涵養する。</p>					
到達目標	発達障害のある児童・生徒に対する基本的理解が可能になるとともに、発達障害のある児童・生徒に対する代表的な指導方法をは把握し、かつ、教育課程のありかたを理解することができるようになる。					
授業計画	<p>第1回：発達障害のある児童・生徒と学校教育の現状</p> <p>第2回：自閉症スペクトラム障害(ASD)・学習障害(LD) 注意欠陥多動性障害(ADHD)・言語障害・その他の神経発達障害の特徴と対応の特徴と対応</p> <p>第3回：発達障害のある児童・生徒の情緒的問題(緘黙・不登校など)とその対応</p> <p>第4回：発達障害のある児童・生徒への指導法(1)：障害特性に応じた指導法(TEACCH・SCERTSなど)</p> <p>第5回：発達障害のある児童・生徒への指導法(2)：障害特性に応じた指導法(多層指導モデルMIM・スヌーズレンなど)</p> <p>第6回：発達障害のある児童・生徒への指導法(3)：アクティブ・ラーニングの視点から</p> <p>第7回：発達障害のある児童・生徒の発達を支える教育課程(1)：カリキュラム・マネジメントの視点から</p> <p>第8回：発達障害のある児童・生徒の発達を支える教育課程(2)：インクルーシブ教育の視点から</p>					
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	適宜、参考文献を提示するので、時間外に学習するようにこころがけてください。					
授業方法	受講者の興味・関心をひきつけることを意識します。具体的には、視聴覚教材や、実際の教材・教具などを提示しながら授業を行うようにこころがけます。					
評価基準と評価方法	授業毎に実施する小テスト(25%)、ワークシートの作成(25%)、定期テスト(50%)の3点から評価を行う。					
履修上の注意	積極的に履修してください。					
教科書	使用しない。自作プリントを使用する。					
参考書	<p>文部科学省(2018) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部) 開隆堂出版</p> <p>文部科学省(2018) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部) 開隆堂出版</p> <p>三浦三哉(2017) 特別支援教育のアクティブ・ラーニング ジアース教育新社</p> <p>丹野哲也・武富博文(2018) 知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメント 東洋館出版社</p> <p>赤木和重(2017) アメリカの教室に入ってみた：貧困地区の公立学校から超インクルーシブ教育まで(ひとなる書房)</p>					

参考書	
-----	--

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	病弱児の教育と指導					
担当教員	谷川 弘治・齋藤 淑子				科目ナンバー	T62080
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	病弱・身体虚弱教育が病弱児等の健康回復、発達の促進、生活の質の向上、社会的自立の準備に果たす役割を理解し、病弱児等の個別のニーズを踏まえながら教育計画を立案し、実践を構成するための基本的視点と技法を学ぶ。					
授業の概要	<p>本科目は特別支援教育に関する科目である。 病弱児等の教育と指導は学習指導要領に基づきつつ、家族及び医療スタッフとの協働と子どもとの対話をとおして構成していく。子どもの生活面の制約は、ほぼ通常の学校生活を送ることができる場合から入院による密度の高い医学的管理を要する場合まで幅広いスペクトラムを形成している。子どもによっては状況が日々変動する場合もある。教師にはこうした状況の的確な判断と子どもと家族の思いへの配慮が求められる。こうした特徴を踏まえて、本授業ではつぎの諸点を検討していく。 ①病弱教育の本質（病弱・身体虚弱教育の歴史・現状・課題、病弱教育における支援構造と対話等）、②教育課程と指導計画等の策定（学習指導要領、個別の指導計画と教育支援計画等）、③実践の構成（各教科、総合的な学習の時間と自立活動、ICTの活用、セーフティマネジメント等）、④成人への移行期支援と特別支援教育、⑤病気や障害のある子どもの緩和ケアと特別支援教育、⑥チーム医療と特別支援教育。 （オムニバス方式／全15回） （谷川弘治／8回） 病弱・身体虚弱教育の現状と課題、病弱教育の支援構造・プロセスと方法的視点について、セーフティマネジメントについて、成人への移行支援と特別支援教育、チーム医療と特別支援教育についての学修を支援する。 （齋藤淑子／7回） 病弱・身体虚弱教育の歴史、病弱・身体虚弱教育における教育課程と指導計画等の策定、病弱・身体虚弱教育における実践の構成についての学修を支援する。 </p>					
到達目標	<p>1. 病弱・身体虚弱のある子ども（病弱児等）の健康状態の維持・改善、発達の促進、生活の質の向上において学校教育（通常学級を含む）が担ってきている役割を説明できる。 2. 病弱教育における支援の基本的な構造とプロセスを理解し、支援者としての教師の視点、意図、技法を捉えることができる。 3. 病弱・身体虚弱教育における教育課程編成と教育計画立案、実践を構成するための基本的視点と技法を説明できる。 4. 成人への移行期支援におけるトータルケアを理解し、学校教育が担う役割を説明できる。 5. 緩和ケアを理解し、とくにエンドオブライフケアにおいて学校と教師にできることについて自分なりの意見を表明することができる。 6. 入退院によって生活の場が変わることに対応して在籍する学校が変わることを踏まえ、病院や地域の支援機関との連携と協働をどのように進めていくのか、学校内のチームづくりをどのように進めていくのかを説明できる。</p>					
授業計画	<p>第1回：導入「子どもが病気になったとき - トータルケアと学校教育」（担当、谷川 弘治） 第2回：病弱・身体虚弱教育の本質①「病弱・身体虚弱教育の歴史」（担当、齋藤淑子） 第3回：病弱・身体虚弱教育の本質②「病弱・身体虚弱教育の現状と課題」（担当、谷川 弘治） 第4回：病弱・身体虚弱教育の本質③「病弱教育における基本的な支援の構造・プロセスと方法的視点」（担当、谷川 弘治） 第5回：病弱・身体虚弱教育における教育課程と指導計画等の策定①「教育課程の編成」（担当、齋藤 淑子） 第6回：病弱・身体虚弱教育における教育課程と指導計画等の策定②「子どもの実態把握の視点・方法」（担当、齋藤 淑子） 第7回：病弱・身体虚弱教育における実践の構成①「各教科等の指導」（担当、齋藤 淑子） 第8回：病弱・身体虚弱教育における実践の構成②「総合的な学習の時間と自立活動の実施」（担当、齋藤 淑子） 第9回：病弱・身体虚弱教育における実践の構成③「教材・教具・ICTの活用」（担当、齋藤 淑子） 第10回：病弱・身体虚弱教育における実践の構成④「エンドオブライフケアにおける教育」（担当、齋藤 淑子） 第11回：病弱・身体虚弱教育における実践の構成⑤「セーフティマネジメントの考え方と進め方」（担当、谷川弘治） 第12回：成人への移行支援と特別支援教育①「小児慢性疾患患者・経験者の社会的自立の実態と課題」（担当、谷川 弘治） 第13回：成人への移行支援と特別支援教育②「学校における自立支援の課題（進路指導、職業教育）」（担当、谷川 弘治） 第14回：チーム医療と特別支援教育（担当、谷川 弘治） 第15回：まとめ（担当、谷川 弘治） 定期試験 </p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>1. 授業前準備学習：プレバレーションペーパー（レポート①）の作成（学習時間120分程度） ・プレバレーションペーパーは「レポート」として評価する。 ・課題は事前（少なくとも授業の1週間前）にマナバに掲示する。 ・テキストあるいは配付資料の指定箇所を参照して課題を完成させ、期限内にマナバ経由で提出する。教材・教具の作成等のようにマナバで提出が難しい場合は、授業当日に提出するように指示する。 ・プレバレーションペーパーは受講生全員が閲覧できるように設定するので、個人の経験等を記述する場合は、個人情報等に留意すること。</p> <p>2. 授業後学習：振り返り（学習時間60分程度） ・授業資料の末尾にノート欄をおくので、授業を通して得ることができた知識や技能、疑問点、今後深めていきたい点を整理する。 ・ノートと合わせて返却されたアクションペーパーを整理しておく。</p>					

授業外における学習（準備学習の内容・時間）	プレパレーションペーパー等の提出物は再提出を求める場合がある。その場合は、期限までに提出する。
授業方法	講義では対話を重視する。また、グループワーク、発表、ミニ授業等を加えて進めていく。提出されたプレパレーションペーパーの内容は授業に活かしていく。
評価基準と評価方法	期末テスト：70%、レポート：30%
履修上の注意	<p><連絡></p> <ul style="list-style-type: none"> ・上述の準備課題に加え、各種の連絡はマナバを通して行う。マナバのリマインダには注意する。 <p><欠席></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料類やリアクションペーパーは適宜、出席者に配付する。欠席した場合は教員研究室にて受け取るか、つぎの授業回で受け取る。 ・学外実習等による欠席の際は、実習終了後、テキスト等の該当箇所を読んでプレパレーションペーパーを作成して提出する。また、講義資料に示されている課題に取り組んで、提出する。 ・授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末テスト（定期試験）の受験資格を失うものとする。 <p><評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標への配分（各々について定期試験70%，レポート①②30%） <ul style="list-style-type: none"> ① 病弱・身体虚弱のある子ども（病弱児等）の健康状態の維持・改善、発達の促進、生活の質の向上において学校教育（通常学級を含む）が担ってきている役割を説明できる。（知識・理解）10点 ② 病弱教育における支援の基本的な構造とプロセスを理解し、支援者としての教師の視点、意図、技法を捉えることができる。（汎用的技能）10点 ③ 病弱・身体虚弱教育における教育課程編成と教育計画立案、実践を構成するための基本的視点と技法を説明できる（知識・理解）30点（汎用的技能）20点。 ④ 成人への移行期支援におけるトータルケアを理解し、学校教育が担う役割を説明できる。（知識・理解）10点 ⑤ 緩和ケアを理解し、とくにエンドオブライフケアにおいて学校と教師にできることについて自分なりの意見を表明することができる。（態度・志向性）10点 ⑥ 入退院によって生活の場が変わることに対応して在籍する学校が変わることを踏まえ、病院や地域の支援機関との連携と協働をどのように進めていくのか、学校内のチームづくりをどのように進めていくのかを説明できる。（知識・理解）10点 ・評価基準が下記を基本とする。 <ul style="list-style-type: none"> AA, A : 根拠をもって述べることができる、発展性・独自性が認められる。 B : おおむね基本を押さえている C : 基本を押さえているが不十分な箇所が目立つ ・プレパレーションペーパーはテキスト及び配付物の概要や基礎となる知識を整理する重要な要素であり「レポート①」として評価する。 ・グループワークの成果物、ミニ授業の資料類とまとめとして提出するリアクションペーパーも「レポート②」として評価する。 <p><理解を確実なものとするために></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の理解のためには、ボランティア活動等で病気や障害のある子どもと接する機会を設けることが望ましい。ボランティア活動が難しい場合は、図書館にあるDVDを視聴するなど、経験を補うことが不可欠である。 <p><期末テストについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末テストは16回目に実施する。 ・期末テストの詳細は授業中に説明する。
教科書	『病気の子どもの教育入門』、全国病弱教育研究会（編）、クリエイツかもがわ、978-4-8634-2116-5
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『特別支援学校幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領、高等部学習指導要領』、文部科学省、2016 ・『多職種合同ワークショップ「病気の子どものトータルケアセミナー」研修プログラム集 第8集：表現力を高める 医療現場での対話と実践を振り返り、共有するために』、谷川弘治ほか、私製 (http://kota.la.coocan.jp) ・『多職種合同ワークショップ「病気の子どものトータルケアセミナー」研修プログラム集 第2集：個別支援計画の立案と実施』、谷川弘治、私製 (http://kota.la.coocan.jp) ・『病弱・虚弱児の医療・療育・教育』、改定第3版)、宮本信也・土橋圭子（編）、金芳堂、978-4-7653-1627-9 ・『特別支援教育の基礎・基本』、新訂版、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所、ジース教育新社、978-4-86371-297-3 ・『病気の子どもの教育支援ガイド』、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所、ジース教育新社、978-4-8637-1406-9 ・『病弱教育における各教科の指導』、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所、ジース教育新社、978-4-8637-1333-8 ・『病気の子どもの心理社会的支援入門 医療保育・病弱教育・医療ソーシャルワーク・心理臨床を学ぶ人に』、第2版、谷川弘治ほか（編）、ナカニシヤ出版978-4-7795-0289-7

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	病弱児の心理・生理・病理I					
担当教員	谷川 弘治・園府寺 美				科目ナンバー	T62090
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	病気とつきあいながら自分らしく生きようとする病弱児のトータルな理解の視点を学ぶ。					
授業の概要	<p>本科目は特別支援教育に関する科目である。 病気の子どもと家族のトータルケアを構成する一員として、病弱特別支援教育を担当する教師が医療スタッフとの協働のもとに教育実践を適切に計画、実施し、振り返りを行うために必要な対象理解の知識と技術を探求する。 病気の子どもや医療現場に出会うことの少ない学生の実情を考慮し、「病弱児の心理・生理・病理Ⅰ」を入門編、「病弱児の心理・生理・病理Ⅱ」を応用編とする。</p> <p>本授業は2部構成とする。第1部「病弱児理解の視点」では、小児医療の目的、診断と治療の基本的な考え方を学ぶ。さらに入院治療中・退院後の生活・緩和ケアにおける医学的管理と生活規制などの根拠並びにトータルな理解の必要性と課題を学び、支援者のあり方を検討する。第2部「病弱児の心理と行動」では、病気とつきあいながら生活する病弱児の心理と行動について子どもの視点から学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (谷川 弘治／8回) 「病弱児理解の視点」のうち導入及び「支援者と子どもの対話」を、さらに「病弱児の心理と行動」を担当する。 (園府寺 美／7回) 「病弱児理解の視点」のうち小児医療の目的、診断と治療の考え方、入院治療中・退院後の生活・緩和ケアにおける子どもと家族の理解を担当する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 生物心理社会モデルに基づき、寄り添いながら対象理解を深めていく明確で柔軟な視点をもち、自らが対象の立場に立ったとき、あるいは教師の立場に立ったときをイメージしながら自分にできることを具体的に検討できる。 小児医療と特別支援教育が共有しうる目的を踏まえ、診断と治療の基本的な考え方を理解し、子どもの身体と治療の状況に応じて教師が行うべき配慮の医学的根拠を学ぶ姿勢を確立する。 病気とつきあいながら生活する病弱児の心理と行動を理解する視点を得る。 					
授業計画	<p>第1回：病弱児理解の視点①「子どもと家族に寄り添いながら理解を深める」（導入）（担当：谷川弘治） 第2回：病弱児理解の視点②「小児医療の目的：QOLの向上、慢性疾患とつきあいながら自分らしく生きる」（生理・病理と心理）（担当：園府寺 美） 第3回：病弱児理解の視点③「疾病的診断」（生理・病理）（担当：園府寺 美） 第4回：病弱児理解の視点④「疾病的治療：化学療法、食事療法」（生理・病理）（担当：園府寺 美） 第5回：病弱児理解の視点⑤「疾病的治療：外科的療法、放射線療法など」（生理・病理）（担当：園府寺 美） 第6回：病弱児理解の視点⑥「入院治療中の子どもと家族の理解」（生理・病理と心理）（園府寺 美） 第7回：病弱児理解の視点⑦「退院後、治療・定期検診を続けながら地域で暮らす子どもと家族の理解」（心理・生理・病理）（担当：園府寺 美） 第8回：病弱児理解の視点⑧「緩和ケアにおける子どもと家族の理解」（生理・病理と心理）（担当：園府寺 美） 第9回：病弱児理解の視点⑨「支援者と子どもの対話」（心理）（担当：谷川弘治） 第10回：病弱児の心理と行動①「自分の病気と治療の方針等を理解し、治療に参加する」（担当：谷川弘治） 第11回：病弱児の心理と行動②「病気と治療に伴うネガティブな感情（不全感、喪失感、悲嘆、緊張感、不安、恐怖など）と向き合う」（担当：谷川弘治） 第12回：病弱児の心理と行動③「遊ぶ、学ぶ、つながる」（担当：谷川弘治） 第13回：病弱児の心理と行動④「心の準備をする」（担当：谷川弘治） 第14回：病弱児の心理と行動⑤「地域の学校生活における困りごとに対処する」（担当：谷川弘治） 第15回：病弱児の心理と行動⑥「社会的自立と進路選択」（担当：谷川弘治） 定期試験</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ol style="list-style-type: none"> 授業前準備学習：プレパレーションペーパー（レポート①）の作成（学習時間120分程度） <ul style="list-style-type: none"> ・プレパレーションペーパーの作成を指示することがある。 ・プレパレーションペーパーは「レポート」の1つとして評価する。 ・課題は事前（少なくとも授業の1週間前）にマナバに掲示する。 ・テキストあるいは配付資料の指定箇所を参照して課題を完成させ、期限内にマナバ経由で提出する。教材・道具の作成等のようにマナバで提出が難しい場合は、授業当日に提出するように指示する。 ・プレパレーションペーパーは受講生全員が閲覧できるように設定するので、個人の経験等を記述する場合は、個人情報等に留意すること。 ・プレパレーションペーパーの作成が指示されない場合も、テキストあるいは資料の該当箇所をまとめておく等、準備を行う。 授業後学習：振り返り（学習時間60分程度） <ul style="list-style-type: none"> ・授業資料の末尾にノート欄をおくので、授業を通して得ることができた知識や技能、疑問点、今後深めていきたい点を整理する。 ・ノートと合わせて返却されたアクションペーパーを整理しておく。 ・プレパレーションペーパー等の提出物は再提出を求める場合がある。その場合は、期限までに提出する。 					

授業方法	講義では対話を重視する。また、グループワーク、発表等を加えて進めていく。 提出されたプレパレーションペーパーの内容を共有して授業に活かしていく。
評価基準と評価方法	定期試験 75% レポート 25%
履修上の注意	<p><連絡></p> <ul style="list-style-type: none"> ・上述の準備課題に加え、各種の連絡はマナバを通して行う。マナバのリマインダには注意する。 <p><欠席></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料類やアクションペーパーは適宜、出席者に配付する。欠席した場合は教員研究室にて受け取るか、つぎの授業回で受け取ること。 ・学外実習等による欠席の際は、実習終了後、テキストあるいは資料等の該当箇所を読んでプレパレーションペーパーを作成して提出する。また、講義資料に示されている課題に取り組んで、提出する。 ・授業回数の3分の1以上を欠席したものは定期試験の受験資格を失うものとする。 <p><評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標への配分（各々について定期試験75%、レポート①②25%） <p>① 生物心理社会モデルに基づき、寄り添いながら対象理解を深めていく明確で柔軟な視点をもち、自らが対象の立場に立ったとき、あるいは教師の立場に立ったときをイメージしながら自分にできることを具体的に検討できる。 [知識・理解] 20点</p> <p>② 小児医療と特別支援教育が共有しうる目的を踏まえ、診断と治療の基本的な考え方を理解し、子どもの身体と治療の状況に応じて教師が行うべき配慮の医学的根拠を学ぶ姿勢を確立する。 [知識・理解] 30点 [態度・志向性] 10点</p> <p>③ 病気とつきあいながら生活する病弱児の心理と行動を理解する視点を得る。 [知識・理解] 30点 [汎用的技能] 10点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価基準が下記を基本とする。 <p>AA, A : 根拠をもって述べることができる。発展性・独自性が認められる。</p> <p>B : おおむね基本を押さえている</p> <p>C : 基本を押さえているが不十分な箇所が目立つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレパレーションペーパーはテキスト及び配付物の概要や基礎となる知識を整理する重要な要素であり「レポート①」として評価する。 ・グループワークの成果物とまとめとして提出するアクションペーパーも「レポート②」として評価する。 <p><理解を確実なものとするために></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の理解のためには、ボランティア活動等で病気や障害のある子どもと接する機会を設けることが望ましい。ボランティア活動が難しい場合は、図書館にあるDVDを視聴するなど、経験を補うことが不可欠である。 <p><試験について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験は16回目に実施する。 ・定期試験の詳細は授業中に説明する。
教科書	テキスト 『病弱児の心理学』 谷川弘治ほか、クリエイツかもがわ（2020年9月出版予定）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『子どもたちの笑顔を支える小児緩和ケア』、多田羅竜平、金芳堂、978-4-7653-1705-4 ・『空にかかるはしご 天使になった子どもと生きるグリーフサポートブック』、「空にかかるはしご」編集委員会、九州大学大学院 ・『多職種合同ワークショップ「病気の子どものトータルケアセミナー」研修プログラム集 第8集：表現力を高める 医療現場での対話と実践を振り返り、共有するために』、谷川弘治ほか、私製 (http://kota.la.coocan.jp) ・『多職種合同ワークショップ「病気の子どものトータルケアセミナー」研修プログラム集 第7集：子どもの遊びと遊び活動』、谷川弘治、私製 (http://kota.la.coocan.jp) ・『病弱・虚弱児の医療・療育・教育（改定第3版）』、宮本信也・土橋圭子（編）、金芳堂、978-4-7653-1627-9 ・『チャイルドライフカウンシル 遊び活動レシピブック』、谷川弘治ほか（訳）、私製 (http://kota.la.coocan.jp) ・『特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理』、小野次郎ほか、ミネルヴァ書房、978-4-623-06153-2 ・『臨床健康心理学 ケースフォーミュレーションと心理療法』、安藤美華代（監訳）、岡山大学出版会、978-4-9042-2816-6 ・『健康心理学・入門 健康なこころ・身体・社会づくり』、島井哲志・長田久雄・小玉正博、有斐閣アルマ、978-4-6411-2386-1 ・『病気の子どもの心理社会的支援入門 医療保育・病弱教育・医療ソーシャルワーク・心理臨床を学ぶ人に』、第2版、谷川弘治ほか（編）、ナカニシヤ出版978-4-7795-0289-7 ・『大人になりゆくあなたに 小児慢性疾患の治療・定期検診を受けながら大人の準備をするためのガイドブック（中学生・高校生向）』、キャリーオーバーキャリアガイダンスハンドブック検討会（編）、私製 (http://kota.la.coocan.jp) ・『社会にはばたくときに 社会人として歩み始めた小児慢性疾患患者・経験者のみなさんについて』、キャリーオーバーキャリアガイダンスハンドブック検討会（編）、私製 (http://kota.la.coocan.jp) ・『臨床心理アセスメント入門』、下山晴彦、金剛出版、978-4-7724-1044-1 ・『チャーリーブラウンなぜなんだい ともだちがおもい病気になったとき』、チャールズ・シュルツ（細谷亮太 訳）、岩崎書店、978-4-2658-0069-8 ・The private worlds of dying children, Bluebond-Langner, M., Princeton paperback, 978-0-6910-2820-0

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	美術実技					
担当教員	奥 美佐子				科目ナンバー	T42370
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	美術を体感し、表現の展開に挑む					
授業の概要	美術表現の新しい表現技法を学び、自己表現における表現技術を高める。また、制作過程および完成作品を相互評価することを通して、表現、鑑賞、評価の力を養い子どもの造形表現や図画工作科における指導技術へつなぐ能力を付ける。この授業では、自由制作の枠を置き構想から表現までを各自プランする時間を設けている。自分が表現したい内容に沿ってメディアを選択し、造形要素からの表現、コラージュ、版表現、立体や半立体による制作、工芸やデザイン的な表現など幅広い表現に挑戦し、表現活動の道筋を体験し学ぶ。					
到達目標	1. 新しい表現技術を使って作品を制作することができる。（知識・理解） 2. 自分のイメージに沿って材料を選択し、造形作品として具体化できる。（知識・理解） 3. 造形言語を使って自分の表現を言語化できる。（汎用的技能）					
授業計画	第1回：材料と表現の関連について 第2回：紙の立体：基本操作と作品の構想 第3回：紙の立体：イメージを具体化する 第4回：ポップアップカード：しくみと構想 第5回：ポップアップカード：制作・完成 第6回：鑑賞と相互評価 第7回：動く立体：動きの原理 第8回：動く立体：デザインと制作 第9回：動く立体：完成と自己評価 第10回：版表現：版をつくる 第11回：版表現：刷り 第12回：自由制作・課題選択（選択）（1）構想・制作 第13回：自由制作・課題選択（選択）（2）制作 第14回：自由制作・課題選択（選択）（3）完成・展示 第15回：合評会による相互評価					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業回ごとにシラバスのテーマにあるワードを調べ、材料研究しておくこと。その際、造形の専門用語を使用できるようにし、提出課題への記入時に生かせるようにしておくこと。（学習時間2時間） 授業後学習：制作過程や作品制作のコンセプトを確認し、美術的行為を言語化して自作を解説した小レポートを作成する。授業時間内に終了しなかったものを、次回または指定の期日までに完成させておくこと。（学習時間2時間）					
授業方法	実技：制作と評価、鑑賞を織り込む。特に作品の相互鑑賞を対話式に運び、造形表現の特質や美術表現の理論的背景を深く理解できるようにする。					
評価基準と評価方法	課題レポート、表現履歴及び作品の提出80%、相互評価・プレゼンテーション20%で評価する。					
履修上の注意	・履修者は基本的な美術教材（1年次の美術表現で購入し、4年間の美術系科目共通で使用する）を全員購入する。 ・実技を伴う回は必携。 ・各回に必要な教材については隨時伝達するので、各自準備を怠らないこと。 ・指定された提出物がすべて提出されていること、授業回数の2/3以上出席していることが評価対象の条件。					
教科書	テキストは使用しない。 必要に応じて授業ごとに資料を配布する。					
参考書	『紙のフォルム』尾川宏著 求龍堂 『デザイナーのための折りのテクニック 平面から立体へ』ポール・ジャクソン著					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	美術実技					
担当教員	奥 美佐子				科目ナンバー	T42370
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	美術を体感し、表現の展開に挑む					
授業の概要	美術表現の新しい表現技法を学び、自己表現における表現技術を高める。また、制作過程および完成作品を相互評価することを通して、表現、鑑賞、評価の力を養い子どもの造形表現や図画工作科における指導技術へつなぐ能力を付ける。この授業では、自由制作の枠を置き構想から表現までを各自プランする時間を設けている。自分が表現したい内容に沿ってメディアを選択し、造形要素からの表現、コラージュ、版表現、立体や半立体による制作、工芸やデザイン的な表現など幅広い表現に挑戦し、表現活動の道筋を体験し学ぶ。					
到達目標	1. 新しい表現技術を使って作品を制作することができる。（知識・理解） 2. 自分のイメージに沿って材料を選択し、造形作品として具体化できる。（知識・理解） 3. 造形言語を使って自分の表現を言語化できる。（汎用的技能）					
授業計画	第1回：材料と表現の関連について 第2回：紙の立体：基本操作と作品の構想 第3回：紙の立体：イメージを具体化する 第4回：ポップアップカード：しくみと構想 第5回：ポップアップカード：制作・完成 第6回：鑑賞と相互評価 第7回：動く立体：動きの原理 第8回：動く立体：デザインと制作 第9回：動く立体：完成と自己評価 第10回：版表現：版をつくる 第11回：版表現：刷り 第12回：自由制作・課題選択（選択）（1）構想・制作 第13回：自由制作・課題選択（選択）（2）制作 第14回：自由制作・課題選択（選択）（3）完成・展示 第15回：合評会による相互評価					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業回ごとにシラバスのテーマにあるワードを調べ、材料研究しておくこと。その際、造形の専門用語を使用できるようにし、提出課題への記入時に生かせるようにしておくこと。（学習時間2時間） 授業後学習：制作過程や作品制作のコンセプトを確認し、美術的行為を言語化して自作を解説した小レポートを作成する。授業時間内に終了しなかったものを、次回または指定の期日までに完成させておくこと。（学習時間2時間）					
授業方法	実技：制作と評価、鑑賞を織り込む。特に作品の相互鑑賞を対話式に運び、造形表現の特質や美術表現の理論的背景を深く理解できるようにする。					
評価基準と評価方法	課題レポート、表現履歴及び作品の提出80%、相互評価・プレゼンテーション20%で評価する。					
履修上の注意	・履修者は基本的な美術教材（1年次の美術表現で購入し、4年間の美術系科目共通で使用する）を全員購入する。 ・実技を伴う回は必携。 ・各回に必要な教材については隨時伝達するので、各自準備を怠らないこと。 ・指定された提出物がすべて提出されていること、授業回数の2/3以上出席していることが評価対象の条件。					
教科書	テキストは使用しない。 必要に応じて授業ごとに資料を配布する。					
参考書	『紙のフォルム』尾川宏著 求龍堂 『デザイナーのための折りのテクニック 平面から立体へ』ポール・ジャクソン著					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	美術表現					
担当教員	奥 美佐子				科目ナンバー	T41350
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	表現の体感と理解					
授業の概要	美術表現では造形とは何か、造形表現は子どもにとってどのような意味を持つのかなど、幼児造形教育の意味と意義について理論と実技の学びを通して理解する。造形理論の学習により造形表現の基礎基本を理解すると共に、教育現場で使われている材料研究を通して造形素材の特質や扱いを会得し、造形操作や技法の習得と表現への展開法、幅広いメディアによるイメージ表現の試行を経験する。学んだ造形表現の基本的な考え方と表現技法を、造形表現の指導援助に生かせるようにする。					
到達目標	1. 子どもの造形活動や表現を理解し、造形理論や造形言語を用いて活動や作品を解説することができる。（知識・理解） 2. 表現技法をファイリングし、技法の特徴や方法を説明することができる。（知識・理解） 3. 造形要素や表現技法を有効に使用し、オリジナルの表現を生成することができる。（汎用的技能）					
授業計画	第1回：子どもと美術－領域表現と子どもの美術（造形）－ 第2回：美術表現の成り立ち（1）子どもの表現が生まれる道筋 第3回：美術表現の成り立ち（2）造形理論の理解と子どもの表現の見方 第4回：材料と表現 第5回：形と色の表現 第6回：五感と表現（1）五感で感じ形や色で表す（個人・共同） 第7回：五感と表現（2）他者の表現を鑑賞し、分析する 第8回：子どもが楽しむ表現技法の研究（1）パス・コンテの遊び 第9回：子どもが楽しむ表現技法の研究（2）絵の具の遊び 第10回：子どもが楽しむ表現技法の研究（3）版遊び 第11回：子どもが楽しむ表現技法の研究（4）いろいろな材料・用具の使用 第12回：子どもが楽しむ表現技法の研究（5）ファイリング 第13回：表現技法を生かす（1）構想・表現 第14回：表現技法を生かす（2）表現・完成 第15回：鑑賞を愉しむーまとめとして：PC、OHC等を使ったプレゼンテーション					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：予告した各回の授業内容に沿って紹介した参考図書あるいは資料で事前学習しておくこと。実技を含む授業回に当たっては、材料用具の選定に留意すること。2時間。 授業後学習：特に実技を含む授業の事後に当たっては、授業時間内に終了しなかったものを次週、または指定の期日までに完成させておくこと。学んだ理論や実技的内容を応用できるように、子どもの表現や作家の作品を見て鑑賞眼を養うこと。2時間。					
授業方法	演習：造形理論及び感性にかかる内容の回は、グループワークやディスカッションを取り入れ、学生相互の理解を深める。授業全体を通じて幼児造形の特質や美術表現の理解を実技的体験を通じて理論的背景を把握できるようにする。					
評価基準と評価方法	課題レポート及び課題作品提出による評価80%、プレゼンテーション等の評価20%					
履修上の注意	授業で必要な教材は履修者全員購入する（卒業年次までの美術系授業で使用する）。実技を伴う授業回の場合、必要な準備物の予告をするので必携。 指定された提出物がすべて提出されていること、授業回数の2/3以上出席していることが評価対象の条件。					
教科書	テキストは使用しない。 プリントを適宜配布する。					
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	美術表現					
担当教員	奥 美佐子				科目ナンバー	T41350
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	表現の体感と理解					
授業の概要	美術表現では造形とは何か、造形表現は子どもにとってどのような意味を持つのかなど、幼児造形教育の意味と意義について理論と実技の学びを通して理解する。造形理論の学習により造形表現の基礎基本を理解すると共に、教育現場で使われている材料研究を通して造形素材の特質や扱いを会得し、造形操作や技法の習得と表現への展開法、幅広いメディアによるイメージ表現の試行を経験する。学んだ造形表現の基本的な考え方と表現技法を、造形表現の指導援助に生かせるようにする。					
到達目標	1. 子どもの造形活動や表現を理解し、造形理論や造形言語を用いて活動や作品を解説することができる。 (知識・理解) 2. 表現技法をファイリングし、技法の特徴や方法を説明することができる。(知識・理解) 3. 造形要素や表現技法を有効に使用し、オリジナルの表現を生成することができる。(汎用的技能)					
授業計画	第1回：子どもと美術－領域表現と子どもの美術（造形）－ 第2回：美術表現の成り立ち（1）子どもの表現が生まれる道筋 第3回：美術表現の成り立ち（2）造形理論の理解と子どもの表現の見方 第4回：材料と表現 第5回：形と色の表現 第6回：五感と表現（1）五感で感じ形や色で表す（個人・共同） 第7回：五感と表現（2）他者の表現を鑑賞し、分析する 第8回：子どもが楽しむ表現技法の研究（1）パス・コンテの遊び 第9回：子どもが楽しむ表現技法の研究（2）絵の具の遊び 第10回：子どもが楽しむ表現技法の研究（3）版遊び 第11回：子どもが楽しむ表現技法の研究（4）いろいろな材料・用具の使用 第12回：子どもが楽しむ表現技法の研究（5）ファイリング 第13回：表現技法を生かす（1）構想・表現 第14回：表現技法を生かす（2）表現・完成 第15回：鑑賞を愉しむーまとめとして：PC、OHC等を使ったプレゼンテーション					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：予告した各回の授業内容に沿って紹介した参考図書あるいは資料で事前学習しておくこと。実技を含む授業回に当たっては、材料用具の選定に留意すること。2時間。 授業後学習：特に実技を含む授業の事後に当たっては、授業時間内に終了しなかったものを次週、または指定の期日までに完成させておくこと。学んだ理論や実技的内容を応用できるように、子どもの表現や作家の作品を見て鑑賞眼を養うこと。2時間。					
授業方法	演習：造形理論及び感性にかかる内容の回は、グループワークやディスカッションを取り入れ、学生相互の理解を深める。授業全体を通じて幼児造形の特質や美術表現の理解を実技的体験を通じて理論的背景を把握できるようにする。					
評価基準と評価方法	課題レポート及び課題作品提出による評価80%、プレゼンテーション等の評価20%					
履修上の注意	授業で必要な教材は履修者全員購入する（卒業年次までの美術系授業で使用する）。実技を伴う授業回の場合、必要な準備物の予告をするので必携。 指定された提出物がすべて提出されていること、授業回数の2/3以上出席していることが評価対象の条件。					
教科書	テキストは使用しない。 プリントを適宜配布する。					
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月）					

科目区分	教育学科専門教育科目																																			
科目名	保育基本演習																																			
担当教員	林 悠子				科目ナンバー	T42190																														
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数 1.0																														
授業のテーマ	保育の理論と実践をつなげてみよう。																																			
授業の概要	幼児期の教育のさまざまな領域における幼児の発達について、自作教材を通して考えるために、実際の保育を想定した模擬保育を通じて、指導計画の役割を知り、その意義について理解する。そのために、下記を行う。第一に、乳幼児の行動や捉え方について具体的な事例を通して理解を深める。第二に、保育教材を収集したり作成したりする過程で、教材のもう意味や生かし方を学び、模擬保育の中で活用してみる。第三に、上記の目に見える保育を指導計画や指導案ではどのように表し、どのように評価していくかなど保育実務の仕組みを理解する。																																			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を通して子ども理解を深めることができる。【知識・理解】 ・教材を活用して模擬保育の実践・振り返りを行うことができる。【汎用的技能】 ・指導案作成の基本を理解し、模擬保育に向けて作成し、自らの課題を明確にすることができます。【態度・志向性】 																																			
授業計画	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>オリエンテーション</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>事例を通した子どもも理解①養護について</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>事例を通した子どもも理解②教育について</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>保育所保育指針の復習</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>保育の教材を知る（紙を使って）①グループでの構想と作業</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>保育の教材を知る（紙を使って）②作業と発表</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>保育案の考え方（紙を使った遊びを事例に）</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>環境構成の意味</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>さまざまな教材を知る①身近な物の活用、よく用いられる教材について</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>さまざまな教材を知る②教材と教材の使い方</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>模擬保育案作成①保育案の基本的考え方、作成の要点を知る</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>模擬保育案作成②各グループでの立案</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>模擬保育実践①前半グループ</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>模擬保育実践②後半グループ</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>総括</td></tr> </table>						第1回	オリエンテーション	第2回	事例を通した子どもも理解①養護について	第3回	事例を通した子どもも理解②教育について	第4回	保育所保育指針の復習	第5回	保育の教材を知る（紙を使って）①グループでの構想と作業	第6回	保育の教材を知る（紙を使って）②作業と発表	第7回	保育案の考え方（紙を使った遊びを事例に）	第8回	環境構成の意味	第9回	さまざまな教材を知る①身近な物の活用、よく用いられる教材について	第10回	さまざまな教材を知る②教材と教材の使い方	第11回	模擬保育案作成①保育案の基本的考え方、作成の要点を知る	第12回	模擬保育案作成②各グループでの立案	第13回	模擬保育実践①前半グループ	第14回	模擬保育実践②後半グループ	第15回	総括
第1回	オリエンテーション																																			
第2回	事例を通した子どもも理解①養護について																																			
第3回	事例を通した子どもも理解②教育について																																			
第4回	保育所保育指針の復習																																			
第5回	保育の教材を知る（紙を使って）①グループでの構想と作業																																			
第6回	保育の教材を知る（紙を使って）②作業と発表																																			
第7回	保育案の考え方（紙を使った遊びを事例に）																																			
第8回	環境構成の意味																																			
第9回	さまざまな教材を知る①身近な物の活用、よく用いられる教材について																																			
第10回	さまざまな教材を知る②教材と教材の使い方																																			
第11回	模擬保育案作成①保育案の基本的考え方、作成の要点を知る																																			
第12回	模擬保育案作成②各グループでの立案																																			
第13回	模擬保育実践①前半グループ																																			
第14回	模擬保育実践②後半グループ																																			
第15回	総括																																			
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：テキストや参考文献に当たり、授業内容に合わせたキーワードについての予習や、模擬保育実施に向けた準備を行うこと（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：授業内容のふり返り、保育実践での展開について考える、教材研究を行う。（学習時間：2時間）</p>																																			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、グループでの議論、役割分担をふまえた発表、模擬保育を実施する。 																																			
評価基準と評価方法	2/3以上の出席が評価の前提です。期末レポート(50)、模擬保育案作成と実践(30)、授業内課題(20)																																			
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席は当然の前提であり、保育者になることに自覚的になって授業に臨むこと。課題・発表などは責任をもつて行なうこと。 ・欠席者へのプリント配布等のフォローは教員側からはしません。 																																			
教科書	厚生労働省「保育所保育指針解説書」2018（フレーベル館）																																			
参考書	授業内で提示します。																																			

科目区分	教育学科専門教育科目																																			
科目名	保育基本演習																																			
担当教員	林 悠子				科目ナンバー	T42190																														
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数 1.0																														
授業のテーマ	保育の理論と実践をつなげてみよう。																																			
授業の概要	幼児期の教育のさまざまな領域における幼児の発達について、自作教材を通して考えるために、実際の保育を想定した模擬保育を通じて、指導計画の役割を知り、その意義について理解する。そのために、下記を行う。第一に、乳幼児の行動や捉え方について具体的な事例を通して理解を深める。第二に、保育教材を収集したり作成したりする過程で、教材のもう意味や生かし方を学び、模擬保育の中で活用してみる。第三に、上記の目に見える保育を指導計画や指導案ではどのように表し、どのように評価していくかなど保育実務の仕組みを理解する。																																			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を通して子ども理解を深めることができる。【知識・理解】 ・教材を活用して模擬保育の実践・振り返りを行うことができる。【汎用的技能】 ・指導案作成の基本を理解し、模擬保育に向けて作成し、自らの課題を明確にすることができます。【態度・志向性】 																																			
授業計画	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>オリエンテーション</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>事例を通した子どもも理解①養護について</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>事例を通した子どもも理解②教育について</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>保育所保育指針の復習</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>保育の教材を知る（紙を使って）①グループでの構想と作業</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>保育の教材を知る（紙を使って）②作業と発表</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>保育案の考え方（紙を使った遊びを事例に）</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>環境構成の意味</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>さまざまな教材を知る①身近な物の活用、よく用いられる教材について</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>さまざまな教材を知る②教材と教材の使い方</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>模擬保育案作成①保育案の基本的考え方、作成の要点を知る</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>模擬保育案作成②各グループでの立案</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>模擬保育実践①前半グループ</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>模擬保育実践②後半グループ</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>総括</td></tr> </table>						第1回	オリエンテーション	第2回	事例を通した子どもも理解①養護について	第3回	事例を通した子どもも理解②教育について	第4回	保育所保育指針の復習	第5回	保育の教材を知る（紙を使って）①グループでの構想と作業	第6回	保育の教材を知る（紙を使って）②作業と発表	第7回	保育案の考え方（紙を使った遊びを事例に）	第8回	環境構成の意味	第9回	さまざまな教材を知る①身近な物の活用、よく用いられる教材について	第10回	さまざまな教材を知る②教材と教材の使い方	第11回	模擬保育案作成①保育案の基本的考え方、作成の要点を知る	第12回	模擬保育案作成②各グループでの立案	第13回	模擬保育実践①前半グループ	第14回	模擬保育実践②後半グループ	第15回	総括
第1回	オリエンテーション																																			
第2回	事例を通した子どもも理解①養護について																																			
第3回	事例を通した子どもも理解②教育について																																			
第4回	保育所保育指針の復習																																			
第5回	保育の教材を知る（紙を使って）①グループでの構想と作業																																			
第6回	保育の教材を知る（紙を使って）②作業と発表																																			
第7回	保育案の考え方（紙を使った遊びを事例に）																																			
第8回	環境構成の意味																																			
第9回	さまざまな教材を知る①身近な物の活用、よく用いられる教材について																																			
第10回	さまざまな教材を知る②教材と教材の使い方																																			
第11回	模擬保育案作成①保育案の基本的考え方、作成の要点を知る																																			
第12回	模擬保育案作成②各グループでの立案																																			
第13回	模擬保育実践①前半グループ																																			
第14回	模擬保育実践②後半グループ																																			
第15回	総括																																			
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：テキストや参考文献に当たり、授業内容に合わせたキーワードについての予習や、模擬保育実施に向けた準備を行うこと（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：授業内容のふり返り、保育実践での展開について考える、教材研究を行う。（学習時間：2時間）</p>																																			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、グループでの議論、役割分担をふまえた発表、模擬保育を実施する。 																																			
評価基準と評価方法	2/3以上の出席が評価の前提です。期末レポート(50)、模擬保育案作成と実践(30)、授業内課題(20)																																			
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席は当然の前提であり、保育者になることに自覚的になって授業に臨むこと。課題・発表などは責任をもつて行なうこと。 ・欠席者へのプリント配布等のフォローは教員側からはしません。 																																			
教科書	厚生労働省「保育所保育指針解説書」2018（フレーベル館）																																			
参考書	授業内で提示します。																																			

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	保育原理					
担当教員	寺見 陽子				科目ナンバー	T41050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	保育所・認定こども園の役割と社会的責務、保育の基本と方法、保育の環境構成、保育のP D C A、実践の在り方、保育者の役割					
授業の概要	保育所や認定こども園の意義と社会的役割を理解するとともに、乳幼児期の保育の基本について学ぶ。保育の特性、保育の目的ならびに目標、保育の内容と方法、子どもの理解と援助、保育の質の向上に向けた取り組み、実践における計画の作成や保育の環境構成、保護者との連携・支援、保育者の役割等、子どもの順調な育ちを促す保育の在り方にについて理解を深める。理論だけでなく具体的な理解を促すために、保育所や認定こども園、子育て支援現場の見学や、実際の活動への参加を通して、実践的に学ぶ。					
到達目標	(1) 保育所、認定こども園の役割と社会的責務、保育の特性・意義・基本、保育の展開の在り方、保育者の役割について理解することができる。【知識・理解】 (2) 子どもの存在を理解し、子どもとの関わりと援助方法・技術を学ぶことができる。【汎用的技術】 (3) 子どもの保育の展開について、具体的にイメージし、保育者のあり方を自分なりに模索することができる。【態度・志向性】					
授業計画	第1回 現代社会と保育—子ども子育て新制度を巡って 第2回 保育所と認定こども園における保育の意義と基底 第3回 保育所・認定こども園における保育の方針と概要 第4回 保育所および認定こども園における保育の特性 第5回 保育所および認定こども園における保育の基本 第6回 保育の原理と方法（1）—養護と教育、環境を通して行う保育 第7回 保育の原理と方法（2）—保育の環境 第8回 保育の計画および評価—保育の全体計画とPDCA 第9回 育みたい資質・能力と幼児期に育つてほしい姿 第10回 保育の環境構成と保育者の内容—乳児、3歳未満児 第11回 保育の環境構成と保育者の内容—3歳以上児 第12回 健康および安全 第13回 子育て支援—まつぼっくり実習（子育て支援現場で参加実習と観察記録の作成、ディスカッション） 第14回 保育者の専門性と資質の向上 第15回 まとめとテスト					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前の準備学習：各授業で取り扱う内容のキーワードを事前に調べておく。（学習時間2時間） 授業後の準備学習：事前に調べたキーワードの内容を確認し、各授業で学んだ内容をそれらのキーワードを用いて簡単なアサインメントを作成する。（学習時間2時間）					
授業方法	講義と実習、ディスカッション					
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 実習レポート20点、小レポート20点、テスト60点					
履修上の注意	主体的な取り組みが望まれます。 松徳利における参加実習は必修です。これに参加しなかった場合は、単位を取ることができません。					
教科書	配布資料					
参考書	必要に応じて示します。					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	保育原理					
担当教員	寺見 陽子				科目ナンバー	T41050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	保育所・認定こども園の役割と社会的責務、保育の基本と方法、保育の環境構成、保育のP D C A、実践の在り方、保育者の役割					
授業の概要	保育所や認定こども園の意義と社会的役割を理解するとともに、乳幼児期の保育の基本について学ぶ。保育の特性、保育の目的ならびに目標、保育の内容と方法、子どもの理解と援助、保育の質の向上に向けた取り組み、実践における計画の作成や保育の環境構成、保護者との連携・支援、保育者の役割等、子どもの順調な育ちを促す保育の在り方にについて理解を深める。理論だけでなく具体的な理解を促すために、保育所や認定こども園、子育て支援現場の見学や、実際の活動への参加を通して、実践的に学ぶ。					
到達目標	(1) 保育所、認定こども園の役割と社会的責務、保育の特性・意義・基本、保育の展開の在り方、保育者の役割について理解することができる。【知識・理解】 (2) 子どもの存在を理解し、子どもとの関わりと援助方法・技術を学ぶことができる。【汎用的技術】 (3) 子どもの保育の展開について、具体的にイメージし、保育者のあり方を自分なりに模索することができる。【態度・志向性】					
授業計画	第1回 現代社会と保育—子ども子育て新制度を巡って 第2回 保育所と認定こども園における保育の意義と基底 第3回 保育所・認定こども園における保育の方針と概要 第4回 保育所および認定こども園における保育の特性 第5回 保育所および認定こども園における保育の基本 第6回 保育の原理と方法（1）—養護と教育、環境を通して行う保育 第7回 保育の原理と方法（2）—保育の環境 第8回 保育の計画および評価—保育の全体計画とPDCA 第9回 育みたい資質・能力と幼児期に育つてほしい姿 第10回 保育の環境構成と保育者の内容—乳児、3歳未満児 第11回 保育の環境構成と保育者の内容—3歳以上児 第12回 健康および安全 第13回 子育て支援—まつぼっくり実習（子育て支援現場で参加実習と観察記録の作成、ディスカッション） 第14回 保育者の専門性と資質の向上 第15回 まとめとテスト					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前の準備学習：各授業で取り扱う内容のキーワードを事前に調べておく。（学習時間2時間） 授業後の準備学習：事前に調べたキーワードの内容を確認し、各授業で学んだ内容をそれらのキーワードを用いて簡単なアサインメントを作成する。（学習時間2時間）					
授業方法	講義と実習、ディスカッション					
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 実習レポート20点、小レポート20点、テスト60点					
履修上の注意	主体的な取り組みが望まれます。 松徳利における参加実習は必修です。これに参加しなかった場合は、単位を取ることができません。					
教科書	配布資料					
参考書	必要に応じて示します。					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	保育者論					
担当教員	鎮 朋子				科目ナンバー	T42090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	保育者に求められる専門性とは何か					
授業の概要	本講義は、学生一人一人がもつ「保育するはどういうことか」という問い合わせ出発点しながら、まず、現代日本における保育者の制度的位置づけを確認する。そのうえで、現在に至るまでの保育者の位置づけの変遷について学ぶ。最後に、現代の保育士がどのような課題を抱えているのか、保育行政に沿ってどのように変化しつつあるのか、を踏まえて、将来に向けて保育にどのような専門性が求められているのか、どのようなミッションが課されているのか、について展望する。					
到達目標	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の役割と倫理について理解することができる ・保育者の専門性と協働について理解することができる ・保育者の専門職的成長について理解することができる 					
授業計画	第1回 はじめに：授業の到達目標、進め方、成績評価方法について 保育者とは 第2回 保育者の役割と倫理（1）保育者の役割 第3回 保育者の役割と倫理（2）保育者の倫理 第4回 保育者の職務内容（1）保育者の制度的位置づけ 第5回 保育者の職務内容（2）保育者の責任と義務 第6回 保育者の専門性（1）子どもとともに生きる 第7回 保育者の専門性（2）保護者支援・家庭支援 第8回 保育者の専門性（3）知識・技術及び判断 第9回 保育者の専門性（4）保育課程による保育の展開と自己評価 第10回 保育者の協働（1）：保育者同士の協働 第11回 保育者の協働（2）：保護者及び地域社会との協働 第12回 保育者の協働（3）：専門職間及び専門機関との連携 第13回 育者の専門職的成長（1）：専門性向上と組織的取組 第14回 保育者の専門職的成長（2）：生涯発達とキャリア形成 第15回 おわりに：まとめ、到達度の確認					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業準備としてテキスト内容の確認を10分、授業後に内容の復習を10分、行うことが望ましい。					
授業方法	授業は基本的に講義形式で行う。保育の諸課題について、小グループで検討、発表する場合もある。					
評価基準と評価方法	定期試験およびレポート課題により、総合的に評価する。 評価の割合は、定期試験70%、レポート課題30%とする。					
履修上の注意	欠席等については学内の規定に準ずる。そのほかの注意点については授業内で指示する。					
教科書	『保育者論—子どものかたわらに』 小川圭子編 （株）みらい 『保育所保育指針解説（平成30年3月）』（厚生労働省、フレーベル館）					
参考書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）』 （内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館） 『幼稚園教育要領解説（平成30年3月）』（文部科学省、フレーベル館）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	保育者論					
担当教員	鎮 朋子				科目ナンバー	T42090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	保育者に求められる専門性とは何か					
授業の概要	本講義は、学生一人一人がもつ「保育するはどういうことか」という問い合わせ出発点しながら、まず、現代日本における保育者の制度的位置づけを確認する。そのうえで、現在に至るまでの保育者の位置づけの変遷について学ぶ。最後に、現代の保育士がどのような課題を抱えているのか、保育行政に沿ってどのように変化しつつあるのか、を踏まえて、将来に向けて保育にどのような専門性が求められているのか、どのようなミッションが課されているのか、について展望する。					
到達目標	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の役割と倫理について理解することができる ・保育者の専門性と協働について理解することができる ・保育者の専門職的成長について理解することができる 					
授業計画	第1回 はじめに：授業の到達目標、進め方、成績評価方法について 保育者とは 第2回 保育者の役割と倫理（1）保育者の役割 第3回 保育者の役割と倫理（2）保育者の倫理 第4回 保育者の職務内容（1）保育者の制度的位置づけ 第5回 保育者の職務内容（2）保育者の責任と義務 第6回 保育者の専門性（1）子どもとともに生きる 第7回 保育者の専門性（2）保護者支援・家庭支援 第8回 保育者の専門性（3）知識・技術及び判断 第9回 保育者の専門性（4）保育課程による保育の展開と自己評価 第10回 保育者の協働（1）：保育者同士の協働 第11回 保育者の協働（2）：保護者及び地域社会との協働 第12回 保育者の協働（3）：専門職間及び専門機関との連携 第13回 育者の専門職的成長（1）：専門性向上と組織的取組 第14回 保育者の専門職的成長（2）：生涯発達とキャリア形成 第15回 おわりに：まとめ、到達度の確認					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業準備としてテキスト内容の確認を10分、授業後に内容の復習を10分、行うことが望ましい。					
授業方法	授業は基本的に講義形式で行う。保育の諸課題について、小グループで検討、発表する場合もある。					
評価基準と評価方法	定期試験およびレポート課題により、総合的に評価する。 評価の割合は、定期試験70%、レポート課題30%とする。					
履修上の注意	欠席等については学内の規定に準ずる。そのほかの注意点については授業内で指示する。					
教科書	『保育者論—子どものかたわらに』 小川圭子編 （株）みらい 『保育所保育指針解説（平成30年3月）』（厚生労働省、フレーベル館）					
参考書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）』 （内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館） 『幼稚園教育要領解説（平成30年3月）』（文部科学省、フレーベル館）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	保育実習指導Ⅰ（施設）					
担当教員	塚元 重範				科目ナンバー	T22020
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2~3	単位数 1.0
授業のテーマ	施設実習に必要とされる知識・技能					
授業の概要	児童福祉施設での実習に臨むにあたって、効果的な学びを実現するため、実習の意義、目的、内容、方法に関して概説する。まず事前指導の具体的なテーマは以下のとおりである。①児童福祉施設の社会的機能。②既習科目で習得した知識・技能の再確認。③子どもへの援助に必要な態度、技能。④実習記録の記載方法。⑤各自の実習課題の明確化。そして事後指導においては、実習での経験を振り返るとともに、次の実習に向けて課題を整理し、準備を行う。					
到達目標	1 保育実習の意義・目的を理解し、そのための準備をすることができる。【知識・理解】 2 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にすることができる。【汎用性技能】 3 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解し、実習で実践できる。【態度・志向性】 4 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について理解し、実習記録を適切に書くことができる。【汎用性技能】 5 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にすることができる。【態度・志向性】					
授業計画	第1回 施設実習の意義（実習の目的、実習の概要） 第2回 保育実習の準備と留意事項 第3回 施設の役割と機能1（乳児院、児童養護施設） 第4回 施設の役割と機能2（その他の児童福祉施設） 第5回 施設実習の実際（ビデオによる学習） 第6回 子どもの理解と対応方法、子どもの人権とプライバシーの保護 第7回 実習における観察の視点と記録の書き方 第8回 事後指導（実習の総括と自己評価、課題の明確化）					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・準備する際の自分の課題と自分の行く実習先施設の概要とそこにいる利用者又は子どもの特徴と関わる際の留意点についてレポートを作成し提出する。4時間。 ・保育所・児童福祉施設に関するニュースや情報を収集する。 ・保育所・児童福祉施設におけるボランティア等に積極的に参加する。					
授業方法	施設の概要及び実習前の準備、実習中の記録に書き方にに関する講義と実習の実際のビデオで実習の実際について学ばせるとともに、子どもの発達上の課題や子どもの特徴、関わる際の留意点等をグループで討議させる。					
評価基準と評価方法	レポート、ワークシート等の提出物 50% 授業への取り組み（小テスト含む） 50%					
履修上の注意	・保育実習指導Ⅰの単位を取得しないと、保育実習Ⅰには参加できない。 ・全ての回への出席が求められる。無断での欠席、遅刻、早退を固く禁ずる。 ・学外実習へ向けた内容のため、保育者としての責務の自覚に基づいた、積極的な参加が強く求められる。					
教科書	神戸松蔭女子学院大学『実習の手引き』 神戸松蔭女子学院大学教職支援センター『保育実習参加のための手続きガイド』					
参考書	保育士をめざす人の福祉施設実習 愛知県保育実習連絡協議会 みらい より深く理解できる施設実習 松本峰雄 監修 萌文書林 福祉施設実習ハンドブック 喜多一憲 児玉俊郎 監修 みらい					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	保育実習指導Ⅰ（施設）					
担当教員	塚元 重範				科目ナンバー	T22020
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2~3	単位数 1.0
授業のテーマ	施設実習に必要とされる知識・技能					
授業の概要	児童福祉施設での実習に臨むにあたって、効果的な学びを実現するため、実習の意義、目的、内容、方法に関して概説する。まず事前指導の具体的なテーマは以下のとおりである。①児童福祉施設の社会的機能。②既習科目で習得した知識・技能の再確認。③子どもへの援助に必要な態度、技能。④実習記録の記載方法。⑤各自の実習課題の明確化。そして事後指導においては、実習での経験を振り返るとともに、次の実習に向けて課題を整理し、準備を行う。					
到達目標	1 保育実習の意義・目的を理解し、そのための準備をすることができる。【知識・理解】 2 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にすることができる。【汎用性技能】 3 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解し、実習で実践できる。【態度・志向性】 4 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について理解し、実習記録を適切に書くことができる。【汎用性技能】 5 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にすることができる。【態度・志向性】					
授業計画	第1回 施設実習の意義（実習の目的、実習の概要） 第2回 保育実習の準備と留意事項 第3回 施設の役割と機能1（乳児院、児童養護施設） 第4回 施設の役割と機能2（その他の児童福祉施設） 第5回 施設実習の実際（ビデオによる学習） 第6回 子どもの理解と対応方法、子どもの人権とプライバシーの保護 第7回 実習における観察の視点と記録の書き方 第8回 事後指導（実習の総括と自己評価、課題の明確化）					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・準備する際の自分の課題と自分の行く実習先施設の概要とそこにいる利用者又は子どもの特徴と関わる際の留意点についてレポートを作成し提出する。4時間。 ・保育所・児童福祉施設に関するニュースや情報を収集する。 ・保育所・児童福祉施設におけるボランティア等に積極的に参加する。					
授業方法	施設の概要及び実習前の準備、実習中の記録に書き方にに関する講義と実習の実際のビデオで実習の実際について学ばせるとともに、子どもの発達上の課題や子どもの特徴、関わる際の留意点等をグループで討議させる。					
評価基準と評価方法	レポート、ワークシート等の提出物 50% 授業への取り組み（小テスト含む） 50%					
履修上の注意	・保育実習指導Ⅰの単位を取得しないと、保育実習Ⅰには参加できない。 ・全ての回への出席が求められる。無断での欠席、遅刻、早退を固く禁ずる。 ・学外実習へ向けた内容のため、保育者としての責務の自覚に基づいた、積極的な参加が強く求められる。					
教科書	神戸松蔭女子学院大学『実習の手引き』 神戸松蔭女子学院大学教職支援センター『保育実習参加のための手続きガイド』					
参考書	保育士をめざす人の福祉施設実習 愛知県保育実習連絡協議会 みらい より深く理解できる施設実習 松本峰雄 監修 萌文書林 福祉施設実習ハンドブック 喜多一憲 児玉俊郎 監修 みらい					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	保育実習指導I（保育所）					
担当教員	林 悠子				科目ナンバー	T22010
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2~3	単位数 1.0
授業のテーマ	保育所実習に必要とされる知識・技能の習得					
授業の概要	保育所での初めての実習に臨むにあたって、効果的な学びを実現するため、実習の意義、目的、内容、方法に関して概説する。まず事前指導の具体的なテーマは以下のとおりである。 ①保育所の社会的機能。 ②既習科目で習得した知識・技能の再確認。 ③子どもへの援助に必要な態度、技能。 ④実習記録の記載方法。 ⑤各自の実習課題の明確化。 そして事後指導においては、実習での経験を振り返るとともに、次の実習に向けて課題を整理し、準備を行う。					
到達目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。【汎用性技能】 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。【態度・志向性】 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。【汎用性技能】 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。【汎用性技能】 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。【態度・志向性】					
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 保育実習の意義～実習の目的、実習の概要と課題の明確化 第3回 実習に際しての留意事項①子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシー保護と守秘義務、実習生としての心構え【ゲストスピーカー招聘予定】 第4回 実習の計画と記録①記録の意義と書き方 第5回 実習の計画と記録②指導案の立て方 (1) 指導案の意義 第6回 実習の計画と記録③指導案の立て方 (2) 実習における指導案の立て方 第7回 模擬保育の実施と振り返り 第8回 事後指導：実習の総括と自己評価、実習Ⅱ・Ⅲへ向けた課題整理					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	テキストや参考文献に当たり、授業内容に合わせたキーワードについての予習や、模擬保育実施に向けた準備を行うこと。（学習時間：2時間）。ボランティアなど、乳幼児と関わる機会を積極的に作ること。 授業後学習：授業内容のふり返り、模擬保育の準備、教材研究を行うこと（学習時間：2時間）。					
授業方法	・講義、グループでの議論、発表、模擬保育を実施する。					
評価基準と評価方法	2/3以上の出席が評価の前提です。 レポート、ワークシート、実習指導案等の提出物（50）、計画書作成（30）、模擬保育案作成と実践（20）					
履修上の注意	・保育実習の事前事後指導であることから、出席は当然の前提であり、実習へ行くことに自覚的になって授業に臨むこと。課題・発表などは責任をもって行なうこと。 ・欠席・遅刻は実習実施可否の判断材料となりますので注意すること。					
教科書	なし					
参考書	授業内に提示します。					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	保育実習指導I（保育所）					
担当教員	林 悠子				科目ナンバー	T22010
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2~3	単位数 1.0
授業のテーマ	保育所実習に必要とされる知識・技能の習得					
授業の概要	保育所での初めての実習に臨むにあたって、効果的な学びを実現するため、実習の意義、目的、内容、方法に関して概説する。まず事前指導の具体的なテーマは以下のとおりである。 ①保育所の社会的機能。 ②既習科目で習得した知識・技能の再確認。 ③子どもへの援助に必要な態度、技能。 ④実習記録の記載方法。 ⑤各自の実習課題の明確化。 そして事後指導においては、実習での経験を振り返るとともに、次の実習に向けて課題を整理し、準備を行う。					
到達目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。【汎用性技能】 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。【態度・志向性】 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。【汎用性技能】 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。【汎用性技能】 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。【態度・志向性】					
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 保育実習の意義～実習の目的、実習の概要と課題の明確化 第3回 実習に際しての留意事項①子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシー保護と守秘義務、実習生としての心構え【ゲストスピーカー招聘予定】 第4回 実習の計画と記録①記録の意義と書き方 第5回 実習の計画と記録②指導案の立て方（1）指導案の意義 第6回 実習の計画と記録③指導案の立て方（2）実習における指導案の立て方 第7回 模擬保育の実施と振り返り 第8回 事後指導：実習の総括と自己評価、実習Ⅱ・Ⅲへ向けた課題整理					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	テキストや参考文献に当たり、授業内容に合わせたキーワードについての予習や、模擬保育実施に向けた準備を行うこと。（学習時間：2時間）。ボランティアなど、乳幼児と関わる機会を積極的に作ること。 授業後学習：授業内容のふり返り、模擬保育の準備、教材研究を行うこと（学習時間：2時間）。					
授業方法	・講義、グループでの議論、発表、模擬保育を実施する。					
評価基準と評価方法	2/3以上の出席が評価の前提です。 レポート、ワークシート、実習指導案等の提出物（50）、計画書作成（30）、模擬保育案作成と実践（20）					
履修上の注意	・保育実習の事前事後指導であることから、出席は当然の前提であり、実習へ行くことに自覚的になって授業に臨むこと。課題・発表などは責任をもって行なうこと。 ・欠席・遅刻は実習実施可否の判断材料となりますので注意すること。					
教科書	なし					
参考書	授業内に提示します。					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	保育内容（音楽表現）					
担当教員	奥村 正子				科目ナンバー	T42320
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	保育者に求められる音楽的な専門性の探求。					
授業の概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針にある保育内容「表現」のねらいを踏まえて次の内容を扱う。乳幼児の発達に即した総合的な援助・指導が行えるよう、保育計画について学習する。楽器遊びや、弾き歌い、ICTを活用などによる指導といった具体的・実践的な音楽技能を習得する。幼児が自然の中にある音や形、色の特徴や美しさに気づいたり、環境の中にある美しいもの、優れたものなどに気づく方法を企画し、音や音楽を取り入れた保育シミュレーションを行う。そのことを通じて自らの技能、表現力の拡充を図る。					
到達目標	領域「表現」が示す狙いと内容について説明ができる。【知識・理解】乳幼児の「音楽的な表現」の特性とその発達について、具体的な例を挙げて説明することができる。【知識・理解】音楽表現に関わる援助方法を企画し、シミュレーションを行う。【汎用的技能】					
授業計画	第1回：領域「表現」のねらいと内容及び音楽的発達について 第2回：わらべうたと遊び歌 (含) 手遊びの実習 第3回：乳幼児期の「声」による表現活動と発達、音楽表現活動の実際の姿（視聴覚教材） 第4回：児童期を見通した声と身体の表現 (含) 弹き歌いの実習 第5回：「ものと関わる」表現活動と発達 第6回：子どもの声と身体（リトミック1） 第7回：身体と音楽（リトミック2） 第8回：身の周りにある様々な音とイメージ (含) 合奏の実習 第9回：リズムアンサンブルの創作と発表（録画の視聴と検討を含む） 第10回：子どもの歌唱教材と伴奏法 第11回：年齢に応じた保育計画の構想 第12回：担当学生第1組による音楽活動の保育シミュレーション（3歳児）及びディスカッション 第13回：担当学生第2組による音楽活動の保育シミュレーション（4歳児）及びディスカッション 第14回：担当学生第3組による音楽活動の保育シミュレーション（5歳児）及びディスカッション 第15回：保育シミュレーションの振り返りと全体のまとめ、期末試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回授業で取り扱う教科書の該当箇所を予習し、事前に指定するキーワードについて確認しておくこと。子どもの音楽活動を支援するための弾き歌い等、実践的な技能について、各自が十分な練習を行うこと。（学習時間5時間）					
授業方法	講義と演習					
評価基準と評価方法	平常点60点（小テスト、保育シミュレーション、レポートの総合） 期末試験 40点					
履修上の注意	各回の講義についての予習、また弾き歌いなど実践的技能習得のための日々の練習は必須である。グループ学習には積極的に参加し、発表の前回までに予行して問題点を明らかにし、改善したものについて発表と検討を行う。					
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 「乳幼児の音楽表現」小西行郎・志村洋子他 中央法規 ISBN-13: 978-4805854488					
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	保育内容（音楽表現）					
担当教員	奥村 正子				科目ナンバー	T42320
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	保育者に求められる音楽的な専門性の探求。					
授業の概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針にある保育内容「表現」のねらいを踏まえて次の内容を扱う。乳幼児の発達に即した総合的な援助・指導が行えるよう、保育計画について学習する。楽器遊びや、弾き歌い、ICTを活用などによる指導といった具体的・実践的な音楽技能を習得する。幼児が自然の中にある音や形、色の特徴や美しさに気づいたり、環境の中にある美しいもの、優れたものなどに気づく方法を企画し、音や音楽を取り入れた保育シミュレーションを行う。そのことを通じて自らの技能、表現力の拡充を図る。					
到達目標	領域「表現」が示す狙いと内容について説明ができる。【知識・理解】乳幼児の「音楽的な表現」の特性とその発達について、具体的な例を挙げて説明することができる。【知識・理解】音楽表現に関わる援助方法を企画し、シミュレーションを行う。【汎用的技能】					
授業計画	第1回：領域「表現」のねらいと内容及び音楽的発達について 第2回：わらべうたと遊び歌 (含) 手遊びの実習 第3回：乳幼児期の「声」による表現活動と発達、音楽表現活動の実際の姿（視聴覚教材） 第4回：児童期を見通した声と身体の表現 (含) 弹き歌いの実習 第5回：「ものと関わる」表現活動と発達 第6回：子どもの声と身体（リトミック1） 第7回：身体と音楽（リトミック2） 第8回：身の周りにある様々な音とイメージ (含) 合奏の実習 第9回：リズムアンサンブルの創作と発表（録画の視聴と検討を含む） 第10回：子どもの歌唱教材と伴奏法 第11回：年齢に応じた保育計画の構想 第12回：担当学生第1組による音楽活動の保育シミュレーション（3歳児）及びディスカッション 第13回：担当学生第2組による音楽活動の保育シミュレーション（4歳児）及びディスカッション 第14回：担当学生第3組による音楽活動の保育シミュレーション（5歳児）及びディスカッション 第15回：保育シミュレーションの振り返りと全体のまとめ、期末試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回授業で取り扱う教科書の該当箇所を予習し、事前に指定するキーワードについて確認しておくこと。子どもの音楽活動を支援するための弾き歌い等、実践的な技能について、各自が十分な練習を行うこと。（学習時間5時間）					
授業方法	講義と演習					
評価基準と評価方法	平常点60点（小テスト、保育シミュレーション、レポートの総合） 期末試験 40点					
履修上の注意	各回の講義についての予習、また弾き歌いなど実践的技能習得のための日々の練習は必須である。グループ学習には積極的に参加し、発表の前回までに予行して問題点を明らかにし、改善したものについて発表と検討を行う。					
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 「乳幼児の音楽表現」小西行郎・志村洋子他 中央法規 ISBN-13: 978-4805854488					
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	保育内容（環境）					
担当教員	林 悠子				科目ナンバー	T42270
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	領域（環境）の指導法に必要な知識と技術を修得する。					
授業の概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針にある保育内容「環境」のねらいと内容を以下の項目で学ぶ。幼児は自然、人、社会、物、文化などの身近な環境に直接かかわる体験を通して、人としての基盤や、算数の基礎や環境に生きる生き物といった学習の基盤を培う。この授業ではこのような「環境にかかわる保育」の意義について学ぶ。さらによき共感者、援助者となるために必要な知識や技術を身につけるため、自然あそびや動物飼育、栽培や製作活動、伝統や生活文化、およびこれらを学ぶ上で効果的にICTを活用した保育などについて事例を通じて理解を深める。実際に演習を行って実践的な力を養成していく。					
到達目標	領域「環境」のねらいと項目を修得するために、幼児が環境に関する経験を通して算数の基礎や生き物との触れ合いを学ぶことを指導するための基盤を養成する（知識・理解）。また幼児の共感者そして援助者となるために必要な知識や技術を、遊びや活動を含む演習を通じて修得し、幼児教育を実践できる力を養成する（汎用的技能）。					
授業計画	第1回：保育内容環境の意義 第2回：保育内容環境と幼児理解 第3回：好奇心・探求心を育てる指導、思考力の芽生えを育む指導 第4回：人の環境としての友達、保育者 第5回：物の環境としての園具・遊具・素材 第6回：自然環境としての動植物 第7回：日常生活の中での興味や関心 第8回：地域・行事との関わり 第9回：環境からみた道徳性の芽生えを培う指導 第10回：乳幼児の安全環境 第11回：保育内容環境からみた実践的課題 第12回：食農教育・食育 第13回：環境との関わりを育てる保育計画の作成 第14回：模擬保育の実施（前半グループ） 第15回：模擬保育の実施（後半グループ） まとめと試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：テキストや参考文献に当たり、授業内容に合わせたキーワードについての予習や、模擬保育実施に向けた準備を行うこと（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容のふり返り、保育実践での展開について考える（学習時間：2時間）					
授業方法	・講義、グループでの議論、役割分担をふまえた発表、模擬保育を実施する。					
評価基準と評価方法	試験70%、レポート30%					
履修上の注意	・免許必修科目であることから、出席は当然の前提であり、免許を取ることに自覚的になって授業に臨むこと。課題・発表などは責任をもって行なうこと。 ・欠席者へのプリント配布等のフォローは教員側からはしません。					
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月）					
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月） 保育実践に活かす保育内容環境 保育出版社					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	保育内容（環境）					
担当教員	林 悠子				科目ナンバー	T42270
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	領域（環境）の指導法に必要な知識と技術を修得する。					
授業の概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針にある保育内容「環境」のねらいと内容を以下の項目で学ぶ。幼児は自然、人、社会、物、文化などの身近な環境に直接かかわる体験を通して、人としての基盤や、算数の基礎や環境に生きる生き物といった学習の基盤を培う。この授業ではこのような「環境にかかわる保育」の意義について学ぶ。さらによき共感者、援助者となるために必要な知識や技術を身につけるため、自然あそびや動物飼育、栽培や製作活動、伝統や生活文化、およびこれらを学ぶ上で効果的にICTを活用した保育などについて事例を通じて理解を深める。実際に演習を行って実践的な力を養成していく。					
到達目標	領域「環境」のねらいと項目を修得するために、幼児が環境に関する経験を通して算数の基礎や生き物との触れ合いを学ぶことを指導するための基盤を養成する（知識・理解）。また幼児の共感者そして援助者となるために必要な知識や技術を、遊びや活動を含む演習を通じて修得し、幼児教育を実践できる力を養成する（汎用的技能）。					
授業計画	第1回：保育内容環境の意義 第2回：保育内容環境と幼児理解 第3回：好奇心・探求心を育てる指導、思考力の芽生えを育む指導 第4回：人の環境としての友達、保育者 第5回：物の環境としての園具・遊具・素材 第6回：自然環境としての動植物 第7回：日常生活の中での興味や関心 第8回：地域・行事との関わり 第9回：環境からみた道徳性の芽生えを培う指導 第10回：乳幼児の安全環境 第11回：保育内容環境からみた実践的課題 第12回：食農教育・食育 第13回：環境との関わりを育てる保育計画の作成 第14回：模擬保育の実施（前半グループ） 第15回：模擬保育の実施（後半グループ） まとめと試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	テキストや参考文献に当たり、授業内容に合わせたキーワードについての予習や、模擬保育実施に向けた準備を行うこと（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容のふり返り、保育実践での展開について考える（学習時間：2時間）					
授業方法	・講義、グループでの議論、役割分担をふまえた発表、模擬保育を実施する。					
評価基準と評価方法	試験70%、レポート30%					
履修上の注意	・免許必修科目であることから、出席は当然の前提であり、免許を取ることに自覚的になって授業に臨むこと。 課題・発表などは責任をもって行なうこと。 ・欠席者へのプリント配布等のフォローは教員側からはしません。					
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月）					
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月） 保育実践に活かす保育内容環境 保育出版社					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	保育内容（身体表現）					
担当教員	倉 真智子				科目ナンバー	T42330
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	幼児の表現力を読み取り、自らの表現能力を身につける。					
授業の概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針にある保育内容「表現」のねらいと内容を踏まえて次の内容を扱う。幼児の表現活動は最も基本的な心の表れである。幼児は感じたことや考えたことを素直に身体で表現しようとする。これらを理解するには、学生自身が表現する楽しさや豊かな感性をもつことが重要である。幼児の表現の萌芽を見落さないためにも、総合的な視点から、幼児の表現力を高めるための援助の仕方や、ICTを活用した効果的な遊びの指導法、技能の習得を行う。また、幼児の動きを見据えた伴奏法についても学び、音楽と身体表現の関係を体験を通じて理解する。					
到達目標	①幼児の表現しようとする力を理解し、読み取ることできる。 ②学生自らが表現活動を積極的に行なうことができる。 ③発達やと特性に応じたりズム遊びや手遊び等の模擬保育ができる。 ④幼児の動きに応じた簡易伴奏ができる。					
授業計画	第1回：領域「表現」のねらいと内容の理解と身体表現の説明 第2回：伝承あそびとわらべ歌、身体遊び－外国曲を含む－ 第3回：表現活動－身近な生き物から小学校表現リズム遊びへ－ 第4回：表現活動－身近な事象から小学校表現リズム遊びへ－ 第5回：イメージの世界で遊ぶ－ノンバーバルコミュニケーション－ 第6回：律動運動 第7回：身近な子どもの歌から律動運動へ－伴奏法－ 第8回：リズム表現遊び 第9回：年齢に応じた手遊びの指導法（視聴覚教材を用いて） 第10回：手遊び・身体遊びの模擬保育（3歳児）とふり返り 第11回：手遊び・身体遊びの模擬保育（4歳児）とふり返り 第12回：手遊び・身体遊びの模擬保育（5歳児）とふり返り 第13回：幼児のリズム体操・リズムダンスの創作 第14回：幼児のリズム体操・リズムダンスの創作発表（ビデオ収録視聴） 第15回：模擬保育等から保育構想を考える					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：さまざまな場面における幼児の表現活動の意味を読み取れるよう学習しておく。 幼児のうたや手遊びを収集する（学習時間2時間） 授業後学習：さまざまな発表の反省を踏まえ、実習に向けて整理しておく（学習時間2時間）					
授業方法	演習では多くがグループワークになる。自分の意見を伝えると共に他者を受け入れることを通じてコミュニケーションを図る機会とする。幼児の発達を理解し、グループ発表や模擬保育の実践を行う。					
評価基準と評価方法	レポート等の平常点30%、模擬保育指導30%、伴奏法と課題20%、リズムダンス・体操の創作と発表10%、ふり返りレポート10%					
履修上の注意	①保育者にふさわしい服装（体操服・靴）や身なり（髪を束ねる・装飾品を外す）で受講すること。 ②保育者をイメージし、積極的な態度で受講すること。 ③12回以上出席すること。					
教科書	「手遊び・リズム遊び表現 実践ノート」授業時に説明する					
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	保育内容（身体表現）					
担当教員	倉 真智子				科目ナンバー	T42330
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	幼児の表現力を読み取り、自らの表現能力を身につける。					
授業の概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針にある保育内容「表現」のねらいと内容を踏まえて次の内容を扱う。幼児の表現活動は最も基本的な心の表れである。幼児は感じたことや考えたことを素直に身体で表現しようとする。これらを理解するには、学生自身が表現する楽しさや豊かな感性をもつことが重要である。幼児の表現の萌芽を見落さないためにも、総合的な視点から、幼児の表現力を高めるための援助の仕方や、ICTを活用した効果的な遊びの指導法、技能の習得を行う。また、幼児の動きを見据えた伴奏法についても学び、音楽と身体表現の関係を体験を通じて理解する。					
到達目標	①幼児の表現しようとする力を理解し、読み取ることできる。 ②学生自らが表現活動を積極的に行なうことができる。 ③発達やと特性に応じたりズム遊びや手遊び等の模擬保育ができる。 ④幼児の動きに応じた簡易伴奏ができる。					
授業計画	第1回：領域「表現」のねらいと内容の理解と身体表現の説明 第2回：伝承あそびとわらべ歌、身体遊び－外国曲を含む－ 第3回：表現活動－身近な生き物から小学校表現リズム遊びへ－ 第4回：表現活動－身近な事象から小学校表現リズム遊びへ－ 第5回：イメージの世界で遊ぶ－ノンバーバルコミュニケーション－ 第6回：律動運動 第7回：身近な子どもの歌から律動運動へ－伴奏法－ 第8回：リズム表現遊び 第9回：年齢に応じた手遊びの指導法（視聴覚教材を用いて） 第10回：手遊び・身体遊びの模擬保育（3歳児）とふり返り 第11回：手遊び・身体遊びの模擬保育（4歳児）とふり返り 第12回：手遊び・身体遊びの模擬保育（5歳児）とふり返り 第13回：幼児のリズム体操・リズムダンスの創作 第14回：幼児のリズム体操・リズムダンスの創作発表（ビデオ収録視聴） 第15回：模擬保育等から保育構想を考える					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：さまざまな場面における幼児の表現活動の意味を読み取れるよう学習しておく。 幼児のうたや手遊びを収集する（学習時間2時間） 授業後学習：さまざまな発表の反省を踏まえ、実習に向けて整理しておく（学習時間2時間）					
授業方法	演習では多くがグループワークになる。自分の意見を伝えると共に他者を受け入れることを通じてコミュニケーションを図る機会とする。幼児の発達を理解し、グループ発表や模擬保育の実践を行う。					
評価基準と評価方法	レポート等の平常点30%、模擬保育指導30%、伴奏法と課題20%、リズムダンス・体操の創作と発表10%、ふり返りレポート10%					
履修上の注意	①保育者にふさわしい服装（体操服・靴）や身なり（髪を束ねる・装飾品を外す）で受講すること。 ②保育者をイメージし、積極的な態度で受講すること。 ③12回以上出席すること。					
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月）					
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月） 倉真智子「子どものリズム表現・手遊びアラカルト」2017年					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	保育内容（造形表現）					
担当教員	奥 美佐子				科目ナンバー	T42310
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	乳幼児の造形表現の研究					
授業の概要	この授業では豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることを目標に、乳幼児の造形表現を指導・援助するための理論と実践方法について学ぶ。造形教育の理念、乳幼児の発達と表現の関係、多様な造形教育の方法を学ぶとともに、造形表現の保育・教育の構想に必要な素材・用具、表現技能を実技や保育・教育現場の実践資料を通じて探求する。幼児が主体的、対話的で深い学びが造形活動の過程で得られるような、環境構成や一人一人にあった援助の方法、ICTを効果的に取り入れた保育について、模擬保育などの実践を通じて学ぶ。					
到達目標	1. 乳幼児の造形表現における学びと特徴について説明できる。（知識・理解） 2. 身近な環境にある自然や事象から、造形表現の題材を見つけ、造形活動の構想へつなぐことができる。（知識・理解） 3. 造形素材、用具、表現技法を選択して保育を構想し、指導案を作成することができる。（汎用的技能）					
授業計画	第1回：「領域表現」の理解と幼児造形表現の理念 第2回：乳幼児の造形表現の実際から表現の特質を探る 第3回：乳幼児の造形表現の発達 第4回：日々の保育と造形表現（1）多様な描画材を経験する 第5回：日々の保育と造形表現（2）身近な環境と表現の芽 第6回：日々の保育と造形表現（3）身近な素材で表現する 第7回：造形保育の構想（1）活動を様々な領域からみる・環境構成・評価 第8回：造形保育の構想（2）指導案作成 第9回：「もの」とかかわる（1）感触教材・粘土と子ども 第10回：「もの」とかかわる（2）行為や操作の遊び 第11回：保育の試行（1）前半グループ 第12回：保育の試行（2）後半グループ 第13回：保育の試行と相互評価 第14回：レッジョエミリアの教育 第15回：子どもの造形を読む：造形表現の読み取りと子ども理解					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：シラバスの内容に沿って、事前に教科書及び参考図書の該当ページを学習しておくこと。教材の準備も事前学習であるから、内容に適した材料を選択して使用方法をイメージできるようにしておくこと。（学習時間2時間） 授業後学習：各授業のテーマ毎に乳幼児の保育・教育現場での造形活動の事例との関連が分かるようにファイルしておくこと。（学習時間2時間）					
授業方法	演習：各テーマごとに、個人で検討する場合とグループワークによる検討や表現を通じて意見交換、実技を交えた実践的な保育の構想についてのプレゼンテーションなどを織り込む。					
評価基準と評価方法	指導案・課題レポート40%。課題に関する作品及びプリント作成40%、プレゼンテーションへの積極的態度等20%で評価する。					
履修上の注意	・履修者は基本的な美術教材（1年次の美術表現で購入し、4年間の美術系科目共通で使用する）を全員購入する。 ・各回に必要な教材については隨時伝達するので、各自準備を怠らないこと。 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、教育保育要領は必要な回があるので準備しておくこと。 ・指定された提出物がすべて提出されていること、授業回数の2/3以上出席していることが評価対象の条件。					
教科書	『新・保育実践を支える 表現』横井志保・奥美佐子編著 福村出版 ISBN978-4-571-11616-2 C3337					
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 奥美佐子著『0, 1, 2歳児の造形あそび』ひかりのくに ISBN978-4-564-60892-6 奥美佐子著『3, 4, 5歳児の造形あそび』ひかりのくに ISBN978-4-564-60908-4					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	保育内容（造形表現）					
担当教員	奥 美佐子				科目ナンバー	T42310
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	乳幼児の造形表現の研究					
授業の概要	この授業では豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることを目標に、乳幼児の造形表現を指導・援助するための理論と実践方法について学ぶ。造形教育の理念、乳幼児の発達と表現の関係、多様な造形教育の方法を学ぶとともに、造形表現の保育・教育の構想に必要な素材・用具、表現技能を実技や保育・教育現場の実践資料を通じて探求する。幼児が主体的、対話的で深い学びが造形活動の過程で得られるような、環境構成や一人一人にあった援助の方法、ICTを効果的に取り入れた保育について、模擬保育などの実践を通じて学ぶ。					
到達目標	1. 乳幼児の造形表現における学びと特徴について説明できる。（知識・理解） 2. 身近な環境にある自然や事象から、造形表現の題材を見つけ、造形活動の構想へつなぐことができる。（知識・理解） 3. 造形素材、用具、表現技法を選択して保育を構想し、指導案を作成することができる。（汎用的技能）					
授業計画	第1回：「領域表現」の理解と幼児造形表現の理念 第2回：乳幼児の造形表現の実際から表現の特質を探る 第3回：乳幼児の造形表現の発達 第4回：日々の保育と造形表現（1）多様な描画材を経験する 第5回：日々の保育と造形表現（2）身近な環境と表現の芽 第6回：日々の保育と造形表現（3）身近な素材で表現する 第7回：造形保育の構想（1）活動を様々な領域からみる・環境構成・評価 第8回：造形保育の構想（2）指導案作成 第9回：「もの」とかわる（1）感触教材・粘土と子ども 第10回：「もの」とかわる（2）行為や操作の遊び 第11回：保育の試行（1）前半グループ 第12回：保育の試行（2）後半グループ 第13回：保育の試行と相互評価 第14回：レッジョエミリアの教育 第15回：子どもの造形を読む：造形表現の読み取りと子ども理解					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：シラバスの内容に沿って、事前に教科書及び参考図書の該当ページを学習しておくこと。教材の準備も事前学習であるから、内容に適した材料を選択して使用方法をイメージできるようにしておくこと。（学習時間2時間） 授業後学習：各授業のテーマ毎に乳幼児の保育・教育現場での造形活動の事例との関連が分かるようにファイルしておくこと。（学習時間2時間）					
授業方法	演習：各テーマごとに、個人で検討する場合とグループワークによる検討や表現を通じて意見交換、実技を交えた実践的な保育の構想についてのプレゼンテーションなどを織り込む。					
評価基準と評価方法	指導案・課題レポート40%。課題に関する作品及びプリント作成40%、プレゼンテーションへの積極的態度等20%で評価する。					
履修上の注意	・履修者は基本的な美術教材（1年次の美術表現で購入し、4年間の美術系科目共通で使用する）を全員購入する。 ・各回に必要な教材については隨時伝達するので、各自準備を怠らないこと。 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、教育保育要領は必要な回があるので準備しておくこと。 ・指定された提出物がすべて提出されていること、授業回数の2/3以上出席していることが評価対象の条件。					
教科書	『新・保育実践を支える 表現』横井志保・奥美佐子編著 福村出版 ISBN978-4-571-11616-2 C3337					
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 奥美佐子著『0, 1, 2歳児の造形あそび』ひかりのくに ISBN978-4-564-60892-6 奥美佐子著『3, 4, 5歳児の造形あそび』ひかりのくに ISBN978-4-564-60908-4					

科目区分	教育学科専門教育科目																																			
科目名	保育内容（人間関係）																																			
担当教員	林 悠子				科目ナンバー	T42280																														
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数 1.0																														
授業のテーマ	領域「人間関係」への理解を深め、保育として計画し、実践する。																																			
授業の概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針にある保育内容「人間関係」のねらいと内容を踏まえて次の内容を扱う。この科目では他の人と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養うことを狙いとしている。乳幼児期における人の人間関係の意義と育ちの過程を理解するとともに、保育における実践事例を通して、子どもの発達に応じた人間関係づくり、多世代交流や異年齢交流、地域交流などによる多様な人間関係づくり、保護者同士の関係づくりなど、人間関係の育ちを促す保育の在り方や保育内容について理解を事例などによって深める。こうした理解をICTを効果的に取り入れた模擬保育として、展開する。																																			
到達目標	他の人と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う保育を構想し、実践することを狙いとしている。そのために、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい、および、内容について、背景となる専門領域と関連付けて、理解を深める（知識・理解）。また、幼児の発達に即して、主体的・対話的で、深い学びが実現される過程を、具体的な指導場面を想定して学ぶ（汎用的技能）。																																			
授業計画	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>保育内容「人間関係」の意義と内容</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>乳児期の人間関係と心の育ち</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>幼児期の人間関係と心の育ち：発達の気がかりな子ども</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>乳児の人間関係と保育</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>1、2歳児の人間関係と保育</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>3歳児の人間関係と保育</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>4歳児の人間関係と保育</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>5、6歳児の人間関係と保育</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>生活遊びと人間関係一 個の育ちと集団</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>多様な人間関係と保育－地域交流</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>人とのかかわりを育てる保育計画づくり①ねらいと環境構成</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>人とのかかわりを育てる保育計画づくり②具体的活動の導入・展開・まとめ</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>人とのかかわりを育てる保育の実践①模擬保育（前半グループ）</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>人とのかかわりを育てる保育の実践②模擬保育（後半グループ）</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>まとめとテスト</td></tr> </table>						第1回	保育内容「人間関係」の意義と内容	第2回	乳児期の人間関係と心の育ち	第3回	幼児期の人間関係と心の育ち：発達の気がかりな子ども	第4回	乳児の人間関係と保育	第5回	1、2歳児の人間関係と保育	第6回	3歳児の人間関係と保育	第7回	4歳児の人間関係と保育	第8回	5、6歳児の人間関係と保育	第9回	生活遊びと人間関係一 個の育ちと集団	第10回	多様な人間関係と保育－地域交流	第11回	人とのかかわりを育てる保育計画づくり①ねらいと環境構成	第12回	人とのかかわりを育てる保育計画づくり②具体的活動の導入・展開・まとめ	第13回	人とのかかわりを育てる保育の実践①模擬保育（前半グループ）	第14回	人とのかかわりを育てる保育の実践②模擬保育（後半グループ）	第15回	まとめとテスト
第1回	保育内容「人間関係」の意義と内容																																			
第2回	乳児期の人間関係と心の育ち																																			
第3回	幼児期の人間関係と心の育ち：発達の気がかりな子ども																																			
第4回	乳児の人間関係と保育																																			
第5回	1、2歳児の人間関係と保育																																			
第6回	3歳児の人間関係と保育																																			
第7回	4歳児の人間関係と保育																																			
第8回	5、6歳児の人間関係と保育																																			
第9回	生活遊びと人間関係一 個の育ちと集団																																			
第10回	多様な人間関係と保育－地域交流																																			
第11回	人とのかかわりを育てる保育計画づくり①ねらいと環境構成																																			
第12回	人とのかかわりを育てる保育計画づくり②具体的活動の導入・展開・まとめ																																			
第13回	人とのかかわりを育てる保育の実践①模擬保育（前半グループ）																																			
第14回	人とのかかわりを育てる保育の実践②模擬保育（後半グループ）																																			
第15回	まとめとテスト																																			
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：テキストや参考文献に当たり、授業内容に合わせたキーワードについての予習や、模擬保育実施に向けた準備を行うこと（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容のふり返り、保育実践での展開について考える（学習時間：2時間）																																			
授業方法	・講義、グループでの議論、役割分担をふまえた発表、模擬保育を実施する。																																			
評価基準と評価方法	試験70%、レポート30%。																																			
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・免許必修科目であることから、出席は当然の前提であり、免許を取るということに自覚的になって授業に臨むこと。課題・発表などは責任をもって行なうこと。 ・欠席者へのプリント配布等のフォローは教員側からはしません。 																																			
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月）																																			
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）																																			

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	保育内容（人間関係）					
担当教員	林 悠子				科目ナンバー	T42280
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	領域「人間関係」への理解を深め、保育として計画し、実践する。					
授業の概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針にある保育内容「人間関係」のねらいと内容を踏まえて次の内容を扱う。この科目では他の人と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養うことを狙いとしている。乳幼児期における人の人間関係の意義と育ちの過程を理解するとともに、保育における実践事例を通して、子どもの発達に応じた人間関係づくり、多世代交流や異年齢交流、地域交流などによる多様な人間関係づくり、保護者同士の関係づくりなど、人間関係の育ちを促す保育の在り方や保育内容について理解を事例などによって深める。こうした理解をICTを効果的に取り入れた模擬保育として、展開する。					
到達目標	他の人と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う保育を構想し、実践することを狙いとしている。そのために、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい、および、内容について、背景となる専門領域と関連付けて、理解を深める（知識・理解）。また、幼児の発達に即して、主体的・対話的で、深い学びが実現される過程を、具体的な指導場面を想定して学ぶ（汎用的技能）。					
授業計画	第1回 保育内容「人間関係」の意義と内容 第2回 乳児期の人間関係と心の育ち 第3回 幼児期の人間関係と心の育ち：発達の気がかりな子ども 第4回 乳児の人間関係と保育 第5回 1、2歳児の人間関係と保育 第6回 3歳児の人間関係と保育 第7回 4歳児の人間関係と保育 第8回 5、6歳児の人間関係と保育 第9回 生活遊びと人間関係一個の育ちと集団 第10回 多様な人間関係と保育－地域交流 第11回 人とのかかわりを育てる保育計画づくり①ねらいと環境構成 第12回 人とのかかわりを育てる保育計画づくり②具体的活動の導入・展開・まとめ 第13回 人とのかかわりを育てる保育の実践①模擬保育（前半グループ） 第14回 人とのかかわりを育てる保育の実践②模擬保育（後半グループ） 第15回 まとめとテスト					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：テキストや参考文献に当たり、授業内容に合わせたキーワードについての予習や、模擬保育実施に向けた準備を行うこと（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容のふり返り、保育実践での展開について考える（学習時間：2時間）					
授業方法	・講義、グループでの議論、役割分担をふまえた発表、模擬保育を実施する。					
評価基準と評価方法	試験70%、レポート30%。					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・免許必修科目であることから、出席は当然の前提であり、免許を取ることに自覚的になって授業に臨むこと。課題・発表などは責任をもって行なうこと。 ・欠席者へのプリント配布等のフォローは教員側からはしません。 					
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月）					
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	保育内容総論					
担当教員	井上 知子				科目ナンバー	T42060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	幼児期の教育、保育における「内容」の意義理解とその実践化					
授業の概要	第一に、幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された「保育の内容」の全体像を概説したうえで、保育内容を実践化する中で、保育の「ねらい」を達成するための方法について学ぶ。第二に、幼稚園教育要領に示された幼児期の終わりまでに育つてほしい姿10項目について、具体的な幼児の発達の様子を例示しながら、カリキュラム・マネジメントを適切に行うために必要な保育内容の選択ポイントや幼児理解のための視点を学ぶ。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領の変遷を知ることで、幼児期の教育の意義や今、求められていることを理解することができる。【知識・理解】 ・幼児期の発達の特性を具体的な幼児の姿から理解し、幼児期の終わりまでに育つてほしい姿に至る過程をイメージすることができる。【知識・理解】 					
授業計画	<p>第1回：幼稚園・保育所・認定こども園で行う保育と教育　：授業概要と施設概要、養護と教育</p> <p>第2回：幼稚園教育要領改訂の変遷　：保育内容の不易と流行</p> <p>第3回：「環境を通した教育」とは　：環境を構成するポイント</p> <p>第4回：小学校教育との連続性：幼稚園教育において育みたい資質・能力</p> <p>第5回：「遊びを通して学ぶ」とは(1)　：「遊び」の中にある「学び」</p> <p>第6回：「遊びを通して学ぶ」とは(2)：事例研究（動画視聴とグループ討議）</p> <p>第7回：乳幼児期の発達特性に応じた保育内容</p> <p>第8回：乳幼児期の発達特性に応じた保育形態　：個と集団</p> <p>第9回：幼児理解と保育記録(1)　：エピソード記録の取り方</p> <p>第10回：幼児理解と保育記録(2)　：事例研究（動画視聴とグループ討議）</p> <p>第11回：幼児期の終わりまでに育つてほしい姿(1)　：10項目について</p> <p>第12回：幼児期の終わりまでに育つてほしい姿(2) ：アプローチ・カリキュラムとスタート・カリキュラム</p> <p>第13回：資質・能力を育む「学びの過程」　：事例研究（動画視聴とグループ討議）</p> <p>第14回：保育内容の選択ポイント</p> <p>第15回：まとめと授業評価（レポート提出）</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：シラバスに沿って教科書に目を通しておく。（週2時間程度）</p> <p>授業後学習：配布プリント等に沿って学習内容を整理し、次回に備える（週2時間程度）</p>					
授業方法	幼稚園教育要領に示される幼児の姿や教育内容が、実際の幼児の生活の中ではどのように表れどのように指導が行われるのかを事例などを通して学ぶ。					
評価基準と評価方法	筆記試験による評価50% 授業態度、レポート等による評価50%					
履修上の注意	意欲的に授業に参加してください。提出物の期限は厳守すること。 単位認定には、全授業数2/3以上の出席が必要です。					
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月）					
参考書	<p>文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月）</p> <p>厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月）</p> <p>厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月）</p> <p>内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月）</p> <p>内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）</p>					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	保育内容総論					
担当教員	井上 知子				科目ナンバー	T42060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数 1.0
授業のテーマ	幼児期の教育、保育における「内容」の意義理解とその実践化					
授業の概要	第一に、幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された「保育の内容」の全体像を概説したうえで、保育内容を実践化する中で、保育の「ねらい」を達成するための方法について学ぶ。第二に、幼稚園教育要領に示された幼児期の終わりまでに育つてほしい姿10項目について、具体的な幼児の発達の様子を例示しながら、カリキュラム・マネジメントを適切に行うために必要な保育内容の選択ポイントや幼児理解のための視点を学ぶ。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領の変遷を知ることで、幼児期の教育の意義や今、求められていることを理解することができる。【知識・理解】 ・幼児期の発達の特性を具体的な幼児の姿から理解し、幼児期の終わりまでに育つてほしい姿に至る過程をイメージすることができる。【知識・理解】 					
授業計画	<p>第1回：幼稚園・保育所・認定こども園で行う保育と教育　：授業概要と施設概要、養護と教育</p> <p>第2回：幼稚園教育要領改訂の変遷　：保育内容の不易と流行</p> <p>第3回：「環境を通した教育」とは　：環境を構成するポイント</p> <p>第4回：小学校教育との連続性：幼稚園教育において育みたい資質・能力</p> <p>第5回：「遊びを通して学ぶ」とは(1)　：「遊び」の中にある「学び」</p> <p>第6回：「遊びを通して学ぶ」とは(2)：事例研究（動画視聴とグループ討議）</p> <p>第7回：乳幼児期の発達特性に応じた保育内容</p> <p>第8回：乳幼児期の発達特性に応じた保育形態　：個と集団</p> <p>第9回：幼児理解と保育記録(1)　：エピソード記録の取り方</p> <p>第10回：幼児理解と保育記録(2)　：事例研究（動画視聴とグループ討議）</p> <p>第11回：幼児期の終わりまでに育つてほしい姿(1)　：10項目について</p> <p>第12回：幼児期の終わりまでに育つてほしい姿(2) ：アプローチ・カリキュラムとスタート・カリキュラム</p> <p>第13回：資質・能力を育む「学びの過程」　：事例研究（動画視聴とグループ討議）</p> <p>第14回：保育内容の選択ポイント</p> <p>第15回：まとめと授業評価（レポート提出）</p>					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：シラバスに沿って教科書に目を通しておく。（週2時間程度）</p> <p>授業後学習：配布プリント等に沿って学習内容を整理し、次回に備える（週2時間程度）</p>					
授業方法	幼稚園教育要領に示される幼児の姿や教育内容が、実際の幼児の生活の中ではどのように表れどのように指導が行われるのかを事例などを通して学ぶ。					
評価基準と評価方法	筆記試験による評価50% 授業態度、レポート等による評価50%					
履修上の注意	意欲的に授業に参加してください。提出物の期限は厳守すること。 単位認定には、全授業数2/3以上の出席が必要です。					
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月）					
参考書	<p>文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月）</p> <p>厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月）</p> <p>厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月）</p> <p>内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月）</p> <p>内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）</p>					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	保育の心理学					
担当教員	寺見 陽子					
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	乳幼児の認知・認識、ことばと思考、人間関係と自我の発達と内面形成					
授業の概要	第一に保育を実践するために必要な発達理論など、心理学の基礎知識を理解することで乳幼児の発達を捉えるための視点をもつ。第二に乳幼児の発達に関わる心理学の基礎知識に基づいて、目の前にいる子どもの行動を理解して、養護と教育の一体性や発達に即した援助を行うための力を習得する。第三に乳幼児期における学びの過程・特性を踏まえて、周囲の人間との関わりがもつ重要性に配慮した指導計画を作成できる力を身に付ける。					
到達目標	乳幼児の心身の発達及び学びの過程について、基礎的な理論や知識を身につけ【知識・理解】各発達段階における心理的特性を踏まえた保育活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する【汎用的技術】。乳幼児の子どもの姿と発達過程を理解し、保育における子ども生活と育ちを理解する。【態度・志向性】					
授業計画	第1回：子どもの保育と心理学—心理学から何を学ぶのか 第2回：保育の本質 第3回：子どもの発達と育ちの理解 第4回：子どもの生活と学習・学び・意欲 第5回：新生児期・乳児期の子どもの発達 第6回：乳幼児期の子どもの身体・運動の発達 第7回：乳幼児期の子どもの身体・運動の発達と心の芽生え 第8回：乳幼児期の子どもの自我の芽生えと形成 第9回：乳幼児期の子どもの遊びと社会性の発達 第10回：乳幼児期の子どものことばと発達、および、その指導 第11回：発達の気がかりな子ども 第12回：保護者の理解と支援 第13回：地域環境の活用と人材との連携 第14回：養育者・保育者の養育性と専門性 第15回：全体のまとめ 定期試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前の準備学習： 各授業で取り扱う内容のキーワードを事前に調べておく。（学習時間2時間） 授業後の準備学習： 事前に調べたキーワードの内容を確認し、各授業で学んだ内容をそれらのキーワードを用いて簡単なアサインメントを作成する。（学習時間2時間）					
授業方法	講義とワーク					
評価基準と評価方法	ワークシート 40点 テスト 60点					
履修上の注意	乳幼児に興味を持ち、現実の子どもの姿に触れる機会を持って、実践的な学びにつながるように自分で工夫しながら学んでほしい。					
教科書	プリント配布					
参考書	必要に応じて示す。					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	保育の心理学					
担当教員	寺見 陽子					
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	乳幼児の認知・認識、ことばと思考、人間関係と自我の発達と内面形成					
授業の概要	第一に保育を実践するために必要な発達理論など、心理学の基礎知識を理解することで乳幼児の発達を捉えるための視点をもつ。第二に乳幼児の発達に関わる心理学の基礎知識に基づいて、目の前にいる子どもの行動を理解して、養護と教育の一体性や発達に即した援助を行うための力を習得する。第三に乳幼児期における学びの過程・特性を踏まえて、周囲の人間との関わりがもつ重要性に配慮した指導計画を作成できる力を身に付ける。					
到達目標	乳幼児の心身の発達及び学びの過程について、基礎的な理論や知識を身につけ【知識・理解】各発達段階における心理的特性を踏まえた保育活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する【汎用的技術】。乳幼児の子どもの姿と発達過程を理解し、保育における子ども生活と育ちを理解する。【態度・志向性】					
授業計画	第1回：子どもの保育と心理学—心理学から何を学ぶのか 第2回：保育の本質 第3回：子どもの発達と育ちの理解 第4回：子どもの生活と学習・学び・意欲 第5回：新生児期・乳児期の子どもの発達 第6回：乳幼児期の子どもの身体・運動の発達 第7回：乳幼児期の子どもの身体・運動の発達と心の芽生え 第8回：乳幼児期の子どもの自我の芽生えと形成 第9回：乳幼児期の子どもの遊びと社会性の発達 第10回：乳幼児期の子どものことばと発達、および、その指導 第11回：発達の気がかりな子ども 第12回：保護者の理解と支援 第13回：地域環境の活用と人材との連携 第14回：養育者・保育者の養育性と専門性 第15回：全体のまとめ 定期試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前の準備学習： 各授業で取り扱う内容のキーワードを事前に調べておく。（学習時間2時間） 授業後の準備学習： 事前に調べたキーワードの内容を確認し、各授業で学んだ内容をそれらのキーワードを用いて簡単なアサインメントを作成する。（学習時間2時間）					
授業方法	講義とワーク					
評価基準と評価方法	ワークシート 40点 テスト 60点					
履修上の注意	乳幼児に興味を持ち、現実の子どもの姿に触れる機会を持って、実践的な学びにつながるように自分で工夫しながら学んでほしい。					
教科書	プリント配布					
参考書	必要に応じて示す。					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	メディアの英語					
担当教員	川中 紀子				科目ナンバー	T52350
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	様々なジャンルや話題に関して、ポイントとなる機能表現を学ぶ。目的・場面、状況に応じて英語で聞く・読む・話す・書くの4技能を活かし、複合の領域を統合した言語活動を遂行することができる。					
授業の概要	「生の英語」の聴き取りが困難な理由の一つには、英語には「脱落」「連結」「同化」「弱化」などの音声変化が起こっていることが挙げられる。英語の歌や映画は、英語の音声変化を学び、習熟するための教材として有益である。「英語の歌を聞いてそのまま理解し、映画を字幕なしで理解したい」と願う受講生は多いが、生の英語の聞き取りは、決して容易ではない。授業の前半は英語の聴解能力を強化するための導入として、英語圏のボップソングや映画を素材として音声変化を体系的に学ぶ。授業の後半で、受講生による発表を取り入れ、英語運用能力の向上につながるものとしてメディアの英語を活用する積極的な姿勢を養成する。					
到達目標	CEFR B2レベル以上の英語運用能力を身につける。(知識・理解) 生徒に対して理解可能な言語インプットを与える、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。(汎用的技能)					
授業計画	第1回：映画を英語学習に活用すること 第2回：アメリカ英語の特徴①、意見・感想を求める表現 第3回：英語字幕の活用法、予定を尋ねる表現・断りの表現 第4回：音の脱落、提案・希望を述べる表現 第5回：変化する音、推量・懇願の表現 第6回：機能語の発音、伝達の表現・不満を述べる表現 第7回：シャドウイングの活用法、謝罪・贈答の表現 第8回：指摘・説明の表現、賞賛の表現 第9回：挨拶の表現・質問の表現 第10回：確認の表現、願望を述べる表現 第11回：アメリカ英語の特徴②、警告・依頼の表現 第12回：日本語字幕の活用法、別れの表現・気持ちを伝える表現 第13回：日本語版の映画との比較・ディスカッション 第14回：まとめと復習 第15回：質疑応答・期末試験					
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	予習、復習を十分にして授業にのぞむこと。					
授業方法	講義と演習 事前学習：テキストの問題を解き、課題・宿題を完成させておく。(2時間) 事後学習：英語の映画・音楽を素材にして自分で中高生向きの教材を作成する。(2時間)					
評価基準と評価方法	受講状況(発表を重視)30%、定期試験70%の総合評価。					
履修上の注意	試験(8割)と課題の出来栄えを含む受講状況(2割)の総合評価。					
教科書	角山照彦『ゴースト(映画で学ぶコミュニケーション演習)』センゲージラーニング、2009年 角山照彦 Simon Capper『ヒットソングで学ぶ総合英語』成美堂、2015年					
参考書	隨時紹介する。					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	幼児教育の計画と評価					
担当教員	大下 順司				科目ナンバー	T11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	カリキュラムの在り方について学び、自ら設定できるようになる。					
授業の概要	保育課程・教育課程、及び評価について基礎的事項と考え方の習得を目指すために、次の3つを主たる目的として授業内容を構成する。第1に、学校園の段階（保育所も含む）の教育課程・カリキュラムに関する基本的知識と特色、学校間の接続について理解する。第2に、教育課程、保育課程、カリキュラム改革の歴史に関する知識を身につけることで、カリキュラム・マネジメントの考え方の背景について理解する。第3に、幼児教育における自己評価・学校園（保育所も含む）評価の仕組みを知る。第4に、日々の保育・教育活動が全体的な計画の中に位置づいていることを知る。					
到達目標	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その基本的な考え方、意義や編成の方法を理解する。そのために、学習指導要領・幼稚園指導要領の改訂の変遷および各内容、社会的な背景について理解する。以上を踏まえ、各学校の実情に合わせて、短期的、中期的、長期的なカリキュラムのあり方、幼児期・児童期、青年期の発達段階に対応したカリキュラムについて考え、試作することを通じて、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。また、教科横断的な学び、およびカリキュラムについて学び、その意味を具体例とともに理解する。					
授業計画	第1回：オリエンテーション：幼稚園での教育とは? 第2回：幼児教育における遊びの役割。多様な子育て環境と保育士の仕事 第3回：幼稚園・保育所のカリキュラムのポイント 第4回：発達とカリキュラム・5領域の概要 第5回：5領域の内容①：健康（食品アレルギーについて知る） 第6回：5領域の内容②：表現（造形表現の発達） 第7回：5領域の内容③：ことば（絵本と保育） 第8回：5領域の内容④：人間関係（乳幼児の友達作り） 第9回：5領域の内容⑤：環境（科学遊び） 第10回：5領域を総合して現在の幼稚園教育要領に沿った保育を考える 第11回：保育・教育課程の変遷 第12回：現在の保育・教育課程：10の姿から就学全教育を見直す 第13回：日案から週案、月案、年間計画に至る保育・教育課程 第14回：定型発達と発達障害：発達障害の種類と接続を考える 第15回：講義全体のまとめと筆記試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業中に指示した教科書の該当箇所や配布資料について予習をする（30分）。 授業後学習：授業で学んだことを整理し、ポイント等を教科書や参考書等で確認しながら復習し、理解を深める（60分）。					
授業方法	講義形態による授業に加えて、グループで課題に取り組むなどのアクティブラーニングを取り入れる。また、視聴覚教材を活用して、多様なアプローチによって授業内容に関する学生の理解を深めることを目指す。					
評価基準と評価方法	授業毎の小レポートおよび筆記試験による 試験60%、授業毎の課題40%					
履修上の注意	1. これまで受けしてきた教育経験（受けてきた授業などを中心に）を自分なりに振り返りながら受講すると、授業内容がより身近なものになって理解しやすいと思われる。 2. 5回以上欠席すると単位を認定しない。必修授業なので、単位を落とすと翌年度に再履修しなければならない。 3. 上記の授業計画は予定であり、受講人数や受講生の興味・関心、講義の進行具合などによって変更する可能性があることを了承されたい。					
教科書	授業中に適宜指示する					
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	幼児教育の計画と評価					
担当教員	大下 順司				科目ナンバー	T11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	カリキュラムの在り方について学び、自ら設定できるようになる。					
授業の概要	保育課程・教育課程、及び評価について基礎的事項と考え方の習得を目指すために、次の3つを主たる目的として授業内容を構成する。第1に、学校園の段階（保育所も含む）の教育課程・カリキュラムに関する基本的知識と特色、学校間の接続について理解する。第2に、教育課程、保育課程、カリキュラム改革の歴史に関する知識を身につけることで、カリキュラム・マネジメントの考え方の背景について理解する。第3に、幼児教育における自己評価・学校園（保育所も含む）評価の仕組みを知る。第4に、日々の保育・教育活動が全体的な計画の中に位置づいていることを知る。					
到達目標	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その基本的な考え方、意義や編成の方法を理解する。そのために、学習指導要領・幼稚園指導要領の改訂の変遷および各内容、社会的な背景について理解する。以上を踏まえ、各学校の実情に合わせて、短期的、中期的、長期的なカリキュラムのあり方、幼児期・児童期、青年期の発達段階に対応したカリキュラムについて考え、試作することを通じて、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。また、教科横断的な学び、およびカリキュラムについて学び、その意味を具体例とともに理解する。					
授業計画	第1回：オリエンテーション：幼稚園での教育とは? 第2回：幼児教育における遊びの役割。多様な子育て環境と保育士の仕事 第3回：幼稚園・保育所のカリキュラムのポイント 第4回：発達とカリキュラム・5領域の概要 第5回：5領域の内容①：健康（食品アレルギーについて知る） 第6回：5領域の内容②：表現（造形表現の発達） 第7回：5領域の内容③：ことば（絵本と保育） 第8回：5領域の内容④：人間関係（乳幼児の友達作り） 第9回：5領域の内容⑤：環境（科学遊び） 第10回：5領域を総合して現在の幼稚園教育要領に沿った保育を考える 第11回：保育・教育課程の変遷 第12回：現在の保育・教育課程：10の姿から就学全教育を見直す 第13回：日案から週案、月案、年間計画に至る保育・教育課程 第14回：定型発達と発達障害：発達障害の種類と接続を考える 第15回：講義全体のまとめと筆記試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業中に指示した教科書の該当箇所や配布資料について予習をする（30分）。 授業後学習：授業で学んだことを整理し、ポイント等を教科書や参考書等で確認しながら復習し、理解を深める（60分）。					
授業方法	講義形態による授業に加えて、グループで課題に取り組むなどのアクティブラーニングを取り入れる。また、視聴覚教材を活用して、多様なアプローチによって授業内容に関する学生の理解を深めることを目指す。					
評価基準と評価方法	授業毎の小レポートおよび筆記試験による 試験60%、授業毎の課題40%					
履修上の注意	1. これまで受けてきた教育経験（受けてきた授業などを中心に）を自分なりに振り返りながら受講すると、授業内容がより身近なものになって理解しやすいと思われる。 2. 5回以上欠席すると単位を認定しない。必修授業なので、単位を落とすと翌年度に再履修しなければならない。 3. 上記の授業計画は予定であり、受講人数や受講生の興味・関心、講義の進行具合などによって変更する可能性があることを了承されたい。					
教科書	授業中に適宜指示する					
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	幼児理解の理論と方法					
担当教員	井上 知子				科目ナンバー	T12020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	幼児理解に始まる保育					
授業の概要	幼児期の教育を行う際の基本として次の内容を学ぶ。第一に、幼児を理解するために必要な考え方や視点について学ぶ。【知識・理解】第二に、具体的な事例を通して、保育者として幼児の行動や育ちをどのように読み取るのかを考える。【汎用的技能】第三に、理解したことを基に幼児にどのように関わるのかを考え、保育者の役割を理解する。【態度・志向性】そのための方策としてさまざまな立場で書かれた事例を考察したり、記録動画を視聴して意見交換したりする。他者の考え方につれることにより、視野を広げて幼児を理解する手立てとする。					
到達目標	幼児理解の重要性を理解し、理解するための具体的な方策を知る。					
授業計画	第1回：オリエンテーション : 保育の始まりとしての、幼児理解 第2回：幼児を理解するために : 絵本から学ぶ幼児の姿 第3回：幼児理解の基盤になるもの : 幼児期にふさわしい生活 第4回：幼児理解と発達の理解 : 幼児期の発達の捉え方 第5回：幼児理解と保育者の援助 : ビデオを活用して 第6回：幼児の行為や行動の意味 : 記録事例を活用して 第7回：幼児理解の方法 : 観察・記録の仕方 第8回：保育者の姿勢(1) : 様々な関わり方とその意図 第9回：保育者の姿勢(2) : 保護者対応、家庭との連携 第10回：友達との関わりを通した幼児の育ち : ビデオを活用して 第11回：個と集団の関係を捉える(1)：幼児期の集団形成の過程 第12回：個と集団の関係を捉える(2)：個の育ちと集団の育ちの関わり 第13回：記録の取り方と考察 : ビデオ視聴とディスカッション 第14回：一人一人の幼児に応じた援助：園内研修、保育者間の連携 第15回：まとめと授業評価（レポート提出） 定期試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画に沿って、教科書に目を通しておく。（週2時間程度） 授業後学習：配布プリント等に沿って学習内容を整理し、次回に備える。（週2時間程度）					
授業方法	事例を読んだり動画を視聴したりした後に、グループでディスカッションしたり、意見をまとめたりする。発表する機会が全員にいきわたるように配慮する。また、自分の考えを文章にまとめる機会を多くもつ。					
評価基準と評価方法	筆記試験による評価50%、授業態度、レポート等の提出物による評価50%を総合して評価					
履修上の注意	意欲的に授業に参加してください。提出物の期限は厳守すること。 単位認定には、全授業数2/3以上の出席が必要です。					
教科書	幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」文部科学省 ぎょうせい 2010					
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	幼児理解の理論と方法					
担当教員	井上 知子				科目ナンバー	T12020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	幼児理解に始まる保育					
授業の概要	幼児期の教育を行う際の基本として次の内容を学ぶ。第一に、幼児を理解するために必要な考え方や視点について学ぶ。【知識・理解】第二に、具体的な事例を通して、保育者として幼児の行動や育ちをどのように読み取るのかを考える。【汎用的技能】第三に、理解したことを基に幼児にどのように関わるのかを考え、保育者の役割を理解する。【態度・志向性】そのための方策としてさまざまな立場で書かれた事例を考察したり、記録動画を視聴して意見交換したりする。他者の考え方につれることにより、視野を広げて幼児を理解する手立てとする。					
到達目標	幼児理解の重要性を理解し、理解するための具体的な方策を知る。					
授業計画	第1回：オリエンテーション : 保育の始まりとしての、幼児理解 第2回：幼児を理解するために : 絵本から学ぶ幼児の姿 第3回：幼児理解の基盤になるもの : 幼児期にふさわしい生活 第4回：幼児理解と発達の理解 : 幼児期の発達の捉え方 第5回：幼児理解と保育者の援助 : ビデオを活用して 第6回：幼児の行為や行動の意味 : 記録事例を活用して 第7回：幼児理解の方法 : 観察・記録の仕方 第8回：保育者の姿勢(1) : 様々な関わり方とその意図 第9回：保育者の姿勢(2) : 保護者対応、家庭との連携 第10回：友達との関わりを通した幼児の育ち : ビデオを活用して 第11回：個と集団の関係を捉える(1)：幼児期の集団形成の過程 第12回：個と集団の関係を捉える(2)：個の育ちと集団の育ちの関わり 第13回：記録の取り方と考察 : ビデオ視聴とディスカッション 第14回：一人一人の幼児に応じた援助：園内研修、保育者間の連携 第15回：まとめと授業評価（レポート提出） 定期試験					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画に沿って、教科書に目を通しておく。（週2時間程度） 授業後学習：配布プリント等に沿って学習内容を整理し、次回に備える。（週2時間程度）					
授業方法	事例を読んだり動画を視聴したりした後に、グループでディスカッションしたり、意見をまとめたりする。発表する機会が全員にいきわたるように配慮する。また、自分の考えを文章にまとめる機会を多くもつ。					
評価基準と評価方法	筆記試験による評価50%、授業態度、レポート等の提出物による評価50%を総合して評価					
履修上の注意	意欲的に授業に参加してください。提出物の期限は厳守すること。 単位認定には、全授業数2/3以上の出席が必要です。					
教科書	幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」文部科学省 ぎょうせい 2010					
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月）					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	理科指導法					
担当教員	内田 祐貴					
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	小学校理科の学習内容、指導方法を、模擬授業などの実践的演習をすることにより、身に付ける。前期「理科研究」で学習した科学の基礎知識技術が、小学校の45分間の授業内で、どのように使えば、児童が理科を好きになる授業を行えるのかを、模擬授業を通して考える。					
授業の概要	教材研究、指導計画や指導案の作り方を学び、小学校理科の領域・学年に沿って、模擬授業を行う。理科における学習内容、ICTを活用した学び、指導方法について、実践的な演習をすることにより身につける。小学校の45分間の授業内で、時間をどのように使えば、児童が観察や実験を効果的に進めることができ、かつ、理科に対する好奇心を高めるような授業を行えるのかを、模擬授業を通して考える。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校における理科指導法（含ICT機器の利用）を習得する。【知識・理解】 ・理科の模擬授業ができる（教材分析、授業計画、指導案、話し方、板書、様々な場面での対応、形成的評価、危険防止、実験指導等を含む）。【知識・理解】【汎用的技能】 					
授業計画	第1回：オリエンテーション：小学校で理科の授業をするには 第2回：授業展開と指導の方法と、理科の評価方法 第3回：3学年理科の教材研究と指導案と単元計画の作成 第4回：3学年理科の模擬授業実習と検討 第5回：4学年理科の教材研究と指導案と単元計画の作成 第6回：4学年理科の模擬授業実習と検討 第7回：中学年における理科の授業展開、ICT機器の効果的な利用 第8回：5学年理科の教材研究と指導案と単元計画の作成 第9回：5学年「生命、地球」の模擬授業実習と検討 第10回：5学年「粒子、エネルギー」の模擬授業実習と検討 第11回：6学年理科の教材研究と指導案と単元計画の作成 第12回：6学年「粒子、エネルギー」の模擬授業実習と検討 第13回：6学年「生命、地球」の模擬授業実習と検討 第14回：子どもの発達と理科 第15回：高学年における理科の授業展開、児童が考える実験指導					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で取り扱う単元を教科書などで予習し、ポイントになる点についてまとめておく（学習時間2時間） 授業後学習：松蔭manabaコースコンテンツを利用して、授業で扱った内容の確認、復習、改善方法を考察する（学習時間2時間）					
授業方法	講義、演習：最初に各回で扱う単元の基本事項を講義した後、ペア・グループで実験観察、デジタル教材、ICT教材の利用などのワークをし、指導計画、指導案を作成する。作成した指導計画、指導案を発表し、ディスカッションを行う。クリッカーなどを用い双方向型授業を行う。					
評価基準と評価方法	授業中の小レポート20%、指導案の作成40%、模擬授業の評価40%。					
履修上の注意	小学校免許取得希望者は「理科研究」と「理科指導法」をセットで履修すること。					
教科書	わくわく理科3年生～6年生（2020年度用） 啓林館 文部科学省 小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月） 東洋館出版社 ISBN: 978-4491034638					
参考書	なし					

科目区分	教育学科専門教育科目					
科目名	理科指導法					
担当教員	内田 祐貴					
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	小学校理科の学習内容、指導方法を、模擬授業などの実践的演習をすることにより、身に付ける。前期「理科研究」で学習した科学の基礎知識技術が、小学校の45分間の授業内で、どのように使えば、児童が理科を好きになる授業を行えるのかを、模擬授業を通して考える。					
授業の概要	教材研究、指導計画や指導案の作り方を学び、小学校理科の領域・学年に沿って、模擬授業を行う。理科における学習内容、ICTを活用した学び、指導方法について、実践的な演習をすることにより身につける。小学校の45分間の授業内で、時間をどのように使えば、児童が観察や実験を効果的に進めることができ、かつ、理科に対する好奇心を高めるような授業を行えるのかを、模擬授業を通して考える。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校における理科指導法（含ICT機器の利用）を習得する。【知識・理解】 ・理科の模擬授業ができる（教材分析、授業計画、指導案、話し方、板書、様々な場面での対応、形成的評価、危険防止、実験指導等を含む）。【知識・理解】【汎用的技能】 					
授業計画	第1回：オリエンテーション：小学校で理科の授業をするには 第2回：授業展開と指導の方法と、理科の評価方法 第3回：3学年理科の教材研究と指導案と単元計画の作成 第4回：3学年理科の模擬授業実習と検討 第5回：4学年理科の教材研究と指導案と単元計画の作成 第6回：4学年理科の模擬授業実習と検討 第7回：中学年における理科の授業展開、ICT機器の効果的な利用 第8回：5学年理科の教材研究と指導案と単元計画の作成 第9回：5学年「生命、地球」の模擬授業実習と検討 第10回：5学年「粒子、エネルギー」の模擬授業実習と検討 第11回：6学年理科の教材研究と指導案と単元計画の作成 第12回：6学年「粒子、エネルギー」の模擬授業実習と検討 第13回：6学年「生命、地球」の模擬授業実習と検討 第14回：子どもの発達と理科 第15回：高学年における理科の授業展開、児童が考える実験指導					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で取り扱う単元を教科書などで予習し、ポイントになる点についてまとめておく（学習時間2時間） 授業後学習：松蔭manabaコースコンテンツを利用して、授業で扱った内容の確認、復習、改善方法を考察する（学習時間2時間）					
授業方法	講義、演習：最初に各回で扱う単元の基本事項を講義した後、ペア・グループで実験観察、デジタル教材、ICT教材の利用などのワークをし、指導計画、指導案を作成する。作成した指導計画、指導案を発表し、ディスカッションを行う。クリッカーなどを用い双方向型授業を行う。					
評価基準と評価方法	授業中の小レポート20%、指導案の作成40%、模擬授業の評価40%。					
履修上の注意	小学校免許取得希望者は「理科研究」と「理科指導法」をセットで履修すること。					
教科書	わくわく理科3年生～6年生（2020年度用） 啓林館 文部科学省 小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月） 東洋館出版社 ISBN: 978-4491034638					
参考書	なし					